難漢字辞典

黄帝内經 素問・靈樞

非JIS第1・2水準漢字

序

この辞典は、黄帝内經 素問・靈樞を読む際に、研究会会員の皆様の役に立つように作成したものです。

素問・靈樞に使用されている漢字のうち、調べるのに苦労すると思われるＪＩＳ第１・２水準にない漢字を諸橋轍次著 大漢和辞典 修訂版 全十二巻から抜き出したものですが、便宜上ごく一部のＪＩＳ漢字も収録しています。素問は顧從德本、靈樞は趙府居敬堂本と明刊無名氏本から抽出しました。原則として項目全てを収録しましたが、閒と雞の熟語については分量が多いために省略しました。大漢和辞典にも見当たらない漢字については、不明文字資料として付録に収めてあります。最近の漢和辞典はＪＩＳ漢字を網羅する傾向にありますから、本辞典を併用すれば素問・靈樞の漢字は一応全て調べることができることになります。

なお、著作権の問題が絡みますので、入手された方は秘蔵の資料として取り扱いに御注意下さいますようお願い致します。

素問靈樞難字辭典 目次

佖伱倮備僘偏冊 …… 1
凊凓㓾匀匈 …… 2
厲 …… 3
[咼] …… 5
吤吹呿咼喎嗑嘻 …… 6
嘿噉噦 …… 7
嚨彈囟坼埤 …… 8
壇夗寖寥引弛 …… 9
彘彤 …… 10
徧 …… 12
恒怚怢怳怵 …… 14
恇惎悏惂惋悃惔 …… 15
惕愓 …… 16
懍憒憹憿 …… 17
扤拄摠搐摽 …… 18
擷敕 …… 19
斲 …… 20
昬昳晥晡晬暍曛朙 …… 21
杌栝楗稾槁橛 …… 22
㰦欵毚氂 …… 24
氐 …… 25
泆泠 …… 26
泮涇 …… 27
淖 …… 28
溓溱 …… 29
縠滎漚 …… 30
漯漳 …… 31
澈澠 …… 32
澼濇灤瀆 …… 33
瀫[熇] …… 34
炅炲烪焞焠焫 …… 35
煄熅熇熒 …… 36
熛燄 …… 37
燋 …… 38
爇 …… 39
牖挈獘玗璺瓢 …… 40
疢疰疿痀痎痏痓痟痝 …… 41
痏瘦痤痱痺瘃瘇 …… 42
瘈瘏瘙瘕瘖瘛 …… 43
癋瘜癑瘨瘲瘳瘄癃 …… 44

癉癲癭……45
昐皏皷〔痹〕……46
眴眩眚睘瞀……47
眩睘睘瞑瞑……48
砭礔礪杭秫……49
稽窅窌窠……50
窻窻笑箟……51
筋紇……52
絀綦……53
緛繇……54
耎耎耵聰……55
胤胄肖胂附胗胻胘胠……56
胦胳胃胻脖脘胭脧雎……57
腄膕腊膻腧……58
膾膩膠膲膻膟……59
膶膬〔匈〕……60
苦荄莝菀蓂……61
蔆菰薏藘藿……62
虛蚩蛸蟲……63
衅衊衛袪翯……64
詘諟……65

譆譺跗踡踹……66
蹻軀……67
辦迮……68
郄釱鈹鍉鑱……69
閒……70
閟闚雞……71
韆霿頃顧顗頗頞顗……72
顧顗顒顥颾……73
飧餫餫騖〔顗骶〕……74
骨骶骷髂骸髁髂髆髆……75
髋髕髖〔髑〕鬄鯽……76
麉麤齡黮……77
鼕鼽齗齡……78

不明文字資料

嚼黔嶬髓……79
核膶膜脺曝穈礪緛覃眚慮……80

【佖】512

ヒツ ビチ 〔集韻〕簿必切 ㄅㄧˋ pi⁴ 質

小篆 ❶ただしい。威儀がある。一説に、醉うて威儀のないさまといふ。俗に怭(4－10489)に作る。〔説文〕佖、威儀也、从レ人必聲、詩曰、威儀佖佖。〔正字通〕佖爲レ正、怭爲レ俗也。〔詩、小雅、賓之初筵、傳〕怭怭、媟嫚也。❷満ちる。〔揚雄、羽獵賦〕駢衍佖レ路。〔注〕善曰、佖、満也。❸ならぶ。比(6－16743)に通ず。〔説文通訓定聲〕佖、叚借爲レ比。〔漢書、揚雄傳上〕駢衍佖レ路。〔注〕師古曰、佖、次比也。

【佈】559

エキ ヤク 〔字彙〕夷益切 陌

解佈は病名。〔素問、平人氣象論〕尺脈緩濇、謂二之解佈一。

【倮】797

㊀ラ 〔集韻〕魯果切 カメㄛˇ luo³ 哿

㊁クワ 〔字彙〕古火切 哿

㊂クワ 〔集韻〕戶瓦切 馬

㊀❶はだか。裸(10－34371)・嬴(10－34648)に同じ。〔正字通〕倮、裸・嬴竝同。〔禮、月令〕中央土、云云、其蟲倮。〔注〕象二物露見不二隱藏一、虎豹之屬、恆淺毛。❷國の名。〔淮南子、説林訓〕西方之倮國、鳥獸弗レ辟。㊁せまい。〔字彙〕倮、鍪倮、狹隘也。㊂かたぬぐ。すはだ。〔集韻〕倮、肉袒也。

〔倮國〕1 ラコク 古、中國の西方にあつた國の名。國人皆裸體であつたからいふ。〔淮南子、説林訓〕西方之倮國、鳥獸弗レ辟、與爲レ一也。

〔倮葬〕2 ラサウ 禮によらないで葬る。薄葬をいふ。〔説苑、反質〕吾是以欲二倮葬以矯一之也。

〔倮獸〕3 ラジウ 淺毛の獸で、虎豹の屬をいふ。〔管子、幼官〕以二倮獸之火一饕。〔纂詁〕伊知章云、倮獸、謂二淺毛之獸、虎豹之屬一。

〔倮身〕4 ラシン はだか。裸身(10－34371：17)に同じ。〔晉書、五行志上〕貴游子弟、相與爲二散髮倮身之飲一。

〔倮體〕5 ラタイ はだか。裸體。躶體。〔吳志、薛綜傳〕日南郡男女、倮體不二以爲一羞。

〔倮蟲〕6 ラチウ 羽毛や鱗介のない動物。卽ち、人類や龜や蚯蚓の類。蟲は動物の意。〔禮、月令、中央土其蟲倮、孫希旦集解〕凡物無二羽毛鱗介一、若二龜蠙之屬一、皆倮蟲也、而人則倮蟲之最靈者。〔論衡、龍虛〕人爲二倮蟲之長一。〔孔子家語、執轡〕倮蟲三百有六十、而人爲二之長一。

〔倮裎〕7 ラテイ はだか。裸裎(10－34371：28)に同じ。〔儀禮、士喪禮、主人皆出二戶外一北面、注〕象二平生沐浴倮裎一。

〔倮麥〕8 ラバク はだかむぎ。裸麥。〔齊民要術、大小麥、註〕大麥爲二五穀長一、卽今倮麥也。

【備】1046

ビ 備(1－967)の本字。〔正字通〕備、備本字。

【僦】1115

小篆 シウ シユ 〔集韻〕卽就切 ㄐㄧㄡˋ chiu⁴ 宥

❶錢を出してやとふ。又、かりる。〔説文新附〕僦、賃也、从二人就一、就亦聲。〔漢書、食貨志下〕不レ償二其僦費一。〔注〕師古曰、僦、顧也、言二所レ輸賦物、不レ足レ償二其餘顧庸之費一也。〔後漢書、虞詡傳〕僦レ五致レ一。〔注〕廣雅曰、僦、賃也。❷おくる。車を雇つておくる。〔一切經音義、十五〕雇レ車載曰レ僦。〔漢書、王莽傳中〕僦載煩費。〔注〕師古曰、僦、送也。❸あつまる。〔唐書、賢妃徐惠傳〕工力和僦、不レ謂無レ煩。❹就(4－7599)に通ず。〔正字通〕僦、古用レ就轉二僦音一、後加レ人从二人就一。

〔僦運〕1 シウウン 僦勾客運の略語。賃金を取つて租稅・課物を運送すること。僦は賃。〔唐律、廐庫〕諸監臨主守之官、皆不レ得二於所部一僦運租稅課物一。

〔僦屋〕2 シウオク 家をかりうける。借家ずまひ。僦居。

僦舍。借家。〔王安石、京東提點刑獄陸君墓誌〕州人僦屋。〔楊維楨、奉二謝玉山假僦屋一詩〕乞與二山人僦屋金一。〔貢師泰、閒止齋詩〕僦屋西溪上。

〔僦櫃〕3 シウキ 動產を債務の擔保とし、之を保證として債權者が利息をとること。今の質屋の利息。就櫃質錢を見よ。〔蔡襄、論財用一劄子〕唐德宗朝、盧杞輩等爲二刻剝一、稅椽僦櫃、別歛促追。

〔僦櫃質錢〕4 シウキシチセン 質屋の利息。〔資治通鑑、唐紀〕德宗、建中二年、又括二僦櫃質錢一。〔注〕民間以物質錢、異時贖出、於二母錢之外一、復還二子錢一、謂二之僦櫃一。

〔僦居〕5 シウキヨ 家をかりうける。借家ずまひ。僦屋。僦舍。〔廣輿記〕唐元結僦二居瑞昌之瀼溪上一。

〔僦勾〕6 シウコウ 律令の用語。賃金を得て輸送すること。〔賦役令〕其運脚均出二庸調之家一、皆司領送、不レ得二僦勾隨便糴輸一。〔令拯〕僦勾、取二百姓功直、國郡司已私運送者一。

〔僦載〕7 シウサイ 車をやとつて物を載せる。又、送る。〔漢書、王莽傳中〕實貨云云、皆輕則僦載煩費。〔注〕師古曰、僦、送也。一曰、賃也。〔淮南子、氾論訓〕今夫僦載者、救二一車之任一、極二一牛之力一。

〔僦舍〕8 シウシヤ 家をかりうける。借家ずまひ。又、かりた家。僦居。僦屋。〔宋史、崔遵度傳〕所僦舍甚湫隘。〔石林燕語〕雖二宰相執政一、亦僦舍而居。〔幕府燕閒錄〕舉二僦舍一、建二隆觀一。〔蘇舜欽、滄浪亭記〕扁舟南遊、旅二於吳中一、始僦舍以處。

〔僦舍錢〕9 シウシヤセン 家賃のこと。僦錢。房錢。房緡。

〔僦人〕10 シウジン 雇人。〔史記、鄭當時傳〕莊任二人賓客一、爲二大農僦人一。

〔僦船〕11 シウセン 賃錢を出して舟を借りる。僦、古は就を用ひる。就船(4－7599：55)に同じ。

〔僦費〕12 シウヒ 運送賃。〔史記、平準書〕天下賦輸、或不レ償二其僦費一。〔注〕索隱曰、服虔云、雇載云、僦、言二所輸物一、不レ足レ償二其雇載之費一也。〔漢書、食貨志下〕不レ償二其僦費一。

〔僦貨季〕13 シウクワキ 上古、神農の時の人。岐伯祖の師。醫家の祖。〔素問、移精變氣論〕、〔琅琊代醉編、二十〕。

【攝】1303

セフ 〔集韻〕尺涉切 葉

小篆 ❶したがふ。〔説文〕攝、心服也、从レ人聶聲。❷おそれる。懾(4－11498)に通ず。〔廣雅、釋詁二〕攝、懼也。〔説文、攝、段注〕心部懾下、一曰、心服也、然則二字音義同。

【冊】1523

㊀サン セン 〔集韻〕所晏切 諫

㊁サン セン 〔集韻〕初諫切 諫

㊂サク

㊀まがき。かきね。柵(6－14665)に同じ。〔集韻〕柵、編二竹木一爲レ落也、亦省。㊁まがきをつくらふ。〔集韻〕冊、編二竹木一補レ籬、謂二之冊一。㊂冊(2－1515)の本字。〔正字通〕冊、同レ冊、俗省。

【清】1666

セイ シヤウ 〔集韻〕七正切 ㄑㄧㄥ ching¹ 敬

小篆 ❶さむい。ひややか。〔説文〕清、寒也、从氷青聲。〔玉篇〕清、冷也。❷すずしい。すずしくする。〔禮、曲禮上〕凡爲二人子一之禮、冬温而夏清。❸或は清(7－17695)に作る。〔集韻〕清、或作レ清。

参考 清(7－17695)は本来は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕清、七正切、温清・清、七情切、清濁。

【凜】1687

リツ リチ 〔集韻〕力質切 ㄌㄧˋ lit 質

小篆 ❶さむい。さむさ。もと凜(2－1719)に作る。〔正字通〕凜、説文本作レ凜。〔説文〕凜、凜冽、寒皃、詩曰、二二之日凜冽、从冫㐭聲。❷寒い風。〔廣韻〕凜、凜冽、寒風。❸通じて栗(6－14695)に作る。〔韻會〕凜、通作レ栗、詩、二二之日栗烈。

〔凜冽〕1 レツ 寒さなどのきびしいさま。字解を見よ。〔素問、氣交變大論〕其變凜冽、其災冰雪霜雹。〔注〕凜冽、甚寒也。

【剉】1999

サ 〔集韻〕寸臥切 ㄘㄨㄛˋ tsʻuo⁴ 圓 ザ

小篆 剉 小篆(文) 剉 小篆(本注段) 剉 小篆(聲定訓通)

❶くじく。折れきずつく。〔説文〕剉、折傷也、从刀坐聲。〔呂覽、必己〕廉則剉。〔注〕剉、缺傷也。❷かどをとる。〔玉篇〕剉、去芒角一也。❸きる。〔玉篇〕剉、斫也。❹やすりする。〔廣韻〕剉、破也。❺研(ケン)やすり。やすりで磨く。

参考 説文の篆形は剉。之に従へば字形は剉に作るべきであるが、今、通訓定聲の形に従ふ。坐は坐(3－5118)の古文。

〔剉角〕1 tsʻuo⁴ chiao³ 隅をとる。かどをとる。骰子。

〔剉角媒人〕2 ザクバイジン 骰子をいふ。唐の開元中、宮嬪の御寢に侍する者は、骰子を以て選んだからいふ。〔清異錄、上、君道〕彩局兒、開元中、後宮繁衆、侍御寢者、難於取捨、爲彩局兒、以定之、集宮嬪、用骰子擲、最勝一人、乃專夜、宦璫私號骰子爲剉角媒人。

〔剉光〕3 tsʻuo⁴ kuang¹ 研ぐ。やすりで磨き光らす。

〔剉細〕4 サイ 細かにきざむ。〔福惠全書、郵政部、喂養〕草必剉細、如麥汰其粗節。

〔剉絲〕5 シ きつた絹絲。きれぎれの絲。〔劉子新論、言苑〕剉絲滿篋、不可織爲綺綬。

〔剉折〕6 セツ やぶれきずつく。くじける。剉は挫。挫折。〔後漢書、馮異傳〕偏城獲全、虜兵剉折。〔元史、蓋苗傳〕平居恂恂謙謹、及レ至レ遇事、張目敢言、雖經剉折無少回撓。

【勻】2496

㊀ 小篆

㊁ 小篆

㊁ イン 〔集韻〕兪倫切 ㄩㄣˊ yünˇ 眞

㊂ キン 〔集韻〕規倫切 眞

❶すくない。〔説文〕勻、少也、从勹二。〔説文通訓定聲〕勻、凡物分則少、二、猶分也。〔皮日休、海石榴花盛發詩〕風勻秾似レ調二紅露一。❷わかれる。〔韓愈、詠雪詩〕片片勻如レ剪、紛紛碎若レ挼。❸あまねし。〔廣韻〕勻、徧也。〔説文、勻、少也、段注〕少當レ作レ帀、字之誤也、帀者、匝也、匋者、帀徧也。〔朱松、太康道中詩〕一色春勻萬樹紅。❹ととのふ。〔玉篇〕勻、齊也。〔白居易、和レ夢二遊春一詩〕朱脣素指勻、粉汗紅綿撲。❺ひとしい。〔集韻〕勻、一曰、均也。〔白居易、食二敕賜櫻桃一詩〕瓊液酸甜足、金丸大小勻。❻韵(12－43271)・韻(12－43307)に通ず。〔正字通〕勻、與レ韵通、今作レ韻。❼姓。〔萬姓統譜〕勻、見二姓苑一。㊁均(3－4916)に同じ。〔集韻〕均、或作レ勻。

名乘 ヒトシ。

解字 指事。勹と二との合字。勹は物の意、二は分つ意。物は分てば少なくなることから、すくない、又、わかれるの意とする。假借して均とし、徧(あまねし)の意、又、齊(ひとし・ととのふ)の意とする。字解㊁の❶を見よ。〔説文通訓定聲〕勻、叚借爲レ均。▽𠃌(金文)象形。弦樂器の調律器に象る。ひとしくする・ととのへるの意。

参考 にほふの意については匂(2－2503)を見よ。

〔勻勻〕1 イン ひとしいさま。〔柳宗元、晉問〕畝兮勻勻。

〔勻圓〕2 エン むらなくまるい。まんまるい。〔續書譜〕或者專喜二方正一、極二意歐虞一、或者專務二勻圓一、專師二虞永一。〔袁凱、友人惠二櫻桃一詩〕忽思西蜀勻圓顆、正値東吳遠送時。

〔勻五〕3 ゴイ 清、史調(2－3249・131)の號。

〔勻淨〕4 yün² chingˋ むらなく平均にする。平均して居て雜質を含まない。

〔勻出〕5 yün² chʻu¹ 融通する。繰合せる。

〔勻靜〕6 セイ ととのつてしづか。〔福惠全書、郵政部、選獸醫〕皮毛光澤、呼吸勻靜。

〔勻湊〕7 ソウ 經費不足の場合、一時、他の金で補充すること。〔清戶部則例〕。

〔勻兌〕8 yün² tueˋ 融通する。

〔勻停〕9 テイ 平かにととのふ。平均する。〔蘇軾、酒經〕始釀以二四兩之餅一、而每投以二二兩之麴、皆澤以二少水一、取足二以散解而勻停一也。〔元史、河渠志三〕曰レ停曰レ折者、用二古算法一、因レ此推レ彼、知二其勢之低昂一、相準折而取二勻停一也。

〔勻撥〕10 yün² poˋ 融通して支出する。流用して支出する。

〔勻分〕11 yün² fenˋ 等分する。同率に分ける。均分(3－4916・74)に同じ。

〔勻面〕12 イン 顏をととのへる。化粧する。〔月令廣義〕明皇時有二牡丹一、名二楊家紅一、蓋貴妃勻面而口脂在レ手、偶印二于花上一、詔二于仙春館一栽レ之、來歲花開、上有二脂印紅跡一、帝名爲二一捻紅一。

〔勻溜〕13 yün² liu 大小疎密などが適當である。

【匈】2512

【勻】2497

イン 勻(2－2496)の俗字。〔正字通〕匈、俗作レ勻。

転載頁 60

【厲】 3041

㊀レイ 〔集韻〕力制切 カイ

㊁ライ 〔集韻〕落蓋切

㊂レツ レチ 〔集韻〕力蘖切

小說篆文 小說篆本 或體

㊀❶と。とぐ。あらい。〔説文〕厲、旱石也、从厂蠆省聲。〔段注〕旱石者、剛於柔石者也、云云、按、厲从蠆省聲、則字當作厲、而隸體蠆作蠆、厲作厲、皆从萬、非也。〔集韻〕厲、或从蠆。❷とぐ。みがく。〔字彙〕厲、磨也。〔戰國、秦策〕綴甲厲兵。〔注〕厲、利也。〔荀子、性惡〕鈍金必將待礱厲然後利。〔注〕厲、磨也。❸こする。すりへらす。〔呂覽、上農〕是謂厲禍。〔注〕厲、摩也。〔鮑照、蕪城賦〕飢鷹厲吻。〔注〕厲、摩也。❹かど。方直。〔廣雅、釋詁一〕厲、方也。〔疏證〕亦廉也。❺善くする。みさを正しくする。〔禮、儒行〕砥礪厲隅。〔呂覽、恃君〕厲人主之節也。〔注〕厲、高也。❻高い。高く。巖(4－8643)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲巖。〔廣雅、釋詁四〕厲、高也。〔呂覽、季冬紀〕征鳥厲飛。〔注〕厲、高也。❼上る。〔廣雅、釋詁一〕厲、上也。〔荀子、宥坐〕是以威厲而不試。〔注〕厲、抗也。❽奮ひたつ。〔管子、牧民〕兵弱而士不厲。〔注〕厲、奮也。❾起つ。〔宋玉、高唐賦〕沐潼潼而高厲。〔注〕善曰、厲、起也。❿おごそか。いかめしい。きびしい。烈(7－18987)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲烈。〔廣韻〕厲、亦嚴整也、烈也、猛也。〔集韻〕厲、嚴也。〔左氏、定、十二〕與其素厲、寧爲無勇。〔注〕厲、猛也。〔論語、述而〕子溫而厲。〔皇疏〕厲、嚴也。〔楚辭、宋玉、招魂〕厲而不爽些。〔注〕厲、烈也。〔曹植、洛神賦〕聲哀厲而彌長。〔注〕善曰、厲、急也。⓫はやい。溧(2－1687)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲溧。〔盧諶、贈崔溫〕詩〕中原厲迅飈。〔注〕善曰、厲、疾貌也。⓬ただしい。〔論語、陽貨〕色厲而内荏。〔皇疏〕厲、矜正也。〔論語、子張〕聽其言也、厲。〔皇疏〕厲、清正之謂也。⓭あやふい。危難。〔廣雅、釋詁一〕厲、危也。〔詩、大雅、民勞〕以謹醜厲。〔傳〕厲、危也。⓮わるい。まがごと。凶惡。〔集韻〕厲、惡也。〔詩、大雅、桑柔〕誰生厲階。〔傳〕厲、惡。⓯やむ。なやます。〔論語、子張〕未信、則以爲厲己也。〔集解〕王肅曰、厲、猶病也。〔孟子、滕文公上〕不爲厲陶冶。〔注〕厲、病也。〔管子、入國〕歲凶、庸人眥厲。〔注〕厲、病也。⓰はげむ。はげます。勵(2－2472)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲勵。〔逸周書、和寤解〕王乃厲翼于尹氏八士。〔注〕厲、奬厲也。〔後漢書、杜詩傳〕將帥自厲。〔注〕厲、勉也。⓱つく。ちかづく。逮(8－25792)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲逮。〔廣雅、釋詁三〕厲、近也。〔班固、西都賦〕營厲天。〔注〕良曰、厲、附也。⓲あふ。連(11－38902)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲連。〔廣雅、釋詁二〕厲、合也。〔疏證〕厲與連聲相近、故得訓爲合、周易正義序引世譜、神農、一曰連山氏、亦曰列山氏、祭法作厲山氏。⓳さかひ。かき。迾(11－38837)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲迾。〔周禮、地官、山虞〕物爲萬厲。〔注〕每物有蕃界也。〔周禮、春官、墓大夫〕帥其屬而巡墓厲。〔注〕厲、塋限遮列處。〔周禮、秋官、司隸〕守王宮與野舍之厲禁。〔注〕厲、遮列也。㉑水中の渡し。淺瀨。〔詩、衞風、有狐〕在彼淇厲。〔傳〕厲、深可厲之旁。〔集傳〕厲、深水可涉處也。㉒着物をかかげて水をわたる。砅(8－24050)・濿(7－18569)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲砅。〔爾雅、釋水〕深則厲、云云、以衣涉水爲厲、云云、緣帶以上爲厲。〔釋文〕厲、本或作濿。〔詩、邶風、匏有苦葉〕深則厲。〔釋文〕韓詩云、至心曰厲。〔論語、憲問〕深則厲。〔鄭注〕由腰以上曰厲。㉓なす。〔爾雅、釋詁〕厲、作也。〔方言、六〕厲、爲也、吳曰厲。㉔熱する。䰟(9－29866)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲䰟。〔方言、十二〕厲、熟也。㉕えやみ。おこり。〔禮、檀弓下〕斬衰疐厲。〔注〕厲、疫病。〔列子、黃帝〕札傷疵厲。〔釋文〕厲、風氣不和之疾也。㉖えやみにかかつて死ぬ。〔管子、五行〕旱札、苗死民厲。〔注〕厲、疫死。〔素問、至眞要大論〕毛蟲廼厲。〔注〕厲、謂疵厲疾疫死也。㉗鬼。㋑惡鬼。〔左氏、成、十〕晉侯夢大厲。〔注〕厲、鬼也。㋺死んで後を繼ぐ者のない靈魂。〔莊子、人間世〕國爲虛厲。〔釋文〕死而無後爲厲。㉘禮服の大帶の垂れ。裂(10－34260)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲裂。〔方言、四〕厲、謂之帶。〔集韻〕厲、大帶垂也。〔詩、小雅、都人士〕垂帶而厲。〔傳〕厲、帶之垂者。〔左氏、桓、二〕鞶厲游纓。〔注〕厲、大帶之垂者。㉙橋。〔水經、河水注〕吐谷渾於河上作橋、謂之河厲。㉚陽の月。十干の戊にあたる月。〔爾雅、釋天〕月在戊曰厲。㉛謚。〔逸周書、謚法解〕殺戮無辜曰厲。〔獨斷、下〕暴虐無親曰厲。㉜礪(8－24571)に通ず。〔集韻〕厲、通作礪。〔詩、大雅、公劉〕取厲取鍛。〔釋文〕厲、本又作礪。㉝姓。〔通志、氏族略、以謚爲氏〕厲氏、或作酈、姜姓、風俗通、齊厲公之後、見功臣表、吳主孫皓、以孫秀奔魏、改姓厲氏。〔姓氏辯證〕厲國在義陽隨縣北之厲鄉、以國爲氏。㊁❶春秋の國名。今の湖北省隨縣の北。〔左氏、僖、十五〕齊師曹師伐厲。〔注〕厲、楚與國也、義陽縣有厲鄉。〔漢書、地理志上〕厲鄉、故厲國也。〔注〕厲、讀曰賴。❷たのむ。たよる。賴(10－36861)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲賴。〔論語、子張〕未信則以爲厲己。〔鄭注〕厲、讀爲賴。❸らいびやう。癩(7－22622)に通ず。〔説文通訓定聲〕厲、叚借爲癩。〔史記、范雎傳〕漆身爲厲。〔注〕索隱曰、厲、癩病也。㊂❶おごそか。〔集韻〕厲、嚴也。❷はげしい。きびしい。〔左思、蜀都賦〕若乃大火流涼風厲、白露凝微霜結。㊃囊に飾を垂れる。〔集韻〕厲、一曰、囊垂飾。㊄烈(7－18987)に通ず。〔禮、祭法〕厲山氏。〔左氏、昭、二十九〕烈山氏。㊅裂(10－34260)に通ず。〔詩、小雅、都人士〕垂帶而厲。〔箋〕而、亦如也、而厲、如鞶厲也、厲字、當作裂。

【厲意】1 イイ 心を勵ます。〔漢書、禮樂志〕專レ精厲レ意逝二九閡一、紛二云八轡一浮二大海一。

【厲威】2 イイ 威武をはげます。〔淮南子、兵略訓〕鼓鳴旗麾、當者莫レ不二廢滯崩阤一、天下孰敢厲威抗節、而當二其前一者。

【厲疫】3 レイエキ 惡病。疫病。疫癘。〔左氏、昭、元〕山川之神、則水旱厲疫之災、於レ是乎禁レ之。〔墨子、天志中〕六畜遂、疾菑戾疫凶饑則不至。〔閒詁〕戾厲、字通。〔後漢書、馬融傳〕驅二厲疫一、走二螭祥一。〔注〕周禮方相氏、掌レ執レ戈揚レ楯、帥二百隸一以毆レ疫。

【厲音】4 レイオン 音聲をはげます。〔後漢書、郅惲傳〕厲レ音正レ色、辭旨甚切。

【厲階】5 レイカイ 怨を招く端緒。禍のもと。禍端。禍階。〔詩、大雅、桑柔〕誰生二厲階一、至レ今爲レ梗。〔箋〕誰始生二此禍一者。〔集傳〕誰實爲二此禍階一、云云、蓋曰、禍有二根原一、其所二從來一也遠矣。〔左氏、昭、二十四〕詩曰、誰生二厲階一、至レ今爲レ梗。〔注〕厲、惡。階、道。〔蘇軾、代二張方平一諫レ用レ兵書〕從レ微至レ著、遂成二厲階一。

【厲行】6 レイカウ ●はげみおこなふ。きびしく行ふ。勵行。〔後漢書、朱暉傳〕有レ所二拔用一、皆厲行士。●行をみがく。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕砥レ節厲レ行、秉レ心不レ回。

【厲高】7 レイカウ 甚だ高いこと。厲も亦高。〔劉歆、遂初賦〕天烈烈以厲高兮、廖琭瓏以梟牢、雁邕邕以遲遲兮、埜鸛鵲而嘈嘈。

【厲皐】8 レイカウ kao¹ 戊午の別名。

【厲翮】9 レイカク 羽を振ふ。〔揚雄、解嘲〕矯レ翼厲翮、恣二意所一存。〔注〕翰曰、厲、振也。

【厲鶚】10 レイカク 清、錢塘の人。字は太鴻。號は樊榭・西溪漁者・南湖花隱。康熙の舉人。乾隆の初、召されて鴻博に試みられて遇はず。書室を無盡意齋・樊榭山房といふ。著に宋詩紀事・南宋院畫錄・遼史拾遺・東城雜記・湖船錄・樊榭山房集がある。〔清史稿、四百九十一〕・〔碑傳集、一百四十一〕・〔國朝先正事略、四十一〕。

【厲氣】11 レイキ 惡氣。やまひ。〔論衡、偶會〕厲氣所中、必加二命短之人一。

【厲鬼】12 レイキ やまひのおに。やくびやうがみ。惡鬼。〔左氏、昭、七〕今夢黃熊入二于寢門一、其何厲鬼也。〔國語、晉語八〕不レ知人殺乎、抑厲鬼邪。〔說苑、辨物〕不レ知人鬼耶、意厲鬼也。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕驅二厲鬼兮山之左一。

【厲虐】13 レイギヤク ●危急をいふ。〔書、金縢〕惟爾元孫某、遘二厲虐疾一。〔傳〕厲、危、虐、暴也。〔疏〕性命危而疾暴重也。●そこなひしひたげる。〔書、梓材〕予罔二厲二殺人一。〔傳〕國之三卿、正官衆大夫、皆順二典常一而曰二我無二厲虐殺一人之事一。〔吳萊、觀二隋王度古鏡記一後題詩〕雷風儻有レ作、厲虐敢紛更。

【厲禁】14 レイキン きびしく禁ずる。禁令。さしとめ。はつと。〔周禮、秋官、司隸〕守二王宮與二野舍一之厲禁上。〔注〕厲、遮列也。

【厲揭】15 レイケイ ●川をかちわたりする。徒涉。厲は衣を腰の上までかかげて深い水を涉ること。揭は裳をかかげて淺い水を涉ること。轉じて、機に臨み變に應じて世を渡る意。匏有苦葉の詩に本づく。〔爾雅、釋水〕濟有二深涉一、深則厲、淺則揭、揭者揭二衣也一、以衣涉二水爲一厲、繇膝以下爲レ揭、繇膝以上爲レ涉、繇帶以上爲レ厲、潛行爲レ泳。〔詩、邶風、匏有苦葉〕深則厲、淺則揭。〔傳〕以レ衣涉二水爲一厲、謂二由帶以上一也、揭、褰二衣也一。〔論語、憲問〕子擊二磬於衞一、有二荷レ蕢而過二孔子之門一者上、曰、有二心哉擊レ磬乎一、既而曰、鄙哉硜硜乎、莫二己知一也、斯已而已矣、深則厲、淺則揭、子曰、果哉、末二之難一矣。〔集注〕以レ衣涉レ水曰レ厲、攝二衣涉一水曰レ揭、此兩句、衞風匏有苦葉之詩也。●王化に霑ふ。厲は深く霑ふ、揭は淺く霑ふこと。〔揚雄、劇秦美新〕侯衞厲揭。〔注〕銑曰、被二及仁風一、霑二潤淳化一者、則帝都且深矣、良曰、厲、深霑也、揭、淺霑也。

【厲劍】16 レイケン 劍をとぎみがく。〔左氏、哀、十八〕勝自厲レ劍、子期之子平見レ之曰、王孫何自厲也。

【厲玄】17 レイゲン hsüan² 戊戌の別名。

【厲乎】18 レイコ 危いさま。又、きびしいさま。一說に、廣乎の誤といふ。廣乎は廣いさま。〔莊子、大宗師〕厲乎其似レ世乎。〔釋文〕厲乎、如字、崔本作レ廣。〔成玄英疏〕厲、危也。〔集解〕崔本作レ廣、當レ從レ之。

【厲辜】19 レイコ kuⁱ 戊子の別名。

【厲爽】20 レイサウ 口を病んで味が分らぬ。〔莊子、天地〕五味濁二口一、使二口厲爽一。〔疏〕厲、病、爽、失也、云云、遂使二鹹苦成レ痾、舌失二其味一。

【厲莊】21 レイサウ 激しくおごそかなこと。厲肅。〔柳宗元、送二崔羣序一〕韓安平、厲莊端毅、高朗振邁。

【厲殺】22 レイサツ しひたげ殺す。〔書、梓材〕予罔二厲二殺人一。

【厲山】23 レイザン ●厲山帶河を見よ。●レツザン 山名。湖北省隨縣の北。又、烈山・重山・麗山ともいふ。〔荊州記〕隨縣北界有二隨山一、山有二一穴一、云、是神農所二生處一。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、隨州〕厲山、州北四十里、相傳、神農起二於此一、神農號二厲山氏一、故以名レ山、山下有二厲鄉一、卽春秋時厲國也、左傳僖十五年、楚人伐レ齊、齊師曹師伐レ厲以救レ之、卽此。●炎帝神農氏をいふ。厲山に生れたからいふ。〔禮、祭法〕是故厲山氏之有二天下一也、其子曰レ農、能殖二百穀一、夏之衰也、周棄繼レ之、故祀以爲レ稷。〔注〕厲山氏、炎帝也、起二於厲山一、或曰、有二烈山氏一。

【厲山氏】24 レツザン 厲山の●を見よ。

【厲山店】25 レツザンテン 地名。湖北省隨縣の北。春秋の時の厲國の故都。

【厲山帶河】26 レイザンタイカ 如何なる事にも動ぜぬ堅い誓約にいふ。泰山を砥石のやうに小さくし、黃河を衣帶のやうに細く涸らすやうな大變動があつても、永く存してかはらない意。帶は衣帶、厲は砥石。帶厲之誓。〔史記、高祖功臣侯年表論贊〕封爵之誓曰、使二河如レ帶、泰山若レ厲、國以永寧、爰及二苗裔一。

【厲矢】27 レイシ やじりをよくといだ矢。鋭い矢。〔墨子、雜守〕礌石厲矢、諸材器用皆謹、部各有二積分數一。

【厲志】28 レイシ ●志をはげまして勉強する。勵志。〔漢書、梅福傳〕是以天下布衣、各厲二志竭一精、以赴二闕廷一。〔後漢書、鄧彪傳〕彪少勵二志脩一孝行。〔孔子家語、困誓〕庸知二其非一激憤厲志之始、於是乎在一。●清、定海の人。字は駭谷。號は白華山人。著に白華山人詩鈔がある。〔清畫家詩史、辛上〕・〔國朝書畫家筆錄、二〕。

【厲嘴】29 レイシ するどいくちばし。たけだけしいくちばし。〔袁宏道、山居闢レ鷄記〕足高尺許、粗毛厲嘴。

【厲疾】30 レイシツ ●はげしくはやい。又、高く且つ疾い。〔呂覽、季冬紀〕征鳥厲疾。〔注〕厲、高也、言二是月群鳥飛行、高且疾一也。〔韓詩外傳、二〕飄風厲疾。●やまひ。疫病。〔新書、脩政語下〕用レ之有レ節、則民無二厲疾一。●ライシツ 癩病。癘疾〔7－22 556：4〕に同じ。

【厲相】31 レイシヤウ hsiang¹ 戊申の別名。

【厲祥】32 レイシヤウ 惡いきざし。妖祥。〔司馬法、定爵〕人乃強、滅二厲祥一。

【厲戎】33 レイジウ いかめしい軍服。厲飾。〔說苑、脩文〕是故韓冕厲戎立二于廟堂之上一、有司執事無二不レ敬者一。

【厲宿】34 レイシユク hsiu⁴ 戊辰の別名。

【厲肅】35 レイシユク おごそかにつつしむ。厲嚴。厲莊。峻嚴。〔禮、玉藻〕色容厲肅、視容清明。

【厲昇】36 レイシヨウ 明、無錫の人。字は文振。性、狷介。國子監生から青田縣の長官となり、公廉にして民を愛したので、致仕後、民に祀らる。〔萬斯同明史、三百九十〕。

【厲色】37 レイシヨク 顏色をはげしく變ずる。血相をかへる。〔漢書、王莽傳上〕盱衡厲色、振揚武怒。〔後漢書、劉虞傳〕虞見二岐等一、厲色叱レ之。

【厲色拂言】38 レイショクフツゲン 顏色をはげしくし、意にさからふ言を吐くこと。〔李滉、啓蒙篇〕不レ可下遽加二厲色拂言一、以失二其和一也。

【厲飾】39 レイシヨク 軍服を着る。いくさじたく。厲戎。〔禮、月令〕季秋之月、天子乃厲飾、執レ弓挾レ矢、以獵。〔注〕厲飾、謂二戎服一、尙二威武一也。〔呂覽、季秋〕厲服厲飾、執レ弓操レ矢。

【厲心】40 レイシン 心を勵ます。〔論衡、實知〕不レ可レ知之事、厲心學問、雖レ小無レ易。

【厲神】41 レイシン たたりがみ。瘟鬼。殺罰を掌る。〔楚辭、九章、惜誦〕吾使二厲神占一之兮。〔集注〕厲神、蓋瘟鬼也。〔補注〕厲、主二殺罰一。

【厲人】42 レイジン 癩病やみ。〔莊子、天地〕厲之人夜半生二其子一、遽取レ火而視レ之、汲汲然唯恐二其似一己也。〔釋文〕厲、音賴。〔疏〕厲、醜病人。

【厲祟】43 レイスイ 惡鬼がたたること。惡鬼のたたり。〔新書、禮容〕天地調和、神民順德、鬼不二厲祟一、民不二誘怨一。

【厲祟】44 レイスイ 非常に尊ぶ。〔漢書、谷永傳〕厲二祟忠直一、放二退殘賊一、無二使素餐之吏久尸一厚祿一。

【厲世】45 レイセイ 世をはげます。世人を激勵する。〔漢書、梅福傳〕爵祿束帛者、天下之底石、高祖所二以厲一世摩鈍一也。〔宋史、王拱辰傳〕拱辰言、竦經略西師、無二功稱一而歸、今置二諸一府、何以厲二世、因對極二論之一。

【厲清】46 レイセイ きびしい。はげしい。〔曹植、鞞舞歌、孟冬篇〕孟冬十月、陰氣厲清、武官誡レ田、講旅統レ兵、元龜襲吉、元光著明。

【厲精】47 レイセイ はげみつとめる。精出してつとめる。勵精。〔漢書、宣帝紀〕其赦二天下一、與二士大夫一、厲精更始。〔漢書、谷永傳〕厲精致レ政、專レ心反レ道。〔漢書、循吏傳序〕厲精爲レ治。

【厲誠】48 レイセイ 誠心をはげます。〔淮南子、氾論訓〕當二此之時一、天下雄雋豪英、云云、奮二武厲一誠、以決二一旦之命一。〔顏延之、陽給事誄序〕故寧遠司馬濮陽太守陽瓚、滑臺之逼、厲誠固守。

【厲聲】49 レイセイ 聲をはげます。聲をあらげる。聲を張り上げる。勵聲。〔孔叢子、儒服〕先生厲レ聲高揖。〔後漢書、段熲傳〕厲聲問。〔後漢書、王允傳〕允厲レ聲曰、吾爲二人臣一、獲二罪於君一。〔魏志、徐宣傳〕厲レ聲曰、今者遠近一統。

【厲石】50 レイセキ ❶きめのあらい石。甯戚、飯牛歌〕出二東門一兮厲石斑、上有二松柏一青且闌。❷あらとぎに用ひる石。きめのあらい砥石。あらと。礪石(8－24571：8)に同じ。

【厲節】51 レイセツ 節操を勵ます。勵節。〔後漢書、文苑下、禰衡傳〕任座抗行、史魚厲節、殆無二以過一也。

【厲然】52 レイゼン きびしくはげしいさま。〔晉書、周馥傳〕馥以二東海王越不レ盡二臣節一、每二言論一厲然、越深憚レ之。

【厲俗】53 レイゾク 世俗の人をすすめはげます。〔漢書、王貢兩龔傳序〕激レ貪厲レ俗。〔魏志、王烈傳〕未レ有二厲俗獨行、若レ寧者一也。

【厲兌】54 レイダ 人體の經穴の名。足の大指と次指との端にあるといふ。〔素問、陰陽離合論〕陽明根起二於厲兌一。

【厲刀】55 レイトウ 刀をとぐ。〔論衡、四諱〕諱レ厲二刀井上一、恐レ刀墮二井中一也、或說以爲、刑之字、井與レ刀也、厲二刀井上一、井刀相見、恐レ被レ刑也。

【厲濁】56 レイダク 濁つた世をはげましおこす。〔蜀志、姜維傳〕非二以激レ貪厲レ濁抑レ情自割一也。

【厲壇】57 レイダン 清代、每年三月の清明節と、七月十五日、及び十月朔日に、府州縣で城の北郊に壇を設け、祭祀の絕えた者の靈を祀る、その壇をいふ。府には郡厲、縣には邑厲といふ。厲は鬼。〔清會典事例、禮部、羣祀、直省祭厲壇〕順治初平定、直省府州縣、各立二厲壇一於城北郊一、每年清明日・七月十五日・十月朔日、用二羊三・豕三・米飯三石、並香燭酒醴楮帛一、以祭二本境無レ祀鬼神一、府稱二郡厲一、縣稱二邑厲一。

【厲毒】58 レイドク 疫病の毒氣。癘毒。〔韓愈、黃陵廟碑〕厲毒所聚、懼、不レ得レ脫レ死、過レ廟而禱レ之。

【厲魄】59 レイハク 惡いたましひ。〔關尹子、四符〕靈魂爲レ賢、厲魄爲レ愚。

【厲撫】60 レイブ はげましいたはる。〔後漢書、文苑上、杜篤傳〕厲二撫名將一、略二地疆外一。

【厲騖】61 レイブ はやく走る。〔荀子、禮論〕步驟馳騁厲騖、不レ外レ是矣。

【厲風】62 レイフウ ❶大風。はげしい風。烈風。〔莊子、齊物論〕厲風濟、則衆竅爲レ虛。❷西北風をいふ。〔呂覽、有始〕西北曰二厲風一。

【厲服】63 レイフク いかめしい軍服。戰爭をする時の衣服。〔呂覽、季秋〕天子乃厲服厲飭、執二弓操一矢以射。

【厲兵】64 レイヘイ 武器をとぐ。又、といだ武器。礪兵。〔左氏、僖、三十三〕鄭穆公使レ視二客館一、則束載厲レ兵秣レ馬矣。〔戰國、秦策〕綴レ甲厲レ兵。〔韓非子、五蠹〕堅甲厲兵、以備レ難。

【厲民】65 レイミン 民を勞苦せしめる。〔孟子、滕文公上〕厲レ民而以自養也。〔集注〕厲、病也。

【厲養】66 レイヨウ はげましやしなふ。〔說苑、敬愼〕畜二愛百姓一、厲二養戎士一。

【厲翼】67 レイヨク はげまし助ける。勵翼。〔逸周書、和寤解〕王乃厲二翼于尹氏八士一、唯固允讓。

【厲利】68 レイリ 研いですると くする。厲銳。

【厲厲】69 レイレイ にくむ。又、政を犯し、惡を爲すさま。〔荀子、王制〕彼將厲厲焉、日日相離疾也。〔集解、先謙案、荀子人間世釋文、厲、疾也、重二言之一曰二厲厲一。〔久保愛增注〕厲厲、犯レ政爲レ惡貌。

【厲王】70 レイワウ ❶周、第十代の王。周厲王(2－3441：883)を見よ。❷晉、苻生(9－30825：11)の諡。

【厲汪】71 レイワウ 宋、東陽の人。字は萬頃。隆興の進士。樂清縣の長官となる。民、其の化に安んじ、厲佛子と稱す。後、西外宗丞に至る。〔尙友錄、十八〕。

【厲歸眞】72 レイキシン 五代、梁の道士。號は迂疎子・錦溪迂疎子。畫を善くす。常に一布裘を著けて酒肆娼家に入る。〔尙友錄、十八〕。

【厲元吉】73 レイゲンキツ 宋、餘姚の人。字は无吉(无咎)。號は半村。咸淳の進士。官は烏程尉。德祐の末、歸隱す。元の至元中、宋の故臣を求めるや、湖海に入つて跡をかくす。著に半村集がある。

【厲秀芳】74 レイシウハウ 清、儀徵の人。字は實夫、又、惕齋。道光の擧人。官は武城令。著に夢談隨錄・眞州竹枝詞がある。〔續碑傳集、四十四〕。

【厲汝進】75 レイジョシン 明、灤州の人。字は子修。嘉靖の進士。吏科都給事中となつたが、上書して兩淮副使の張祿を彈劾し、帝の怒に觸れて雲南典史に謫せらる。〔明史、二百十〕・〔萬斯同明史、二百九十八〕・〔明史稿、一百九十四〕。

【厲仲祥】76 レイチウシヤウ 厲仲方を見よ。

【厲仲方】77 レイチウハウ 宋、東陽の人。字は約甫。原名は仲祥。葉適に師事し、武學諸生を以て第一に擧げらる。官は領衞官。〔宋元學案、五十四・五十五〕。

【厲樊榭】78 レイハンシヤ 厲鶚(10)を見よ。

【厲憐王】79 ライアハレム・ワウヴタ 王者の苦痛が厲者よりも甚だしいこと。厲は癩病の人。亂世に在つては、王者は往々其の臣下に弑せられ、常に憂懼を抱く故に、厲者が却つて王者の不幸を憐むといふ意。〔韓非子、姦劫弑臣〕諺曰、厲憐レ王、此不恭之言也、雖レ然古無二虛諺一、不レ可レ不レ察也、此謂二劫殺死亡之主一言也、云云、厲雖二癰腫疕瘍一、上比二於春秋一、未レ至二於絞頸射股一也、下比二於近世一、未レ至二於餓死擢筋一也、故劫殺死亡之君、此其心之憂懼、形之苦痛也、必甚レ厲矣、由レ此觀レ之、雖二厲憐一王可也。

転載項目 6

【咼】3573

小篆

㊀❶口がゆがむ。口もとが正しくない。〔說文〕咼、口戾不レ正也、从レ口冎聲。❷よこしま。〔一切經音義、六〕斜戾曰レ咼。㊁或は喎(2－3925)・㖞(12－45674)に作る。〔集韻〕咼、或作二喎・㖞一。㊂❶和(2－3490)に通ず。〔說文通訓定聲〕咼、叚借爲レ和、淮南、說山、咼氏之璧。〔正字通〕咼、轉注古音、歌韻有レ咼、淮南子、咼氏璧、卽卞和之和、今楚有二此姓一。❷姓。〔尙友錄〕咼拯、字叔濟、歙人。

㊀ク・ワイ ㊁ケ ㊂クワ

〔集韻〕空媧切 注 ㄎㄨㄚ k'uai

〔字彙〕古禾切 歌

【咼斜】1 クワシヤ 不正なさま。〔法華經、隨喜功德品〕亦不二缺壞一、亦不二咼斜一。

【咼拯】2 クワジヨウ 五代、南唐の歙の人。字は叔濟。保大年間、令と爲つて善政多く、民、之が爲に去思の碑を立つ。〔尙友錄〕。

【咼墮髻】3 クワヴィダ 斜に垂れた髻。倭墮(1－796：23)を見よ。〔白居易、寄二微之一詩〕何處琵琶絃似レ語、誰家咼墮髻如レ雲。

【咼氏之璧】4 クワシヅ・タマ 和氏之璧(2－3490：154)に同じ。字解㊂の❶を見よ。

【吟】3337

㊀カイ（集韻）居拜切 卦
㊁カ（集韻）居賀切 箇

㊀㊁こる。（集韻）吟、聲也。

【咬】3361

㊀フ（集韻）匪父切 麌
㊁ブ（集韻）奉甫切 麌

㊀㊁かむ。かみこなす。或は哺（2－3676）に作る。（集韻）咬、吹咀、嚼也、或从ㄈ甫。

【咬咀】1 ショ かみこなす。藥を口齒でかみ碎く。（廣韻）咀、咬咀、漬ㄈ藥也。（集韻）咀、咬咀、一曰、含味。（本草、神農本經名例、陶隱居名醫別錄、合藥分劑法則）凡湯酒膏藥、云ㄈ咬咀ㄈ者、謂、秤畢擣ㄈ之如ㄈ大豆、又吹ㄈ去細末ㄈ藥有ㄈ易ㄈ碎難ㄈ碎、多ㄈ末ㄈ末、今皆細切如ㄈ咬咀ㄈ也。（注）恭曰、咬咀商ㄈ量斟ㄈ酌之ㄈ也、宗奭曰、咬咀有ㄈ含味之意、如人以ㄈ口齒ㄈ咀嚼ㄈ、雖ㄈ破而不ㄈ塵、古方多言ㄈ咬咀、此義也、杲曰、咬咀、古制也、古無ㄈ鐵刃ㄈ以口咬細、今ㄈ如ㄈ麻豆ㄈ煎ㄈ之、今人以ㄈ刀剉細爾。（方書）藥之粗齊爲ㄈ咬咀ㄈ。（抱朴子、登涉）又有ㄈ沙蝨ㄈ、水陸皆有、與ㄈ射工ㄈ相似、皆煞ㄈ人、若已爲ㄈ所ㄈ中者、咬ㄈ咀赤莧汁ㄈ飲ㄈ之、塗ㄈ之亦愈。

【呿】3475

㊀キ、ヤ（集韻）去伽切 歌
㊁キ、ヨ（集韻）丘於切 魚 ch'ü
㊂キ、ヨ（集韻）丘據切 御
㊃キ、ヨ（集韻）乙業切 葉
四エ、ブ（集韻）乞業切 葉
五ケ、コブ

㊀㊁㊂四❶ひらく。口を張る。欠（6－1603 4）に同じ。（玉篇）呿、張ㄈ口皃。（集韻）欠、張ㄈ口皃、或作ㄈ呿。（莊子、秋水）公孫龍口呿而不ㄈ合。（釋文）呿、司馬云、開也。❷あくびする。（一切經音義、四）欠欠、又作ㄈ呿、埤蒼、張ㄈ口頻伸也。（素問、寶命全形論）呿吟至微。（注）呿、謂ㄈ欠呿。㊃㊀梵文の字。五十字門の一つ。ḳha にあてる。佉（1－499）・喀（2－3896）・吃（2－3280）に同じ。虛しい意。（大般若經）呿字、入ㄈ諸法虛空、不ㄈ可ㄈ得故。㊄横臥して呼吸する。ねいき。いびき。（集韻）呿、臥息也。

【呿伽】1 キャ ㊀虛空。（智度論）呿伽、秦云ㄈ虛空ㄈ。

【呿吟】2 キョギン 口を開き、又、口を閉ぢるさま。吟は口を閉ぢる。呿嗌。（素問、寶命全形論）呿吟至微、秋毫在ㄈ目。（注）呿、謂ㄈ欠呿、吟、謂ㄈ吟嘆ㄈ。

【呿嗌】3 キョギン 口を開いたり閉ぢたりする。嗌は吟の古字。呿吟に同じ。（淮南子、泰族訓）高宗諒闇、三年不ㄈ言、四海之內、寂然無ㄈ聲、一言聲然、大動ㄈ天下ㄈ、是以ㄈ天心ㄈ呿嗌者也。

【呿陀】4 キダ ㊀梵文の字母をいふ。華嚴四十二字母中、呿陀の二字がある。呿は虛空、陀は善の意。（吳萊、夜聽ㄈ李仲宏說ㄈ廣州石門食泉ㄈ詩）鳥文映ㄈ呿陀ㄈ器物窮ㄈ雕鎪。

【嗢】3925

クワ 嗢（2－3573）に同じ。（玉篇）嗢、同ㄈ嗢。

【嗌】4063

㊀エキ ヤク（集韻）伊昔切 陌
㊁アク ヤク（集韻）乙革切 陌
㊂アク（集韻）乙角切 覺
四アイ（集韻）烏懈切 卦
五エイ（集韻）壹計切 霽

嗌 小篆 嗌 籀文 咽也、从ㄈ口益聲。（釋名、釋形體）咽、又謂ㄈ之嗌、氣所ㄈ流通ㄈ、阨要之處也。（山海經、北山經）單張之山、有ㄈ鳥焉、名曰ㄈ白鵺、食ㄈ之已ㄈ嗌痛ㄈ。（注）嗌、咽也、今吳人呼ㄈ咽爲ㄈ嗌。㊁㊀のどを締める。（莊子、大宗師）其嗌言若ㄈ哇。（釋文）嗌、厄ㄈ咽喉ㄈ也。㊂こびへつらふ聲。（楚辭、王逸、九思、憫上）譏譏兮嗌喔。（注）嗌喔、容媚之聲。㊃あきる。（楚辭、大招）不ㄈ翌嗌ㄈ只。（注）嗌、餉也。㊄笑ふさま。（集韻）嗌、笑也。（韓詩外傳、九）疾笑嗌嗌。㊅むせぶ。（方言、六）嗌、噎也、秦晉或曰ㄈ齸、又曰ㄈ噎。㊆のど。齸（12－48738）に同じ。（集韻）齸、江東名ㄈ咽爲ㄈ齸、齸者、齮食之所ㄈ在、或从ㄈ口。

【嗌喔】1 アクアク こびへつらふ聲。へつらつて作り笑ひをすること。（楚辭、王逸、九思、憫上）哀世兮睩睩、譏譏兮嗌喔。（注）嗌喔、容媚之聲。

【嗌嗌】2 アクアク しひて笑ふさま。（韓詩外傳、九）疾笑嗌嗌、威儀固陋、辭氣鄙俗。

【嗌嘔】3 オウイ むせび吐く。（新語、輔政）絕ㄈ恬美之味ㄈ、疎ㄈ嗌嘔之情ㄈ。

【嗌疾】4 シツ のどのやまひ。又、のどを病む。（列子、湯問）醉而露ㄈ我、使ㄈ我嗌疾而腰急ㄈ。

【嗌痛】5 ツウ のどがいたむ。又、のどのいたみ。（山海經、北山經）單張之山有ㄈ鳥焉、名曰ㄈ白鵺ㄈ、食ㄈ之已ㄈ嗌痛ㄈ。（注）嗌、咽也。（漢書、昌邑哀王髆傳）我嗌痛不ㄈ能ㄈ哭。（注）師古曰、嗌、喉咽也。

【嗌不ㄈ容ㄈ粒】6 ムセビテイレズ リフデ むせんで飯がのどを通らない。（穀梁、昭、十九）哭泣歡ㄈ飦粥ㄈ、嗌不ㄈ容ㄈ粒。

【嘻】4276

㊀キ（集韻）虛其切 支 hsi
㊁キ（集韻）許記切 寘
㊂イ（集韻）於其切 支

㊀㊁❶いましめ。いましめる。（集韻）嘻、敕也。（詩、周頌、噫嘻）噫嘻成ㄈ王。（傳）嘻、和也。（阮元校勘記）小字本同、閩本・明監本・毛本同、相臺本、和作ㄈ勑、考文古本同、案、釋文云、毛云、噫、歎也、嘻、和也、是其本作ㄈ和、正義云、爲ㄈ歎以勑ㄈ之ㄈ云云、是其本作ㄈ勑。❷やはらぐ。❸を見よ。㊂ああ。㊀賛美賞歎の聲。（集韻）嘻、一曰、有ㄈ所ㄈ多大ㄈ之聲。（詩、周頌、噫嘻）噫嘻成ㄈ王。（箋）噫嘻、有ㄈ所ㄈ多大ㄈ之聲也。（疏）謂ㄈ作者有ㄈ所ㄈ褒多美大ㄈ而爲ㄈ聲以嘆ㄈ之。㊁歎息の聲。（大戴禮、少閒）公曰、嘻。（注）嘻、歎息之聲。㊂悲恨の聲。（禮、檀弓上）夫子曰、嘻。（注）嘻、悲恨之聲。（史記、張儀傳）其妻曰、嘻。（注）索隱曰、鄭玄曰、嘻、悲恨之聲。㊃哀痛の聲。（公羊、僖、元）慶父聞ㄈ之曰、嘻。（注）嘻、發ㄈ痛語首之聲。（列子、天瑞）國民曰、嘻。（注）嘻、哀痛之聲。㊄驚き恨む聲。（史記、魯仲連傳）噫嘻亦太甚矣。（注）索隱曰、嘻者、驚恨之歎也。㊅驚き怒る聲。（呂覽、行論）聞ㄈ之曰、嘻。（注）嘻、怒聲。（史記、廉頗藺相如傳）秦王與ㄈ羣臣ㄈ相視而嘻。（注）索隱曰、嘻、乃驚而怒之辭也。㊆懼れる聲。（左氏、定、八）從者曰、嘻。（注）嘻、懼聲。❹わらふ。喜んで笑ふ。又、其の聲。又、其のさま。嘻嘻。（易、家人）婦子嘻嘻。（侯

【呂】3573 転載頁 5

注)嘻嘻、笑也。〔釋文〕馬云、嘻嘻、笑聲、鄭云、驕佚喜笑之意。〔疏〕嘻嘻、喜笑之貌也。〔太玄經、樂〕人嘻鬼嘻。〔注〕嘻、笑樂之貌也。㊄**強ひて笑ふ**。〔漢書、灌夫傳〕夫怒、因嘻笑曰、將軍貴人也。〔注〕師古曰、嘻、強笑也。㊅**自得のさま**。嘻嘻旭旭。嘻嘻(1)の❶を見よ。㊆喜(2－3957)・嬉(3－6736)に通ず。〔易、家人、婦子嘻嘻、釋文〕嘻嘻、陸本作二喜喜、張本作二嬉嬉一。㊇**笑ふ**。或は噫(2－4560)に作る。〔集韻〕嘻、笑也、或从レ憙。㊈**ああ**。恨む聲。噫(2－4381)に同じ。〔集韻〕噫、恨聲、或作レ嘻。

【嘻嘻】1 キキ ❶自得のさま。〔漢書、揚雄傳上〕嘻嘻旭旭、天地稠嶪。〔注〕師古曰、嘻嘻旭旭、自得之貌。❷樂しみ笑ふ聲。〔易、家人〕九三、家人嗃嗃、悔厲吉、婦子嘻嘻、終吝。〔釋文〕馬云、嘻嘻、笑聲、鄭云、驕佚喜笑之意。〔疏〕嘻嘻、喜笑之貌也。〔素問、至眞要大論〕故大要曰、粗工嘻嘻。〔太玄、樂〕次八、嘻嘻自懼。〔孫覿、次二韻王子欽立春詩〕人語嘻嘻爭鬬草。

【嘻嘻嘎嘎】2 hsi¹ hsi¹ ka¹ ka¹ あはは。からから。笑ふ聲。

【嘻嘻哈哈】3 hsi¹ hsi¹ ha¹ ha¹ げらげら笑ふ聲。〔紅樓夢、二十四回〕只見秋紋・碧痕嘻嘻哈哈的說笑著進來。

【嘻戲】4 キギ あそびたはむれる。嬉戲(3－6736：6)に同じ。〔日本外史、新田氏前記、楠氏〕常與二兒童一嘻戲、爲二馳逐狀一。

【嘻笑】5 キセン ❶強ひて笑ふ。〔漢書、灌夫傳〕夫怒、因嘻笑曰、將軍貴人也。〔注〕師古曰、嘻、強笑也。〔漢紀、武帝紀二〕夫怒レ蚡、因嘻笑曰、將軍貴人也。❷よろこんで笑ふ。〔論衡、異虛〕禹乃嘻笑而稱曰、我受二命於天一。

【嘻然】5' セン 笑ふさま。〔韓詩外傳、八〕景公嘻然而笑。

【嘻和兒】9 hsi¹ he² ér 溫顏。にこやかに和らいだ顏。

【嘻皮笑臉】7 hsi¹ p'i² hsiao⁴ lien³ にやにやした顏をする。〔紅樓夢、三十回〕和傅素日嘻皮笑臉的、那些姑娘們跟前、你該問他們去。

【嘿】4283

㊀ボク モク 〔集韻〕密北切 職
㊁モク mo⁴ 〔集韻〕莫六切 屋
㊂コク hei¹ 〔集韻〕迄得切 職

㊀❶**しづか**。〔集韻〕嘿、靜也。〔華嚴經音義、下〕嘿、靜也。❷**だまる**。口をつぐむ。默(12－48063)に通ず。〔玉篇〕嘿、與レ默同。〔集韻〕嘿、通作レ默。〔詩、小雅、小弁、莫二高匪一山、箋、猶有二默存者一焉、釋文〕默、本亦作レ嘿。〔史記、刺客、荊軻傳〕荊軻嘿而逃去。❸或は默(6－16199)に作る。〔集韻〕嘿、或从レ欠。㊁**現人に呼びかける聲**。おいおい。㊂**あざむく**。〔集韻〕嘿、楚人謂レ欺曰二嘿屋一。㊃**しはぶく**。**しはぶき**。默(6－16199)に同じ。〔集韻〕默、欬也、或从レ口。

【嘿軒】1 ケン 中江原の號。中江藤樹(1－73：76)を見よ。

【嘿而】2 モク だまつてゐるさま。嘿然。〔後漢書、方術下、劉根傳〕根嘿而不レ應。

【嘿爾】3 モク だまつてゐるさま。嘿然。〔魏志、杜恕傳〕有司嘿爾、望レ風希指、甚二於受一屬。

【嘿然】4 ゼン だまつてゐて物言はぬさま。嘿嘿。默然。〔戰國、韓策〕政獨安可二嘿然而止一乎。〔荀子、不苟〕君子至德、嘿然而喻。〔史記、吳王濞傳〕於レ是上嘿然良久。〔漢書、史丹傳〕上嘿然而咳。

【嘿嘿】5 モク だまつてゐて物言はぬさま。嘿然。默默。〔六韜、文韜、文師〕嘿嘿昧昧、其光必遠。〔屈原、卜居〕寧嗟嘿嘿兮、誰知二吾之廉貞一。〔注〕良曰、嘿嘿、不レ言貌。〔漢書、匡衡傳〕衡嘿嘿不二自安一。〔新序、節士〕屈原疾二闇王亂レ俗、汶汶嘿嘿、以レ是爲レ非、以レ清爲レ濁。

【噉】4299

㊀タン ダン 〔集韻〕杜覽切 感
㊁タン ダン 〔集韻〕徒瀾切 勘

㊀❶**くらふ**。啖(2－3824)・啗(2－3825)に同じ。〔集韻〕啖、說文、噍啖也、或作二啗・噉一。〔詩、鄭風、東門之墠、東門之栗有二踐家室一、箋、人所二啗食一、釋文〕啗、本又作レ啖、亦作レ噉。❷**姓**。啖(2－3824)に同じ。〔通志、氏族略〕啖、亦作レ噉、前秦有二將軍啖鐵一。㊁**くらはす**。啗(2－3825)に同じ。〔集韻〕啗、說文、食也、或作レ噉。

参考 熟語は啖(2－3824)をも見よ。

【噉飲】1 イン くらひのむ。〔福惠全書、刑名部、監禁〕不レ許二恣レ意噉飲一。

【噉咂】2 サツ くらふ。咂も、食ふ。〔和漢三才圖會、蟲部卵生類、狗蠅〕噉二咂狗血一。

【噉蔗】3 シヤ ❶甘蔗をかむ。〔南史、庾沙彌傳〕摘母劉、好噉二甘蔗一、沙彌遂不レ食焉。❷次第に味のよさを覺える喩。晉の顧愷之が甘蔗の末の方から食べはじめ、其の理由を問はれて、次第に佳境(味のよい部分)に入るやうにするのだと言つた故事に本づく。〔世說新語、排調〕顧長康噉二甘蔗一、先食レ尾、人問二所以一云、漸至二佳境一。〔唐庚、立冬後作詩〕噉蔗入二佳境一、冬來幽興長。

【噉粥】4 ジク かゆをすする。〔南史、王思遠傳〕明帝廢立之際、思遠謂レ晏曰、兄荷二武帝厚恩一、及レ此引決、猶可二保二全門戶一、不レ失二後名一、晏曰、方噉レ粥、未レ暇二此事一。

【噉食】5 ショク くらふ。〔後漢書、安帝紀〕至レ令二百姓饑荒更相噉食一。

【噉飯】6 パン めしを食ふ。啗飯。〔陸游、詩〕頗能噉レ飯勝二張蒼一。

【噉名】7 メイ 名聞を求めることが飲食を求める如く甚しいこと。〔世說新語、排調〕右軍指二簡文一語レ孫曰、此噉名客、簡文顧曰、天下自有二利齒兒一。

【噉人國】8 ジンコクヒウ 古、南方にあつた國の名。啖人國。〔後漢書、南蠻傳序〕其西有二噉人國一、生二首子一、輒解而食レ之。

【噉猪腸兒】9 ジンチヨチヤウ 豚の腸を食ふ子供。輕蔑の辭。〔北史、慕容紹宗傳〕時景軍甚盛、初聞二韓軌往討一之、曰、噉二猪腸一小兒。

【噦】4372

㊀エツ ヲチ 〔集韻〕於月切 月
㊁エツ エチ 〔集韻〕乙劣切 屑
㊂クワイ ケ 〔集韻〕呼外切 泰
四ケイ ケ 〔集韻〕呼惠切 霽
五クワイ ケ 〔集韻〕許穢切 隊

㊀❶**しやくり**。しやくりが出る。〔說文〕噦、氣悟也、从レ口歲聲。〔玉篇〕噦、逆氣也。❷**ゑづく**。吐きさうになるが出る物のないこと。〔正字通〕噦、方書謂、有レ物無レ聲曰レ吐、有レ聲無物曰レ噦、有レ物有レ聲曰レ嘔。❸或は歡(6－16212)に作る。〔集韻〕噦、或从レ欠。㊁**しやくり**。㊂の❶に同じ。〔集韻〕噦、逆氣也。㊃**鳥の聲**。〔玉篇〕噦、鳥鳴也。❹**聲がにごる**。〔素問、寶命全形論〕病深者、其聲噦。〔注〕噦、謂二聲濁惡一也。❺**車の鈴の聲**。車の鈴のゆつくりとして節度のある聲。鉞(11－40367)に同じ。〔集韻〕鉞、說文、車鑾聲也、亦作レ噦。四**あかるいさま**。噦噦(3)の❶を見よ。四㊂の❸に同じ。〔集韻〕噦、

聲徐有レ節也。〔詩、小雅、庭燎〕鸞聲噦噦。〔傳〕噦噦、徐行有レ節也。〔釋文〕噦、徐、又呼惠反。五ほほ。又、あごひげ。顙(12－4370 5)に同じ。〔集韻〕顙、頤下毛、一曰、頰謂二之顙一、或从レ口。

【噦噫】1 アエイ しやくりとおくび。〔禮、内則〕升降出入揖遊、不二敢噦噫・嚏咳・欠伸・跛倚・睇視一。〔素問、至眞要大論〕及レ爲二噦噫一、甚則入レ心、善忘善悲。〔素問、三部九候論〕必發二噦噫一。

【噦噎】2 エツ しやくり。しやつくり。〔倭名類聚抄、形體部、病類、噦噎〕唐韻云、噦噎、逆氣也。

【噦噦】3 クワイクワイ ❶あかるいさま。廣くて明いさま。〔詩、小雅、斯干〕噲噲其正、噦噦其冥。〔箋〕噲噲、猶二快快一也、正、晝也、噦噦、猶二烱烱一也、冥、夜也、言居レ之晝日則快快然、夜則烱烱然、皆寛明之貌。❷車が徐かに進んで其の鈴の音に節度のあるさま。〔詩、小雅、庭燎〕君子至止、鸞聲噦噦。〔傳〕噦噦、徐行有レ節也。〔釋文〕噦、呼會反、徐、又呼惠反。〔詩、魯頌、泮水〕其旂茷茷、鸞聲噦噦。〔傳〕噦噦、言二其聲一也。〔張衡、東京賦〕鑾聲噦噦、和鈴鉄鉄。〔注〕綜曰、噦噦、和鳴聲。

【嚨】4550

ロウ ル 〔集韻〕盧東切 東 カメ∠ lung²

小 ❶のど。〔說文〕嚨、喉也、从レ口龍聲。〔爾雅、釋鳥〕六、鳥嚨。❷鶉(2－4551)に同じ。〔正字通〕鶉、俗嚨字。

【嚨胡】1 コウ のど。嚨喉。胡嚨。〔後漢書、五行志一〕桓帝之初、天下童謠曰、丈人何在、西擊二胡一、吏買レ馬、君具レ車、請爲二諸君一鼓二嚨胡一。

【嚨喝】2 コウ 馬の嘶く聲。〔晉書、五行志中〕元康中、京洛童謠曰、城東馬子莫二嚨喝一、比レ至二來年一纏二汝鬢一。

【嚨喉】3 コウ のど。嚨胡に同じ。〔晉書、五行志中〕王恭鎮二京口一、舉二兵誅二王國寶一、百姓謠云、云云、天公誅二譴汝一、教二汝捻二嚨喉一。

【韗】4585

タ 〔集韻〕典可切 哿 カメ∠ tuo³

❶垂れ下るさま。垂れ下る。〔集韻〕韗、垂下皃。〔岑參、送二郭乂一雜言詩〕朝歌城邊柳韗地、邯鄲道上花撲レ人。〔白居易、同二諸客一嘲二雪中馬上妓一詩〕珊瑚鞭韗馬踟躕。❷廣い。〔玉篇〕韗、廣也。〔集韻〕韗、一曰、廣也。❸厚い。〔集韻〕韗、一曰、厚也。❹古は韓(12－45352)に作る。〔集韻〕韗、古作レ韓。

【韗鞄】1 タウ おもがいを垂れる。又、垂れ下ったおもがい。鞄は、馬勒で、手綱の銜ワクにつながる部分をいふ。〔摭言、盧象同年、宴二于曲江亭一、以二雕轎一載レ妓、微服韗鞄縱觀。〔杜甫、醉爲二馬墜一諸公攜レ酒相看詩〕江邨野堂爭入レ眼、垂レ鞭韗レ鞄淩二紫陌一。

【韗懶】2 ラン 人目を盜んでなまける。〔方岳、詩〕畦丁韗懶欲二誰欺一。

【囟】4691

ヨシン 〔集韻〕思晉切 震 T一ㄣ hsin⁴

ヨシン 〔集韻〕思忍切 軫

ヨシ 〔集韻〕息利切 寘

小 或體 古文 ❶ひよめき。をどり。頂門。〔說文〕囟、頭會匘蓋也、象形。〔段注〕內則注曰、來囟曰レ角、內則正義引レ此云、囟、其字象二小兒腦不レ合也、按、人部兒下亦云、从レ儿、上象二小兒頭腦未レ合也、九經字樣曰、說文作レ囟、隸變作レ囟、云云、宋刻書本、皆作レ囟、今人楷字譌レ囟、又改二篆體一作レ囟、所謂象二小兒腦不レ合者、不レ可レ見矣。❷古は出(2－1805)・脺(9－29784)・顣(12－43437)・顣(12－43610)に作る。〔集韻〕囟、古作二出・脺・顣・顣一。❸或は胴(9－29393)・脺(9－29784)に作る。〔集韻〕囟、或作二胴・脺一。

解字 象形。本義はあたまのはち。小兒の頭蓋の合はざる所、卽ちひよめきあるに象り、中は腦髓に象る。字解を見よ。

參考 ❶此の字の正楷は囟、俗に囟に作るは譌。字解を見よ。❷腦(7－19883)の古字の囟(3－4710)とは別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕囟、音信、頂門。囟、同レ腦。

【囟門】1 シン 頭頂の前方に在つて、小兒の時、動く處。ひよめき。をどりこ。〔方書〕頂中央旋毛中爲二百會一、百會前一寸半爲二前頂一、百會前三寸卽囟門。

【坼】5006

タク チヤク 〔集韻〕恥格切 陌 イ亡 ch'ê⁴

小 ❶さける。本、墢(3－5246)に作る。〔正字通〕坼、說文本作レ墢。〔說文〕墢、裂也、从レ土斥聲、詩曰、不レ墢不レ疆。〔詩、大雅、生民〕不レ坼不レ副。〔疏〕坼・副、皆裂也。〔淮南子、本經訓〕天旱地坼。〔注〕坼、燥裂也。❷わかれる。〔廣雅、釋詁一〕坼、分也。❸ひらく。〔廣雅、釋詁三〕坼、開也。❹さけめ。われめ。〔周禮、春官、占人〕卜人占レ坼。〔注〕坼、兆璺也。❺或は擇(5－11943)・宅(3－7064)に作る。〔集韻〕墢、或从レ手、亦作二斥・坼・拆・宅一。❻脈(7－19828)に同じ。〔一切經音義、十七〕坼、作レ脈、同。

【坼罅】1 カク すきまを裂きひらく。〔柳貫、遊二五洩山一詩〕赤日行レ空垂二倒景一、青天坼罅拔二飛流一。

【坼岸】2 ガン さけ崩れた川岸。〔後漢書、明帝紀〕滂養廣溢、莫測二坼岸一。〔謝靈運、入二彭蠡湖口作詩〕洲島驟廻合、坼岸屢崩奔。

【坼壞】3 クワイ さけ破れる。〔周禮、考工記、輿人、棧車欲レ弇、注〕爲二其無二革鞔一、不レ堅、易二坼壞一也。

【坼書】4 ショ 書物をひらく。〔韓愈、寄二皇甫湜一詩〕坼レ書放二牀頭一、涕與レ淚垂。

【坼副】6 フク われわれさける。轉じて、難産をいふ。〔詩、大雅、生民〕先生如レ達、不レ坼不レ副、無菑無害。〔集傳〕達、小羊也、羊子易レ生、無二留難一也。坼、副、皆裂也、云云、凡人之生、必坼副災害其母一、而首生之子尤難、今姜嫄首生二后稷一、如二羊子之易一、無二坼副災害之苦一。〔陔餘叢考、坼副〕不レ坼不レ副、無レ災無レ害、凡婦人易二於產者一、不レ過レ無二災害一耳、而詩必以不二副坼一形二容之一、何也、蓋古婦人生レ子、嘗有二坼剖而生者一。

【坼剖】7 ボウ われわれさける。難産をいふ。〔史記、楚世家〕生二子六人一、坼剖而產焉。

【坼裂】8 レツ われわれさける。破裂する。坼裂。〔後漢書、五行志四〕京都郡國四十二地震、或地坼裂涌レ水、壞二敗城郭一。

【埤】5167

ヒ ビ 〔集韻〕頻彌切 支 ㄆㄧ p'i²

ヒ ビ 〔集韻〕部弭切 紙

ヘイ 〔集韻〕匹計切 霽

小 ❶ます。ふやす。〔說文〕埤、增也、从レ土卑聲。〔廣雅、釋詁一〕埤、益也。〔廣韻〕埤、附也。❷厚くする。〔爾雅、釋詁〕埤、厚也。〔詩、邶風、北門〕政事一埤二益我一。〔傳〕埤、厚也。❸あたへる。〔方言、十三〕埤、與也。❹たすける。〔廣雅、釋

詁二〕埤、助也。㊂**ひめがき**。〔杜甫、題二省中院壁一詩〕掖垣竹埤梧十尋。㊅**ひくい**。卑(2－2738)に通ず。〔荀子、宥坐〕其流也埤下。〔注〕埤、讀爲レ卑。㊀㊀**田百畝**。〔集韻〕埤、田百畝、謂二之埤一。㊁**下濕の地**。〔國語、晉語八〕松柏不レ生二埤一。〔注〕埤、下濕也。㊂**ひくい**。庫(4－9359)に通ず。〔荀子、非相〕是以終身不レ免二埤汙傭俗一。〔注〕埤、與レ庫同。㊃**ひめがき**。俾(1－740)・睥(8－2345)・僻(1－1166)・辟(3－5515)に同じ。〔廣雅、釋宮〕埤堄、女牆也。〔疏證〕字或作二俾倪・睥睨・僻倪一。〔集韻〕辟、辟堄、城上辟、或作レ埤。

名乘 マス。

【埤遺】1 厚くし加へる。〔詩、邶風、北門〕王事敦我、政事一埤二遺我一。〔傳〕遺、加也。

【埤益】2 厚くし增す。〔詩、邶風、北門〕王事適我、政事一埤二益我一。〔傳〕埤、厚也。

【埤汙】3 卑く下る。操行が高潔でない。下劣。〔荀子、非相〕好二其實一、不レ恤二其文一、是以終身不レ免二埤汙傭俗一。

【埤下】4 ひくい。ひくい所。〔荀子、宥坐〕其流也埤下裾拘。〔注〕埤、讀爲レ卑、其流必就二卑下一。

【埤雅】5 書名。二十卷。宋、陸佃撰。釋魚・釋獸・釋鳥・釋蟲・釋馬・釋木・釋草・釋天の八篇に分る。初、物性門類と名づけ、後、今の名に改む。爾雅の埤補の義。〔四庫提要、經、小學類〕。

【參考書】【埤雅廣要】四十二卷 明、牛衷撰。〔四庫提要、子、小說家類存目〕。

【埤倪】6 城上のひめがき。倪は、弱小の意。女牆。又、埤堄・埤倪・埤院にも作る。城堞。陴堞。短牆。短垣。〔墨子、號令〕各垣二其兩旁一、高丈爲二埤院一。〔閒詁〕畢云、院、當爲レ倪。

【埤堄】7 ひめがき。埤倪。〔廣雅、釋宮〕埤堄、牒、女牆也。〔集韻〕埤、埤堄、城上垣。〔盧綸、九日奉二陪侍郎登二白樓一詩〕埤堄二層連一二步障一。〔韓愈、詠レ雪贈二張籍一詩〕城寒裝二埤堄一、樹凍裹二莓

【埤院】8 ひめがき。埤倪を見よ。〔苕〕

【埤蒼】9 書名。一卷。魏、張揖撰。隋唐經籍志共に三卷と著錄するも、今、一卷を存するのみ。許愼の說文の例によつて編次す。〔隋書、經籍志一〕埤蒼三卷、張揖撰。

【埤濕】10 低くしめり氣ある地。下濕の地。卑濕。〔司馬相如、子虛賦〕其埤濕則生二藏莨蒹葭一。

【埤助】11 たすける。裨助。〔漢唐扶頌碑〕諸學徒兮、相埤助。「傷、歲埤二增之一。

【埤增】12 まし加へる。〔管子、度地〕禾稼不レ埤增。

【埤薄】13 下濕でやせた地。〔後漢書、清河孝王慶傳〕慶立凡二十五年、乃歸國、其年病篤、謂二宋衍等一曰、清河埤薄、欲レ乞二骸骨一於二貴人冢傍一、下棺而已。

【墮】5482

ダ

墮(3－5481)に同じ。〔正字通〕墮、同レ墮。

【憧】5483

ダ

墮(3－5482)に同じ。〔字彙〕憧、同レ墮。

【憧爛】1 なまける。惰嬾。〔後漢書、王丹傳〕每歲農時、輒載二酒肴於田間一、候二勤者一而勞レ之、其憧爛者、恥不レ致レ丹、皆兼レ功自厲。

【憧和羅】2 國の名。唐代の南蠻の一。獨和羅・墮羅鉢底・杜和鉢底・杜和羅などとも書く。Dvaravati の音譯で、暹羅の古都 Ayuthya の古名であらうといふ。〔唐書、南蠻傳下〕憧和羅、亦曰二獨和羅一、自二廣州一行五月乃至、國多二美犀一、世謂二憧和羅犀一。

【夘】5752

小 篆

㊀エン ラン 〔集韻〕於阮切 阮

㊁エン 〔集韻〕烏勉切 銑

㊀**ころがりふす**。〔說文〕夘、轉臥也、从二夕㊀一、臥有レ㊀也。〔段注〕凡夘聲宛聲字、皆取二委曲意一、㊀・節、古今字。㊁**雙六の采**。夘稟を見よ。

解字 會意。夕(よる)と㊀(㊀に同じ。節の古字)との合字。本義はころがりふすこと。又、ごろごろとねがへりすること。故に夕と㊀とを合せて、其の意を表はす。㊀は臥するに節度ある意に取る。〔說文、夘、段注〕从二夕㊀一、會意、臥有レ㊀也、釋二从㊀之意一、㊀・節、古今字。

【夘稟】1 雙六の采。一に夘專に作る。〔方言、五〕簿、或謂二之夘專一。〔注〕夘、於辯反、專、音轉。〔集韻〕夘、方言、夘稟、簿也。

【卵】5753

エン

夘(3－5752)に同じ。〔字彙〕夘、同レ夘。

参考 卯(2－2843)・卯(2－2847)は別字。〔康熙字典、辨似、三字相似〕卯、音輕、卿字从レ此。卯、音淵、卽夘字。卯、寅卯之卯。

【寖】7253

㊀シン 〔集韻〕吝林切 ㄅㄧㄣˋ chin' 寖

㊁シン 〔五音集韻〕子鴆切 沁

㊀㊁㊀**ひたす**。浸(6－17505)・濅(7－18445)に同じ。〔正字通〕寖、濅同。〔廣雅、釋詁二〕濅、漬也。〔周禮、秋官、職方氏、其浸一五湖一、釋文〕浸、本又作レ寖。㊁**そそぐ**。〔集韻〕寖、漑也。㊂**つむ。つもる**。〔廣雅、釋詁一〕寖、積也。㊃**やうやく。次第に**。〔漢書、高五王、濟北王興居傳〕事寖淫、聞二於上一。〔注〕師古曰、寖淫、猶レ言二漸染一也。㊄**ちかい**。〔漢書、薛宣傳〕上寖之源。〔注〕師古曰、寖、近也。㊅**川の名**。濅(7－18445)に同じ。〔說文〕濅、濅水、出二魏郡武安東北一、入二呼沱水一、从レ水寖聲。〔段注〕今河南彰德府武安縣西南五十里、有二武安城一。

【寖淫】1 次第に染まる。漸次擴大すること。〔漢書、高五王、濟北王興居傳〕事寖淫、聞二於上一。〔注〕師古曰、寖、古浸字也、寖淫、猶レ言二漸染一也。〔漢書、外戚、孝武李夫人傳〕濅淫敝苑、寂兮無レ音。〔後漢書、馮衍傳下〕滅二先王之法則一兮、禍濅淫而弘大。

【寖廣】2 次第にひろまる。濅廣。〔漢書、刑法志〕姦有レ所レ隱、則狃而寖廣。〔注〕師古曰、寖、漸也。

【寖弱】3 次第に弱る。濅弱。〔漢書、元后傳〕外家宗族彊、上一身寖弱日久。〔注〕師古曰、寖、漸也。

【寖潤】4 次第にうるほふ。浸潤。〔漢書、谷永傳〕無レ用二比周之虛譽一、毋聽二濅潤之譖愬一。〔注〕師古曰、濅潤、積漸之深也。〔漢書、劉向傳〕上內重堪、又患二眾口之寖潤一、無レ所レ取レ信。

【寖深】5 次第に深くなる。濅深。〔漢書、刑法志〕開者吏用レ法巧、文寖深。

【寖譖】6 水のしみわたる如く、いつとなく讒言すること。〔日本外史、源氏正記、源氏下〕景時益怒、寖譖二之於賴朝一。

【寖尋】7 次第に近づく。侵尋。〔漢書、郊祀志上〕始巡二幸郡縣一、寖二尋於泰山一矣。〔注〕師古曰、寖、漸也、尋、就也。

【寖盛】8 次第に盛になる。浸盛。〔漢書、外戚、孝成班倢伃傳〕踰二越禮制一、寖盛於前一。

【寖薄】9 次第に薄くなる。〔漢書、王吉傳〕詐僞萌生、刑罰亡レ極、質樸日銷、恩愛寖薄。

【寥】7383

ム

夢(3－5802)に同じ。〔正字通〕寥、同レ夢。

【弘】9705

イン

引(4－9699)に同じ。〔廣韻〕引、弘、上同、玉篇云、挽二弓也。

【弛】9747

シ

弛(4－9724)に同じ。〔集韻〕弛、或作レ弛。

【彘】 9931

㊀テイ 〔集韻〕直例切 霽
㊁デイ
㊂エイ 〔集韻〕于歲切 霽
㊃エ
ㄓ chih⁴

小篆

❶ゐのこ。ぶた。〔說文〕彘、豕也、後蹏廢謂ニ之彘一、从ニ彑从ニ二匕、矢聲、彘足與ニ鹿足一同。〔玉篇〕彘、豬也。〔方言、八〕豬、北燕朝鮮之閒謂ニ之豭一、關東西或謂ニ之彘一、或謂ニ之豕一。〔禮、月令〕（孟夏之月）天子乃以ニ彘嘗一麥。〔孟子、梁惠王上〕雞豚狗彘之畜。❷**地名**。周の厲王が出奔したところ。山西省霍縣の東北。〔國語、周語上〕乃流ニ王于彘一。〔注〕彘、晉地、漢爲ニ縣屬ニ河東一、今曰ニ永安一。❸**姓**。〔萬姓統譜〕彘、士會支子魴、別食ニ菜彘邑一、後以爲ニ氏一。〔國語、晉語七〕使ニ智武子彘恭子如ニ周一。〔注〕彘恭子、士魴也、食ニ邑於彘一。

㊁**剣のつかがしらの玉飾**。璏（7－21224）に同じ。〔集韻〕璏、劍鼻玉、或省。

解字　會意形聲。彑と二つの匕と矢との合字。本義を後蹏の廢せる豕とする。ぶたの類の、前足僅に屈伸するのみで後足は思ふままに歩行出來ないことをいふ。矢は音符。〔說文、彘、後蹏廢謂ニ之彘一、从ニ彑从ニ二匕一、矢聲、段注〕廢、鈍置也、彘之言、滯也、豕前足僅屈伸、後足行步蹇劣、故謂ニ之廢一。

【彘豪】1 ガウ 豚の毛。〔山海經、北山經〕大咸之山、有ニ蛇、名曰ニ長蛇一、其毛如ニ彘豪一。

【彘肩】2 ケン 豚の肩の肉。〔史記、項羽紀〕張良至ニ軍門一、見ニ樊噲一、噲遂入披帷、西嚮立瞋ニ目視一ニ項王一、頭髮上指、目眦盡裂、項王按ニ劍而跽曰、客何爲者、張良曰、沛公之參乘樊噲者也、項王曰、壯士、賜ニ之巵酒一、則與ニ斗巵酒一、噲拜謝起立而飲ニ之一、項王曰、賜ニ之彘肩一、則與ニ一生彘肩一、樊噲覆ニ其盾於地一、加ニ彘肩上一、拔ニ劍切而啗ニ之一。

【彘縣】3 ケン 縣名。漢、置く。今の山西省霍縣の東北。〔漢書、地理志上〕河東郡、縣二十四、彘。

【彘罟】4 コテイ 豬を捕へるあみ。彘網（16）に同じ。〔爾雅、釋器〕彘罟、謂ニ之羅一。〔注〕羅、幕也。〔疏〕彘、豬也、其罔名ニ羅、羅、幕也、言ニ幕絡其身一也。

【彘山】5 ザン 山名。〔山海經、中山經〕若山、又東南一百二十里曰ニ彘山一、多ニ美石一、多ニ柘一。

【彘子】6 シ 春秋、晉の先縠（1－1349・72）の二稱。

【彘耳】7 ジ 豚のみみ。〔山海經、北山經〕北嶽之山、多ニ枳棘剛木一、有ニ獸焉一、其狀如ニ牛、而四角、人目彘耳、其名曰ニ諸懷一、其音如ニ鳴雁一、是食ニ人一。

【彘城】8 チヤウ 地名。彘地に同じ。〔詩、小雅、雨無正、疏〕杜預云、平陽永安縣東北有ニ彘城一、晉時、郡分而縣移、故與ニ漢時一不ニ同一。〔明一統志〕彘城在ニ平陽府霍州一、周厲王奔ニ彘一、卽此、漢爲ニ彘縣一。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府、霍州、呂城〕彘城、杜預曰、在ニ永安縣東北一、卽周厲王所居、今州城東北有ニ厲王陵一。

【彘首】9 シユ 草の名。菊科、かんくびさう屬。高さ二三尺餘、花は黃色、頭狀花。天名精、彘顱。やぶたばこ。はまたかな。〔沈約、郊居賦〕其陸卉則紫鑑綠葹、天著山菲、鴈齒糜舌、牛脣彘首。

【彘身】10 シン ぶたのからだ。〔山海經、中山經〕其神狀、皆彘身人首。〔山海經、北山經〕其十四神狀、皆彘身而載ニ玉一、其祠之皆玉不ニ瘞一、其十神狀、皆彘身而八足蛇尾、其祠之皆用ニ一壁一瘞一之。

【彘椒】11 セウ 樹の名。山椒に似て、枝は柔軟。蔓椒。いたちはじかみ。ほそき。〔本草、蔓椒〕釋名、豬椒、豕椒、彘椒、稀椒、狗椒、金椒、時珍曰、此椒蔓生、氣臭如ニ狗彘一、故得ニ諸名一。

【彘地】12 チ 地名。今、山西省霍縣の東北。〔詩、小雅、雨無正、靡ニ所ニ止戾一、箋、是時諸侯、不ニ朝王一、民不ニ堪ニ命一、王流ニ於彘一、無ニ所ニ安定一也。〔疏〕韋昭云、彘地、漢時爲ニ縣屬ニ河東一、今永安是也。

【彘肉】13 ニク 豚のにく。〔蘇軾、送ニ筍芍藥一與ニ公擇一詩〕我家拙廚膳、彘肉芼蘠菁。

【彘尾】14 ビ 豚の尾。〔山海經、南山經〕雞山、黑水出焉、而南流注ニ于海一、其中有ニ鱄魚一、其狀如ニ鮒而彘尾一、其音如ニ豚一、見則天下大旱。〔山海經、中山經〕復州之山有ニ鳥焉一、其狀如ニ鴞而一足彘尾一、其名曰ニ跂踵一、見則其國大疫。

【彘毛】15 マウ 豚の毛。〔山海經、東山經〕其中多ニ堪孖之魚一、有ニ獸焉一、其狀如ニ夸父一、而彘毛、其音如ニ呼一、見則天下大水。

【彘網】16 マウ 豬を捕へるあみ。彘罟。〔後漢書、馬融傳、罕罝羅羅、注〕罕、雉網也、罝、兔罟也、羅、彘網也。

【彘鳴】17 メイ 豚の鳴き聲。〔山海經、東山經〕東山經之首、曰ニ樕蠢之山一、北臨ニ乾昧一、食水出焉、而東北流注ニ于海一、其中多ニ鱯鱯之魚一、其狀如ニ犂牛一、其音如ニ彘鳴一。

【彘牢】18 ラウ 豚小屋。〔陸游、弊廬詩〕縛ニ木爲ニ彘牢一、附ニ垣作ニ雞塒一。

【彘鬣】19 レフ 豚のたてがみ。〔山海經、南山經〕堯光之山、有ニ獸、其狀如ニ人而彘鬣一、穴居而冬蟄、其名曰ニ滑褱一。〔山海經、北山經〕北囂之山、有ニ獸焉、其狀如ニ虎、而白身犬首、馬尾彘鬣、名曰ニ獨狢一。

【彘盧】20 ロ 彘顱に同じ。〔周禮、地官、掌染草、疏〕豕首者、爾雅云、莧蕵、豕首、郭注云、本草曰、彘盧、一名蟾蠩蘭、今江東呼ニ稀首一、可ニ以煬ニ蠶蛹一、郭氏雖ニ有ニ此注一、不ニ言可ニ以染ニ何色一、則此蘩盧豕首、未ニ審ニ鄭之所ニ據也一。

【彘顱】21 ロ 草の名。彘首（9）に同じ。〔本草、天名精、釋名、彘顱、時珍曰、天名精、乃天蔓菁之訛也、其氣如ニ豕彘一、故有ニ豕首・彘顱之名一。

【殺レ彘教レ子】22 コテイヲシテコヲシフ 曾子の妻が戲に子供に豚を殺して御馳走しようと約束したところ、曾子が豚を殺して食べさせ其の子を欺かなかつた故事。〔韓非子、外儲說左上〕曾子之妻之ニ市、其子隨ニ之而泣一、其母曰、女還、顧反、爲ニ女殺ニ彘、適ニ市來一、曾子欲ニ捕ニ彘殺ニ之一、妻止ニ之曰、特與ニ嬰兒一戲耳、曾子曰、嬰兒非ニ可ニ與戲一也、嬰兒非ニ有ニ知也一、待ニ父母一而學者也、聽ニ父母之教一、今子欺之、是教ニ子欺一也、母欺ニ子而不ニ信ニ其母一、非ニ以成ニ教也一、遂烹ニ彘也一。

【彤】 9972

小篆

㊀トウ 〔集韻〕徒冬切 冬
ㄊㄨㄥˊ t'ung.

❶**あかぬり。朱塗り**。〔說文〕彤、赤聲。〔詩、邶風、靜女〕貽ニ我彤管一。〔箋〕彤管、筆赤管也。〔詩、小雅、彤弓〕彤弓弨矣。〔傳〕彤弓、朱弓也。〔左氏、哀、元〕器不ニ彤鏤一。〔注〕彤、丹也。〔釋文〕彤、丹漆也。❷**あか。あかい**。〔爾雅、釋畜〕彤白雜毛、騢。〔注〕彤、赤也。〔陸機、漢高祖功臣頌〕彤雲晝聚。〔注〕善曰、彤、丹色也。❸**彤筆の略稱**。珥ニ彤（50）を見よ。〔王融、三月三日曲水詩序〕書ニ笏珥ニ彤一。❹**周の國名**。伯爵。陝西省華縣の境。〔書、顧命〕乃同召ニ彤伯一。❺或は蚓（10－32864）に作る。〔集韻〕彤、或作ニ蚓一。❻**姓**。〔史記、夏紀〕禹爲ニ姒姓一、其後分封、用ニ國爲ニ姓一、有ニ彤城氏一。〔注〕索隱曰、周有ニ彤伯一、蓋彤城氏之後、彤伯爲ニ成王宗枝一。〔通志、氏族略、以ニ國爲ニ氏一〕彤氏、出ニ于彤伯一、周同姓之國、爲ニ成王宗伯一。

解字　會意形聲。丹と彡との合字。彡は毛ばけで畫く意。丹はあか。故に本義をあかぬりとする。彡は又、音符。

參考　彤（8－29272）は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕彤、音容、祭名。彤、音同、赤色。

【彤幃】1 イ 赤いとばり。〔崔湜、景龍二年云云、途中言ニ志詩一〕彤幃荷ニ新寵一、朱戴蒙ニ舊榮一。

【彤闈】2 イ 赤く塗つた宮門。〔謝朓、酬ニ王晉安德元一詩〕日旰坐ニ彤闈一。〔劉孝綽、校書秘書省對ニ雪詠一懷詩〕積照朗ニ彤闈一。〔庾信、贈ニ司寇淮南公一詩、傳呼擁ニ絳節一、交戟映ニ彤闈一。

【彤雲】3 ウン あかい雲。〔陸機、漢高祖功臣頌〕彤雲晝聚、素靈夜哭。〔注〕善曰、彤、丹色也。〔孫綽、遊ニ天台山一賦〕彤雲斐亹以翼ニ檣、皦日炯ニ乎綺疏一。〔宋之問、奉ニ和春日玩雪一應制詩〕北闕彤雲掩ニ曙霞一、東風吹ニ雪舞一ニ山家一。〔李益、登ニ天

壇。夜見レ海詩〕夏旌絳節倚二彤雲一。

【彤霞】4カク 日の旁の赤色の雲氣。〔曹唐、小遊仙詩〕紅草青林日半斜、閑乘二小鳳一出二彤霞一。〔劉筠、槿花詩〕紫霧寒二燈檠一、彤霞逼二綺寮一。〔蘇舜欽、水叔石月屏圖詩〕彤霞爛レ石變二靈砂一、白虹貫レ巖生二美璞一。

【彤赫】5カク 赤くかがやき光る。爍熱の太陽。〔朱灝、避暑賦〕陽精出而奏レ海兮、彤赫仇二乎淵客一。

【彤閣】6カク 赤く塗ったたかどの。〔張協、七命〕翠觀岑青、彤閣霞連。〔曹唐、小遊仙詩〕彤閣鐘鳴碧鷺飛、皇君催熨紫霞衣。

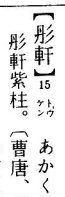
【彤曷】7カツ 後魏時代の外國の名。〔魏書、顯祖獻文帝紀〕曹利彤曷國、各遣レ使朝獻。

【彤竿】8カン 赤くぬったさを。〔王彪之、閨中賦〕緗箬素箏、彤竿綠筒。

【彤几】9キ 赤く塗ったつくゑ。〔周禮、春官、司几筵〕左二彤几一。

【彤輝】10キ 赤く輝く。〔殷淡、宋示廟樂舞歌、昭夏樂〕璇除肅炤、釭璧彤輝。〔鮑照、芙蓉賦〕測二滉池之光潔、爍二彤輝之明媚一。

【彤弓】11キウ ❶赤くぬった弓。古、天子が有功の諸侯に與へたもので以て征伐を專ら行はせたもの。彤弧。〔書、文侯之命〕彤弓一、彤矢百。〔傳〕彤赤、諸侯有二大功一賜二弓矢一、然後專二征伐一、彤弓以講德習レ射、藏示二子孫一。〔詩、小雅、彤弓〕彤弓弨兮、受言藏レ之。〔傳〕彤弓、朱弓也。〔左氏、僖、二十八〕彤弓一、彤矢百、玈弓十、玈矢千。〔公羊、定、四、挾二弓而去一楚、注〕禮、天子雕弓、諸侯彤弓、大夫樂弓、士盧弓。〔荀子、大略〕天子彤弓、諸侯彤弓、大夫黑弓、士盧弓。〔管子、輕重丁〕不レ以二彤弓石璧一。〔史記、晉世家〕彤弓矢百。〔韋孟、諷諫詩〕彤弓斯征。〔後漢書、袁紹傳〕彤弓玈矢之命。❷詩經の小雅、南有嘉魚之什の篇名。天子が有功の諸侯に彤弓を賜ふことを詠んだもの。〔詩、小雅、彤弓序〕彤弓、天子錫二有功諸侯一也。


彤三 弓 禮 ❶ 圖

【彤魚】12ギヨ 太古の國名。〔國語、晉語四〕黃帝之子、二十五人、其同姓者二人而已、唯青陽與二夷鼓、皆爲二己姓一、青陽、方雷氏之甥也、夷鼓、彤魚氏之甥也。〔注〕彤魚、國名。〔史記、五帝紀〕嫘祖爲二黃帝正妃一。〔注〕索隱曰、皇甫謐云、次妃彤魚氏女、生二夷鼓一、一名蒼林、按二國語一、夷鼓・蒼林是二人、又按二漢書古今人表一、彤魚氏生二夷鼓一、嫘母生二蒼林一、不レ得レ如二謐所レ說一。

【彤管】13クワン 赤いぢくの筆。古、女史の執る所で管中の政令及び后妃の事を記すに用ひるもの。彤管貽を見よ。〔左氏、定、九〕靜女之三章取二彤管一焉。〔後漢書、皇后紀序〕女史彤管、記レ功書レ過。〔注〕彤管、赤管筆也。

【彤管貽】14クワンヰ 彤管をおくりものとすること。轉じて、男女が物を相贈つて慇懃を結ぶこと。彤管を見よ。〔詩、邶風、靜女〕靜女其孌、貽二我彤管一、彤管有レ煒、說二懌女美一。〔傳〕古者后夫人、必有二女史彤管之法一、女史不レ記レ過、其罪殺レ之、后妃羣妾、以レ禮御二於君所一、女史書二其日月一、授レ之以レ環、以進二退之一、生レ子月辰、則以金環退レ之、當レ御者、以二銀環一進レ之、著二于左手一、既御著二于右手一、事無二大小一、記以成レ法。〔箋〕彤管、筆赤管也。〔疏〕必以二赤者一、欲レ使レ女史以二赤心一事二夫人一而正二妃妾之次序一也。

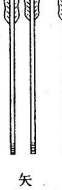
【彤軒】15ケン あかく塗ったのき。〔曹植、七啓〕彤軒紫柱。〔曹唐、長安客舍敍二邵陵舊宴一寄二永州蕭使君一詩〕粉雄彤軒畫障西、水雲紅樹窄璇題。

【彤弧】16コ 赤く塗った弓。彤弓。〔班固、典引〕乘下其命一賜二彤弧黃鉞一之威上、用討二韋顧黎崇之不レ恪。

【彤彩】17サイ 赤い色彩。赤い光。〔王延壽、魚靈光殿賦〕彤彩之飾。

【彤史】18シ 女官の名。周代、女史の官あり、彤筆を執つて群后進御の事を羣記するを掌る。因つてこの官を稱して彤史といふ。唐に至り內宮に彤史あり、金・明には尙衣局に屬し、后妃群妾の進御にあたつて、其の月日を書くことを掌る。彤管を見よ。〔晉書、后妃傳序〕永言彤史、大練之範逾微、緬視青浦、脫レ珥之猷替矣。〔唐書、百官志二〕彤史二人、正六品。〔唐書、后妃傳序〕關雎之風行、彤史之化修。〔續文獻通考、職官考、女官〕金宮人女官、云云、女史・彤史各二人、掌二禮儀、班序設扳、贊拜之事一。〔勝朝彤史拾遺記、一〕彤史者、後宮女官名也、其制選二良家女子之知レ書充レ之、使二之記二宮闈起居及內廷燕褻之事一、用示二勸戒一、而惜其書不二外傳一、予幼時得二先子石阡府君教授所藏宮闈記聞一卷、自二洪武一至二萬曆一、凡十三朝、可レ謂二小備一、雖二所闕亦無幾、第載事未レ確、其文不二雅馴一、予承レ乏爲二史官一、値レ修二明史一、常圖題起草、得二順成弘正四朝后妃列傳一、因歷探中秘、以爲必有二異聞畸事一、可レ補二疏略一、而遍搜二史窾一、但得レ詳二冊封年時一、及后妃崩薨喪葬諸禮節一、而他無所レ有、乃不レ得レ已、仍取二外史所記與實錄稍不レ符者一、草成應レ之、而拾二其餘賸一、歸而雜二之先子之所藏一、復爲二斯篇一、大抵事取レ可レ驗、寧闕勿レ備、謂二之拾遺一、既無二彤史一、稱二彤史者一、曰非二史官之正史一焉。

【彤矢】19シ 赤く塗った矢。彤弓(二)を見よ。〔書、文侯之命〕彤弓一、彤矢百。〔左氏、僖、二十八〕彤弓一、彤矢百。〔注〕彤、赤也。〔潘勗、冊二魏公九錫一文〕是用錫二君彤弓一、彤矢百、旅弓十、旅矢千一。


彤三 禮 矢 圖

【彤漆】20シツ 赤色のうるし。〔鹽鐵論、散不足〕雕文彤漆。

【彤車】21シヤ 赤色の車。〔史記、五帝紀〕彤車乘二白馬一。

【彤裳】22シヤウ 赤色のもすそ。〔書、顧命〕太保・太史・太宗、皆麻冕彤裳。

【彤城】23ジヤウ 複姓。〔史記、夏紀贊〕禹爲二姒姓一、其後分封、用レ國爲レ姓、故有二夏后氏・有男氏・斟尋氏・彤城氏・褒氏・費氏・杞氏・繒氏・辛氏・冥氏・斟氏・戈氏一。〔注〕索隱曰、按、周有二彤伯一、蓋彤城氏後。

【彤爍】24ジヤク 赤く光りかがやく。〔宋武帝、遊覆舟山詩〕松磴含二青暉一、荷源煜二彤爍一。

【彤朱】25シユ あかい色。〔漢書、外戚下、趙皇后傳〕其中庭彤朱、而殿上髹漆。

【彤珠】26シユ 眞赤に燒いた鐵の火だま。〔潘岳、馬汧督誄〕彤珠星流、飛矢雨集。〔注〕善曰、彤珠星流、謂二治レ鐵以灌レ敵。

【彤楯】27ジユン 朱塗りのたて。〔隋書、禮儀志七〕左執二熊環一、右執二熊環一、長刀十二人、兼執二師子彤楯一。

【彤暑】28ショ 酷しい暑さ。〔唐高宗、玉華宮山銘〕炎生肇授、彤暑初融。

【彤臣】29シン 清、傅展(1—939：3)の字。

【彤騶】30トウスウ 顯官の前驅をする赤衣を着た騎卒。〔褚亮、和二御史韋大夫喜雪詩〕白簡光二朝幰一、彤騶出二禁中一。〔駱賓王、樂大夫挽詞〕彤騶朝二帝闕一、丹旐背二王畿一。〔藝林伐山〕褚亮詩、彤騶出二禁中一、蓋五伯戴二紅帽一以唱騶、自唐已然矣。

【彤精】31セイ 赤色の精。太陽をいふ。〔梁簡文帝、南郊頌〕日耀二彤精一、天澄二翠色一。

【彤幰】32セン 赤色の車のとばり。〔王昌齡、酬鴻臚裴主簿雨後北樓見贈詩〕問レ禮侍二彤幰一、題レ詩訪二茅屋一。〔李白、宣州九日詩〕彤幰雙白鹿、賓從何輝赫。〔劉長卿、奉餞元侍御加二豫章採訪一兼賜下章服上詩〕花對二彤幰一發、霜和二白雪一操。

【彤幢】33タウ 赤色のはた。〔韓愈、陸渾山火和皇甫湜用二其韻一詩〕彤幢絳旆紫纛旛、炎官熱屬朱冠褌。

【彤丹】34タン あか。赤。〔梁簡文帝、南郊頌〕山池壯麗、階閣彤丹。〔王廙、笙賦〕合二松蠟一以密レ際、樣二彤丹一以發レ光。

【彤墀】35チ 宮中の庭。墀は石を敷いた階上の地。天子の墀は赤く塗るからいふ。〔皮日休、送下羊振文先輩往二桂陽一歸覲上詩〕桂陽新命下二彤墀一、彩服行當欲二雪時一。〔和凝、宮詞〕曉日曈曨瞻二玉案一、丁冬環佩滿二彤墀一。〔王起、彈冠賦〕吾方策二名於丹闕一、委二質於彤墀一、顧將二盡レ飾以爲レ美、豈薄二汀而見一嗤。

【彤杖】36ヂヤウ 赤くぬったつゑ。〔論衡、死僞〕傳曰、趙簡公殺二其臣一云云、莊子義起二於道左一、執二彤杖一而捶レ之、斃於車下一。

【彤廷】37テイ 彤庭に同じ。〔楊太眞外傳、下〕金衣爛白、色麗二彤廷一。

【彤庭】38テイ 宮中の庭。天子の庭は赤く地に塗る。彤墀。〔班固、西都賦〕元墀釦砌、玉階彤庭。

〔張衡、西京賦〕彤庭煇煇。〔隋書、音樂志中〕彤庭爛景、丹陛流光。〔謝朓、直中書省詩〕紫殿肅陰陰、彤庭赫弘敞。

【彤殿】39 チトウ 朱塗の御殿。〔宋孝武帝、擬漢武帝李夫人賦〕彤殿閉兮素塵積、翠陀蕪兮紫苔生。〔陸厥、李夫人及貴人歌〕彤殿向蘼蕪、青蒲復萎絶。

【彤彤】40 トウトウ 赤いさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕彤彤靈宮。

【彤白】41 ハクハク 赤と白。〔爾雅、釋畜〕彤白雜毛駁。〔注〕卽今之赭白馬、彤赤。

【彤伯】42 ハクハク 周の人。彤國の君。成王六卿の一人。〔書、顧命〕乃同召太保奭・芮伯・彤伯・畢公・衞侯・毛公・師氏・虎臣、百尹御事。〔疏〕定四年左傳云康叔爲司寇、知此六人依周禮次第爲六卿也、王肅云、彤、姒姓之國、其餘五國姚姓、畢・毛、文王庶子、衞侯、康叔所封武王母弟、依世本・史記爲說也。〔蔡傳〕六卿也、冢宰第一、召公領之、云云、宗伯第三、彤伯爲之。

【彤雯】43 チトン 赤いあやのある雲。〔廖道南、詠日觀詩〕重輪羨彤雯、疊玦瞻黃珥。

【彤陛】44 トヘイ 朱塗のきざはし。〔李東陽、詩〕皁囊繁出入、彤陛儼周旋。

【彤鏤】45 ルトウ 赤く塗ることと、金屬にほりものすること。轉じて、裝飾する義。〔左氏、哀、元〕室不崇壇、器不彤鏤。〔國語、周語下〕器無彤鏤、儉也。〔注〕彤、丹也、鏤、刻金飾也。

【彤輦】46 トレン 赤く塗つた車。〔斐守眞、奉和太子納妃太平公主出降詩〕雲路移彤輦、天津轉明鐘。

【彤弦】47 トウ 赤と黑。〔書、文侯之命〕彤弓一、彤矢百、盧弓一、盧矢百。〔疏〕鄭玄以此彤弓弦弓爲周禮唐弓大弓、唐大是弓強弱之名、彤弦是弓赤黑之色、孔意亦當然也。〔校勘記〕古本盧並彤弦に同じ。〔作レ玆。

【彤櫻】49 ロウ 赤塗りのたかどの。〔鄧文原、詩〕彤樓風暖歌聲細、綺閣春深舞袖紅。

【珥レ彤】50 トルヴ 赤管の筆を執る。史官が君子の言動を記すをいふ。彤管(13)・彤史(18)を見よ。〔王融、三月三日曲水詩序〕書笏珥レ彤。〔注〕良曰、珥、執也、彤、赤管筆也、皆史臣所以書記君言也。

【彤芝蓋】51 ガトウシ 赤い傘。〔琵琶記、丹陛陳レ情〕龍鱗座、覆著彤芝蓋。

【偏】10174

㊀ヘン 〔集韻〕卑見切 ㄅㄧㄢˋ pien⁴

㊁ヘン ベン 〔集韻〕蒲眠切 ㄆㄧㄢˊ p'ien²

小篆 偏

㊀ **あまねし。** ゆきわたる。〔說文〕偏、市也、从レ彳扁聲。〔廣韻〕偏、周也。〔易、益〕莫レ益之、偏辭也。〔虞注〕偏、周匝也。〔周禮、天官、外府、掌邦布之出入、注〕其流行無レ不レ偏。〔疏〕無レ不レ偏、卽市之義也。㊁ **あまねく。** のこらず。すべて。〔禮、曲禮上〕殺之序、偏祭之。〔疏〕偏、匝也。〔淮南子、主術訓〕天下偏爲儒墨。矣。〔注〕偏、猶レ盡也。㊂ **めぐる。** 〔晉書、王戎傳〕周二偏天下一。四或は遍(11－39001)に作る。〔集韻〕偏、或从走。〔詩、邶風、北門〕室人交偏讁レ我。〔釋文〕偏、古遍字。五或は辯(10－38677)に作る。〔集韻〕偏、亦作レ辯。〔書、舜典〕偏二于羣神一。〔史記、五帝紀〕辯二於羣神一。六或は辨(10－38657)に作る。〔集韻〕偏、亦作レ辨。〔公羊、僖、三十一〕不レ崇レ朝、而偏二雨乎天下一者、唯泰山也。〔論衡、明雩〕不レ崇レ朝、而辨二雨天下一、泰山也。七班(7－20976)に通ず。〔書、舜典〕偏二于羣神一。〔後漢書、祭祀志〕班二于羣神一。㊃ **ちんば。** 蹁(10－37717)に同じ。〔集韻〕蹁、說文、足不レ正也、一曰、拖二後足一馬、一曰、蹁躚、旋行也、或作レ偏。㊄ **かたよる。** 偏(1－848)に同じ。〔集韻〕偏、說文、頗也、亦作レ偏。

名乘 ユキ。

【偏遊】1 pien¹ you². あまねく諸方に遊ぶ。

【偏戒】2 あまねくいましめる。〔國語、周語上〕稷則偏戒二百姓一。

【偏街】3 pien¹ chieh¹ 町中。全町內。

【偏該】4 あまねくかねる。廣く知つてゐること。〔晉書、范平傳〕平研二覽墳索一、偏二該百氏一。

【偏行】5 ㊀ あまねく行く。〔荀子、性惡〕足可二以偏一行天下一。〔孔子家語、正論解〕將二偏一行天下一。㊁ かたより行ふ。〔管子、國蓄〕王者偏行而不レ盡也。〔纂詁〕豬飼彥博云、偏、當レ作レ徧。

【偏窺】6 あまねくうかがひみる。〔楊炯、羣官尋二楊隱居一詩序〕旁二求勝境一、偏二窺靈跡一。

【偏諱】6 あまねくいむ。禮記、曲禮上に在る「二名不二偏諱一」の文は、偏諱の誤であるといふ說による。毛居正の六經正誤卷四禮記、顧炎武の日知錄一十三、二名不二偏諱一などは、皆その說を引いてゐる。〔舊杭本柳文、三十九、讓二監察御史一狀〕準二禮二名不二偏諱一、不合二辭遜一也。

【偏擧】7 あまねくあげる。〔荀子、正名〕萬物雖レ衆、有レ時而欲二偏擧之一。〔墨子、經說下〕區宇、不レ可二偏擧一字也。

【偏觀】8 あまねくみる。〔墨子、小取〕故言多レ方、殊レ類異レ故、則不レ可二偏觀一也。

【偏見】9 偏觀(8)に同じ。〔呂覽、知度〕明君者、非二偏一見萬物一也。

【偏告】10 あまねく告げる。〔史記、五帝紀〕偏告以レ言、明試以レ功、車服以レ庸。

【偏祭】11 あまねく祭る。〔書、舜典、望二于山川一、偏二于群神一、疏〕偏祭二於山川・丘陵・墳衍、古之聖賢之羣神一。〔禮、曲禮上〕主人延レ客祭、祭レ食、祭レ所二先進一、殺之序、偏祭レ之。

【偏在】12 あまねくゆきわたつて存在する。

【偏搜】13 あまねくさがしもとめる。〔李紳、過吳門二詩〕故館曾閑訪、遺基亦偏搜。〔李洞、送二東宮賈正字之蜀詩〕若次二江邊邑一、宗詩爲二偏搜。

【偏賜】15 あまねく賜はる。〔左氏、昭、二十一〕齊侯將レ飲レ酒、偏賜二大夫一。曰、三子之教也。

【偏辭】16 pien¹ tz'ü² あまねく暇乞する。

【偏周】17 あまねくゆきわたる。又、すべてに合致する。〔嵇康、述レ志詩〕殊類難二偏周一、鄙議紛流離。

【偏集】18 すべてあつまる。又、めぐりあつまる。〔帝京歲時紀勝、賞蓮〕酌レ酒賞レ花、偏二集其下一。

【偏循】19 あまねくしたがふ。ことごとく從ふ。〔漢書、司馬遷傳〕其事不レ可二偏循一。

【偏處】20 pien¹ ch'u⁴ 到る處。どこもかしこも。

【偏身】21 身體中。全身。遍身。〔無名氏、蠶婦詩〕偏身綺羅者、不二是養蠶人一。

【偏身綾羅】22 全身に綾羅をまとふ。おかひこぐるみ。〔紅樓夢、六回〕劉姥姥見平兒、偏身綾羅、插レ金帶レ銀。

【偏隨】23 あまねくしたがふ。ことごとく從ふ。〔韓非子、初見秦〕大王垂拱以須レ之、天下偏隨而服矣、霸王之名可レ成。

【偏數】24 pien¹ shu⁴ 全數。全部。

【偏省】25 周代、天子が巡守の五年目に使臣をして邦國諸侯をあまねく省察せしめた禮。偏存(29)を見よ。

【偏照】26 あまねくてらす。殘る隅なく照らす。〔韓詩外傳、六〕日月之明、偏二昭天下一、而不能使二盲者卒有レ見一。〔淮南子、齊俗訓〕欲二偏照一海內之民哀樂一。〔後漢書、馬融傳〕流鑒偏照、殫變極レ態。〔魏志、杜恕傳〕天下至大、萬機至衆、誠非二一明所一能偏照一。

【偏照光明】27 ㊀ 彌陀の光明が偏く十方世界を照らして到らざる處のないこと。遍照光明。〔觀無量壽經、無量壽佛、有二八萬四千相一、一一相、各有二八萬四千隨形好一、一一好、復有二八萬四千光明一、一一光明、遍二照十方世界念佛衆生一、攝取不レ捨。

【偏照金剛】27 ㊀ 又、遍照金剛に作る。一毘盧遮那佛(大日如來)の密號で、法身佛の光明偏照金剛不壞の體を現はした語。二本邦の密教では、祖師弘法大師の金剛名とする。〔性靈集、三〕沙門偏照金剛文幷書。〔源平盛衰記、三十二、維

高維人位論事）弘法大師は、云云、今、偏照金剛として日本に住して、金輪聖王の福を増し。

【偏走】28 pien¹ tsou³ 到る所に行く。

【偏存】29 ソン 周代、天子が巡狩しない年に使臣をして邦國諸侯をあまねく存問せしめた禮。王の巡狩の明年に行ふを存、三年目を頫、五年目を省といふ。〔周禮、秋官、大行人〕王之所二以撫一邦國諸侯一者、歲徧存、三歲徧覜、五歲徧省。〔注〕存・覜・省者、王使二臣於諸侯一之禮、所謂聞問也、歲者、巡守之明歲、以爲レ始也。〔孫詒讓正義〕爾雅釋詁云、右・存・省・視、察也、又云、覜、視也、廣雅釋詁云、省、視也、三者訓義略同。

【偏談】30 ヘン あまねくかたる。洩れなく語る。〔夏侯湛、從祖叔權幼權序〕弟棨、字幼權、幼聰慧、七歲能屬レ文、誦レ書日千言、經レ目輒識レ之、文帝聞而請焉、賓客百餘人、人一奏刺、悉書二其鄕邑名氏一、世所レ謂爵里刺也、客示レ之、一寓レ目、使二之徧談一、不レ謬二一人一、帝深奇レ之。

【偏地】31 チ 地一面に。〔劉兼、送二二郎君歸一長安一詩〕紅葉滿レ山歸二故國一、黃茅徧レ地住二他州一。

【偏置】32 チ あまねくおく。又、皆が置く。〔漢書、賈誼傳〕彼自丞尉一以上、徧置二私人一如レ此。

【偏通】33 ツウ あまねく通ずる。〔論衡、實知〕雖レ有二一能一、未レ能二徧通一。〔沈約、恩倖傳論〕理難二徧通一。

【偏覲】34 キン 周代、天子が巡守の三年目に使臣をして徧く邦國諸侯を省察せしめた禮。偏存(29)を見よ。

【偏覩】35 トン あまねくみる。〔司馬相如、子虛賦〕游二於後園一、覽二於有無一、然猶未レ能二徧覩一。

【偏讀】36 トク あまねくよむ。博く書物を讀む。〔宋史、張脇傳〕徧二讀九經一、盡通二其義一。

【偏報】37 ホウ あまねくむくいかへす。〔史記、蘇秦傳〕徧報下諸所二嘗見一德者上。

【偏布】38 フ あまねくしく。あまねくゆきわたる。〔許棠、講德陳情上三淮南李僕射一詩〕風威徧布二江山一靜、敎化高同二日月一明。〔宋史、占城國傳〕眞風徧布、霈澤周行。

【偏覆】39 ヘンフク あまねくおほふ。〔漢書、董仲舒傳〕臣聞、天者羣物之祖也、故偏覆包函、而無レ所レ殊。

【偏舞】40 ブ 盡く舞ふ。全部を舞ふ。六代の樂を盡く舞ふ。一說に、諸大夫が皆舞ふ。偏儛を見よ。〔左氏、莊、二十〕王子頹享二五大夫一、樂及二徧舞一。〔注〕皆舞二六代之樂一。

【偏儛】41 ブ 偏舞に同じ。〔國語、周語上〕子穄飲二三大夫酒一、子國爲レ客樂及二徧儛一。〔注〕徧儛、六代之樂也、謂、黃帝曰二雲門一、堯曰二咸池一、舜曰二大招一、禹曰二大夏一、殷曰二大濩一、周曰二大武一、一曰、諸大夫徧儛也。

【偏服】42 フク あまねく服する。よく服從する。又、皆が服從する。〔左氏、昭、二十八〕慈和徧服曰レ順。

【偏滿】43 マン あまねくみちる。〔蘇軾、送二楊孟容一詩〕江山不レ違レ人、徧滿千家窗。

【偏諭】44 ユ あまねくさとす。〔國語、晉語八〕上下神祇、無レ不二徧諭一也。

【偏羅】45 ラ 魚の名。硬鰭類かんだび科に屬す。體は側扁で楕圓狀をなし、鱗は滑かで光彩がある。

【偏覽】46 ラン あまねくみる。全部を見る。〔南史、梁昭明太子統傳〕亦素崇二信三寶一、徧覽衆經一。〔宋史、司馬光傳〕光常患二歷代史繁、人主不レ能二徧覽一。

【偏歷】47 レキ あまねくめぐる。各地をへめぐる。周遊。〔南史、陶弘景傳〕徧二歷名山一、訪二尋仙藥一。〔韓愈、劉生詩〕五管徧歷無二賢侯一、廻望萬里還レ家羞。

【偏路】48 ロ ㊀祈願のため、道中、食を乞ひつつ四國八十八箇所の靈場をめぐり行くこと。又、其の人。四國遍路。㊁こじき。

【偏挿二茱萸一少二一人一】49 アマネクシユユヲサシテ チヒトリヲウカナラウ 故鄕で兄弟が、今日、卽ち九月九日の行事として、皆茱萸ミグを頭にさして高處に登り、定めし、自分が一人缺けてゐることを淋しく思つてゐることであらう。偏は、一に遍に作る。〔王維、九月九日憶二山中兄弟一詩〕獨在二異鄕一爲二異客一、每レ逢二佳節一倍思レ親、遙知兄弟登レ高處、偏挿二茱萸一少二一人一。〔注〕山中、一作二山東一。

【偏禮二南朝寺一焚レ香古像前】50 アマネクレイシ ナンテウジニ カウヲタクコゾウノマヘ 四百八十もあるといふ南朝の寺を遍く禮拜して、古き佛像の前に香を焚く。〔皇甫冉、送二陳法師赴二上元一詩〕延陵初罷レ講、建業去隨緣、翻譯推二多學一、壇場最少年、浣レ衣逢二野水一、乞レ食向二人煙一、偏禮二南朝寺一、焚レ香古像前。

【恒】10455

コウ　恒(4－10527)に同じ。〔字彙〕恒、與ニ恒同。

㊀シン　〔集韻〕將豫切　御
㊁ショ　〔集韻〕在呂切　語
㊂ソ　〔集韻〕聰徂切　虞
㊃ショ　〔集韻〕千余切　魚

【恒】10457

小篆

㊀❶おごる。たかぶる。〔說文〕恒、驕也、从レ心且聲。〔晉書、嵇康傳〕恃レ愛肆恒。❷或は慟(4－10694)に作る。〔集韻〕恒、或作レ慟。㊁おごる。㊀の❶に同じ。〔集韻〕恒、驕也。㊂❶あらい。粗暴。〔集韻〕恒、心不レ精也。〔史記、王翦傳〕秦王恒而不レ信レ人。❷はげしい。〔方言、十二〕恒、劇也。〔集韻〕恒、劇也。㊃ねたむ。〔集韻〕恒、妬也。

【恃】10471

㊀トツ　〔集韻〕他骨切　月
㊁テツ　〔集韻〕他結切　屑
㊂タイ　〔集韻〕吐內切　隊
㊃ツイ

㊀わすれる。〔集韻〕恃、忽忘也。〔王褒、四子講德論〕凡人視レ之恃焉。〔注〕善曰、廣蒼曰、恃、忽忘也。〔後漢書、崔寔傳〕恃不ニ自覩一。〔注〕恃、忽忘也。㊁なほざり。なほざりにする。恃(1－516)に同じ。〔集韻〕佚、佚蕩、簡易也、或从レ心。㊂わすれる。悚(4－10748)に同じ。〔集韻〕悚、博雅、駭也、忘也、一曰、肆也、或作レ恃。

【恍】10496

小篆

㊀キヤウ　〔集韻〕翊往切　養
㊁クワウ
㊂クワウ　〔集韻〕虎晃切　養
㊃ケイ　〔集韻〕吁請切　梗
huang³

㊀❶くるふさま。〔說文〕恍、狂之皃、从レ心兄聲。❷氣ぬけしたさま。自失のさま。〔楚辭、九歌、少司命〕臨レ風恍兮浩歌。〔注〕恍、失意貌。❸おどろき見る。〔江淹、雜體詩〕恍然若レ有レ失。〔注〕恍、驚視皃。㊁❶くらい。慌(4－11057)に同じ。〔集韻〕慌、昏也、或作レ恍。❷うつとりする。〔宋玉、神女賦序〕精神恍惚。〔注〕善曰、恍惚、不ニ自覺知一之意。❸ほのか。さだかでない。恍(4－10546)に通ず。〔老子、二十一〕道之爲レ物、惟恍惟惚。〔考〕恍、一作レ恍。〔論語、子罕、忽焉在レ後、集解〕何晏曰、言ニ惚恍不レ可レ爲ニ形象一。〔釋文〕惚恍、本今作ニ恍惚一。❹須臾のさま。恍惚(6)を見よ。㊂くるふ。〔廣雅、釋詁四〕恍、狂也。

【恍恍】1キヤウキヤウ　氣抜けしたさま。失意のさま。〔司馬相如、長門賦〕神恍恍而外淫。〔注〕善曰、王逸楚辭注曰、恍、失意也。

【恍欻】2クワウクツ　さだかでないさま。〔韓愈、山南鄭相公云云詩〕茫漫華黑閒、指畫變恍欻。

【恍兮】3クワウケイ　❶物事が判然としないさま。無形のさま。〔老子、二十一〕忽兮恍兮、其中有レ像、恍兮忽兮、其中有レ物。〔淮南子、原道訓〕恍兮忽兮。〔注〕忽恍、無形貌也。❷キヤウケイ　失意のさま。〔楚辭、九歌、少司命〕臨レ風恍兮浩歌。〔注〕恍、失意貌。

【恍悟】4クワウゴ　うつとりとした中にも心がはつきりしてゐるさま。〔唐書、蕭遘傳〕若有レ人謂曰、公無ニ恐、予爲ニ公呵禦一、遘恍悟、俄謁ニ白帝祠一、見ニ帝貌一、類ニ向所レ睹、異レ之。

【恍忽】5クワウコツ　とりとめのないさま。無形のさま。〔老子、二十一〕道之爲レ物、惟恍惟忽。〔河上公注〕道之於ニ萬物一、獨恍忽往ニ來於其无一所レ定也。〔淮南子、原道訓〕騖ニ恍忽一。〔注〕恍忽、無之象也。

【恍惚】6クワウコツ　❶うつとりとするさま。〔宋玉、神女賦序〕晴夕之後、精神恍惚、若有レ所喜。〔注〕善曰、恍惚、不ニ自覺知一之意。❷極めて短い時間をいふ。須臾の閒。〔鮑照、升天行一〕翩翩類ニ廻掌一、恍惚似ニ朝榮一。〔注〕濟曰、翩翩恍惚、謂ニ須臾閒一也。

【恍愴】7キヤウサウ　失意してよろこばないさま。愴恍。〔汪克寬、吳山賦〕靈奇恍愴而升沈。

【恍然】8キヤウゼン　❶驚き視るさま。〔江淹、雜體、潘黃門述哀詩〕撫レ衿悼ニ寂寞一、恍然若レ有レ失。〔注〕良曰、恍、驚視貌。❷自失するさま。〔蘇軾、策略一〕恍然而不レ樂。❸クワウゼン　うつとりするさま。さだかでないさま。恍然。〔後漢書、范式傳〕式恍然覺寤、悲歎泣下。

【恍惑】9キヤウワク　くるひまどふこと。〔論衡、藝增〕令ニ恍惑之人、觀覽采擇、得ニ以閒一心通レ意。

【恍】10498

小篆

㊀チ、ユツ　〔集韻〕敕律切　質
チ、ユチ　イメ chu⁴
㊁シ、ユツ　〔集韻〕雪律切　質
シ、ユチ
㊂キツ　〔集韻〕休必切　質
キチ
㊃チユツ

㊀❶おそれる。〔說文〕恍、恐也、从レ心朮聲。〔廣雅、釋詁二〕恍、懼也。❷いたむ。かなしむ。〔字彙〕恍、悽愴也。〔禮、祭義〕心恍而奉レ之以レ禮。〔注〕恍、感ニ念心一之貌也。❸はしる。趫(10－3299)に通ず。〔說文通訓定聲〕恍、叚借爲レ趫。〔漢書、司馬相如傳〕恍奚以梁倚。〔注〕張揖曰、恍奚、奔走也。㊁いざなふ。いざなはれる。訧(10－35335)に同じ。〔集韻〕訧、說文、誘也、或作レ恍。〔管子、心術〕是以君子不レ恍ニ乎好一。〔賈誼、鵩鳥賦〕恍迫之徒、或趨ニ西東一。〔注〕善曰、孟康曰、恍、爲レ利所ニ誘慕一。㊂くるふ。或は恍(4－10523)・疒(7－22095)に作る。〔集韻〕恍、博雅、狂也、或作ニ恍・疒一。

【恍心】1チユツシン　心をいためる。〔莊子、應帝王〕勞レ形恍レ心。

【恍然】2チユツゼン　❶おそれるさま。〔莊子、養生主〕恍然爲レ戒。〔說苑、奉使〕文侯恍然、爲レ之變レ容。❷いざなはれて心を引かれるさま。慕ふさま。〔淮南子、原道訓〕恍然若レ有レ所ニ誘慕一。〔集解〕兪樾云、恍、當ニ讀爲レ訧、說文言部、訧、誘也。

【恍殆】3チユツタイ　心おそれて安からぬこと。〔吳萊、病起讀ニ列子冲虛至德眞經一雜題詩〕中心既恍殆、外物盡坑谿。

【恍奚】5チユツケイ　奔走する。〔漢書、司馬相如傳下〕蜩螗偃蹇、恍奚以梁倚。〔注〕張揖曰、恍奚、奔走也。

【恍恍】6チユツチユツ　おどろくさま。おそれるさま。〔枚乘、七發〕惕惕恍恍、臥不レ得レ瞑。〔注〕良曰、恍惕、驚貌。

【恍怒】7チユツヌ　恍惕に同じ。怒は惕の古字。〔漢書、王商傳〕卒無ニ恍怒憂一。〔注〕師古曰、怒、古惕字。

【恍惕】8チユツテキ　おそれる。心がやすらかでないこと。おどろく。心が動搖すること。〔書、問命〕恍惕惟厲。〔禮、祭義〕心有ニ恍惕之心一。〔孟子、公孫丑上〕今人乍見ニ孺子將レ入ニ於井一、皆有ニ恍惕側隱之心一。〔集注〕恍惕、驚動貌。〔管子、小匡〕而無ニ恍惕焉一。〔漢書、淮南厲王長傳〕日夜恍惕。

【恍惕之恐】9チユツテキノキヨウ　びくびくして恐れる。〔莊子、盜跖〕恍惕之恐、欣懽之喜。

【恍迫】10チユツハク　❶利に誘はれ、貧に迫られる。〔賈誼、鵩鳥賦〕恍迫之徒兮、或趨ニ西東一。〔注〕善曰、孟康曰、恍、爲ニ利所ニ誘慕一。❷貧賤也。〔後漢書、李固傳〕全ニ名養一壽、無有レ恍迫之憂一。〔注〕爲ニ利所レ誘、恍ニ迫於憂勤一也。❸おびやかす。くるしめる。〔韓詩外傳、五〕民非ニ無レ仁義根一、於心者一也、王政恍迫、使不レ得見。

【恇】10529

小篆 ㊀㊁㊂㊃ ❶おそれる。もと惶(4－109 62)に作る。〔康熙字典〕恇、本作レ惶。〔説文〕惶、狂也、从ニ心匡、匡亦聲。❷通じて匡(2－2606)に作る。〔正字通〕恇、古借レ匡。

㊀キヤウ クヮウ ㊁キヤウ クヮウ 〔集韻〕曲王切 ㊂〔集韻〕丘往切 養 ㊃〔集韻〕曲王切 ㄎㄨㄤ k'uang' 陽

解字 會意形聲。心と匡とを合はせ、匡は又聲。匡は惶に通じ、恐れる意。

【恇駭】1 キヤウ ガイ おそれおどろく。驚駭。怖駭。〔晉書、宗室、忠王尚之弟休之傳〕圍境士庶、莫レ不ニ恇駭一。

【恇悸】3 キヤウ キ おそれおびえる。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏上〕至ニ富士川一、聞ニ鵝鴨起一、遂恇悸而潰。

【恇恇】4 キヤウ キヤウ おそれるさま。〔梁鴻、適レ吳詩〕口囂囂兮余訕、嗟恇恇兮誰留。

【恇懼】5 キヤウ ク おそれる。〔後漢書、張步傳〕時國無ニ嗣主一、內外恇懼。〔魏書、裴粲傳〕合家恇懼、不レ測レ所レ以。

【恇怯】6 キヤウ ケフ おちおそれる。畏縮する。〔魏志、袁紹傳〕馥素恇怯、因然ニ其計一。〔宋書、謝晦傳〕登之恇怯、使下小將陳祐作ニ大囊一、貯ニ芋數千斛一、縣ニ于驥檣上一。〔柳宗元、寄ニ許京兆孟容一書〕今以ニ恇怯澳涊下才末伎一、又嬰ニ恐懼痼病一。 ㊁見よ。

【恇勦】8 ジヤウ ケウ 憂懼のさま。 ㊁恇攘(1－670：2)を見よ。

【恇擾】9 ジヤウ ゼウ おそれみだれる。〔北史、魏景穆帝紀〕太子曰、此由賊恇擾、何有ニ營上一而有ニ此塵一。〔蕭子良、密啓ニ武帝一〕廣州積歲無レ年、越州兵糧素乏、加以ニ發借一、必致ニ恇擾一。〔桯史〕驕馭皆恇擾、不レ知レ所レ爲。

【恇然】10 キヤウ ゼン おそれるさま。〔素問、通評虛實論〕尺虛者、行步恇然。

【恇慟】11 キヤウ ドウ おそれかなしむ。〔王儉、褚淵碑文〕聖朝震ニ悼於上一、群后恇ニ慟於下一。〔注〕善曰、鄭玄禮記注曰、恇、恐也。

【恇怖】12 キヤウ フ おそれる。〔國史略、正親町天皇〕城中恇怖、無ニ一人出者一。

【悉】10551

ハウ ヒヤウ 〔字彙〕普耕切 庚

みちる。つまる。〔靈樞經、厥病〕悉腹濃痛。〔注〕悉、滿也。

【悞】10679

ゴ 〔集韻〕五故切 遇 ㄨˋ wu⁴

❶あやまる。誤(10－35546)に同じ。〔廣韻〕誤、謬誤、悞、上同。❷あざむく。〔集韻〕悞、欺也。❸うたがふ。〔集韻〕悞、疑也。❹まどふ。〔韻會〕悞、又惑也。❺現①おくれる。てまどる。㊁怠る。

【悞飲】1 ゴイン あやまつて飲む。〔周書、寇儁傳〕惡木之陰、不レ可ニ憩息一、盜泉之水、無レ容ニ悞飲一。

【悞羈】2 ゴキ あやまつてつなぐ。まちがつて牢にいれる。〔福惠全書、刑名部、籍沒家產〕有ニ親友探望悞羈者一。

【悞工】3 wu⁴ kung¹ 仕事を怠る。

【悞殺】4 wu⁴ sha¹ 誤つて殺す。

【悞事】5 ゴジ 事を誤る。不都合を來す。〔福惠全書、蒞任部、設內外號簿〕非ニ每件塡記一、則遺漏悞事。

【悞失】6 wu⁴ shih¹ 過失。

【悞傷】7 ゴシヤウ 誤つて傷つける。〔福惠全書、刑名部、問擬〕悞傷似下與ニ律文一未ニ相合上。

【悞蹈】8 ゴタウ ふみそこなふ。〔福惠全書、刑名部、逃人總論〕忽罹從事、悞蹈者往有ニ之。

【悞卯】9 wu⁴ mao³ 氏名點呼におくれる。

【悞犯】10 wu⁴ fan⁴ 過つて罪を犯す。

【悞不了】11 wu⁴ pu liao³ 間違ふことはない。

【慆】10751

小篆 カン コン 〔集韻〕苦感切 感

❶うれへくるしむ。〔説文〕慆、悳也、从レ心名聲。❷うらむ。〔廣韻〕慆、又恨也。

【惋】10771

ワン 〔集韻〕烏貫切 翰 ㄨㄢˋ wan⁴

❶なげく。おどろきなげく。〔一切經音義、三〕惋、嘆驚異也。〔集韻〕惋、驚歎也。〔六書故〕惋、駭恨也。❷意氣がおとろへる。〔素問、解精微論〕夫志悲者惋。〔注〕惋、謂ニ內爍一也。

【惋愕】1 ガク 驚きなげく。〔晉書、桓溫傳〕辭旨危急、憂及ニ社稷一、省レ之惋愕、不レ解レ所レ由。〔世說新語、賞譽〕後聊試ニ問近事一、答對甚有ニ音辭一、出ニ濟意外一、濟極惋愕。

【惋恨】2 ワンコン なげき悲しむ。悵恨。〔韓愈、贈ニ劉師服一詩〕虞翻十二比豈少、遂自惋恨形ニ於書一。

【惋愴】3 ワンサウ なげきいたむ。又、その情。慘愴。〔梁簡文帝、徵君何先生墓誌〕知與レ不レ知、竝懷ニ惋愴一。

【惋傷】4 ワンシヤウ なげきいたむ。又、なげき。〔杜甫、觀ニ公孫大娘弟子舞ニ劍器一、行〕感ニ時撫ニ事增ニ惋傷一。

【惋惜】5 ワンセキ なげきをしむ。嗟惜。〔世說新語、汰侈〕武帝、愷之甥也、每助レ愷、嘗以ニ一珊瑚樹高二尺許一賜レ愷、枝柯扶疏、世罕ニ其比一、愷以示レ崇、崇視訖以ニ鐵如意一擊レ之、應レ手而碎、愷既惋惜、又以爲レ嫉ニ己之寶一。

【惋悼】6 ワンタウ なげきいたむ。

【惋怛】7 ワンダツ 驚きかなしむ。いたみかなしむ。〔晉書、王羲之傳〕公私惋怛、不ニ須臾去レ懷一。

【惋歎】8 ワンタン 悲しみなげく。〔魏武帝、善哉行〕守窮者貧賤、惋歎淚如ニ雨一。

【惋慟】9 ワンドウ なげき悲しむ。又、惋と慟。慟も、なげき・悲しみ。〔符載、祭ニ外舅房州李使君一文〕出祖ニ荒逵一、惋慟交并。

【惋懣】10 ワンモン なげきもだえる。〔魏書、中山王英傳〕肥梁已陷、聞レ之惋懣。

【悃】10793

㊀㊁㊂㊃ つかれうむ。〔篇海〕悃、勞倦也。

㊀キン 〔篇海〕區鈞切 ㊁クン グン 〔篇海〕巨運切 問 ㊂〔集韻〕他甘切 覃 ㄊㄢ t'an² ㊃テン ネン 〔集韻〕尼占切 鹽 ㊄タン ダン 〔集韻〕徒濫切 勘 ㊅ケン 〔集韻〕謙琰切 琰

參考 段玉裁は、説文の悃に作るを以て誤りとし、悃字に訂正し、悃字をまごころの意に解する。悃(4－10625)の參考を見よ。

【惔】10800

小篆 ㊀㊁㊂㊃ ❶うれへる。〔説文〕惔、悳也、从レ心炎聲、詩曰、憂心如レ炎。❷やく。炎(7－18910)に通ず。〔詩、小雅、節南山〕憂心如レ惔。〔傳〕惔、燔也。〔釋文〕惔、韓詩作レ炎。〔詩、大雅、雲漢〕如レ惔如レ焚。〔傳〕惔、燎レ之也。〔後漢書、章帝紀〕如レ炎如レ焚。 ㊃うごく。又、やすらか。倓(1－768)・憺(4－11305)に通ず。〔説文通訓定聲〕惔、叚借爲レ倓、爲レ憺。〔集韻〕憺、動也、一曰、安、或从レ炎、从レ人。〔一切經音義、十六〕惔、恬也。〔莊子、列禦寇〕以ニ恬惔一爲レ上者。㊄うらむ。〔集韻〕惔、恨也。

【惔焚】1 ファン やく。旱魃のはげしい形容。〔詩、大雅、雲漢〕旱魃爲レ虐、如レ惔如レ焚。〔傳〕惔、燎レ之也。〔李商隱、賽ニ城隍神一文〕果成ニ飈汪一、以救ニ惔焚、敢怪ニ斯牲一、用報ニ嘉種一。

【惕】10803

テキ チャク

〔集韻〕他歴切 錫 去一 ㄊㄧˋ

小篆 或體

一つつしむ。〔説文〕惕、敬也、从レ心易聲。〔鈕樹玉、説文校録〕李注文選射雉賦、及一切經音義巻五引、並作驚也、玉篇注三憂也、疾也、懼也、亦與レ驚義合。二おそれる。〔易、乾〕夕惕若。〔釋文〕惕、懼也。〔左氏、襄、二十二〕無二日不レ惕。〔注〕惕、懼也。三おどろく。おぢる。〔張衡、東京賦〕猶忧二惕於一夫。〔注〕綜曰、惕、驚也。四うれへる。〔易、小畜〕血去惕出。〔虞注〕惕、憂也。五はやい。〔易、小畜〕有レ孚惕出。〔荀注〕惕、疾也。〔國語、吳語〕一日惕、一日留。〔注〕惕、疾也。六いつくしむさま。惕惕(21)を見よ。七或は愁(4－10651)・愍(4－11283)・愚(4－11068)に作る。〔集韻〕惕、或从レ狄、亦作二愍・愚一。八古は愚(4－10804)に作る。〔集韻〕惕、古書作レ愚。九錫(11－40573)に通ず。〔易、夫〕惕號。〔釋文〕惕、荀翟本作レ錫。

参考 惕(4－10936)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕惕、音剔、忧惕、憂也、惕、音宕、放縱也、又音商、直視皃。

【惕菴】1 テキアン 字號。一清、湯來賀(7－17874：212)の號。二清、張甄陶(4－9812：995)の號。三清、陳玉澍(11－41698：756)の字。四清、王熙震(7－20823：1293)の號。

【惕盦】2 テキアン 清、王熙震(7－20823：1293)の字。

【惕隱】3 イイン 官名。遼、置く。宗正をいふ。皇族の政教を掌る。清代は特里袞といふ。〔遼史、百官志一〕大惕隱司、太祖置、掌二皇族之政教一。

【惕園】4 テキエン 字號。一清、陳庚煥(11－41698：69)の號。二清、李元振(6－14459：1169)の號。三清、凌之調(2－1669：137)の號。

【惕翁】5 テキヨウ 清、趙御衆(10－37171：471)の號。

【惕號】6 テキガウ 恐れて泣きさけぶ。〔易、夫〕九二、惕號、莫夜有レ戎、勿レ恤。

【惕兢】7 テキキョウ おそれる。〔韻府引、顧清、詩〕六飛南巡知二近遠一、爲レ感歲時還惕兢。

【惕懼】8 テキク おそれる。又、おそれ。〔易、乾、夕惕若、疏〕雖レ至二於夕一、恆懷二惕懼一。〔呂覽、愼大〕湯乃惕懼、憂二天下之不レ寧。

【惕齊】9 テキサイ 字號。一清、向璿(2－3301：59)の號。二清、厲秀芳(2－3041：74)の字。三清、王節(7－20823：690)の號。四中村之欽の號。中村惕齋(1－73：563)を見よ。

【惕想】10 テキサウ おそれ思ふ。〔李白、獻二從叔當塗宰陽冰一詩〕惕想結二宵夢一、素心久已冥。

【惕若】11 テキジャク 一おそれつつしむさま。若は、形容の意を示す助辭。〔易、乾〕君子終日乾乾、夕惕若、厲无レ咎。〔潘岳、藉田賦〕今聖上昧旦丕顯、夕惕若慄。二明、楊家龍(6－15112：445)の字。

【惕悚】12 テキショウ おそれつつしむ。悚惕。

【惕森】13 テキシン 民國、顧實(12－43689：92)の字。

【惕生】14 テキセイ 民國、顧實(12－43689：92)の字。

【惕懾】15 テキセフ おそれる。懾も、おそれる。〔沈遼、德相惠二新茶一、復次二前韻一奉謝詩〕至尊所二虛佇一、守臣方惕懾。

【惕喘】16 テキゼン おそれあへぐ。おそれをののいて氣息のあらいこと。〔樊衡、破二契丹一露布〕惕喘窮レ帳、烈火既焚。

【惕然】17 テキゼン おぢおそれるさま。惴惴。〔列子、黃帝〕惕然震悸矣。〔管子、輕重乙〕桓公惕然大息。〔晏子、雜、上〕公汗出惕然。〔說苑、指武〕吳起惕然曰、尚レ更乎。〔嵇康、與二山巨源一絕レ交書〕惕然不レ喜。

【惕息】18 テキソク おそれて氣息がはずむ。惕喘。〔漢書、司馬遷傳〕當二此之時一、見二獄吏一則頭槍レ地、視二徒隸一則心惕息。〔注〕師古曰、惕、懼也、息、喘息也。〔揚雄、長楊賦〕不二敢惕息一。〔注〕濟曰、惕息、疾喘息也。〔宋史、陳恕傳〕大發二羣吏姦贓一、坐二徒流停廢一者甚衆、郡內惕息。

【惕怵】19 テキチュツ おそれる。驚きおそれる。怵も、おそれる。怵惕。〔枚乘、七發〕惕惕怵怵、臥不レ得レ瞑。〔注、良曰、怵惕、驚貌〕。

【惕墜】20 ツイ おそれて氣おちする。おそれて志氣が沮喪する。〔梁肅、述初賦〕才輕惕墜、而不二敢寧一也。

【惕惕】21 テキテキ 一おそれるさま。又、驚くさま。不安のさま。〔國語、楚語上〕豈不レ使二諸侯之心惕惕焉一。〔注〕惕惕、懼也。〔說苑、談叢〕惕惕之心不レ可レ長也。〔白居易、續虞人箴〕業業惕惕。〔枚乘、七發〕惕惕怵怵、臥不レ得レ瞑。〔注〕良曰、怵惕、驚貌。二憂へるさま。〔詩、陳風、防有鵲巢〕誰侜予美、心焉惕惕。〔傳〕惕惕、猶二忉忉一也。〔陳奐傳疏〕惕惕、亦憂勞之意、故云猶二忉忉一也上云云、爾雅、惕惕、憂也、郭注云、詩云、心焉惕惕、韓詩以爲レ說人、故言レ愛也、案、愛者謂レ愛レ君、君受二讒賊所一誑、故君子憂勞之心惕惕然、爾雅釋二經義一、毛傳釋二字義一也。

【惕甫】22 テキホ 清、王芑孫(7－20823：1284)の號。

【惕慄】23 テキリツ おそれふるへる。おそれをののく。〔墨子、尚同中〕擧二天下之人一、皆恐懼振動惕慄、不二敢爲一淫暴一。〔韓愈、河南府同官記〕羣臣惕慄奉レ職。

【惕慮】24 テキリョ おそれおもんぱかる。おそれかんがへる。〔張說、對二詞標文苑科策一〕惕慮推レ溝、勞謙馭レ朽。〔孟郊、石淙詩〕愜懷雖二已多一、惕慮未レ能整。

【惕龍】25 リュウ 明、陳龍正(11－41698：1308)の字。

【惕厲】26 テキレイ おそれあやぶむ。君子がおそれ危んで身を修めること。〔易、乾〕君子終日乾乾、夕惕若、厲无レ咎。〔疏〕夕惕者、謂レ終二竟此日一後、至二向レ夕之時一、猶懷二憂惕一。若厲者、若、如也、厲、危也。〔本義〕性體剛健、有二能乾乾惕厲之象一、故其占如レ此、言レ能憂懼如レ此、則雖レ處二危地一、而无レ咎也。〔解故〕漢唐以來、皆以二厲字一絕レ句、至二宋儒一始屬レ下讀。〔後漢書、明德馬皇后紀〕日夜惕厲、思二自降損一、居不レ求レ安、食不レ念レ飽。

【惕】10936

タウ ダウ タウ ダウ タウ ダウ 四 シヤウ ヤウ

〔集韻〕待朗切 養 〔集韻〕大浪切 漾 〔集韻〕徒郎切 陽 〔集韻〕戶羊切 陽 〔集韻〕余章切 陽

小篆

二一ほしいまま。惕(4－11238)に同じ。〔說文〕惕、放也、从レ心易聲。〔段注〕與レ慓音義同。〔集韻〕慓、說文、放也、或作レ惕。〔荀子、脩身〕加惕悍而不レ順。〔注〕惕、謂二放蕩兇悍一也。三たひら。〔說文〕惕、一曰、平也。四ほしいまま。

一に同じ。〔集韻〕惕、放逸。三佚惕は、おほまか。〔集韻〕惕、方言、佚惕、緩也。四一まつすぐ。〔廣雅、釋詁三〕惕、直也。二まつすぐではやい。〔集韻〕惕、惕惕、行直疾皃。〔禮、玉藻〕凡行容惕惕。〔注〕惕惕、直疾貌也。五一まつすぐではやい。四の一に同じ。惕惕(2)を見よ。二あそぶ。たはむれる。〔方言、十〕惕、遊也、江沅之間、謂レ戲爲レ婬、或謂二之惕一。〔廣雅、釋詁三〕惕、戲也。

参考 惕(4－10803)は別字。〔字彙、辨似、二字相似〕惕、音剔、忧惕憂也、惕、音宕、放縱也、又、音商、直視皃。

【惕悍】1 タウカン 放蕩でわるづよいこと。〔荀子、脩身〕儉儒悍、事無二廉恥一、而嗜二乎飲食一、則可レ謂二惡少者一矣、加二惕悍一而不レ順、險賊而不レ弟焉、則可レ謂二不詳少者一矣。〔注〕韓侍郎云、惕、與レ蕩同、字作二心邊一易、謂二放蕩兇悍一也。〔荀子、榮辱〕陶誕突盜、惕悍憍暴。

【惕惕】2 ヤウヤウ まつすぐで疾いさま。〔禮、玉藻〕凡行容惕惕、廟中齊齊。〔注〕惕惕、直疾貌也。〔釋文〕惕、音傷、又音陽、直而疾也。

【惕暢】3 ヤウチャウ 平らでのびやかなこと。〔吳志、陸抗傳、注〕故能德音惕暢。

【慉】 11049

篆 小 ㊀ **おこす**。〔説文〕慉、起也、从レ心畜聲、詩曰、能不ニ我慉一。〔玉篇〕慉、興也。〔詩、邶風、谷風〕不ニ我能慉一。〔釋文〕慉、興也。❶**やしなふ**。畜(7－21814)に通ず。〔説文通訓定聲〕慉、叚借爲レ畜。〔詩、邶風、谷風〕不ニ我能慉一。〔傳〕慉、養也。㊁**つむ**。**たくはへる**。蓄(9－31642)に通ず。〔正字通〕慉、與レ蓄通。〔後漢書、馬融傳〕疏越蘊慉。〔注〕蘊慉、猶ニ積聚一也。❹**おごる**。〔集韻〕慉、一曰、驕也。〔詩、邶風、谷風〕不ニ我能慉一。〔箋〕慉、驕也。㊂**うらむ**。〔玉篇〕慉、恨也。

㊀ キク コク ㊁ チク ㊂ 〔集韻〕許六切 屋 〔玉篇〕丑六切 屋

【慉結】1 ケツ 心がむすばれること。鬱結。〔應瑒、慜賦〕羣ニ繁巒一而增レ制兮、心慉結而槃紆。

【慣】 11211

篆 小 ㊀㊁ ❶**みだれる**。心がみだれる。通)慣、本作レ慣。〔説文〕慣、亂也、从レ心貫聲。〔集韻〕慣、心亂也。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕心煩慣兮意無レ聊。〔注〕慣、亂也。❷**くらい**。おろか。〔正字通〕慣、昏眊貌。〔漢書、王莽傳中〕慣眊不レ渫。

もと慣(4－11463)に作る。〔正字

㊀ クワイ 〔集韻〕古對切 ㄍㄨㄟˋ kʻuei⁴ 隊 ㊁ クワイ グワイ 〔集韻〕戶賄切 賄

【慣慣】1 クワイ ❶みだれるさま。心の亂れるさま。〔莊子、大宗師〕彼又惡能慣慣然爲ニ世俗之禮一、以觀ニ衆人之耳目一哉。〔釋文〕慣慣、亂也。〔疏〕慣慣、猶ニ煩亂一也。〔後漢書、何進傳〕讓等詰レ進曰、天下慣慣、亦非ニ獨我曹罪一也。〔注〕慣慣、亂也。❷くらいさま。はつきりしないさま。〔論衡、程材〕顯露易レ爲者、猶慣慣焉。〔蜀志、蔣琬傳〕楊敏曾毀レ琬曰、作レ事慣慣、誠非及ニ前人一。〔曹植、當牆欲高行〕慣慣俗間、不レ辯ニ僞眞一。

【慣辱】2 クワイジョク みだれけがれる。〔詩、邶風、柏舟、如ニ匪レ澣衣一、箋〕衣之不レ澣、則慣辱無ニ照察一。

【慣毒】3 クワイドク みだれそこなふ。〔論衡、道虛〕藥力烈盛、胸中慣毒。

【慣眊】4 クワイマウ 心みだれ目がくらい。昏亂して明かでない。くらい。〔漢書、息夫躬傳〕小夫愞臣之徒、慣眊不レ知レ所レ爲。〔注〕師古曰、慣、心亂也、眊、目闇也。〔漢書、王莽傳中〕慣眊不レ渫。

【慣亂】5 クワイラン 心がくらくみだれる。みだれる。昏亂。〔漢書、食貨志下〕百姓慣亂。〔金史、世宗紀下〕私心慣亂、如レ喪ニ魂魄一、以レ此有レ失。

【懢】 11304

㊀ ドウ ヌ 〔集韻〕奴冬切 冬 ㊁ ダウ ニョウ 〔集韻〕濃江切 江 ㊂ ダウ ノウ 〔集韻〕奴刀切 豪 ㊃ ダウ ノウ 〔集韻〕乃老切 皓

㊀㊁ 懂懢は、よろこぶ。〔集韻〕懢、懂懢、悅也。㊂**こころみだれる**。〔集韻〕懢、心亂也。㊃懊懢は、いたみくやむ。〔集韻〕懢、懊懢、痛悔。㊄**なやむ**。惱(3－6480)に同じ。〔集韻〕惱、說文、有レ所レ恨也、今汝南之人、有レ所レ恨曰レ惱、或作レ懢。

【憿】 11316

篆 小 ㊀ ❶**さいはひ**。又、**さいはひをもとめる**。〔説文〕憿、幸也、从レ心敫聲。〔段注〕幸者、吉而免レ凶也、引ニ申之一曰レ欣レ幸、亦曰ニ憿幸一、俗作ニ僥倖・儌倖・徼倖一、皆非也、凡傳言レ徼レ福者、皆當ニ作レ憿一、福爲レ正。〔説文通訓定聲〕憿、經傳皆以レ徼爲レ之、俗作ニ僥倖・儌倖一。❷或は激(7－1810261)に作る。〔集韻〕憿、亦作レ激、通作ニ僥・徼一。㊁❶憿憭は、誠意をこめて告げる。憿憭(2)を見よ。❷**さいはひ**。㊀に同じ。〔集韻〕憿、一曰、幸也。㊂❶**はやい**。〔集韻〕憿、疾也。❷或は憿(4－11315)に作る。〔集韻〕憿、或書作レ憿。

㊀ ケウ ㊁ ケウ 〔集韻〕堅堯切 蕭 〔集韻〕訖了切 篠 ㊂ ケキ キヤク 〔集韻〕吉歷切 錫

名乘 サダ。トシ。

【憿糴】1 ケキ はやいさま。疾速。〔潘岳、笙賦〕憿糴以奔邀、似ニ將レ放而中匱一。〔注〕善曰、憿糴、疾貌。

【憿憭】2 レウ 誠意をこめて告げる。〔集韻〕憿、憿憭、以レ誠告也。

【抓】11808

㊀ゴツ ゴチ 〔集韻〕五忽切 月。
㊁ゲツ ゲワチ 〔集韻〕魚厥切 月。
㊂ゲワツ ゲワチ 〔集韻〕五活切 曷。

小說篆文 小段篆本注

㊀㊁㊂❶うごく。うごかす。〔說文〕抓、動也、从ノ手兀聲。〔詩、小雅、正月〕天之抓ノ我。〔傳〕抗、動也。〔箋〕天以ニ風雨一動ニ搖我一。❷ゆる。ゆれる。〔周禮、考工記、輪人〕則是以大抓。〔注〕抓、搖動貌。〔史記、司馬相如傳〕抓ニ紫莖一。〔注〕集解曰、抓、搖也。㊂おちつかない。〔方言、九〕儁謂ニ之抓一、抓、不ノ安也。❹さわぐ。〔龍龕手鑑〕抓、騷動也。㊄兀(2－2868)・伉(1－389)・杌(6－14457)に同じ。〔說文通訓定聲〕抓、字亦作ノ兀、作ノ杌。❻姓。〔萬姓統譜〕抓、楚擣抓之後。

【拄】11940

チュ 〔集韻〕豕庾切 麌 ㄓㄨˇ chu³

❶あげる。〔禮、喪大記〕既葬、拄ノ楣。〔疏〕謂ニ在ノ墓拄ノ楣、稍擧以納ニ日光一。❷ささへる。〔集韻〕拄、掌也。〔正韻〕拄、掌也、支也。〔戰國、齊策〕脩劍拄ノ頤。㊂こばむ。又、そしる。〔漢書、朱雲傳〕連拄ニ五鹿君一。〔注〕師古曰、拄、刺也、距也。❹ゆびさす。〔廣韻〕拄、從ノ旁指。〔傳燈錄〕使ニ當ノ心一拄。㊄通じて柱(6－14660)に作る。〔爾雅、釋草〕柱夫搖車。〔釋文〕柱、本或作ノ拄。〔集韻〕拄、通作ノ柱。

【拄頤】1 チュ おとがひをささへる。〔戰國、齊策〕大冠若ノ箕、脩劍拄ノ頤。
【拄杈】2 chu³ kuai³ 杖をつく。拄杖。
【拄頰】3 チュ ほほづゑをつく。兩手で頰をささへる。〔晉書、王徽之傳〕沖嘗謂ニ徽之一曰、卿在ノ府日久、比當ニ相料理一、徽之初不ニ酬答一、直高視以ニ手版一拄ノ頰云、西山朝來、致ノ有ニ爽氣一耳。〔韓偓、雨中詩〕鳥濕更梳ノ翎、人愁方拄ノ頰。
【拄笏】4 チュ 笏でほほづゑをつく。手版を以て頰をささへる。〔貢奎、題ニ虞少監小像一詩〕拄ノ笏曾招ノ爽、投ノ簪每懼ノ盈。
【拄棍】5 chu³ kuen⁴ ささへる棒。老人用の杖。
【拄置】6 チュ ささへおく。〔漢書、西域下、車師後城長國傳〕車師後王姑句、以道當ノ爲ニ拄置一、心不ノ便也。〔注〕師古曰、拄者、支拄也、言、有ノ所ニ置立一、而支ニ拄於已一、故心不ノ便也。
【拄杖】7 チュ ❶杖をつく。扶杖。〔魏武帝、陌上桑〕食ニ芝英一、飲ニ醴泉一、拄ニ杖桂枝一、佩ニ秋蘭一。〔魏略〕乃託ノ病拄ノ杖。〔酉陽雜俎、物異〕有ノ神來降、自稱ニ白頭公一、所ノ拄ノ杖、光照ニ一室一。〔陸游、遊ニ山西村一詩〕從ノ今若許ニ閑乘月一、拄ノ杖無ノ時夜叩ノ門。❷杖をいふ。拐杖。〔蘇軾、常州太平寺法華院蒼蔔亭醉題詩〕何似東坡鐵拄杖、一時驚起野狐禪。〔幻影傳〕拄杖何在、可ノ擊ノ之。
【拄夫】8 チュ フ 草の名。桂夫(6－14660：37)に同じ。〔爾雅、釋草〕桂夫、搖車。〔釋文〕桂、本或作ノ拄同。

【揔】12349

㊀ソウ ス 〔集韻〕祖動切 董
㊁ソウ ス 〔集韻〕蘇叢切 東
㊂ソウ ス 〔集韻〕作弄切 送

㊀❶すべる。又、みな。總(8－27671)・摠(5－12596)に同じ。〔集韻〕總、說文、聚束也、一曰、皆也、或从ノ手。❷ひきゐる。〔玉篇〕揔、將領也。㊁あふ。〔玉篇〕揔、合也。㊂すすめる。おしやる。〔集韻〕揔、手進ノ物。㊃せはしい。又、くるしむ。偬(1－889)に同じ。〔集韻〕偬、倥偬、苦也、一曰、困皃、或从ノ手。

【搐】12472

チク 〔集韻〕敕六切 屋 イメ chu⁴

❶うごきいたむ。身體がひきつけていたむ。〔漢書、賈誼傳〕二二指搐、身慮亡ノ聊。〔注〕師古曰、搐、謂ニ動而痛一也。❷ひく。ひきつける。〔集韻〕搐、牽制也。
【搐引】1 chu⁴ yin³ ひくこと。
【搐牽】2 chu⁴ chien¹ 搐引に同じ。

【摽】12651

㊀ヘウ ヘウ 〔集韻〕婢小切 篠 ㄆㄧㄠˇ p'iao³
㊁ヘウ 〔集韻〕車遙切 蕭 ㄅㄧㄠ piao¹
㊂ハウ ヘウ 〔集韻〕披交切 肴
四ヘウ 〔集韻〕匹妙切 嘯
五ヘキ ヒヤク 〔集韻〕匹歷切 錫

小篆

㊀❶うつ。又、むねうつさま。もと撰(5－13009)に作る。〔說文〕撰、擊也、从ノ手奧聲。〔正字通〕撰、六書故、撰、爲ニ摽本字一。〔詩、邶風、柏舟〕靜言思ノ之、寤辟有ノ摽。〔傳〕摽、拊ノ心貌。〔左氏、哀、十二〕長木之斃、無ノ不ノ摽也。❷關鍵をひきぬく。〔說文〕摽、一曰、挈ニ關牡一也。㊂おちる。〔詩、召南、摽有梅〕摽有ノ梅。〔傳〕摽、落也。㊃❶うつ。或は敲(5－13361)に作る。〔廣雅、釋詁三〕摽、擊也。〔集韻〕摽、擊也、或从ノ攴。❷さしまねく。〔孟子、萬章下〕摽ニ使者一、出ニ諸大門之外一。〔注〕摽、麾也。㊄はらふ。かすめる。はらひしく。〔淮南子、脩務訓〕攫援摽拂。〔注〕摽拂、敷也。❹高い。高くあがるさま。票(8－2694)に通ず。〔說文通訓定聲〕摽、叚借爲ノ票。〔管子、侈靡〕摽然若ニ秋雲之遠一。〔注〕摽、高擧貌。㊅すき。切つ先。標(6－15442)・鏢(11－40813)に通ず。〔說文通訓定聲〕摽、叚借爲ノ標、爲ノ鏢。〔漢書、王莽傳上〕摽末之功。〔注〕服虔曰、摽音、刀末之摽。〔王先謙補注〕漢謂ニ刀末一爲ノ摽。❻かるい。慓(1－1047)に通ず。〔韓詩外傳、二〕怠慢摽棄。〔校注〕摽、荀作ノ慓、楊注、慓、輕也。❼現告示する。㊂すてる。なげうつ。拋(5－11948)に同じ。〔集韻〕拋、棄也、或作ノ摽。〔公羊、莊、十三〕曹子摽ノ劍而去ノ之。〔注〕摽、辟也。〔釋文〕摽、普交反、辟也、辟ノ劍置ノ地、劉兆云、辟、捐也。四❶うつ。〔集韻〕摽、擊也。❷おちる。爻(2－3441)に通ず。〔爾雅、釋詁〕摽、落也。〔義疏〕摽者、爻之叚音也、說文云、爻、物落上下相付也。㊄うつ。〔集韻〕摽、擊也。
【摽危】1 ヘウ 高く立つ。〔左思、魏都賦〕邈邈摽危、亭亭峻峙。〔注〕翰曰、摽、立也。

【摽棄】2 ヘウ 輕薄なこと。又、輕んじすてる。摽は僄(1－1047)に同じ。〔韓詩外傳、二〕劫之以師友、怠慢摽棄。〔校注〕摽、荀作ㇾ僄、楊注、僄、輕也。

【摽牛】3 ヘウ 牛を擊つ。もと西班牙の闘牛の戲であつたが、フイリツピンに於てこの戲を鬼やらひに用ひた。〔東西洋考〕呂宋國王兄弟、既爲二佛郎機所ㇾ戕、輒祟二於國人一、國人每ㇾ値二死日一、摽ㇾ牛厭ㇾ之、摽ㇾ牛者、柵ㇾ木爲ㇾ場、置ㇾ牛數十頭於中一、環射之、以此逐ㇾ鬼云。

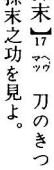
【摽擧】4 ヘウ あげ示す。標擧。〔顏氏家訓、文章〕原二其所ㇾ積文章之體一、摽擧興會一、發二引性靈一、使二人矜伐一。

【摽擊】5 ヘウ うつ。〔左氏、哀、十二〕長木之斃、無ㇾ不ㇾ摽也、注〕摽、擊也。

【摽劍】6 ヘウ 劍を棄てる。〔公羊、莊、十三〕曹子摽ㇾ劍而去ㇾ之。〔注〕摽、辟也。〔釋文〕劉兆云、辟、捐也。

【摽顯】7 ヘウ 目立つやうにあらはす。標顯。〔抱朴子、祛惑〕亦肯自摽二顯於流俗一哉。

【摽鎗】8 ヘウ なげやり。投鎗。標槍(6－15442・25)に同じ。〔武備志、摽鎗圖說〕或用二稠木細竹一、皆可、鐵鋒要二重大一、柄前重後輕、前粗後細、爲得法。


摽鎗（武備志）

【摽幟】9 ヘウ 記號を作つて識別する。しるし。めじるし。表識。〔後漢書、皇甫嵩傳〕(張)角等、云云、一時俱起、皆著二黃巾一爲二摽幟一、時人謂二之黃巾一。〔晉書、職官志〕蜀破後、令二勰受二諸葛亮圍陣用兵倚伏之法、又甲乙摽幟之制一、勰悉聞二練之一。

【摽然】10 セン たかくあがるさま。〔詩、邶風、柏舟〕寤辟有ㇾ摽。〔疏〕謂二拊心之時、其手摽然一。〔管子、侈靡〕摽然若二秋雲之遠一人心之悲一。〔纂詁〕摽然、輕擧貌。

【摽牌】11 ヘイ 戰具の名。兵刃矢石をふせぐに用ひる板。俗に籐牌といふ。標牌。〔宋史、兵志四〕關東戍卒、多是硬弩手及摽牌手、不二惟捍一賊勁矢一、亦可ㇾ使二賊馬驚潰一、此中國步騎之利也。

【摽梅】12 ヘイ 梅の實の熟して落ちること。女子の婚期の來た喩。摽有梅(21)を見よ。〔蔡邕、協和昏賦〕葛覃恐二其失一時、摽梅求二其庶事一。〔鄭世翼、看二新婚一詩〕初笄夢二桃李一、新妝應二摽梅一。

【摽賣】13 ヘイ 棄て賣る。〔吳志、魯肅傳〕肅不ㇾ治二家事一、大散二財貨一、摽二賣田地一、以賑二窮弊一、結ㇾ士爲ㇾ務。

【摽搒】14 ヘウ 其の善を表はしかげる。稱揚する。標搒。〔後漢書、黨錮傳序〕海內希風之流、遂共相摽搒、指二天下之名士一、爲二之稱號一。〔注〕摽搒、猶二相稱揚一也、搒、與ㇾ榜同、古字通。〔王先謙集解〕通鑑胡注、立ㇾ表以示二人曰一ㇾ標、揭ㇾ書以示二人曰一ㇾ榜、標榜、猶ㇾ言二表揭一也。

【摽拂】15 ヘツ はらひしくこと。〔淮南子、脩務訓〕攫援摽拂、手若二蔑蒙一、不ㇾ失二一絃一。〔注〕摽拂、敷也。

【摽摽】16 ヘウ 高いさま。〔陸龜蒙、江南秋懷寄二華陽山人一詩〕諒難ㇾ求二摽摽一、聊欲ㇾ取二錚錚一。

【摽末】17 ヘツ 刀のきつさき。僅少のことにいふ。摽末之功を見よ。

【摽末之功】18 ヘツマツノ 刀のきつ先程の僅少の功をいふ。〔漢書、王莽傳上〕摽末之功、一言之勞。〔注〕服虔曰、摽音、刀末之摽。〔王先謙補注〕沈欽韓曰、淮南修務訓高注、摽讀刀摽之摽、與二服虔一同、則漢謂二刀末一爲ㇾ摽。

【摽落】19 ラク 落ちること。〔曹鄴、梅妃傳〕信二摽落之梅花一。

【摽蕭】20 レイ 落ちること。〔爾雅、釋詁〕隕・磌・湮・下・降・墜・摽・蕭、落也。

【摽有梅】21 ヘイウ 詩經、召南の篇名。召南の國、文王の化を被つて男女時に及んで婚姻することを詠じたもの。一說に、文王の化を被つて女子が貞信を以て身を保ち、佳士が禮を以て求めにくるのを待つことを詠じたもの。〔詩、召南、摽有梅序〕摽有梅、男女及ㇾ時也、召南之國、被二文王之化一、男女得二以及ㇾ時也一。〔集傳〕南國被二文王之化一、女子知二以貞信一、自守、懼二其嫁不ㇾ及一時、而有二強暴之辱一也、故言、梅落而在ㇾ樹者少、以見二時過而太晚一矣、求ㇾ我之衆士、其必有二及二此吉日一而來者一也。

【擷】12900

ケツ ゲチ 〔集韻〕奚結切 屑 ㄐㄧㄝˊ chieh² ㄒㄧㄝˊ hsieh²

●つむ。つみとる。〔廣韻〕擷、捋取。〔宋之問、秋蓮賦〕芳心未ㇾ成、採擷都盡。〔許有壬、詠二上京地椒一詩〕奚童擷滿ㇾ筐。●はむむ。襭(10－34702)に同じ。〔集韻〕襭、說文、以二衣衽一扱ㇾ物、謂二之襭一、或从ㇾ手。

【擷采】1 サイ つまみとる。〔姚文燮、贈二趙尊客一詩〕何來忽作思鄉曲、擷采幽香絕妙詞。

【擷芳】2 ハウ 香草を採る。〔劉禹錫、送二王師魯協律赴二湖南使幕一詩〕楚水多二蘭芷一、何人事二擷芳一。〔蔡襄、上伸知己賦〕說困二刑戮一、何擷二其芳一、尹恬二耔耨一、何餔二其香一。

【擷芳詞】3 ケツハウシ 詞牌の名。〔古今詞話〕政和間、京師妓之姥、曾嫁二伶官一、常入ㇾ內教ㇾ舞、傳二禁中擷芳詞一、以教二其妓一、人皆愛二其聲一、又愛二其詞一、類唐人所作、張尙書帥二成都一、蜀中傳二此詞一、競唱ㇾ之、卻二於前段下添二億億億三字一、後段下添二得得得三字一、又名二摘紅英一、殊失二其義一、不ㇾ知二禁中有二擷芳園一、故名二擷芳詞一也。

【擷英閣】4 ケツエイ 宋、余日華(1－515・93)の室名。

【擷子髻】5 ケツシ 晉代に流行した髮の名。〔搜神記、七〕晉時婦人結ㇾ髮者、既成、以二繪急束一其環一、名曰二擷子髻一、始自二宮中一、天下翕然化ㇾ之也。

【敕】13278

チン 隕(5－13357)に同じ。〔集韻〕隕、或作ㇾ敕。

【隕】13357

㊀チン ヂン 〔集韻〕直刃切 震 ㊁チン ヂン 〔集韻〕地鄰切 眞

●つらねる。〔說文〕隕、列也、从ㇾ支陳聲。●しく。〔廣雅、釋詁三〕隕、布也。●或は陳(11－41698)に作り、又、陣(11－41667)に作る。〔說文、段注〕此本隕列字、後人叚二借陳一爲ㇾ之、陳行而隕廢矣。〔集韻〕隕、或省、亦作ㇾ陣。

【斲】13585

タク 〔集韻〕竹角切 覺 ㄓㄨㄛˊ chuo²

小篆 斲 或體(文說) 或體(本注) 或段 文)斲、斫也、从レ斤豚聲。〔楚辭、九章、懷沙〕巧倕不レ斲兮。〔注〕斲、斫也。一けづる。〔穀梁、莊、二十四〕斲レ之礱レ之。〔釋文〕斲、削也。二きる。ちりばめる。琢(7－21058)に通ず。〔禮、檀弓上〕木不レ成レ斲。〔疏〕斲、彫飾也。〔淮南子、本經訓〕木工不レ斲。〔注〕斲、或作レ琢、不ニ雕畫一也。四或は斲(9－29233)・斷(5－13397)・剸(2－2114)・斫(5－13558)に作る。〔集韻〕剸、或从ニ刂・畫一、亦从レ斤、或作ニ剸・斫一。

【斲割】1 タク カツ けづりさく。斲削(7)を見よ。

【斲金】2 タク キン 金をたちきる。〔淮南子、說林訓〕巧冶不レ能レ鑄レ木、工匠不レ能レ斲レ金者、形性然也。

【斲棺】3 タク クワン 棺をきる。〔魏志、王凌傳〕皆加ニ追戮一、陳レ屍斲レ棺。

【斲窓】4 タク サウ 窓をきりやぶる。斲窓舍人を見よ。

【斲窓舍人】5 タク サウ シヤジン 唐の陽滔は、中書舍人となり、急遽命を受けて勅を制作したが、會〻令史が書庫の鑰を持つて他出し、舊本の檢尋すべきものがなかつたため、窓を破つて之を得た。時人之に因つて號して斲窓舍人といつた。〔朝野僉載〕陽滔爲ニ中書舍人一時、促命制レ敕、令史持ニ庫鑰一他適、無ニ舊本檢尋一、乃斲レ窓取得レ之、時人號爲ニ斲窓舍人一。

【斲喪】6 タク サウ けづりほろぼす。傷耗する。損傷する。精力を酒色につかひはたす。戕賊。〔左氏、哀、十五〕齊陳瓘過レ衞、仲由見レ之、曰、天或者以ニ陳氏一爲ニ斧斤一、既斲ニ喪公室一、而他人有レ之、不レ可レ知也。〔陔餘叢考、斲喪〕人不ニ自愛惜一、耗ニ其精神於酒色一者、曰ニ斲喪一、語見ニ左傳一、齊陳瓘過レ衞、仲由見レ之曰、天或者以ニ陳氏一爲ニ斧斤一、既斲ニ喪公室一、而他人有レ之、不レ可レ知也、又唐書楊復恭傳、斲ニ喪天下一。

【斲削】7 タク サク そぎけづる。轉じて、事を裁制する。〔荀子、儒效〕積ニ斲削一而爲ニ工匠一。〔韓非子、安危〕一曰、斲ニ削於繩之內一、二曰、斲ニ割於法之外一。〔呂覽、離俗〕然而以ニ理義一斲削。〔管子、形執〕奚仲之巧、非ニ斲削一也。

【斲彫】8 タク テウ 文飾をけづり去る。斲雕に同じ。〔後漢書、皇后紀序〕及ニ光武中興、斲彫爲レ朴。〔注〕彫、謂ニ刻鏤一也、史記、周漢興、破レ觚而爲レ圓、斲レ彫而爲レ璞。

【斲琱】9 タク テウ 文飾をけづり去る。斲雕に同じ。〔漢書、酷吏傳序〕漢興、破レ觚而爲レ圓、斲レ琱而爲レ樸。〔注〕師古曰、琱、謂ニ刻鏤一也、琱、與レ彫同。〔任昉、天監三年策ニ秀才一文〕斲レ刓レ方、經ニ綸草昧一。〔注〕善曰、漢書曰、漢興、破レ觚而爲レ圓、斲レ琱而爲レ樸。

【斲雕】10 タク テウ 彫刻卽ち文飾をけづり去る。斲彫。斲琱。一說に、退廢した風俗を削り去る。〔史記、酷吏傳〕漢興、破レ觚而爲レ圓、斲雕而爲レ朴。〔注〕索隱曰、應劭云、削雕爲レ璞也、晉灼云、凋弊也、斲ニ理凋弊之俗一、使レ反ニ質樸一也。〔王褒、皇太子箴序〕改レ文爲レ質、斲雕成レ素。〔北史、蘇綽傳論〕周文提レ劍而起、百度草創、施ニ約法之制於競逐之辰一、修ニ太平之禮於鼎峙之日一、終能斲レ雕爲レ朴、變ニ奢從レ儉、風化既被、而下肅上尊、疆埸屢動、而內安外附、斯蓋蘇綽之力也。

【斲破】11 タク パ きりやぶる。斧がものを破るやうに事を破ること。〔日本外史、德川氏前記、豐臣氏下〕斲ニ破瑚璉一、殷商絕レ後。

【斲鼻】12 タク ビ 鼻に塗つた白土を巧にけづること。巧妙な工人をいふ。轉じて、文章を巧みに作ることに用ふ。運レ斤成レ風(5－13534：18)を見よ。〔莊子、徐無鬼〕郢人堊ニ漫其鼻端一、匠石運レ斤成レ風、聽而斲レ之、盡レ堊而鼻不レ傷。〔孫覿、蜀婦新寡從ニ何純中一讀ニ左氏一、戲呈ニ純中一詩〕一揮斲鼻斤。〔黃庭堅、黃穎州挽詩三首〕袖有ニ投レ虛刃一、時無ニ斲鼻工一。

【斲冰】13 タク ヒヨウ 氷をきる。〔楚辭、九歌、湘君〕斲レ冰兮積雪。

【斲冰詞客】14 タク ヒヨウ シカク 清、孔繼涵(8－6933：284)の號。

【斲目】15 タク モク 木のけづりめ。〔周禮、考工記、弓人〕斲目不レ茶、則及ニ其大修一也、筋代レ之受レ病。

【斲木】16 タク ボク 鳥の名。斲木鳥を見よ。〔淮南子、說山訓〕狸頭愈レ鼠、雞頭已レ瘻、寅散ニ積血一、斲木愈レ鱗、此類之推者也。

【斲木鳥】17 タク ボク テウ 鳥の名。啄木鳥。きつつき。けらつつき。てらつつき。〔爾雅、釋鳥、鴞、斲木、注〕口如レ錐、長數寸、常斲レ樹食レ蟲、因名云。〔疏〕斲木鳥、一名鴞。

【斲輪】18 タク リン 木をけづつて輪をつくる。〔莊子、天道〕桓公讀ニ書於堂上一、輪扁斲ニ輪於堂下一。

【斲礱】19 タク ロウ きりみがく。礱斲。〔國語、晉語八〕趙文子爲レ室、斲ニ其椽一而礱レ之。〔注〕礱、磨也。〔魏志、齊王芳紀〕有ニ斲礱之制一。〔魏志、陳羣傳、注〕周禮、天子之宮有ニ斲礱之制一、然質文之飾、與レ時推移。

【斲硯山房】20 タク サンバウ 清、沈炳垣(6－17189：638)の室名。

【斲】13604

タク 斲(5－13585)の俗字。〔篇海〕斲、俗斲字。

【昏】 13853

コン

昏（5－13806）に同じ。唐の太宗の諱を避けて昏に作るといふ。〔正字通〕昏、同レ昏、云云、戴侗曰、昏、唐本説文从二民省一、徐本从二氏省一、按、晁説之云、因二唐諱レ民改从レ氏、據二晁説一則戴言二唐本从二民省一、當二亦避レ諱故一也、二説雖レ別、昏非二俗譌一明矣。

【昳】 13864

小 篆

〔集韻〕徒結切 屑 ㄉㄧㄝˊ tieh⁴

㊀テツ デチ ㊁イツ

㊀❶かたむく。日がかたむく。〔説文新附〕昳、日昃也、从レ日失聲。〔徐灝注箋〕昳・跌古通、言二日蹉跌而下一也。❷ひるすぎ。午後二時頃。〔書、無逸、自レ朝至二于日中昃一、疏〕昃亦名レ昳、言二日蹉跌而下一、謂二未時一也。〔吳越春秋、句踐入臣外傳〕時加二日昳一。〔注〕昳、日昃也、梁元帝纂要、日在二未曰一昳。㊁跌（10－3745 0）に通ず。〔史記、天官書〕食至二日昳一、爲レ稷。〔漢書、天文志〕食至二日跌一、爲レ稷。㊂すぎる。すぐれる。逸（11－38951）に通ず。〔戰國、齊策〕鄒忌、修八尺有餘、而形貌昳麗。〔注〕昳、讀曰レ逸、美好也。

【晄】 13907

〔集韻〕虎晃切 養

〔集韻〕呼光切 陽

〔集韻〕呼浪切 漾

〔集韻〕謨郎切 陽

㊀㊁㊂ クワウ クヮウ カウ バウ マウ

㊀㊁㊂あつい。あつさ。〔集韻〕晄、日旱熱。〔類篇〕晄、旱氣。四㊀に同じ。或は旷（5－13756）に作る。〔集韻〕晄、暑熱也、或省。

【晡】 13952

ホ フ

〔集韻〕奔模切 虞 ㄅㄨ pu¹

❶ゆふがた。さるのとき。七つ。午後四時。〔玉篇〕晡、申時也。〔淮南子、天文訓〕日至二於悲谷一、是謂二晡時一。〔宋玉、神女賦〕晡夕之後。〔注〕善曰、晡、日昳時也。〔北齊書、王晞傳〕朝晡給二典御食一。❷餔（12－44173）に通ず。〔後漢書、王符傳、非二朝餔一不レ得レ通、注〕餔謂二日加レ申時一也、今爲二晡字一也。

【晡下】1 pu¹ hsia 午後四時すぎ。七つさがり。

【晡時】2 ホジ 申の刻。今の午後四時。〔公羊、定、十五、戊午日下昊乃克葬、注〕下昊、蓋晡時。〔漢書、五行志下之下〕日中時食、從二東北一過半、晡時復。〔淮南子、天文訓〕日至二於悲谷一、是謂二晡時一。〔集解〕文典謹按、藝文類聚・初學記・御覽引、餔並作レ晡。〔後漢書、皇甫嵩傳〕鷄鳴馳赴二其陳一、戰至二晡時一、大破レ之。

【晡食】3 ショク 夕方の食事。晩餐。〔柳宗元、段太尉逸事狀〕太尉曰、吾未二晡食一、請假設二草具一。

【晡夕】4 セキ ひぐれ。夕がた。薄暮。〔宋玉、神女賦序〕晡夕之後、精神恍忽、若レ有レ所レ喜。〔注〕善曰、晡、日跌時也、銑曰、晡夕、晩夕也。

【晡天】5 pu¹ t'ien¹ 午後四時。晡時。

【晬】 13977

小 篆

サイ スイ

〔集韻〕祖對切 隊 ㄗㄨㄟˋ tsuei⁴

ひとまはり。一周年。子の第一周年目の誕辰。〔説文新附考〕爾雅、晬、周年也、从二日卒一、卒亦聲。〔説文新附考〕爾雅、晬、周年、卒、盡也、四時周則歲盡、故詩曰、何以卒レ歲、俗加レ日爲二周年之稱一、至二廣韻一始訓爲二周年子一、今皆謂二子周レ歲爲レ晬、蓋非レ古矣。

【晬時】1 シイ 一周年の誕生日。〔集韻〕晬、子生一歲也、一曰、晬時者、周時也。

【晬盤】2 バイ 兒の一周年の誕辰に物を兒の前に陳ねることで、其の兒が弓矢を弄すれば武官、筆墨を弄すれば文官、算盤を弄すれば商人となる兆として、其の立身を卜するをいふ。試兒（10－35415・33）に同じ。〔顏氏家訓、風操〕江南風俗、兒生一期、云云、男則用二弓矢紙筆一、女則刀尺鍼縷、竝加二飲食之物及珍寶服玩一、置二之兒前一、觀二其發意所レ取、以驗二貪廉愚智一、名レ之爲二試兒一。〔合璧事類〕周歲陳設曰二晬盤一、又名二試兒一。

【暍】 14047

小 篆

〔集韻〕於歇切 月 ㄏㄜˋ hê¹

〔集韻〕阿葛切 曷

〔集韻〕許葛切 曷

㊀エツ オチ ㊁アツ アチ ㊂カツ カチ

㊀❶あつさあたり。〔説文〕暍、傷熱也。〔荀子、富國〕夏不二宛暍一。〔注〕暍、傷暑也。〔淮南子、俶眞訓〕暍者望二冷風於秋一。❷或は熱（7－19176）・癈（7－22350）に作る。〔廣韻〕暍、亦作レ熱・癈。㊁あたたかい。〔廣雅、釋詁三〕暍、燸也。㊂あつい。〔集韻〕暍、熱也。

【暍暍】1 エツエツ 病人の熱氣が極めて劇しいことをいふ。〔素問、刺瘧論〕先寒後熱、熱燸暍暍然。〔注〕暍暍、亦熱盛也。

【暍死】2 エツシ 暑さにあたつて死ぬ。〔漢書、武帝紀〕夏大旱、民多暍死。〔注〕師古曰、中レ熱而死也。〔資治通鑑、後唐紀〕莊宗、同光元年、士卒遭二矢石一、溺レ水暍死者且二萬人一。

【暍疾】3 エツシツ あつさあたり。〔傷寒論、中暑有二三證一〕太陽中レ熱者、暍是也、其人汗出、惡寒身熱而渴也。

【暍者】4 エツシヤ 暑氣に中つた人。〔莊子、則陽〕夫凍者假二衣於春一、暍者反二冬乎冷風一。〔淮南子、俶眞訓〕凍者假二兼衣于春一、而暍者望二冷風于秋一。

【暍暑】5 エツショ 暑さにあたる。夏病みする。

【暍人】6 ジン 熱を病む人。〔淮南子、人間訓〕武王蔭二暍人於樾下一、左擁而右扇レ之、而天下懷二其德一。〔注〕武王哀二暍者之熱一、故蔭二之於樾下一、樾下衆樹之虛也。

【暍難】7 アツナン 暖いありさま。〔集韻〕難、暍難、暖狀也。

【曛】 14224

〔集韻〕許云切 文 ㄒㄩㄣ hsün¹

❶入日のひかり。〔集韻〕曛、日入餘光也。〔孫逖、下二京口埭一夜行詩〕孤帆度二綠氛一、寒浦落二紅曛一。❷入日。〔王僧孺、從子誄〕唯昏及レ旦、自二旭徂一曛。❸たそがれ。ひぐれ。ゆふがた。〔玉篇〕曛、黃昏時。〔謝靈運、晚出二西射堂一詩〕夕曛嵐氣陰。〔注〕翰曰、曛、黃昏時。❹赤黃色。纁（8－28011）に通ず。〔素問、六元正紀大論〕爲レ曛。〔注〕曛、赤黃色也。〔楚辭、九章、思美人、與二纁黃一以爲レ期、集注〕纁、一作レ曛。

【曛旭】1 キヨク 夕刻と朝。日の入りと日の出。夕日と旭日。〔李白、幽歌行〕吾兒行樂窮二曛旭一、滿堂有美顏如レ玉。

【曛黃】2 クワウ ゆふがた。たそがれ。黃昏。曛夕。日暮。纁黃。〔駢雅、釋天〕曛黃、日暮也。〔南史、朱昇傳〕起二宅東陂一、晚朝來下、酣二飲其中一、海迫二曛黃一。〔柳宗元、夢歸賦〕類二曛黃之黯漠一兮、欲二周流一而無所レ極。

【曛黑】3 クコク 日がくれてくらい。又、ゆふやみ。〔謝靈運、擬二魏太子鄴中集、陳琳詩〕夜聽極二星爛一、朝遊窮二曛黑一。〔舊唐書、李渤傳〕時已曛黑、不レ問二色目一。

【曛日】4 ジツ ゆふひ。いりひ。夕陽。落暉。落陽。落日。〔謝靈運、酬二從弟惠連一詩〕夕慮二曉月流一、朝忌二曛日馳一。

【曛夕】5 セキ ゆふべ。たそがれ。夕曛。

【曛霧】6 ムム 黃色を帶びたきり。黃霧。〔鮑照、冬日詩〕曛霧蔽二窮天一、夕陰晦二寒地一。

【明】 14366

メイ

明（5－13805）の古字。〔玉篇〕明・古文明。

【杌】 14457

㊀ゴツ ゴチ　〔集韻〕五忽切 月。
㊁グツ グチ　〔集韻〕魚屈切 物。
㊂ゲツ グワチ　〔集韻〕魚厥切 月。
㊃グワツ グワチ　〔集韻〕五活切 曷。

㊀㊀**枝のない木。**〔玉篇〕杌、木無レ枝也。㊁**木の短く出るさま。**〔集韻〕杌、木短出皃。㊂**あやふいさま。**不安のさま。〔正字通〕杌、不レ安也。㊃**こしかけ。**坐具。〔事物紺珠〕杌、小坐器。〔宋史、丁謂傳〕乃更以レ杌進。㊄**兀**(2－2868)に通ず。〔易、困、臲卼、釋文〕兀、本或作レ杌。㊁㊂**きりかぶ。**伐木の殘り。〔集韻〕杌、刊餘木。四㊀の㊂に同じ。

【杌棍】1ゴツゲツ 安からぬさま。杌隉。〔太玄經、閼初一、圜方杌棍、其内窾換、測曰、圜方杌棍、内相失也。〔注〕杌隉、不レ安。

【杌隉】2ゴツゲツ 安からぬさま。危いさま。臲卼。杌隉榮懷を見よ。〔荻生徂徠、峽中紀行〕杌隉欲レ墜者數。

【杌隉榮懷】3ゴツゲツエイクワイ 不安と安泰。榮懷は榮えて安泰なこと。〔書、秦誓〕邦之杌隉、曰由二一人一、邦之榮懷、亦尚一人之慶。〔傳〕杌隉、不レ安、言レ危也。〔蔡傳〕杌隉、不レ安也、懷、安也。

【杌子】4ゴツシ 坐具。こしかけ。小さくて輕便な凳。〔通鑑長編〕丁謂罷レ相入對二於承明殿一、賜レ坐、左右欲レ設レ墊、謂顧曰、有レ旨復二平章事一、乃更以二杌子一進。

【杌套】5wu⁴ t'ao⁴ 腰掛の上に被ふ敷物。

【杌櫈】6wu³ têng⁴ 方形の小さい腰掛。

【栝】 14706

㊀テン　〔廣韻〕他念切 豔。
㊁テン　〔集韻〕他點切 球。
㊂クワツ クワチ　〔集韻〕古活切 曷。
㊃クワイ ケ　〔集韻〕古外切 泰。

㊀㊁㊂**たぶぎ。**炊爨に供する材。栝・柄(6－14707)に同じ。〔說文〕栝、炊竈木、從レ木舌聲。〔桂注〕炊竈木者、六書故、栝、進レ火木。〔段注〕今俗語云、竈楯是也、廣韻云、楯、火杖、柄・楯、古今字也。〔尹廷高、車中作詩〕停レ車少憩日又出、束栝營レ炊道旁屋。㊃**つる。**〔集韻〕楯、木杖也。㊄㊀**ためぎ。**栝(6－14803)に同じ。〔集韻〕栝、說文、檃也。〔說文〕栝、一曰、矢栝、檃レ弦處。〔釋名、釋兵〕矢末曰レ栝、栝、會也、與レ弦會也。㊄**びやくしん。**檜(6－15676)に同じ。〔廣韻〕檜、木名、柏葉松身、栝、上同。〔書、禹貢〕杶幹栝柏。〔孔曄、會稽記〕松栝楓栢、摧レ幹竦レ條。四**びやくしん。**㊁の㊂に同じ。

参考 栝(6－14803)は元來別字。〔字彙、醒誤〕栝、古活切、木名、柏葉松身、今誤作レ栝。栝、添去聲、炊竈杖也。

【栝樹】1クワツシユ 木の名。びやくしん。檜。〔文水縣志〕郝嶺有二栝樹一株、相傳千餘年、高七丈許、闊三十圍。

【栝柏】2クワツパク 二木の名。びやくしんとこのてがしは。〔書、禹貢〕杶幹栝柏、礪砥砮丹。〔後漢書、馬融傳〕椿梧栝柏、柜柳楓楊。

【栝樓】3クワツロウ 蔓草の名。きからすうり。塊根から澱粉を採り、天花粉と稱して藥用に供する。黄烏瓜。〔爾雅、釋草〕果蠃之實、栝樓。〔本草、栝樓〕釋名、果蠃、瓜蔞、天瓜、黄瓜、地樓、澤姑、根名二白藥一、天花粉、瑞雪、集解、別錄曰、栝樓生二弘農川谷及山陰地一、根入レ土深者良、生二園地一者有レ毒、二月八月采レ根、曝乾三十日成。

【栝子松】4クワツシマツ 松の一種。みつばの松。三針葉の松。〔本草、松〕集解、時珍曰、葉有二二鍼一三鍼・五鍼之別一、三鍼者爲二栝子松一、五鍼者爲二松子松一、其子大如二柏子一。〔癸辛雜誌〕凡松葉皆雙服、故世以爲二松釵一、獨栝松每穗三鬚。

【楗】 15136

㊀ケン ゴン　〔集韻〕渠建切 願。
㊁ケン ゴン　〔集韻〕巨展切 銑。
㊂ケン ゲン　〔集韻〕逵眷切 霰。
㊃ケン ゴン　〔集韻〕紀偃切 阮。

㊀㊁㊂**くわんのき。**かぎ。〔說文〕楗、拒門也、從レ木建聲。〔段注〕拒、各本作二限非一、今依二南都賦注所一引正。〔說文通訓定聲〕楗、今蘇俗謂二之木鎖一、其牝爲レ管爲レ閉、其牡爲レ楗。〔老子、二十七〕善閉無二關楗一、而不レ可レ開。〔范應元集注〕楗、拒門木也、或從二金傍一、非也、横曰レ關、豎曰レ楗。㊃或は鬨(11－41431)に作る。〔集韻〕楗、拒門木、或从レ門。㊄**せき。**〔史記、河渠書〕下二淇園之竹一、以爲レ楗。〔注〕集解曰、樹レ竹塞二水決之口一、以レ草塞二其裏一、乃以レ土塡レ之、有レ石、以レ石爲レ之。四**剛い木。**〔集韻〕楗、剛木也。㊂四㊀**あしなへ。**あしがつかれる。蹇(10－37741)に通ず。〔正字通〕楗、亦與レ蹇通。〔周禮、考工記、輈人〕終日馳騁、左不レ楗。〔注〕楗、讀爲レ蹇。㊁**揵**(5－12409)・鍵(11－40654)に通ず。〔正字通〕楗、通作レ鍵、亦作レ揵。

【楗骨】1ケンコツ 無名骨。下横骨。〔刺灸心法〕。

【楗閉】2ケンベイ くわんのきで閉ぢる。鍵閉。〔呂覽、孟冬〕脩二楗閉一、愼二關籥一。

【稟】 15299

㊀カウ コウ　〔集韻〕苦浩切 皓。
㊁カウ コウ　〔集韻〕口到切 號。

㊀㊁**かれる。**槁(6－15300)に同じ。〔說文〕稟、木枯也、從レ木高聲。〔段注〕枯稟・禾稟字、古皆高在レ上、今字高在レ右、非也。〔楚辭、劉向、九歎、怨思〕草木搖落時槁悴兮。〔注〕槁、枯也。㊂**かわく。**〔禮、曲禮下〕稟魚曰二商祭一。〔疏〕稟、乾也。㊃**ねぎらふ。**うるほす。犒(7－20114)の本字。〔說文、稟、段注〕凡潤二其枯稟一曰レ稟、如レ慰二其勞苦一曰レ勞、以レ膏潤レ物曰レ膏。〔毛際盛、說文解字述誼〕古稟字、高在レ上、後易在レ右、而轉從二牛旁一、則始於漢時一。〔說文通訓定聲〕稟、稟而潤之亦曰レ稟。〔周禮、秋官、小行人〕令二稟襘之一。四**なす。**〔周禮、考工記、輪人、輪人爲レ輪、注〕揉、謂二以火槁一之。〔疏〕槁、就也。五**たたく。**敲(5－13337)に通ず。〔說文通訓定聲〕稟、叚借爲レ敲。〔潘岳、河陽縣作詩〕頰如二槁石火一。〔注〕槁、五臣作レ敲。六**そまつ。**稟(8－25219)に通ず。〔說文通訓定聲〕稟、叚借爲レ稟。〔後漢書、馬援傳〕稟葬而已。〔注〕稟、草也。七**やがら。**〔正字通〕稟、矢幹曰レ稟。〔馬融、長笛賦〕特箭稟而莖立兮。〔注〕善曰、鄭玄周禮注曰、箭幹謂二之稟一。八**わら。**藁(9－32222)に同じ。〔正字通〕稟、藁本字。

【稟葉】1カウヨウ 枯れ葉。枯葉。〔傳咸、贈二何劭王濟詩一〕稟葉待二風飄一、逝將二與君違一。〔潘岳、秋興賦〕游氣朝興、稟葉夕殞。

【稟荷】2カウカ かれたはちす。槁荷。〔張說、法池寺二法堂贊〕折二槁荷一、磨二丈石一、筋理灑颯、固非二人力之所レ致也。

【藁街】3 漢代、長安城南門内の街の名。諸夷來朝すれば邸を此處に設けて居らしめ、罪人の首を斬ることあれば此の街に懸けさらすを常とした。又、藁街・藁街が作る。〔漢書、陳湯傳〕斬二郅支首及名王以下一、宜懸二頭藁街蠻夷邸間一、以示二萬里一。〔注〕晉灼曰、藁街、街名、蠻夷邸在二此街一也、黄圖云、在二長安城南門内一。〔漢書、王莽傳下〕于レ今迎當レ置二長安藁街一胡人耳。〔注〕藁街、蠻夷館所一在地。〔丘遲、與二陳伯之一書〕繫二頸蠻邸一、懸二首藁街一。〔胡銓、上二高宗一封事〕區區之心、願斬二三人頭一、竿二之藁街一。

【藁骸】4 骸骨。枯骨。〔莊子、知北遊〕形若二藁骸一、心若二死灰一。「を見よ。

【藁項】5 やせほそったくびすぢ。藁項黄馘 【藁項黄馘】6 痩せて肉の無い首と黄ばんで憔悴した顔。藁は枯、項はうなじ。〔莊子、列禦寇〕夫處二窮閭阨巷一、困窘織レ屨、藁項黄馘者、商之所短也。〔釋文〕李云、藁項、羸瘦貌、司馬云、項枯立也、黄馘、司馬云、謂二面黄熟一也。〔蘇軾、論二養士一文〕不レ知其能藁項黄馘、以老二死於布褐一乎、抑將二輟レ耕太息以俟レ時也。

【藁簡】7 無益の書物。簡は、古、文字を記すに用ひた竹ふだ。〔鹽鐵論、大論〕呻二吟藁簡一、誦二死人之語一、則有司不レ似二文學一。

【藁魚】8 ほしうを。ひもの。藁は乾。〔禮、曲禮下〕藁魚曰二商祭一。〔疏〕藁、乾也。

【藁槐】9 枯れたゑんじゅの木。〔枚乘、七發〕向二虚壑一分背二藁槐一。

【藁禬】10 軍隊をねぎらふことと戰の祓をすること。〔周禮、秋官、小行人〕若國師役則令二藁禬之一。〔注〕藁、當レ爲レ槁、謂レ槁レ師也。

【藁枯】11 かれる。衰へる。〔新語、資質〕彼則藁枯而遠棄、此則爲二宗廟之器一者、通與レ不レ通、亦如レ是也。

【藁梧】12 琴をいふ。一説に、夾膝几をいふ。枯れた青桐で作るからいふ。〔莊子、德充符一〕惠子據二藁梧一而瞑。〔釋文〕崔云、據琴而睡也。〔疏〕藁梧、夾膝几也。〔莊子、天運〕倚二於藁梧一而吟。

【藁骨】13 ●風日にさらされて肉の無い骨。されば骨。枯骨。〔墨子、耕柱〕舍二今之人一、而譽二先王一、是譽二藁骨一也。〔淮南子、齊俗訓〕以爲、窮レ民絶レ業、而無レ益二於槁骨腐肉一也。〔新書、諭誡〕我東北陬之高骨也。●貝をいふ。〔荀子、禮論〕飯以二生稻一、啥以二藁骨一。〔注〕藁骨、貝也。

【藁葬】14 假りに葬る。藁は草、草々としてあわただしく葬る意。〔後漢書、馬援傳〕援妻孥惶懼、不二敢以喪還一、舊塋、裁買二城西數畝地一、藁葬而已。〔注〕藁、草也、以レ不レ歸二舊塋一時權葬一、故稱レ藁。〔宋无、淮南饑詩〕哭喪多二藁葬一、征旅少二羸糧一。

【藁死】15 草木が枯死すること。轉じて、飢渴に迫られて死ぬこと。〔韓非子、説疑〕或伏二死於窟穴一、或藁二死於草木一、或飢二餓於山谷一、或沈二溺於水泉一。

【藁枝】16 かれえだ。枯枝。〔莊子、山木〕左據二藁木一、右擊二藁枝一、而歌二猗氏之風一。

【藁枲】17 かれたからむし。〔墨子、備穴〕益二具藁枲一。

【藁耜】18 土を盛る器と土を掘る具。藁は槀の誤。耜は土を掘る具。一説に、水を盛る器。槀耜。〔莊子、天下〕禹親自操二藁耜一。〔釋文〕藁、應レ作レ槀、音託、盛二土器也一、耜音似、盛二水器也一。

【藁積】18 高く積んだ、かはいて燃え易いもの。〔左氏、哀、三〕於是乎去二表之藁一、注〕去二其藁積一也。

【藁壤】19 かはいた土。〔孟子、滕文公下〕上食二藁壤一、下飲二黄泉一。

【藁人】20 周官の名。藁人(8－25219：16)の●を見よ。

【藁悴】21 草木が枯れしぼむ。しをれる。轉じて、病・貧等に迫られてやつれること。〔楚辭、劉向、九歎、怨思〕草木搖落時藁悴兮。〔張説、送二工部尚書弟赴二定州一詩序〕蘇二其藁悴一、樂二我陽和一。

【藁粟】22 藁しべともみ米。〔書、禹貢、三百里納レ秸服、疏〕比當二藁粟別納一、非二是徒納レ藁也。

【藁竹】23 枯れた竹。〔淮南子、説林訓〕藁竹有レ火、弗レ鑽不レ難。

【藁梅】24 うめぼし。梅干。槁梅。〔唐書、蕭倣傳〕蕭倣、拜二嶺南節度使一、南方珍賄叢夥、不二以入レ門、家人病取二槁梅於厨一、以和レ劑、倣知趣レ市還レ之。

【藁暴】25 枯れて乾く。〔荀子、勸學〕雖レ有二藁暴一、不二復挺一者、輮使二之然一也。

【藁木】26 枯れた木。轉じて、生氣の無いさま。藁木死灰を見よ。〔禮、樂記〕止如二藁木一。〔墨子、耕柱〕知二藁木一也、而不レ知二生木一。

【藁木之枝】27 かれ木のえだ。かれえだ。〔莊子、達生〕吾處レ身也、若二厥株拘一、吾執レ臂也、若二藁木之枝一。〔列子、黄帝〕吾處也若二槩株駒一、吾執レ臂若二藁木之枝一。

【藁木死灰】28 枯木と火氣の無いはひ。形體は枯木の如く、心は冷灰の如く、全く生氣無く何のはたらきも起さぬさま。〔莊子、齊物論〕形固可レ使レ如二藁木一、而心固可レ使レ如二死灰一乎。〔注〕死灰藁木、取二其寂寞無レ情耳一。

【藁本】29 草の名。ささはそらし。藁本。〔本草、藁本〕釋名、藁茇、鬼卿、地新、微莖、恭曰、根上苗下、似二禾藁一、故名二藁本一、本根也。

【藁落】30 枯れ果てる。〔國語、晉語一〕夫堅樹在始、始不レ固二本一、終必藁落。

【折レ藁振レ落】31 枯木をくだき落葉をはらふ。事の甚だ易い喩。〔淮南子、人間訓〕劉項興二義兵一、隨而定、若二折レ藁振レ落一。

【槁】15300

カウ

藁(6－15299)に同じ。〔正字通〕槁、同レ藁。

【槥】15556

ケツ クワチ ケイ

〔集韻〕居月切 月 ㄐㄩㄝˋ chüeh⁴

小篆

㊀●くひ。槥(6－15557)に同じ。〔説文〕槥、杙也、從レ木厥聲。〔正字通〕槥、説文、杙也、云云、杙、今繫レ船木、或作レ槥。〔廣雅、釋室〕槥、杙也。 ●とじきみ。門の中じきり。門の中央に立ててある低いくひ。〔説文〕槥、一曰、門梱也。〔爾雅、釋宮〕槥謂二之闑一。〔注〕門闑。〔義疏〕槥、是豎木、設二於門中一。〔禮、曲禮上、由二闑右一、注〕闑、門槥。〔釋文〕槥、門中木。 ●きりかぶ。又、立つ。切株が立つ。〔詩、小雅、大田、大田多レ稼、既種既戒、既備二乃事一、箋、至二孟春土長冒レ槥陳根可レ拔而事レ之、疏〕漢農書云、孟春土長冒レ槥、陳根可レ拔、言レ冬土定、故稼槥二於地一、孟春土氣升長、冒レ覆於槥一、則舊陳之根可レ拔。〔莊子、達生、吾處レ身也若二厥株拘一、釋文〕厥、本或作レ槥、李云、槥、豎也。 ●くつわ。くつばみ。〔莊子、馬蹄〕前有二槥飾之患一。〔釋文〕槥、崔云、鑣也、司馬云、銜也。〔潘岳、西征賦〕懼二銜槥之或變一。〔注〕善曰、司馬彪莊子注曰、槥、騑馬口中長銜也。 ●車鉤の心木。〔漢書、王吉傳〕其樂豈徒銜槥之間哉。〔注〕師古曰、槥、車鉤心也、張揖以槥爲二馬之長銜一、非也。 ●かぎ。鉤。〔史記、司馬相如傳〕猶時有二銜槥之變一。〔注〕集解曰、鉤逆者謂二之槥一。 ●うつ。たたく。撅(5－12676)に通ず。〔説文通訓定聲〕槥、叚借爲レ撅。〔山海經、大荒東經〕槥以二雷獸之骨一。〔注〕槥、猶レ擊也。 ●厥(2－2992)に通ず。〔莊子、達生、釋文〕厥、本或作レ槥。 ㊁供物などを載せる臺。通じて巖

(4－8490)に作る。〔廣雅、釋器〕橛、几也。〔集韻〕橛、夏俎名、通作ㄴ嶡。

【橛眼】1 ケツガン くひのあな。〔福惠全書、庶政部、河堤歳修〕有ニ漕船停泊橛眼一。「四五六」を見よ。

【橛銜】2 ケツガン くつわ。又、橛とくつわ。字解㊀の

【橛機】3 ケツキ 門梱。門内の位。蹙機。〔説苑、政理〕修ニ近理ㄴ内、政ニ橛機之禮一、壹ニ妃匹之際一。

【橛橛】4 ケツケツ 恃む所があって動かないさま。物に動ぜず毅然としてゐるさま。〔素書、求人之志章〕橛橛梗梗、所ニ以立ㄴ功。〔注〕橛橛者、有ㄴ所ㄴ恃而不ㄴ可ㄴ搖、梗梗者、有ㄴ所ㄴ立而不ㄴ可ㄴ撓。

【橛兒】5 chüeh² ér 木の杙。くひ。

【橛豎】6 ケツジュ くひのやうに立ってゐるだけで役に立たない人の賤稱。〔通雅、稱謂〕橛豎、小人豎賤稱也、橛、言ニ直立崛強如ㄴ橛也。〔魏書、崔浩傳〕橛豎小人、無ニ大經略一。

【橛飾】7 ケツショク 馬のくつわの飾。〔莊子、馬蹄〕前有ニ橛飾之患一、而後有ニ鞭筴之威一。〔釋文〕橛、司馬云、銜也、崔云、鑣也、司馬云、飾、排銜也、謂ㄴ加ニ飾於馬鑣一也。

【橛鑣】8 ケツヒョウ くつわ。字解の㊀の四を見よ。

【橛杙】9 ヨクヒ くひ。〔賈師泰、仙霞嶺詩〕或銳若ニ弋矛一、或卓若ニ橛杙一。

【橛株拘】10 ケツシュク 盤錯してがっしりしたきりかぶ。堅實で動かない喩。橛は、立っている意、又、立ってゐる切株。株は、根の地上にあるもの。拘は盤錯の意。〔莊子、達生〕吾處ニ身也、若ニ厥株拘一、吾執ニ臂也、若ニ槁木之枝一。〔釋文〕厥、本或作ㄴ橛。〔集解〕家世父曰、列子黃帝篇、作ニ若ニ橛株駒一。注云、株駒、斷木也、山海經海內經、達木有ニ九欘一、下有ニ九拘一。郭璞注、欘、枝回曲也、拘、根盤錯也、說文、株、木根也、徐鉉曰、在ニ土曰ㄴ根、在ニ土上一曰ㄴ株、株拘者、近ニ根盤錯處一、厥者、斷木爲ㄴ杙也、身若ニ斷株一、臂若ニ槁木之枝一、皆堅實不ㄴ動之意。

【橛頭船】11 ケツトウセン はしけ。〔張志和、漁父歌〕釣車子、橛頭船、樂在ニ風波一、不ㄴ用ㄴ仙。

【欠】16034

㊀キョウ 〔集韻〕丘據切 御
㊁コ
㊂キャ 〔集韻〕去伽切 歌

㊀㊁㊂一あくび。あくびをする。〔玉篇〕欠、張ㄴ口也。〔廣韻〕欠、欠欠。〔詩、邶風、終風、願言則嚏、傳、嚏跲也、釋文〕崔云、毛訓ㄴ疐爲ㄴ欠、今俗人云ニ欠欠欠欠一、是也、云云、人體倦則伸、志倦則欠。㊃或は呿(2－3475)に作る。〔集韻〕欠、或作ㄴ呿。

㊀カイ 〔集韻〕口溉切 ㄅㄞˋ 隊 k'ai⁴
㊁キ 〔集韻〕去冀切 ㄑㄧˋ 寘 k'ê²
㊂アイ 〔集韻〕乙界切 ㄞˋ 卦
慣ガイ

【欬】16061

小篆

㊀㊁㊂一せき。しはぶき。〔說文〕欬、笅气也、从ニ欠亥聲。〔釋名、釋疾病〕欬、刻也、氣奔至、出入不ニ平調一、若ㄴ刻ㄴ物也。〔一切經音義、十一〕齊部謂ㄴ欬曰ㄴ欬。〔禮、曲禮上〕車上不ニ廣欬一。㊃せきばらひする。〔禮、曲禮上〕車上不ニ廣欬一。〔疏〕欬、聲欬也、車已高、若在ㄴ上而聲大欬、似ニ自驕矜一、又驚ㄴ衆也。㊄風邪。ぜんそく。〔禮、月令〕國多ニ風欬一。〔注〕因ㄴ風致ニ欬疾一也。四ささめく。言笑する。〔集韻〕欬、聲欬、言笑也、一曰、俗謂ㄴ嗽爲ㄴ欬。〔莊子、徐無鬼〕況乎昆弟親戚之聲ニ欬其側一者乎。〔釋文〕李云、聲欬、喩ニ言笑一也。五また咳(2－3555)に作る。〔正韻〕咳、聲欬、亦作ㄴ咳。㊅おくび。噫(2－4381)・餩(12－44127)に同じ。〔集韻〕噫、說文、飽食息也、或作ㄴ欬、通作ㄴ餩。

【欬逆】1 ガイギャク 一せきあげる。痰咳の病。〔晉書、皇甫謐傳〕當ニ暑煩悶、加以ニ欬逆一、或若ニ溫瘧一、或類ニ傷寒一。㊁のぼせてせきの出る病。〔素問、六元正紀大論〕欬逆嘔吐。〔傷寒論〕欬逆、上氣也。〔後漢書、皇后上、和熹鄧皇后紀〕加ニ欬逆唾血一。

【欬疾】2 ガイシツ せきの出るやまひ。〔禮、月令、國多ニ風欬一、集說〕因ニ風致ニ欬疾一也。

【欬嗽】3 ソウ せき。しはぶき。咳嗽。〔魏志、華佗傳〕初軍吏李成、苦ニ欬嗽一、晝夜不ㄴ寤。

【欬唾】4 ダ せきしてつばを吐く。又、其のつばき。咳唾。〔吳志、甘寧傳〕羽聞ニ我欬唾一、不ニ敢涉ㄴ水、涉ㄴ水卽是吾禽。

【欬唾成ㄴ珠】5 ガイダクマツナス 咳唾成ㄴ珠(2－3555：7)を見よ。

【毳】16767

小篆

㊀サン 〔集韻〕鋤咸切 ㄔㄢˊ 咸 ch'an²
㊁ゼン
慣ザン

㊀一はしこいうさぎ。足の速い兎。〔說文〕毳、狡兔也、兔之駿者、从ニ毘兔一。〔詩、小雅、巧言〕躍躍毳兔、遇ㄴ犬獲之一。〔傳〕毳兔、狡兔也。㊁辰星の別名。或は兔(1－1358)に作る。〔集韻〕毳、辰星別名、或省。㊂わづか。纔(8－28070)に通ず。毳微(3)を見よ。〔說文通訓定聲〕纔、叚借爲才、毳・才、一聲之轉。四むさぼる。毳欲(4)を見よ。五或は獶(7－20793)に作る。〔集韻〕毳、或从犬。

解字 會意。毘(兔に似て大きい獸)と兔との合字。以て大きくすばやい兔の意とする。字解を見よ。

【毳檀】1 ザンダン 檀木の一種。檀檀。〔史記、孔子世家、孔子葬ニ魯城北泗上一、注〕集解曰、駰案、皇覽曰、孔子冢、去ㄴ城一里、冢塋百畝、冢南北廣十步、東西十三步、高一丈二尺、冢前以ニ瓴甓一爲ニ祠壇一、方六尺、與ㄴ地平、本無ニ祠堂一、冢塋中樹以ㄴ百數、皆異種、魯人世世無ㄴ能名ニ其樹一者ㄴ。民傳言、孔子弟子異國人、各持ニ其方樹一來種ニ之一、其樹柞枌雒離女貞五味毳檀之樹、孔子塋中不ㄴ生ニ荊棘及棘人草一。索隱曰、毳檀、檀樹之別種。〔司馬相如、上林賦〕檀檀木蘭、豫章女貞。

【毳兔】2 ザントウ 一足のはやいうさぎ。はしこいうさぎ。狡兔。〔詩、小雅、巧言〕躍躍毳兔、遇ㄴ犬獲之一。〔傳〕毳兔、狡兔也。〔張衡、西京賦〕毳兔聯猿、陵ㄴ巒超ㄴ壑。〔鮑照、擬古詩、其一〕伐ニ木淸江湄一、設ㄴ置守ニ毳兔一。㊁兔の一種。〔征西紀略〕十八日抵ニ噶里一、從者獵得ニ毳兔四五一、大如ㄴ鼠、頭似ㄴ兔、尾則類ㄴ鼠、細毛黑白色、足有ニ長短一、跳躍甚捷、犬不ㄴ能ニ獲、惟網可ㄴ得、皮可ㄴ爲ㄴ裘。

【毳微】3 ビザン わづか。毳は纔。〔論衡、定賢〕夫聖賢之治ㄴ世也有ㄴ術、得ニ其術一則功成、失ニ其術一則事廢、譬猶ニ醫之治ㄴ病也、有ㄴ方、篤劇猶ㄴ治、無ㄴ方、毳微不ㄴ愈。

【毳欲】4 ザンヨク 貪欲なこと。〔法言、問明〕不ㄴ慕ㄴ由卽夷矣、何毳欲之有。〔司馬光集注〕毳、貪也。

【氂】16952

小篆

㊀リ 〔集韻〕陵之切 支
㊁バウ 〔集韻〕謨袍切 カー 豪 m̄
㊂ライ 〔集韻〕郎才切 灰

㊀㊁㊂一からうしの尾。〔說文〕氂、犛牛尾也、从ニ犛省一从ニ毛。㊁馬の尾。〔淮南子、說山訓〕馬氂截ㄴ玉。〔注〕氂、馬尾也。㊂毛。〔廣雅、釋器〕氂、毛也。四長い毛。〔後漢書、岑彭傳〕狗吠不ㄴ驚、足下生ニ氂一。〔注〕氂、長毛也。五こはげ。強く曲った毛。〔漢書、王莽傳中〕以ㄴ氂裝ㄴ衣。〔注〕師古曰、毛之強曲者曰ㄴ氂。六細い毛。細小なものの喩。〔康熙字典〕氂、凡言ニ物之細者一爲ㄴ氂。〔列子、湯問〕以ㄴ氂懸ニ蝨於牖一。七まじり毛。〔小爾雅、廣

物）雜毛曰レ氂。●**けおりもの**。〔爾雅、釋言〕氂、罽也。〔疏〕舍人曰、氂、謂ニ毛罽一也、胡人續ニ羊毛一而作レ衣、然則罽者織レ毛爲レ之、若ニ今之毛氈一。㊈**分量の單位**。氂（11－40146）に通ず。〔集韻〕氂、十毫曰レ氂。〔禮、經解〕差若毫氂。〔釋文〕氂、本又作レ氂。〔新書、六術〕十髮爲レ氂、十氂爲レ分。㊉或は犛（7－20154）・斄（5－13427）に作る。〔集韻〕氂、或作ニ犛・斄一。

解字　會意形聲。犛（尾の長大な牛。からうし）の省形と毛との合字。以て犛牛の尾毛の意を表はす。且、毛は聲を兼ねる。一說に、犛の省形が聲を兼ねるといふ。〔說文通訓定聲〕氂、从ニ犛省一从レ毛、會意、毛亦聲。〔說文、氂、段注〕後漢書魏郡輿人歌、岑熙狗吠不レ驚、足下生レ氂、與ニ災時茲三字一韵、則是犛省亦聲。

【氂纓】1 リイ　からうしの毛で作つた冠の紐。〔新書、階級〕故其在ニ大譴大訶之域一者、聞ニ譴訶一、則白冠氂纓、盤水加レ劍、造ニ清室一而請ニ其罪一耳。

【氂牛】2 ギウ　からうし。犛牛。〔漢書、郊祀志上〕加ニ醴棗脯之屬一、殺ニ一氂牛一、以爲ニ俎豆牢具一。〔注〕李奇曰、音貍、師古曰、西南夷長尾髦之牛也。〔後漢書、西羌傳〕或爲ニ氂牛種一、越嶲羌、是也。〔杜甫、錦樹行〕青草萋萋盡枯死、天馬跛足隨ニ氂牛一。

【氐】

17027

㊀テイ　タイ　〔集韻〕典禮切　齊
㊁シ　〔集韻〕軫視切　紙
㊂チ　〔集韻〕張尼切　支
四テイ　タイ　〔集韻〕都黎切　齊
五テイ　タイ　〔集韻〕丁計切　霽

小篆

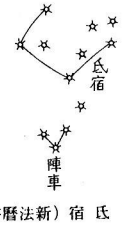
㊀**もと**。ふもと。〔說文〕氐、本也、从レ氏、下箸一、一、地也。〔段注〕本也、小徐本有ニ此二字一。〔詩、小雅、節南山〕尹氏大師、維周之氐。〔傳〕氐、本也。●**ね**。直根。柢（6－14640）の古字。〔說文通訓定聲〕氐、此字實卽柢之古文、蔓根曰レ根、直根曰レ氐。〔廣雅、釋言〕氐、柢也。㊂**いたる**。底（4－9262）に通ず。〔說文通訓定聲〕氐、叚借爲レ底。〔說文〕氐、至也。〔史記、律書〕氐者言ニ萬物皆至一也。四**おほよそ**。おほむね。抵（5－11921）に通ず。〔正字通〕氐、大氐、猶レ言ニ大凡一也、俗作レ抵。〔漢書、食貨志下〕天下大氐無レ慮、皆鑄ニ金錢一。〔注〕師古曰、氐、讀曰レ抵、大氐、猶レ言ニ大凡一也。五**なやむ**。氐惆（6－17027：7）を見よ。六**やしき**。**やどり**。邸（11－39347）・低（1－504）に通ず。〔說文通訓定聲〕氐、叚借爲レ邸。〔廣雅、釋詁四〕低舍也、疏證〕低、義並與レ氐同。〔詩、小雅、節南山、疏〕氐、毛讀從レ邸。七古、夷（4－9727）に作る。〔康熙字典〕氐、古文夷。㊁氐道は、地名。〔集韻〕氐、氐道、地名、在ニ廣漢一。㊂氐池は、縣名。〔集韻〕氐、氐池、縣名。四●**ふす**。**ひくい**。低（1－504）に同じ。〔正字通〕氐、與レ低同。㋑ふす。たれる。〔漢書、食貨志下〕封君皆氐レ首仰レ給焉。〔注〕師古曰、氐レ首、猶レ俯レ首也。㋺ひくい。いやしい。〔正字通〕氐、賤也。〔漢書、食貨志下〕其賈氐賤減平者、聽ニ民自相與市一。●**西戎の名**。西域系の種族。其の名は既に詩經に見え、先秦時代には隴蜀以西が其の住地であつたらしい。もと多くは水草を逐つて移住する弱少部落を成してゐたが、漢代以後、屢〻入寇し、南北朝時代には所謂五胡十六國中の諸國家を江北に建設し、前秦の苻堅、後涼の呂光、成漢の李雄等、すぐれた首長が輩出した。〔詩、商頌、殷武〕自ニ彼氐羌一。〔箋〕氐羌、夷狄國在ニ西方一者也。〔釋文〕氐、西方夷狄國。㊂**とも**。星宿の名。二十八宿の一。天根。氐宿。〔爾雅、釋天〕天根、氐也。〔史記、天官書〕氐四星、東方之宿、氐者言ニ萬物皆至一也。五**とも**。四㊂に同じ。

名乘　ユキ。モト。

解字　會意。氏（山側の落ちかかつた崖）と一（地の意）との合字。氏が落下して地に至る意。一に氏を山の意と爲し、山が地に附く所で、もと・ふもと・ひくいの意を表はすといふ。一說に、指事。氏は木の根もとで、一は根が地に入る所を示すといふ。字解を見よ。〔說文通訓定聲〕氐、从ニ氏下箸一、一、地也、指事。

【氐羌】1 テイキヤウ　古、西方の蠻族の名。氐と羌。各字解を見よ。〔詩、商頌、殷武〕自ニ彼氐羌一、莫敢不ニ來享一、莫敢不ニ來王一。〔疏〕氐羌之種、漢世仍存ニ其居一、在ニ秦隴之西一。〔荀子、大略〕氐羌之虜也、不レ憂ニ其係累一也。〔路史〕氐羌數十、白馬最大。

【氐宿】2 テイシユク　星宿の名。二十八宿の一。蒼龍七宿の第三宿。とも。亢宿と房宿との中間に在り。星は四。天秤座に屬す。天根。〔爾雅、釋天〕天根、氐也。〔禮、月令〕〔季冬之月〕旦、氐中。〔史記、律書〕氐者、言ニ萬物皆至一也。〔史記、天官書〕氐爲ニ天根一、主レ疫。〔丹元子、步天歌〕氐、四星似レ斗側ニ量米一、天乳氐上黑一星、世人不レ識稱無レ名、一個招搖梗河上、梗河横列三星狀、帝席三黑河之西、亢池六星近ニ攝提一、氐下衆星騎官出、騎官之衆二十七、三三相連十欠レ一、陳車氐下騎官次、騎官下三車騎位、天輻兩星列陣旁、將軍陣裡鎭ニ威霜一。



氐宿（新曆法書）

【氐首】3 テイシユ　かしらを垂れる。〔漢書、食貨志下〕封君皆氐レ首仰レ給焉。〔注〕師古曰、氐レ首、猶レ俯レ首也。

【氐人】3' テイジン　人面魚身で足のない想像上の人獸。建木の西方に氐人國があるといふ。〔山海經、海內南經〕氐人國、在ニ建木西一、其爲レ人、人面而魚身、無レ足。

【氐賤】4 テイセン　低くいやしい。價が安い。低廉。〔漢書、食貨志下〕其賈氐賤減平者、聽ニ民自相與市一。〔注〕師古曰、貴既爲レ卬、賤則爲レ氐。

氐人國（山海經圖）

【氐道】5 テイタウ　●縣名。漢、置く。甘肅省清水縣の西南。〔漢書、地理志下〕隴西郡、縣十一、氐道。〔注〕莽曰ニ亭道一、師古曰、氐、夷種名也、氐之所居、故曰ニ氐道一、氐、音丁奚反。●地名。四川省廣漢縣の環近。〔集韻〕氐、氐道、地名、在ニ廣漢一。

【氐池】6 テイチチ　縣名。漢、置く。甘肅省山丹縣の西南。〔漢書、地理志下〕張掖郡、縣十、氐池。〔集韻〕氐、氐池、縣名。

【氐惆】7 テイチウ　惱みもだえる。迷昏。懊憹。〔方言、十〕江湘之間、謂ニ之頓愍一、或謂ニ之氐惆一、南楚飲ニ毒藥一、懣、謂ニ之氐惆一、云云、愁悲憤憤、毒而不レ發、謂ニ之氐惆一。〔注〕氐惆、猶ニ懊憹一也。〔箋疏〕氐・惆雙聲字、蓋形容之詞、今吳俗謂ニ小兒煩懣懊惱一、聲如ニ躋遭一、卽氐惆之轉也、注云、氐惆猶ニ懊憹一者、懊憹轉言レ之、卽懊惱矣。

【氐冬】8 テイトウ　草の名。ふき。款冬花（6－16107：5）の異名。〔本草、款冬花〕釋名、款冬・顆凍・氐冬・鑽凍・菟奚・橐吾・虎鬚。

【氐房】9 テイバウ　二十八宿の名。氐宿と房宿。〔藝文類聚引、成公綏、天地賦〕白獸峙ニ據于參井一、青龍垂ニ尾氐房一。

【氐斧】10 テイフ　氐族が武器として用ひる斧。〔潘岳、關中詩〕周殉ニ師令一、身膏ニ氐斧一。

【氐良】11 テイラ　姓氏。〔姓名錄〕。

【洟】 17271

篆 小

㊀ イツ 〔集韻〕弋質切 質
㊁ チ 一 ㄧˊ
㊂ テツ デチ 〔集韻〕徒結切 屑

㊀ ㊀ **水がゆれあふれる。**〔説文〕洟、水所二蕩洟一也、从レ水失聲。㊁ **わく。** わきこぼれる。〔荘子、天地〕數若二洟湯一。〔釋文〕李云、疾速如二湯沸溢一也。㊂ **ほしいまま。** みだら。きまま。〔正字通〕洟、淫放。〔書、多士〕大淫洟有レ辭。〔傳〕大爲二過逸之行一。〔左氏、隱、三〕驕奢淫洟。〔疏〕放恣無レ藝。㊃ 逸(11－38951)・佚(1－516)に通ず。〔書、酒誥〕淫二洟于非彝一。〔釋文〕洟、又作レ逸、亦作レ佚。〔荘子、天地、釋文〕洟湯、司馬本作二佚蕩一。㊄ 軼(10－38275)・溢(7－17951)に通ず。〔書、禹貢〕溢爲レ滎。〔尚書今古文注疏、注〕史遷、溢爲レ洟、鄭康成曰、溢、一作レ軼。〔荘子、天地、釋文〕洟、本或作レ溢。㊅ 佾(1－572)に通ず。〔書、多士、大淫洟、釋文〕洟、又作レ佾。㊆ 劾(2－2319)に通ず。〔説文通訓定聲〕洟、字亦作レ劾。㊇ **水がゆれあふれる。**〔廣韻〕洟、洟蕩。〔續字彙補〕洟、水蕩洟也。

【洟洟】1 イツイツ 鳥の名。たどり。鶏。〔爾雅、釋鳥〕寇雉洟洟。〔注〕卽、鶏鳩也。

【洟然】2 ゼン ほしいままに放たれ行くさま。〔説苑、脩文〕我將レ死而改二吾義一言未レ已、舟洟然行。

【洟湯】3 タウ 湯が沸いて溢れるやうに速かなこと。佚蕩。〔荘子、天地〕鑿レ木爲レ機、後重前輕、挈レ水若レ抽、數如二洟湯一、其名爲レ槔。〔釋文〕洟、音逸、本或作レ溢、李云、疾速如二湯沸溢一也。

【洟陽】4 ヤウ 獣の名。其の形、頭は豹、尾は馬。一説、神の名ともいふ。〔荘子、達生〕西北方之下者、則洟陽處レ之。〔釋文〕司馬云、洟陽、豹頭馬尾、一作二狗頭一云、神名也。〔駢雅、釋天〕陪阿、鮭蘧洟陽、彷徨、四野之神也。

【泠】 17306

篆 小

㊀ レイ リ、ヤウ 〔集韻〕郎丁切 青
㊁ レイ リ、ヤウ 〔集韻〕朗鼎切 迥
㊂ レン 〔集韻〕靈年切 先

㊀ ㊀ **すとす。** をしへる。命(2－34 73)・令(1－387)に通ず。〔説文通訓定聲〕泠、叚借爲レ命。〔荘子、山木〕舜之將レ死、眞泠二禹曰、汝戒レ之哉〔釋文〕司馬云、泠、曉也、或作レ命、又作レ令、命、猶レ教也。㊁ **ものとる。** 聆(9－29044)に通ず。〔説文通訓定聲〕泠、叚借爲レ聆。〔淮南子、脩務訓〕精神曉泠。〔注〕泠、猶レ了也。㊂ **ふる。** おちる。零(12－42242)に通ず。〔説文通訓定聲〕泠、叚借爲レ零。〔張公神碑〕天時和兮甘露泠。㊃ **物のぬれ。** 泠泠(16)・泠然(7)・泠風(12)を見よ。㊄ **音樂師。** 伶(1－478)に通ず。〔字彙〕泠、與二伶同一。〔左氏、成、九〕對曰、泠人也。〔注〕泠人、樂官。㊅ **川の名。** 泠水(6)を見よ。〔説文〕泠、泠水出二丹陽宛陵一、西北入レ江、从レ水令聲。㊆ **春秋の邑名。** 〔左、哀、二十五〕將レ適二泠一。〔注〕近二魯邑一。㊇ ㊀に同じ。㊈ **姓。** 〔姓氏急就篇〕泠氏、亦作レ伶、泠人掌レ樂之官、因爲レ氏。㊁ **水のさま。** 〔集韻〕泠、水皃。㊂ **毛が長くてちぢれる。** 或は氈(6－16792)に作る。〔集韻〕泠、毛長總結也、周禮、羊泠毛而毳氊、徐邈讀、或作二離枝一、從レ聲塡レ字、非誤也。

参考 ～部五畫の冷(2－1622)とは別。〔六書正譌〕泠、別作レ泠非。

【泠官】1 クワン 伶官(1－478・4)に同じ。

【泠支】2 シ 古、中國の北方に居た蠻族の名。令支。離枝。〔管子、小匡〕北伐二山戎一、制二泠支一、斬二孤竹一、而九夷始聽。〔纂詁〕泠支、或作二令支一、或作二離枝一、從レ聲塡レ字、非誤也。

【泠州】3 シウ 複姓。〔通志、氏族略〕泠州氏、左傳周泠州鳩之後。

【泠州鳩】4 シウキウ 周の景王の樂官。王、無射を鑄る。州鳩、王の心疾を以て死なんことをいふ。明年、王、果して崩ず。〔左氏、昭、二十一〕。

【泠人】5 ジン 樂官。伶人。〔左氏、成、九〕晉侯觀二于軍府一、見二鍾儀一、云云、問二其族一、對曰、泠人也。〔注〕泠人、樂官。〔會箋〕蓋樂官而攝爲二縣公一也、詩簡兮序鄭箋、泠氏世掌二樂官一而善之、故後世名二號樂官一爲二泠官一、釋文云、依字作レ伶、説文水部、泠水出二丹陽宛陵一、西北入レ江、人部、伶弄也、則伶人之伶、自以從レ人爲レ正、其作レ泠者假字耳、呂氏春秋古樂篇、昔黃帝令二伶倫一作二爲律一、二字並從レ人、此爲二正字一、漢書古今人表作二泠倫一、二字並從レ水、律歷志作二泠綸一、綸字又從レ糸、古書多二假借一、不レ可レ泥二其文一也。

【泠水】6 スイ 川の名。㊀湖南省寧遠縣の南。又、泠道水といふ。〔水經、湘水注〕都溪水自レ縣又西北流逕二泠道縣一、北與二泠水一合、水南出二九疑山一、北流逕二其縣西南一、云云、又西北入二營水一。㊁源は陝西省渭南縣の西南。渭に注ぐ。〔長安志〕泠水、一作二零水一。㊂廣東省樂昌縣の東北。又、靈溪といふ。〔水經、溱水注〕泠水東出二泠君山一、山羣峯之孤秀也、晉太元十八年、崩千餘丈、于是縣淵瀑挂、傾流注レ壑、頹波所レ入、灌二於瀧水一。

【泠然】7 レイゼン ㊀輕妙なさま。又、涼しいさま。〔荘子、逍遙遊〕列子御レ風而行、泠然善也。〔注〕泠然、輕妙之貌。〔釋文〕泠然、涼貌也。〔江淹、雜體、自序詩〕一時排二冥筌一、泠然空中賞。〔注〕善曰、司馬彪曰、泠然、涼貌也、翰曰、泠然、輕擧。㊁音聲の盛なさま。〔晉書、裴綽傳〕音辭清暢、泠然若二琴琵一。㊂ひややかなさま。清らかなさま。〔常建、西山詩〕泠然夜遂深、白露沾二人袂一。㊃水の聲。〔孔甯子、水贊〕湍飛二瑩谷一、激レ石泠然。㊄理解するさま。〔一切經音義、十四〕泠然、解悟之意也。

【泠然齋】8 レイゼン 宋、蘇洞(9－32427・48)の號。

【泠然齋集】9 レイゼンサイシフ 書名。八卷。宋、蘇洞撰。洞は陸游の弟子。〔四庫提要、集、別集類〕。

【泠汰】10 レイタ 物の成り行きにまかせること。一説に、えらぶ意、又、超脱する意。〔荘子、天下〕泠二汰於物一、以爲二道理一。〔注〕泠汰、猶二聽放一也。〔疏〕泠汰、猶二揀練一也、揀二練是非一、據レ法斷決。〔釋文〕一云、泠汰猶二沙汰一也、謂レ沙二汰之一使二泠然一也。〔口義〕泠汰、脫洒也。

【泠道】11 ダウ 縣名。漢、置く。湖南省寧遠縣の東。〔漢書、地理志上〕零陵郡、縣十、泠道。

【泠風】12 フウ ㊀おだやかな風。和風。〔呂覽、任地〕子能使二子之野盡爲二泠風一乎。〔注〕泠風、和風所二以成レ穀也。㊁微風。〔荘子、齊物論〕泠風則小和、飄風則大和。〔疏〕泠、小風也。

【泠豐】13 ホウ 漢、淮陽の人。字は次君。顏安樂に從つて公羊春秋を受く。官は宣帝の時、淄川太守。〔前漢書、八十八〕。

【泠毛】14 モウ 長くてちぢれてゐる毛。〔周禮、天官、內饔〕羊泠毛而毳氊。〔注〕泠毛、毛長總結也。

【泠倫】15 リン ㊀複姓。〔萬姓統譜〕泠倫、黃帝樂官、二名分爲二四氏一、所二以別レ族一。㊁上古の人。黃帝の樂官。一に伶綸・伶倫に作る。黃帝の命により、崑崙の嶰谷の竹を取り、兩節の間を斷つて、鳳凰の鳴聲に合はせて十二律の籥を作り、六律を雄鳴に、六呂を雌鳴に合す。又、榮將と十二鐘を鑄造して五音に和した。〔呂覽、仲夏〕・〔漢書、律歷志〕。

【泠泠】16 レイ ㊀水の音の形容。〔陸機、招隱詩〕山溜何泠泠、飛泉漱二鳴玉一。㊁あまだれの音の形容。〔潘岳、寡婦賦〕霤泠泠而夜下兮。〔注〕良曰、泠泠、霤聲。㊂風の音の形容。〔漢書、外戚下、孝成班倢伃傳〕房櫳虛兮風泠泠。〔後漢書、列女、董祀妻傳〕北風厲兮肅泠泠。㊃音聲の盛なさま。音韻の清らかなさま。〔陸機、文賦〕音泠泠而盈レ耳。〔注〕向曰、泠泠盈レ耳、音韻清也。〔白居易、廢琴詩〕遺音尙泠泠。〔李郢、江亭春齊詩〕金磬泠泠水南寺。㊄清らかに涼しいさま。〔韓詩外傳、二〕前有二高岸一、後有二深谷一、泠泠然如レ此、既立而已矣。〔宋玉、風賦〕清清泠泠、愈レ病析レ酲。〔注〕善

曰、清清泠泠、清涼之貌也。〔楚辭、東方朔、七諫、初放〕下冷冷而來風。〔注〕冷冷、清涼貌。㊅心中の清いさま。〔新序、節士〕又惡能以二其泠泠一、更事二世之嘿嘿者一哉。

【冷洌】17 レイレツ ひややかで清い。冷洌。〔韓愈、醉贈張祕書二詩〕酒味既冷洌、酒氣又氛氳。

【冷泉亭】18 レイセン 亭の名。〔方輿勝覽〕冷泉亭、在二飛來峯下一、唐刺史白居易作二冷泉亭記一。

【冷飯團】19 レイハン 土茯苓(3－4867：472)の異名。〔本草、土茯苓〕釋名、土萆薢・刺猪苓・山猪糞・萆禹餘糧・仙遺糧・冷飯團・硬飯・山地栗、時珍曰、言昔禹行二山乏一食、采二此充一糧、而棄二其餘一、故有二此名一。

【泮】17323

小篆

ハン 〔集韻〕普半切 翻 ㄆㄢˋ P'an⁴

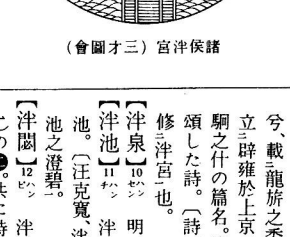
❶中國古代諸侯の國學。頖(12－43400)に通ず。泮宮(3)を見よ。〔說文〕泮、諸侯饗射之宮、西南爲レ水、東北爲レ牆、从二水半一、半亦聲。〔段注〕諸侯上當レ有二泮宮一二字、饗、大徐作レ鄉、今依二小徐一、饗者謂二鄉飲酒一也。〔禮、禮器〕有レ事二于頖宮一、〔釋文〕頖、本或作レ泮。❷なかば。〔詩、魯頌、泮水、釋文〕泮、半也、半有レ水、半無レ水也。❸とける。冰がとける。ちる。泮(2－1623)に通ず。〔集韻〕泮、冰釋、通作レ泮。〔詩、邶風、匏有苦葉〕迨二冰未一泮。〔傳〕泮、散也。〔淮南子、說山訓〕冰之泮愈二其凝一也。〔注〕泮、釋反レ水也。❹わける。わかれる。判(2－1923)に通ず。〔續字彙補〕泮、與レ判同。〔禮、明堂位〕頖宮周學也、〔注〕頖之言、班也、所二以班一政教一也。〔史記、陸賈傳〕自二天地剖泮一、未二始有一也。❺つつみ。畔(7－21801)に通ず。〔說文通訓定聲〕泮、叚借爲レ畔。〔詩、衞風、氓〕隰則有レ泮。〔傳〕泮、坡也。〔釋文〕泮、讀爲レ畔。㊅古、汧(6－17218)に作る。〔康熙字典〕泮、古文汧。

解字 會意形聲。水と半とを合して、其の東西門以南のみ水をめぐらす諸侯の學宮の意を表はす。且つ半は音を兼ねる。字解を見よ。

【泮河】1 ハンカ 川の名。北汶水ともいふ。山東省泰安縣の西北から東南流して汶水に入る。〔明一統志〕泮河、源出二泰山分水嶺一、合二三溪水一、東南流入レ汶。

【泮汗】2 ハンカン ❶汗をながす。〔鹽鐵論、散不足〕黎民泮レ汗力作。❷水の廣大ではてしないさま。〔左思、吳都賦〕潰渢泮汗、滇泂淼漫。〔注〕向曰、並水流廣大貌。

【泮宮】3 ハンキウ 周代、諸侯の國學。饗射を習はせた處。東西門以南には水をめぐらし、以北に墻をめぐらす。天子の辟雍が四面に水をめぐらすに對して、東西門以南の半面にのみ水をめぐらすから泮宮といふ。泮はなかばの意。頖宮(12－43400：1)・辟雍(10－38642：109)の❶を見よ。〔說文〕泮、諸侯饗射之宮、西南爲レ水、東北爲レ牆、从二水半一、半亦聲。〔詩、魯頌、泮水、思二樂泮水一、傳〕泮水、泮宮之水也、天子辟雍、諸侯泮宮。〔箋〕泮之言、半也、半水者、蓋東西門以南通レ水、北無也、天子諸侯宮異レ制、因二形然一。〔史記、封禪書〕天子曰二明堂・辟雍、諸侯曰二泮宮一。〔說苑、建本〕有二昭辟雍一、明堂・辟雍、諸侯曰二泮宮一者、半二於天子宮一也。〔魏志、武帝紀〕五月作二泮宮一、六月以二軍師華歆一爲二御史大夫一。〔文獻通考、學校考、太學〕朱子曰、王制論二學曰、天子曰二辟雍一、諸侯曰二泮宮一、說者以爲、辟雍、大射行禮之處也、水旋邱如レ璧、以節二觀者一、泮宮、諸侯鄉射之宮也、其水半レ之、蓋東西門以南通レ水、北無也。〔蘇軾、送二段屯田一分得二于字一詩〕東武縣令天馬駒、泮宮先生非二俗儒一。



諸侯泮宮（三才圖會）

【泮渙】5 ハンクワン 氷がとけること。〔王太眞、鍾期聽レ琴賦〕淋漓沸渭、牢落泮渙。〔吳冕、魚上冰詩〕終希二泮渙澤一、爲化二北海魚一。「春水に注ぐ。

【泮溪】6 ハンケイ 川の名。源は湖南省臨武縣の東北。

【泮涸】7 ハンコ 氷がとけることと凍ること。〔史記、封禪書〕亦春秋泮涸禱賽、如二東方名山川一。

【泮散】8 ハンサン 氷がとけちる。〔駢雅、釋詁〕方攘、泮散也。〔易林、豫之第十六、豫〕冰將二泮散一、鳴雁雍雍。

【泮水】9 ハンスイ ❶泮宮の東西門以南にめぐらした水。泮はなかば、半面にのみ水をめぐらすからいふ。轉じて、諸侯の學宮をいふ。〔詩、魯頌、泮水〕思二樂泮水一、薄采二其芹一。〔傳〕泮水、泮宮之水也、天子辟雝、諸侯泮宮、言、水則采二取其芹一、宮則采二取其化一。〔汪克寬、泮宮賦、樂二泮水一而翩翾兮、載二龍旂之委蛇一。〔陳椎、東陽縣學暉映樓賦〕立二辟雍於上京一、疏二泮水於諸侯一。❷詩經、魯頌、駉之什の篇名。僖公が能く泮宮を修めたことを頌した詩。〔詩、魯頌、泮水序〕泮水、頌二僖公能修二泮宮一也。

【泮泉】10 ハンセン 明、錢芹(11－40563：54)の號。

【泮池】11 ハンチ 泮宮の東西門以南にめぐらした池。〔汪克寬、泮宮賦〕步二前除一、以徜徉兮、覩二泮池之澄碧一。

【泮闕】12 ハンケツ 泮水(9)の❶と闕宮(11－41283：1)の❶。共に詩經の篇名。各條を見よ。

【泮林】13 ハンリン 泮水の滸の林。〔詩、魯頌、泮水〕翩彼飛鴞、集二于泮林一。〔陶安、孔廟賦〕溪流揚二洙泗之波一、泮林霧二鄒魯之風一。

【涇】17526

小篆

㊀ケイ キヤウ 〔集韻〕堅靈切 青 ㄐㄧㄥ ching¹

㊁ケイ キヤウ 〔集韻〕棄挺切 迥 ㄑㄧㄥˇ

㊂ケイ キヤウ 〔集韻〕古定切 徑

㊀❶みぞ。〔說文通訓定聲〕涇、今吾蘇溝瀆多二名一涇者、如二采蓮涇之類一。❷通ずる。流れる。徑(4－10105)・逕(11－38896)に通ず。〔說文通訓定聲〕涇、叚借爲レ徑、爲レ逕。〔莊子、秋水〕涇流之大。〔釋文〕司馬云、涇、通也。㊂大便。〔素問、調經論〕涇溲不レ利。〔注〕涇、大便也。㊃月經。經(8－27508)に通ず。〔素問、調經論、涇溲不レ利、注〕新校正云、按、楊上善云、涇作レ經、婦人月經也。㊄川の名。涇水(11)を見よ。〔說文〕涇、涇水、出二安定涇陽幵頭山一、東南入レ渭、雝州之川也、从レ水巠聲。㊁いづみ。〔集韻〕涇、泉也。㊂❶まつすぐ。眞直な波。徑(4－10118)に通ず。〔說文通訓定聲〕涇、叚借爲レ徑。〔釋名、釋水〕水直波曰レ涇、涇、徑也、言レ如二道徑一也。❷涇涎は、眞直な流。〔集韻〕涇、涇涎、直流也。

【涇渭】1 ケイイ 陝西省の涇水と渭水。涇は濁り、渭は清む。清濁の別の明かに定まれる喩。〔詩、邶風、谷風〕涇以渭濁、湜湜其沚。〔傳〕涇渭相入而清濁異。〔箋〕涇水以有レ渭、故見二渭濁一。〔魏書、蕭寶夤傳〕涇渭同レ波、薰蕕共レ器。〔呂牧、涇渭揚二清濁一、詩〕涇渭橫二秦野一、遂迤近二帝城一。

【涇渭分】2 ケイイフン 涇渭を見よ。〔李敬元、奉和別二越王一詩〕別館分二涇渭一、歸路指二衡漳一。〔沈佺期、答寗處州書、詩〕自憐二涇渭別一、誰與奏二明君一。〔蘇軾、次韻答二王育中一詩〕俗裏光塵合、胸中涇渭分。

【涇渭之清濁】3 ケイイノセイダク 涇水は濁り、渭水は清む。一說に、涇水は清み、渭水は濁る。涇渭を見よ。〔精註雅俗故事讀本、上、地輿〕涇渭之

清濁當レ分。〔詩、邶風、谷風〕涇以渭濁。〔集傳〕涇、濁、渭、清、然涇未レ屬レ渭之時、雖濁而未レ甚見、由二二水既合一而清濁益分。〔會箋〕乾隆帝涇清渭濁紀實云、涇以レ渭濁、朱註以爲二渭清涇濁一、大失二經義一、云云、爰命二陝西巡撫奏承恩一、身至二河一、云云、承恩上言、云云、涇水在レ北、渭水在レ南、涇清渭濁、一望可レ辨。

【涇渭未二必同レ源】4 ケイキイマダカナラズシモミナモトヲオナジウセズ 涇水の濁流と渭水の清流とは必ずしも水源を同じくするといふことはない。事の清濁・善惡・邪正は必ず區別を要するものとの意。

【涇河】5 ケイガ 川の名。關中八川の一。源は甘肅省化平縣西南の大關山麓。渭水に入る。〔明一統志〕涇河、自二平涼府城西南自巖發レ源、北至二西安府高陵縣界一、會二于渭一。

【涇縣】6 ケイケン 縣名。❶漢、置く。安徽省寧國縣の西。〔漢書、地理志上〕丹陽郡、縣十七、涇。〔讀史方輿紀要、江南寧國府〕涇縣、涇縣屬二丹陽郡一、因二涇水一爲レ名、後漢因レ之、晉以後屬二宣城郡一、隋屬二宣州一、唐武德三年、至二南徐州一、尋改爲二猷州一。❷民國、置く。甘肅省涇川縣。

【涇原】7 ケイゲン ❶道名。民國、置く。甘肅省治の東。❷清、張鴻烈(4－9812・1047)の號。

【涇谷】9 ケイコク 川の名。甘肅省天水縣の東南。今、水川河といふ。〔水經、渭水注〕其水北流注二涇谷水一。

【涇州】10 ケイシウ 州名。後魏、置く。甘肅省涇川縣治。〔韻會〕涇、漢武分二安定郡一、元魏改二涇州一。〔讀史方輿紀要、陝西、平涼府〕涇州、春秋時秦地、始皇時屬二北地郡一、漢屬二安定郡一、後漢因レ之、魏晉亦曰二安定郡一、後魏改置二涇州一、取二涇水一爲レ名。〔清史稿、地理志〕甘肅、涇州直隸州、領二縣三一、崇信・鎮原・靈臺。

【涇水】11 ケイスイ 川の名。❶源は安徽省績溪縣の徽嶺山。貴溪と合す。一名、藤溪。❷南北二源あり。北源は甘肅省固原縣の南の牛營。南源は化平縣の西南の大關山。合流して渭水に注ぐ。一名、涇河。〔書、禹貢〕涇屬二渭汭一。〔詩、邶風、谷風〕涇以レ渭濁、湜湜其沚。〔周禮、夏官、職方氏〕正西曰二雍州一、云云、其川涇汭。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府、涇陽縣〕涇水、縣南七里、經二仲山九嵕山一、出二冶谷口一、東南流入二高陵縣界一。

【涇水黃】12 ケイスイクワウ 唐、鼓吹鐃歌の名。柳宗元の作。〔樂府詩集、鼓吹曲辭、唐鼓吹鐃歌、涇水黃〕涇水黃、言二薛舉據レ涇以死、其子仁杲尤勇以暴、師平レ之也。〔柳宗元、唐鐃歌鼓吹曲、涇水黃〕涇水黃、隴野茫。「東南。

【涇川】13 ケイセン 縣名。民國、置く。甘肅省固原縣の

【涇川詩話】14 ケイセンシワ 書名。三卷。清、趙知希撰。

【涇灘】15 ケイタン 灘の名。四川省江安縣の南。〔太平寰宇記〕涇灘。「流也。

【涇涎】16 ケイテイ 直流すること。〔集韻〕涇、涇涎、直

【涇南】17 ケイナン 字號。❶清、張照(4－9812・473)の號。❷清、陳栻(11－41698・364)の字。

【涇凡】18 ケイハン 明、顧允成(12－43689・218)の號。

【涇野】19 ケイヤ 明、呂柟(2－3386・121)の號。

【涇野子內篇】20 ケイヤシナイヘン 書名。二十七卷。明、呂柟撰。語錄十一種を收錄す。格物窮理、先知後行を說いたもの。〔四庫提要、子、儒家類〕。

【涇陽】21 ケイヤウ ❶縣名。㋑漢、置く。甘肅省平涼縣の西。〔詩、小雅、六月〕至二于涇陽一。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、涇陽。㋺後魏、置く。陝西省長安縣の北。〔讀史方輿紀要、陝西、西安府〕涇陽縣、本秦邑、昭王弟悝封レ此號二涇陽君一、漢爲二池陽縣地一、後魏置二涇陽縣一、屬二咸陽郡一、後周縣廢、隋復置、屬二雍州一。〔清史稿、地理志〕陝西、西安府、縣十五、涇陽。❷複姓。〔萬姓統譜〕涇陽、秦宣太后弟封二涇陽君一、因氏焉。❸明、顧憲成(12－43689・260)の號。

【涇流】22 ケイリウ ❶よどみなく流れる川。又、濁流。〔莊子、秋水〕涇流之大。〔釋文〕司馬云、涇、通也。〔口義〕涇、濁也。❷涇水の流。〔孟郊、答二書上人一詩〕渭水不レ渾、涇流徒相侵。

【涇皋藏稿】23 ケイカウザウカウ 書名。二十二卷。明、顧憲成撰。〔四庫提要、集、別集類〕。

【涇西書屋】24 ケイセイショヲク 清、汪元爵(6－17154・216)の室名。「號。

【涇東道人】25 ケイトウダウジン 明、葉盛(8－31387・88)の

【淖】17639

小篆

㊀㊁❶どろ。㋑どろ。〔說文〕淖、泥也、从レ水卓聲。〔史記、屈原傳〕濯二淖汙泥之中一。㋺ぬかるみ。〔一切經音義、十一〕和泥曰レ淖。〔左氏、成、十六〕有レ淖二於前一。〔注〕淖、泥也。㋩ぬま。どろぬま。〔一切經音義、十二〕淖、蒼頡篇云、深泥也。㊁粥などのどろどろしたもの。〔爾雅、釋言〕鬻糜也、〔注〕淖糜。〔義疏〕稠者曰レ糜、淖者曰レ鬻。❷ぬかる。泥で行きなやむ。〔漢書、韋玄成傳〕天雨淖、不レ駕二駟馬車一、而騎至二廟下一。〔注〕師古曰、淖、泥也。❸うるほふ。〔廣雅、釋詁一〕淖、濕也。〔管子、內業〕淖乎如レ在二於海一。〔注〕淖、汋潤也。❹にごる。〔廣雅、釋詁三〕淖、濁也。❺やはらぐ。〔儀禮、士虞禮記〕嘉薦普淖。〔注〕淖、和也。❻やはらかい。〔淮南子、原道訓〕甚淖而滑、其纖而微。〔集證〕此云二甚淖而滑一、亦狀二其柔和之意一、與二纖微一對文。❼姓。〔通志、氏族略、去聲〕淖氏、音鬧、魯恭王有二淖姬一、姓纂、楚將淖齒。㊂❶ぬれる。甚だしくうるほふ。〔集韻〕淖、濡甚也。❷溺れる。〔楚辭、東方朔、七諫、怨世〕世沈淖而難二論分一。〔注〕淖、溺也。❸多い。淖淖。〔廣雅、釋訓〕淖淖、衆也。㊃濁(7－18440)に同じ。〔山海經、海內經〕昌意降處二若水一、生二韓流一、韓流云云取二淖子一、曰二阿女一、生二帝顓頊一。〔畢注〕淖卽濁字、古用レ淖也。❺姓。〔集韻〕淖、姓也。㊄❶ゆるやか。綽(8－27905)に同じ。〔集韻〕綽、緩也、亦作レ淖。❷しなやか。綽(8－27590)に通ず。〔說文通訓定聲〕淖、叚借爲レ綽。〔莊子、逍遙遊、綽約若二處子一、釋文〕淖、郭、昌略反、字林、丈卓反、李云、淖約、柔弱貌。〔荀子、宥坐〕淖約微達似レ察。〔注〕淖約、柔弱也、淖、讀爲レ綽。㊅川の名。蜀(10－33086)に同じ。〔山海經、大荒西經〕大荒之中有二龍山一、日月所レ入、有二三澤水一、名曰二三淖一。〔畢注〕其地卽蜀也、古字、蜀作レ淖。

㊀タウ〔集韻〕直教切 ㊁ダウ ネウ〔集韻〕女教切 乃公 nao⁴ ㊂タク ダク〔集韻〕直角切 覺 ㊃シヤク ショク ゾク〔集韻〕尺約切 藥 ㊄〔中華大字典〕殊玉切 沃

參考 淖(7－17640)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕淖、音鬧、泥也。淖、同レ潮。

【淖陷】1 ダウカン 泥中におちいる。〔荀子、正論〕欺二愚者一、而潮二陷之一。〔注〕猶二於泥潮之中陷一之。〔集解、盧文弨曰、潮、當作レ淖、古潮字作レ淖、故淖誤爲レ淖、又誤爲レ潮。

【淖乎】2 ダウコ うるほふさま。〔管子、內業〕淖乎如レ在二於海一。〔纂詁〕淖乎、濡貌。

【淖溝】3 ダウコウ みぞ。

【淖沙】4 ダウサ 沙漠の、人馬を陷沒するものをいふ。一名、范河。活沙。〔夢溪筆談、辯證一〕唐六典、述二五行一、有二祿命・驛馬・洮河之目一、人多不曉二洮河之義一、予在二鄜延一、見二安南行營諸將閱一兵馬籍一、有稱過二范河一、損失一間、其何謂二范河一、乃越人謂二淖沙一、爲二范河一、北人謂二之活沙一、予嘗過二無定河一、度二活沙一、人馬履レ之、百步之外皆動、澒澒然如二人行一幕上一、其下足處雖甚堅、若遇二其一陷一、則人馬駝車、應レ時皆沒、至レ有二數百人平陷無二孑遺一者一、或謂、此卽流沙也。

【淖齒】5 ダウシ 春秋、楚の將。齊の湣王を殺して燕軍と齊の地を分け、後、王孫賈に殺さる。〔史記、四十六〕。

【淖爾】6 ノール 蒙古語で、湖沼の義。

【淖弱】7 ジャクジャク しなやか。淖約。柔弱。〔管子、水地〕夫齊之水、道躁而復、故其民貪靡而好勇、楚之水、淖弱而清、故其民輕果而賊。〔纂詁〕淖弱、淖約也、柔弱貌。

【淖渾】8 タクタク 多い。〔廣雅、釋訓〕淖淖、衆也。

【淖中】9 チュウ 泥田の中。〔日本外史、足利氏正記、足利氏上〕徑二淖中一、相驚而退。

【淖泥】10 デイデイ ぬかる。ぬかるみ。淖濘。

【淖溺】11 デキ ❶とける。〔漢書、郊祀志下〕黃冶變化、堅冰淖溺、化色五倉之術者、皆姦人惑衆。〔注〕晉灼曰、方士詐以藥石、若二陷冰丸、投之冰上、冰卽消液、因假爲神仙道使然也。❷うるほひ。柔かく流れる。淖弱(7)に同じ。〔淮南子、原道訓〕夫水所以能成其至德於天下者、以其淖溺潤滑也。

【淖濘】12 ネイ ぬかるみ。泥濘。淖泥。〔楊載、贈吾子行一詩〕長衢方淖濘、小水亦風波。

【淖糜】13 ビ どろどろした粥。糜糲。〔爾雅、釋言〕糲糜也、注〕淖糜。〔陸游、龜堂獨坐遣悶詩〕食有二淖糜一獨足レ飽、衣存二短褐一未全貧。

【淖冰】14 ヒョウ 氷を溶かす。〔舊唐書、李德裕傳〕臣所慮赴召者、必迂怪之士、苟合之徒、使二物淖冰一以爲二小術一、衒耀邪僻、欺蔽聰明。

【淖約】15 ヤクヤク しなやか。柔弱。やさしく美しい。美人の形容などに用ひる。綽約。婥約。〔駢雅、釋訓〕淖約、美好也。〔荀子、宥坐〕盈不レ求二概似一、正、淖約微達似一察。〔注〕淖約、柔弱也。〔漢書、揚雄傳上、反離騷〕閨中客競二淖約一兮、相態以二麗佳一。〔注〕師古曰、淖約、羞容止也。

【淖約若二處子一】16 ショショクジョシ やさしく美しくて處女のやうである。〔莊子、逍遙遊〕肌膚如二冰雪一、淖約若二處子一。〔釋文〕李云、淖約、柔弱貌。司馬云、好貌。

【濂】17929

日 レン 〔集韻〕勒兼切 ㄌㄧㄢˋ lien²

二 デン ネン 〔集韻〕尼占切 鹽

三 レン 〔集韻〕力冉切 琰

四 カン ゲン 〔集韻〕乎監切 咸

五 カン ゲン 〔集韻〕乎籲切 陷

六 ラン レン 〔集韻〕兩減切 豏

七 リン 〔集韻〕犁針切 侵

小篆 或體(本注段)

一❶大川がとぎれて更に流れ出た小川。〔說文〕濂、或曰、中絕小水。〔段注〕玉篇、廣韵、作二大水中絕、小水出也一、當二是古人所レ見完本、後奪誤爲二四字一耳、謂二大水中絕小水之流而出一也、八字一句。❷とどまる。水の靜かなこと。〔說文〕濂、又曰、淹也。〔段注〕晁以道云、唐本有二此四字一、楊上善注二素問一云、濂、水靜也、於二此義一相近。❸うすい。㋑質のうすい水。〔說文通訓定聲〕濂、水性有二輕重一、味亦有二厚薄一、淡言レ味、濂言レ質也。〔玉篇〕濂、薄也。〔集韻〕濂、薄水也。㋺うすい氷。〔說文〕濂、濂濂、薄冬也、从レ水兼聲。〔段注〕濂濂二字、依二文選注一補。❹濂(7－18441)に同じ。〔段注本說文〕濂、濂、或从レ廉。❺川の名。〔韻會〕濂、一曰、水名。二ねばりつく。黏(12－48007)に同じ。〔集韻〕黏、說文、相著也、亦作レ濂。〔周禮、考工記、輪人〕雖レ有二深泥一、亦弗二之濂一也。〔注〕濂、讀爲レ黏、謂二泥不二黏一著輻一也。〔釋文〕濂、依レ字力簟反、依レ注女廉反。三❶ひたす。〔廣雅、釋詁二〕濂、漬也。❷うすごほり。〔集韻〕濂、一曰、冰其薄者濂。❸やすらかなさま。水の靜かなこと。〔集韻〕濂、恬靖皃。〔素問、陰陽類論〕陰陽交期、在二濂水一。〔注〕楊上善云、濂、廉檢反、水靜也、七月、水生時也。❹まじる。かねる。兼(2－1483)に通ず。〔說文通訓定聲〕濂、叚借爲レ兼、易文言傳、鄭本爲二其慊一于陽一也、注、慊讀如二羣公濂之濂一、濂、雜也、云云、按、謂二新陳相兼雜半一也。〔易、坤、文言曰爲二其嫌一于无陽一也、鄭注〕濂、雜也。〔釋文〕嫌、鄭作レ濂。❺濂濂は、さざなみのさま。〔說文通訓定聲〕濂、按、風濂濂者、微波之皃。六小さい水。〔集韻〕濂、一曰、小水。七ねばりつく。〔韻會〕濂、又黏也。四うるほす。水を噴いて物をうるほす。〔集韻〕濂、濆レ水沾レ物。五冷やす。物を水に沈めて冷やす。〔集韻〕濂、沈二物水中一使レ冷。六味がうすい。〔集韻〕濂、味薄也。七瀰(7－18700)に同じ。〔集韻〕瀰、說文、谷也、一曰、寒也、一曰、瀰瀰、雨也、或从レ兼。

【湊】17978

小篆 シン 〔集韻〕緇詵切 ㄙㄣ chen¹

❶おほい。湊湊。蓁(9－31639)に通ず。〔詩、小雅、無羊〕室家湊湊。〔傳〕湊湊、衆多也。〔傳疏〕潛夫論夢列篇作二蓁蓁一、蓁與レ湊通。❷いたる。臻(9－30165)に通ず。〔說文通訓定聲〕湊、叚借爲レ臻。〔漢書、王褒傳〕萬祥畢湊。〔注〕師古曰、湊字、與レ臻同。❸物のさま。湊湊(3)を見よ。❹川の名。湊水(4)を見よ。〔說文〕湊、湊水出二桂陽臨武一、入レ涯、从レ水秦聲。❺澮(7－18260)に同じ。〔集韻〕澮、說文、水出二鄭國一、通作二湊・淨一。❻姓。〔萬姓統譜〕湊、州名、見二直音一。

【湊洧】1 シン ❶鄭の二大川。湊水と洧水。共に河南省開封道鄭縣に在る。〔詩、鄭風、溱洧〕溱與洧、方渙渙兮。〔傳〕溱洧、鄭兩水名。〔孟子、離婁下〕子產聽二鄭國之政一、以二其乘輿一、濟二人於溱洧一。〔竹書紀年、下〕周平王六年、鄭遷二于溱洧一。〔宋玉、登徒子好色賦〕周覽二九土一、足歷二五都一、出二咸陽一、熙二邯鄲一、從二容鄭衞溱洧之間一。〔注〕濟曰、溱洧、二水名、其中鄭人游觀之地。❷詩經、鄭風の篇名。鄭國の淫亂をそしつた詩。〔詩、鄭風、溱洧序〕溱洧、刺レ亂也、兵革不レ息、男女相棄、淫風大行、莫二之能救一焉。〔新論、辯樂〕鄭衞之俗好レ淫、故有二溱洧桑中之曲一、楚越之俗好レ勇、則有二赴湯蹈火之歌一。

【溱州】2 シン 州名。宇文周、置く。河南省汝南縣。〔讀史方輿紀要、河南、汝寧府〕後周亦曰二豫州一、後改曰二舒州一、尋復曰二豫州一、又改二溱州一。

【溱溱】3 シン ❶多いさま。〔詩、小雅、無羊〕旐維旟矣、室家溱溱。〔傳〕溱溱、衆多也。〔箋〕子孫衆多也。〔蔡邕、述行賦〕玄雲黯以凝結兮、集二零雨之溱溱一。❷盛なさま。蓁蓁(9－31639・2)の❶に同じ。〔詩、周南、桃夭、桃之夭夭其葉蓁蓁、傳疏〕蓁、聲同レ臻、故云、蓁蓁、至盛貌、廣雅、蓁蓁、茂也、字亦通作レ溱、無羊傳、溱溱、衆也、王應麟詩攷、載二杜佑通典、禮十九、引レ詩作二其葉溱溱一。〔墨子、尙同上〕天飄風苦雨、溱溱而至。〔後漢書、班固傳下〕百穀溱溱、庶卉蕃廡。〔注〕溱溱、盛貌。❸舒びるさま。〔太玄經、進〕陽引而進、物出溱溱。〔注〕溱溱然日以舒布。❹微汗の相つづくさま。〔靈樞經、決氣〕腠理發泄、汗出溱溱、是謂二之津一。

【溱水】4 スイ 川の名。❶源は河南省桐柏縣の桐柏山。南汝河に注ぐ。又、沙河・吳棄河ともいひ、俗に石涇といふ。〔水經、汝水注〕溱水、出二浮石嶺北青衣山一、亦謂二之青衣水一也。❷源は河南省密縣東北の聖水峪。賈魯河に注ぐ。又、澮水といひ、郐水とも作る。〔詩、鄭風、溱洧〕溱與洧、方渙渙兮。〔傳〕溱洧、鄭兩水名。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、新鄭縣〕溱水、在二縣北一、源出二密縣境一、名二澮水一、東北流至二縣界一、與二洧水一合、詩、溱與洧、方渙渙兮。❸古の秦水。源は

湖南省臨武縣の南の分水坳。北江となる。〔漢書、地理志上〕臨武縣秦水、東南至二湞陽一、入レ湟。〔水經、溱水〕溱水、出二桂陽臨武縣南、繞レ城西北、屈東流、東至二曲江縣安福邑東一、屈西南流、云云、南入二于海一。

【穀】 18000

コク

澈(7－18676)に同じ。〔集韻〕澈、或作レ穀。

【滎】 18026

㊀ケイ ギヤウ 〔集韻〕玄扃切 青 一ノ yǐng²
㊁エイ ヤウ 〔集韻〕娟營切 庚
㊂エイ ヤウ 〔集韻〕烏迥切 迥
㊃エイ ヤウ 〔集韻〕榮定切 徑
㊄ケイ キヤウ 〔集韻〕翦營切 庚

小篆 ちよろちよろ水。〔說文〕滎、滎澤、絶小水也、从レ水滎省聲。〔段注〕滎篆、本在二澤篆下一、今移正、滎澤二字、各本無、今依二全書通例一補。㊀**澤の名**。滎澤(6)を見よ。㊁**川の名**。〔廣韻〕滎、又水名、在二鄭州一。㊂滎濬は、波のわきたつさま。〔集韻〕滎、滎濬、波浪涌起皃。㊃洢滎は、小さい水のさま。滎(7－18488)に同じ。〔集韻〕滎、洢滎、小水皃、亦作レ滎。㊄汀滎は、小さい水。瀅(7－18587)に同じ。〔集韻〕瀅、汀瀅、小水、或作レ滎。㊅**川の名**。或は熒(7－19304)に作る。〔集韻〕滎、水名、或作レ熒。

【滎濬】1ケイ エイ 波のめぐりまはるさま。〔郭璞、江賦〕淀濃滎濬、渢灩潰瀑。〔注〕善曰、皆波浪回旋潰涌而起之貌也。

【滎錡】2キイ 澗の名。河南省鞏縣の西。〔左氏、昭二十二〕王有二心疾一、乙丑、崩二于滎錡氏一。〔注〕河南鞏縣西、有二滎錡澗一。

【滎山】3ザン 山名。〔山海經、大荒南經〕南海之外有二滎山一、滎水出焉、大荒之中有二不庭之山一、滎水窮焉。

【滎州】4シウ 州名。後周、置く。河南省汜水縣。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、鄭州〕汜水縣、古東虢國、鄭之制邑、亦曰レ虢、昭元年、諸侯之大夫會二於虢一、又名二虎牢一、秦屬二三川郡一、漢置二成皐縣一、屬二河南郡一、魏晉因レ之、劉宋於レ此置二司州一、北魏泰常中、置二豫州於汝南一、以二虎牢一爲二北豫州一、太和十九年、改置二東中府於此一、以レ縣屬二滎陽郡一、東魏天平中、復置二北豫州一、兼置二成皐郡一、治焉、後周置二滎州一、隋改二鄭州一、俱治二於此一、開皐十八年、改二成皐一曰二汜水縣一、大業初屬二滎陽郡一。

【滎水】5スイ 川の名。滎山を見よ。

【滎澤】6タク ㊀小さい水。〔韓詩外傳、五〕滎澤之水、無二吞舟之魚一。㊁澤の名。河南省滎澤縣治の南。〔書、禹貢、滎波既豬、傳〕滎澤波水、已成二遏豬一。〔周禮、夏官、職方氏〕豫州、其川滎雒。㊂縣名。隋、置く。河南省開封道。〔讀史方輿紀要、河南、開封府、鄭州〕滎澤縣、漢滎陽縣地、晉屬二滎陽郡一、隋開皐四年、置二廣武縣一、仁壽初、改爲二滎澤縣一、屬二鄭州一、唐因レ之。〔清史稿、地理志〕河南、鄭州直隸州、縣三、滎澤。

【滎洞】7トウ 水の涌くほら穴。〔郭璞、井賦〕幽溟圓渟、滎洞深玄。

【滎瀆】8トク 運河の名。古、滎澤の水を引いて、河南省河陰縣の西の石門より山東省の菏澤に至らしめたもの。又、南濟といふ。〔禹貢錐指〕自二滎口石門一、至二菏澤一、皆禹後代人所レ導、周禮職方、豫州之川也、水經謂二之滎瀆一、按、滎瀆在二河南境內一者、卽汴渠、今久湮廢。

【滎濘】9ネイ 小さい水のさま。〔說文通訓定聲〕濘、滎濘也、按、滎濘、小水之貌、猶二七命之汀濘、甘泉賦之瀰漠一也。

【滎波】10ハイ 滎澤と波水。〔書、禹貢〕滎波既豬。〔傳〕滎澤波水、已成二遏豬一。

【滎陽】11ヤウ ㊀郡名。㊀三國魏、置く。河南省滎澤縣の西南。㊁隋、置く。河南省鄭縣。㊂縣名。㊀漢、置く。戰國、韓の邑。河南省成皐縣の西南。〔史記、韓世家〕桓惠王二十四年、秦拔二我城皐・滎陽一。〔漢書、地理志上〕河南郡、縣二十二、滎陽。〔清史稿、地理志〕河南、鄭州直隸州、縣三、滎陽。㊁後魏、置く。安徽省の境。「の號。

【滎陽生】12セイ 明、鄭若庸(11－39647：436)

【滎陽外史】13ヤウ 明、鄭眞(11－39647：180)の號。

【滎陽外史集】14シウ 書名。七十卷。明、鄭眞撰。原本一百卷。今、三十卷を佚し、存するものも訛脫が甚だ多い。〔四庫提要、集、別集類〕。

【漚】 18139

㊀オウ 〔集韻〕於候切 宥 又 ou⁴
㊁オウ 〔集韻〕烏侯切 尤 又 ou¹

小篆 ㊀㊁ひたす。㊀久しく水に漬す。水につける。〔說文〕漚、久漬也、从レ水區聲。〔廣雅、釋詁二〕漚、漬也。〔周禮、考工記、幎氏〕湅絲以二涚水一、漚二其絲一。〔注〕漚、漸也、楚人曰レ漚、齊人曰レ湲。㊂柔かにする。久しく漬けてやはらげる。〔詩、陳風、東門之池〕可二以漚一麻。〔傳〕漚、柔也。㊃**物のさま**。漚鬱(2)を見よ。㊄湅(7－17770)に通ず。〔周禮、考工記、幎氏、湅〕淳其帛、〔釋文〕湅、與レ漚同。㊅㊀**あわ**。水泡。〔集韻〕漚、水泡也。〔楞嚴經〕空生二大覺中一、如二海一漚發一。㊁**かもめ**。鷗(12－47268)に通ず。〔說文通訓定聲〕漚、叚借爲レ鷗。〔列子、黃帝〕海上之人、有レ好二漚鳥一者。㊂漚夷は、川の名。嘔(2－4200)に通ず。漚夷(1)を見よ。㊃現胸惡くさせる。嫌がらせる。

【漚夷】1オウ 川の名。又、嘔夷に作る。滋水(7－18078：1)に同じ。〔水經、滋水〕滋水出二代郡靈丘縣高氏山一。〔注〕卽漚夷之水也。〔紀昀等校〕周禮作レ嘔。

【漚鬱】2ウツ 香氣の盛なさま。一說に、鮮明なさま。〔司馬相如、上林賦〕芬芳漚鬱、酷烈淑郁。〔注〕善曰、郭璞曰、鮮明貌、濟曰、淑郁已上、言二香氣盛一也。

【漚江】3カウ 川の名。源は湖南省桂東縣の東。耒水に注ぐ。

【漚庫】4コ 日當りが惡くて濕氣の多い物置。〔論衡、訂鬼〕禮曰、顓頊氏有二三子一、生而亡去爲二疫鬼一、云云、一居二人宮室、區隅漚庫一、善驚二人小兒一。

【漚糟】5ソウ tsao¹ 浸みて腐敗する。

【漚柔】6ジウ jou² 濕つて柔かになる。

【漚亭】7テイ 清、汪援甲(6－17154：172)の號。

【漚鳥】8チウ かもめ。鷗鳥。〔列子、黃帝〕海上之人、有レ好二漚鳥一者、從二漚鳥一游、漚鳥之至者、百住而不レ止、其父曰、吾聞、漚鳥皆從二汝游一、汝取來、吾玩レ之、明日之二海上一、漚鳥舞而不レ下也。

【漚透】9トウ t'ou⁴ 浸み透る。

【漚舫】10バウ 清、范金鏞(9－30834：161)の字。

【漚朴】11ボク 果實の名。十月頃出る果物の一種で、橘柚に似た形をしてゐて香が高い。〔燕京歲時記、漚朴〕漚朴、形如二橘柚一、而堅實、性如二木瓜一、而有レ毛、以レ之薰二衣、香可二經月不レ散。

【漚麻】12マ ●麻を濕して柔かにする。〔詩、陳風、東門之池〕東門之池、可二以漚一麻。〔傳〕漚、柔也。〔晉書、石勒載記下〕至レ是謂二父老一曰、李陽壯士也、何以不二來漚一麻、是布衣之恨。〔祖詠、歸二汝墳山莊一留二別盧象一詩〕漚入二南澗、刈楚向二東窗一。●池の名。山西省楡社縣の北。〔元和志〕石勒漚麻池、在二楡社縣北三十里一、今枯。

【漚爛】13ラン ひたりただれる。又、ひたしただれさせる。〔本草、胡桃〕集解、時珍曰、結實至レ秋如二青桃狀一、熟時漚二爛皮肉一、取レ核爲レ果。

【漚喜亭】14キテイ 清、勞權(2－2410：43)の室名。

【漚道人】15 オウダウジン 清、范金鏞(9－30834：161)の號。

【漚波亭】16 オウハテイ 元、趙孟頫(10－37171：904)の室名。

【漚鉢羅】17 オウハツラ 優花の名。又、青黛花・青蓮花ともいふ。其の花は青色で、葉は細長く、香氣は頗る高い。〔摩訶般若行瑠音義〕漚鉢羅、漚、烏候反、此云二青蓮花一、又云二青黛花一。

【漚浮隱者】18 オウフインシヤ 清、林雲銘(8－14551：26 9)の號。

【漯】18169

㊀タフ トフ 〔集韻〕託合切 合 tɑ̂p

㊁ルイ 〔集韻〕魯水切 紙 lei̯ᵊ

㊀●滄漯は、集まるさま。〔木華、海賦〕潰潰而滄漯。〔注〕善曰、滄漯、攢聚貌。●川の名。瀑(7－18654)に同じ。漯水(3)を見よ。〔正字通〕漯、同レ瀑、俗省、說文、瀑水出二東郡東武陽一入レ海、本作レ濕、或省作レ漯、後以レ濕爲二乾溼之溼一、而漯又轉爲二漯字一。〔孟子、滕文公上〕禹疏二九河一、瀾二濟漯一。㊁川の名。或は澾(7－18742)・濕(7－188 12)に作る。〔集韻〕漯、水名、出二鴈門一、或作二澾・濕一。

【漯陰】1 タフイン 縣名。漢、置く。山東省臨邑縣の西。〔漢書、地理志上〕平原郡、縣十九、漯陰。〔注〕應劭曰、漯水出二東武陽一、東北入レ海。〔水經、河水注〕河水右逕二漯陰縣故城北一、王莽之亘武縣也。〔讀史方輿紀要、山東濟南府臨邑縣、著城〕漯陰城、漢置二漯陰縣一、屬二平原郡一、應劭曰、縣在二漯水之南一、因名、後漢曰二隰陰一、或曰、漯、亦音他合反、則左傳之隰、漢書之漯、或皆傳寫之譌、當二以濕爲一正也、建安八年、袁譚將劉詢、起二兵漯陰一以叛一譚、漯、亦當レ作二濕、晉縣省。

【漯河】2 タフカ 黄河の故道。源は山東省茌平縣の西南。徒駭河に注ぐ。古の漯水の殘餘。漯水を見よ。

【漯水】3 タフスイ 川の名。古の漯水は黄河の故道。河南省武涉縣から分れて今の黄河の北を行き、河北を經て山東に至り、改めて今の黄河の南を行き、海に注ぐ。〔書、禹貢〕浮二于濟漯一、達二于河一。〔漢書、地理志上、東郡、云云、東武陽、注〕禹治二漯水一、東北至二千乘一入レ海、過レ郡三、行千二十里。〔尚書地理今釋〕今山東朝城縣南有二漯河陂一、高苑縣北有二漯河一、禹城縣西二里有二漯河一、名二源河一、俗又名二土河一、朝城、漢之東武陽縣、高苑、漢之千乘縣、禹城、漢之高唐縣、漯水本出二高唐一、至二千乘一入レ海、禹導レ海至二大伾一、始分二河之一支一、東北流、道經二東武陽一、至二高唐一、合二漯水一、自レ合二漯水一、則高唐以南、武陽以北之河、皆被以二漯名一矣。〔禹貢錐指〕以今輿地言レ之、濬縣・滑縣・開州・清豐・觀城・濮州・范縣・朝城・莘縣・堂邑・聊城・清平・博平・禹城・臨邑・濟陽・章丘・鄒平・齊東・青城・高苑諸州縣界中、皆古漯水所經、自二宋世河決一、商胡一、朝城流絶、而舊迹之存者鮮矣。

【漯灣河】4 タフワン 地名。河南省鄭城縣の東。又漯灣渡といふ。京漢鐵路に沿ふ。〔清一統志〕澧河自縣東南漯灣渡一北流合二沙河一。

【漳】18174

シヤウ 〔集韻〕諸良切 陽 chang¹

小篆 ●さわへる。ふさぐ。とりで。障(11－41821)に通ず。〔韓詩外傳、三〕漳汸而清。〔注〕漳・障、古通。●川の名。漳水(10)を見よ。〔說文〕漳、水名、从レ水章聲、濁漳出二上黨長子鹿谷山一、東入二清漳一、清漳出二沾山大要谷、北入レ河、南漳出二南郡臨沮一。〔段注〕水名二字、古本當レ作二漳水也三字一。

【漳陰】1 シヤウイン 縣名。隋、置く。河北省大名縣の西北、故の魏縣の西。〔讀史方輿紀要、直隸、大名府、魏縣〕漳陰城、在二縣西南一、隋開皇十六年、析二魏縣地一置二漳陰縣一、屬二魏州一、大業初廢、唐武德四年、復置二漳陰縣一、貞觀初仍省入二魏縣一。

【漳河】2 シヤウガ 川の名。●河北省清河縣の南。隋の大業中、姚暹をして疏決せしめ、上漳渠水より此の渠に入る。又、姚暹河と名づける。煬帝、遼を征して回り、舟を此處に泛べ、回鑾河といふ。今、湮滅す。●漳水(10)の●を見よ。

【漳江】3 シヤウカウ 川の名。源は福建省平和縣の大峯山。東南流し、雲霄縣の境に入り、海に注ぐ。又、雲霄溪といふ。〔唐書、地理志五〕漳州、以レ南有二漳水一爲レ名。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府、漳浦縣〕縣南八十里、其上流曰二西林溪一、出二平和縣界一、南流過二雲霄鎮城北一、亦名二雲霄溪一、又南流而東納二梁山以南諸溪水一、至二鼓雷山南銅山所北一入二于海一、志云、溪水自二西林一而出、海水自二銅山海門一而入、清濁合而成レ章、故曰二漳水一。

【漳鄉】4 シヤウキヤウ 地名。湖北省當陽縣の東北。漳水、其の南を逕る。者、關羽が其の子の平と死んだ處。一に章鄉に作る。〔水經、漳水注〕南歷二臨沮縣之章鄉南一、昔關羽保二麥城一、詐降而遁、潘璋斬二之于此一。〔讀史方輿紀要、湖廣、安陸府、荆門州、當陽縣〕漳河口鎮、志云、縣北有二漳鄉一、水經注、漳水經二臨沮縣之漳鄉南一。

【漳渠】5 シヤウキヨ 川の名。漳水(10)の●に同じ。〔左思、魏都賦〕石杠飛梁、出二控漳渠一。〔注〕劉曰、魏武帝時、堰漳水在二鄴西十里一、名曰二漳渠堰一、東入二鄴城一、經二宮中一、東出、南北二溝夾レ道、東行出レ城、所レ經二石竇一者也。

【漳縣】6 シヤウケン 縣名。元、置く。甘肅省隴西縣の西南。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府〕漳縣、府南七十里、西南至二岷州衛一百八十里、漢襄武縣地、後漢置二鄣縣一、仍屬二隴西郡一、云云、元至元十七年、置二漳縣一、今編戶六里。

【漳湖】7 シヤウコ 湖の名。安徽省望江縣の東北。〔讀史方輿紀要、江南安慶府、望江縣〕漳湖、縣東北六十里、其上流爲二武昌湖一。

【漳州】8 シヤウシウ 府名。明、置く。唐には漳州といひ、元には漳州路といふ。福建省龍溪縣の治。唐の漳州。元の漳州路。清は龍溪・海澄・南靖・漳浦・平和・詔安・長泰の七縣及び雲霄廳を領す。〔讀史方輿紀要、福建〕漳州府、禹貢揚州地、周閩越地、秦屬閩中郡、漢屬會稽郡、云云、唐初仍屬二泉州一、垂拱二年、始置二漳州一、天寶初、曰二漳浦郡一、乾元初、復爲二漳州一、五代晉開運三年、南唐改曰二南州一、宋仍曰二漳州一、明初曰二漳州府一、今領二縣十一一。〔清史稿、地理志〕福建、漳州府、領二縣七、廳一一、龍溪・海澄・南靖・漳浦・平和・詔安・長泰・雲霄廳。

【漳絨】9 chang¹ jung² 絲織物。福建省の漳州に產す。

【漳水】10 シヤウスイ 川の名。●今、漳河と名づけ、清漳水と濁漳水との二源がある。清漳水は山西省平定縣の東南の沾嶺より出で、濁漳水は山西省長子縣の發鳩山に出で、二水分流して河南省涉縣の東南の合漳村に至り、合して一となり、又、東南、河北省大名縣治の南を逕て衞河に入る。〔讀史方輿紀要、直隸、大川、漳水〕漳水有二二源一、濁漳水、出二山西長子縣西五十里之發鳩山一、經二潞安府西南二十里、東北流歷二襄垣・潞城・平順縣北、黎城縣南一、入二河南彰德府林縣境一、過二縣北一、至二臨漳縣西一、而合二於清漳一、清漳水、出二山西樂平縣西南二十里之少山一、入二遼州和順縣一、經二縣西一、至二州東南一、又歷二潞安府黎城縣東北一、入二彰德府涉縣南境一、過二磁州南一、至二臨漳縣西一、而合二於濁漳一、此漳水之上流歷久不レ變者也、自レ是而下、雖二決徙不レ常一、然大抵分爲二兩途一、其一爲二漳之經流一、禹貢所レ稱二橫漳一者也、云云、或謂二之衡水一、或謂二之枯洚水一、或謂二之葫蘆河一、或謂二之長蘆河一、其實皆漳水也。●源は湖北省南漳縣の西南の蓬萊洞山。東南流して沮水に合し、又、東南に流れて江に注ぐ。〔左氏、哀、六〕江漢睢漳、楚之望也。●古の章水。源は湖北省隨縣の西南の大洪山の東。淇水に合す。〔讀史方輿紀要、湖廣、德安府、安陸縣〕漳水、府西南五十里、亦出二大洪山一、經二京山應城縣界一、流入レ境、下流合二淇水一、沈括曰、清濁相揉曰レ漳、漳、

交也、別有雲夢之漳、與沮水合流、色理如蟉蝀數十里、方混其處、謂之漳口。㊃漳江(3)を見よ。㊄上源を遮陽河といふ。甘肅省岷縣の崆峒山の北麓に出で、漳縣の南を經て漳河といふ。武山縣の西北に至つて渭水に入る。本名は彰川。又、鄣水といふ。〔讀史方輿紀要、陝西、鞏昌府、漳縣〕漳水、縣南三里、本曰鄣川、水經注謂之鄣川、從後魏縣名也、源出縣西本寨坡西傾山之西、傾水自縣西北注之、箭笮山之東巾谷水、自縣西南注之、並流而東北、以入於渭。

【漳水野翁】11 ヤヤウスイ 金、鄒權(11－39753：8)「の號。

【漳澨】12 ショウセイ 地名。漳水のほとり。湖北省當陽縣。〔左氏、宣、四〕王以三王之子、爲質焉、弗受、師于漳澨。〔注〕漳澨、漳水邊。〔疏〕漳水出新城沶縣南、至荆山東南、經襄陽南郡當陽縣入沮。

【漳緞】13 シャウタン 絲織物。福建省漳州に產する。緞を地とし、花紋も純絨で、甚だ柔く厚いので上等衣料となる。

【漳南】14 シャウナン 漳水の南。〔史記、項羽紀〕章邯軍棘原、項羽軍漳南、相持未戰。〔唐書、竇建德傳〕正本等曰、大王奮布衣、起漳南、隋之列城、莫不爭附者、以能仗順扶義、安四方也。〔王安石、次韻酬龔深甫詩〕他日杜詩傳渭北、幾時周宅對漳南。

【漳南布衣】15 ショウナンフイ 明、陳眞晟(11－41698：1019)の號。

【漳汸】16 ショウハウ 障防(11－41821：33)に同じ。〔韓詩外傳、三〕夫水漳汸而清、似知命者。〔注〕漳・障、汸・防、古通。

【漳平】17 シャウヘイ 縣名。❶南齊、置く。廣東省舊廉州府の境。〔讀史方輿紀要、廣東、廉州府、合浦縣〕漳平廢縣、在府東、宋志、臨漳郡無縣、齊志爲郡治、梁陳間郡縣俱廢、漳、亦作鄣、又作瘴、以臨巢內瘴江爲名、瘴水卽合浦江也。❷明、置く。福建省龍巖縣の東。〔讀史方輿紀要、福建、漳州府〕漳平縣、本龍巖縣地、成化三年、縣民林廷琥等、以地險遠、賦稅不供、請別置縣、從之、七年置今縣、治九龍溪北、縣居漳上流千山中、地稍平衍、因曰漳平。〔清史稿、地理志〕福建、龍巖直隸州、縣二、漳平。

【漳浦】18 ホ ❶漳水のうらべ。〔王粲、羽獵賦〕濟漳浦而橫陳、倚紫陌而並征。〔鄭愔、銅雀妓詩〕日斜漳浦望、風起鄴臺寒。〔白居易、江州赴忠州、至江陵、以來舟中示舍弟五十韻詩〕長沙拋賈誼、漳浦臥劉楨。❷縣名。唐、置く。福建省龍溪縣の南。〔唐書、地理志五〕漳州、漳浦郡、垂拱二年、析福州西南境、置、以南有漳水、爲名、并置漳浦・懷恩二縣。〔清史稿、地理志〕福建、漳州府、縣七、漳浦。「號。

【漳埜】19 ショウヤ 明、李新芳(6－14459：1526)の

【漳臘】20 ショウラウ 地名。四川省松潘縣の北。明の嘉靖中、城堡を築き、清、改めて營とす。〔讀史方輿紀要、四川、松潘衛〕漳臘堡、衛北三十八里、舊治於下潘川、在司北七百餘里、景泰中、撫臣羅綺記曰、漳臘、潘州城故址也。

【漳綠】21 シャウリョク 清、郭士雲(11－39474：301)の字。

【漳餘子】22 シャウヨシ 明、岳岱(4－8001：27)の號。

【澈】18319

テツ デチ 〔集韻〕直列切 屑 イヒ ch'ê

❶水がすむ。きよい。〔玉篇〕澈、水澄也。〔關尹子、九藥〕論道者或曰、澄澈。❷水がつきる。〔易乾鑿度〕地道距水澈。〔注〕地道以水盡、爲澈。❸誤つて徹(4－10245)に作る。〔詩、唐風、揚之水、白石粼粼、傳〕粼粼、清澈也。〔釋文〕澈、或作徹、誤。

【澈査】1 ch'è ch'a² 詳しく調査する。

【澈齊】2 チェサイ 宋、陶崇(11－41705：105)の號。

【澈底】3 チェテイ どこまでも行きとどく。徹底(4－10245：21)に同じ。

【澈漠】4 チェバク 清らかなこと。〔列女傳、賢明傳〕澈漠酒醴羞饋食。

【澠】18378

㊀シャウ ジャウ 〔集韻〕神陵切 蒸 ㄕㄥˋ shêng²

㊁ビン ミン 〔集韻〕弭盡切 軫 ㄅㄧㄣˇ min³

㊂ベン メン 〔集韻〕彌兗切 銑

㊀川の名。通じて繩(8－27937)に作る。澠水(3)を見よ。〔集韻〕澠、水名。〔韻會小補〕澠、通作繩。㊁㊂❶池の名。澠池(5)の❶を見よ。〔集韻〕澠、澠池、水名。❷或は黽(12－48257)に作る。〔集韻〕澠、或作黽。❸通じて沔(6－17207)に作る。〔集韻〕澠、通作沔。❹姓。〔萬姓統譜〕澠、見姓苑。

【澠河】1 ガ 川の名。源は河南省澠池縣の西北の廣陽山。南流して穀水に入る。

【澠淄】2 ジシ 澠水と淄水。古、易牙が能く此の二水の味を辨じた。淄繩。〔孟子、告子上、至於味、天下期於易牙、疏〕澠淄二水爲食、易牙亦知二水之味、桓公不信、數試始驗。〔沈約、君子行〕良御惑燕楚、妙察亂澠淄。

【澠水】3 スイ 川の名。一名、漢溱水。山東省臨淄縣の西北。古の齊城外より西北流し、麻大湖に注ぐ。〔左氏、昭、十二〕有酒如澠、有肉如陵。〔注〕澠水、出齊國臨淄縣、北入。時水。〔釋文〕澠、音繩。〔水經、淄水注〕(淄水)又東北流、澠水注之、水出營城東、世謂之漢溱水也。

【澠水燕談錄】4 スイエンダンロク 書名。十卷。宋、王闢之撰。紹興以前の雜事を記したもの。十五類、三百六十有餘條に分つ。〔四庫提要、子、小說家類〕。

【澠池】5 ベン ❶池の名。河南省宜陽縣の西。〔漢書、地理志上〕宜陽縣在澠池。〔水經、洛水注〕山際有池、池水東南流、水側有一池、世謂之澠池矣、又東南逕宜陽縣故城西、謂之西度水、又東南流入於洛。❷縣名。漢、置く。戰國、韓の邑。又、黽池に作る。今、河南省河南道。〔史記、六國年表〕趙惠文王二十年、與秦會澠池。〔讀史方輿紀要、河南、河南府〕澠池縣、本韓地、後屬秦、漢置縣、屬弘農郡、以縣在崤澠間、故名。〔清史稿、地理志〕河南、河南府、清初沿明制、領州一縣十三、澠池。❸明、楊應奎(6－15112：44b)の號。

【澠池會】6 クワイ 藺相如が趙の惠文王を援けて、秦の昭王と澠池に會し、大いに國威を揚げた故事。〔史記、廉頗藺相如傳〕秦王使者告趙王、欲與王爲好、會於西河外澠池、趙王畏秦、欲毋行、廉頗・藺相如計曰、王不行、示趙弱且怯也、趙王遂行、相如從、廉頗送至境、與王訣曰、王行、度道里會遇之禮畢、還不過三十日、三十日不還、則請立太子爲王、以絕秦望、王許之、遂與秦王會澠池、秦王飲、酒酣曰、寡人竊聞趙王好音、請奏瑟、趙王鼓瑟、秦御史前書曰、某年月日、秦王與趙王會飲、令趙王鼓瑟、藺相如前曰、趙王竊聞秦王善爲秦聲、請奉盆缶秦王、以相娛樂、秦王怒不許、於是相如前進缶、因跪請秦王、秦王不肯擊缶、相如曰、五步之內、相如請得以頸血濺大王矣、左右欲刃相如、相如張目叱之、左右皆靡、於是秦王不懌、爲一擊缶、相如顧召趙御史、書曰、某年月日、秦王爲趙王擊缶、秦之羣臣曰、請以趙十五城、爲秦王壽、藺相如亦曰、請以秦之咸陽、爲趙王壽、秦王竟酒、終不能加勝於趙、趙亦盛設兵以待秦、秦不敢動、既罷歸國、以相如功大、拜爲上卿。〔盧諶、覽古詩〕爰在澠池會、二王克交歡。

【澠坂】7 ベンバン 地名。南坂・北坂があり、戰國の時、秦・趙の二王が澠池の會を行つたところ。河南省澠池縣の西北。

【澠阨】8 ベンヤク 九塞の一。黽阨(12－48257：1)に同じ。又、冥阨(2－1588：101)・鄳阨(11－39676：2)に作る。〔淮南子、墜形訓〕何謂九塞、曰、太汾・澠阨・荆阮・方城・殽阪・井陘・令疵・句注・居庸。〔注〕澠阨、今弘農澠池、是也。

【澼】18428

㊀ヘキ ヒャク　〔集韻〕匹歷切 錫 p'iɛ̄
㊁ケキ キャク　〔集韻〕詰歷切 錫
㊂ヘキ ヒャク　〔集韻〕匹辟切 陌

㊀㊁**水中でわたを打つ。**〔集韻〕澼、漂也。〔莊子、逍遙遊〕世世以二洴澼絖一爲レ業。〔疏〕澼、漂也。㊂**腸の間の水。**〔集韻〕澼、腸間水。

【澮】18448

㊀ショク シキ　〔集韻〕殺測切 職 ʃɨ̄k
㊁シブ　〔集韻〕色入切 緝 sɨ̄p

澮 小篆 澮(7－18610)に作る。〔正字通〕澮、本作レ澮。〔說文〕澮、不レ滑也、从レ水嗇聲。〔素問、至眞要大論〕短而澮。〔注〕往來不レ利、是謂レ澮。㊀**蹙**(6－16324)・**澀**(7－18311)に同じ。〔集韻〕蹙、或作レ澮。〔正字通〕澮、同レ澀。

【澮雪】1 セツ　霰をいふ。〔埤雅、釋天、雪〕說文曰、霰、稷雪也、閩俗謂二之米雪一云云、今名二澮雪一、亦曰二濕雪一。

【澮痛】2 ツウ　しぶるいたみ。〔本草、蕭蓄〕附方、熱淋澮痛、扁竹煎湯頻飲。

【澮毛】3 モウ　なめらかでない毛。ざらざらする毛。澀毛。〔本草、忍冬〕集解、時珍曰、葉以二薛荔一而青、有二澮毛一。

【澮脈】4 ミャク　脈がしぶりとどこほること。〔本草綱目、瀕湖脈學〕澮脈、細而遲、往來難、短且散、或一止復來。

【澮斂】5 レン　藥性の凝結すること。「(3)の號。

【澮溪下農】6 カノウ　清、朱一是(6－14424・66

【澲】18563

㊀ロク　〔集韻〕盧谷切 屋 luo̍k
㊁ロク　〔集韻〕盧督切 沃
㊂ホク　〔集韻〕普木切 屋
四ラク　〔集韻〕歷各切 藥
五ラク　〔集韻〕力角切 覺
六ハク　〔集韻〕匹各切 藥 po̍k
七レキ リャク　〔集韻〕狼狄切 錫
八ヤク　〔集韻〕弋灼切 藥
九シャク　〔集韻〕式灼切 藥

澲 小篆 見よ。〔說文〕澲、齊魯間水也、从レ水樂聲。〔段注〕按、澲之言、竇也、凡水所レ行之孔曰レ澲、小大皆得レ稱レ澲。㋑邑中の汚濁を流すみぞ。下水。〔說文〕澲、一曰、邑中曰レ溝。〔說文通訓定聲〕澲、田間曰レ溝、邑中曰レ澲。㋺田間のみぞ。〔說文、澲、段注〕井間廣四尺、深四尺者也。〔周禮、秋官、雍氏〕溝澲澮池之禁。〔注〕溝澲澮、田間通二水者一也。〔論語、憲問〕自經二於溝澲一。〔劉寶楠正義〕此以二溝澲一爲二田間水道一。㋩こみぞ。どぶ。〔史記、屈原賈生傳〕尋常之汚澲兮。〔注〕索隱曰、澲、小渠也。㊀**大川**。海へ濁りを流す大川。隤(11－41894)に通ず。〔說文通訓定聲〕澲、叚借爲レ隤。〔爾雅、釋水〕江・河・淮・濟爲二四澲一。〔白虎通、巡狩〕謂二之澲一何、澲者、濁也、中國垢濁發レ源、東注レ海、其功著大、稱レ澲也。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕山澲效レ靈〔注〕善曰、澲、四澲也。㊁**にごる。にごり。**〔白虎通、巡狩〕澲者、濁也。㊃**けがれる。けがす。**嬢(3－6860)に通ず。〔說文通訓定聲〕澲、叚借爲レ嬢。〔禮、表記〕再三澲、澲則不レ告。〔注〕澲之言、褻

【澲流】3 リウ　川の名。澲水に同じ。〔新書、道德說〕康若二澲流一謂二之神一。

【瀆】18591

㊀トク ドク　〔集韻〕徒谷切 屋 dɔ̍k
㊁トウ ヅ　〔集韻〕大透切 宥 tu̍
㊂タク ダク　〔集韻〕直角切 覺

瀆 小篆 ㊀㊀**みぞ。**もと瀆(7－18789)に作る。〔說文〕瀆、溝也、从レ水賣聲。〔段注〕按、瀆之言、竇也、凡水所レ行之孔曰レ瀆、小大皆得レ稱レ瀆。㋑邑中の汚濁を流すみぞ。下水。〔說文〕瀆、一曰、邑中曰レ溝。〔說文通訓定聲〕瀆、田間曰レ溝、邑中曰レ瀆。㋺田間のみぞ。〔說文、瀆、段注〕井間廣四尺、深四尺者也。〔周禮、秋官、雍氏〕溝瀆澮池之禁。〔注〕溝瀆澮、田間通二水者一也。〔論語、憲問〕自經二於溝瀆一。〔劉寶楠正義〕此以二溝瀆一爲二田間水道一。㋩こみぞ。どぶ。〔史記、屈原賈生傳〕尋常之汚瀆兮。〔注〕索隱曰、瀆、小渠也。㊀**大川**。海へ濁りを流す大川。隤(11－41894)に通ず。〔說文通訓定聲〕瀆、叚借爲レ隤。〔爾雅、釋水〕江・河・淮・濟爲二四瀆一。〔白虎通、巡狩〕謂二之瀆一何、瀆者、濁也、中國垢濁發レ源、東注レ海、其功著大、稱レ瀆也。〔顏延之、三月三日曲水詩序〕山瀆效レ靈〔注〕善曰、瀆、四瀆也。㊁**にごる。にごり。**〔白虎通、巡狩〕瀆者、濁也。㊃**けがれる。けがす。**嬢(3－6860)に通ず。〔說文通訓定聲〕瀆、叚借爲レ嬢。〔禮、表記〕再三瀆、瀆則不レ告。〔注〕瀆之言、褻也。㊄**あなどる。**黷(12－48234)に通ず。〔說文通訓定聲〕瀆、叚借爲レ黷。㋑あなどり輕んずる。〔易、繫辭下〕上交不レ諂、下交不レ瀆。〔左氏、昭、二十六〕國有二外援一、不レ可レ瀆也。〔注〕瀆、慢也。〔國語、晉語五〕瀆二其信一也。〔注〕瀆、輕也。㋺狎れ近づく。〔左氏、昭、二十六〕貫二瀆鬼神一。〔注〕瀆、易也。㋩**みだす。みだる。**〔字彙〕瀆、慝也。〔易、蒙〕再三瀆、瀆則不レ告。〔疏〕童蒙聞レ之、轉亦瀆亂。㋥**かへる。**變易する。〔康熙字典〕瀆、又易也、左傳成十六年、瀆二齊盟一而食二話言一。㋭**かぞへる。**〔左氏、昭、十三〕瀆二貨無レ厭一。〔注〕瀆、數也。㋬**やぶれる。**くだける。殯(6－16601)に通ず。〔說文通訓定聲〕瀆、叚借爲レ殯。〔太玄經、難〕凍冰瀆。〔注〕瀆、敗也。㋮**かさなる。かさねる。**〔正字通〕瀆、重複也。㋯或は竇(8－25695)に作る。〔集韻〕瀆、或作レ竇。㋰**姓。**〔萬姓統譜〕瀆弘之、漢人。㊀㊁**あな。**竇(8－25695)に同じ。〔字彙〕瀆、與レ竇同。〔左氏、襄、三十〕伯有自二墓門之瀆一入。㊁句瀆は、地名。〔集韻〕瀆、句瀆、宋地名。㊂**かぞへる。**〔集韻〕瀆、數也。

【瀆汙】1 トク　けがす。けがれる。〔關氏易傳〕洗二濯物心一、無レ所二瀆汙一、謂二之洗心一。

【瀆控】2 コウ　訴へ出て官署を煩はす。〔謝彬、新疆遊記〕一次清理之後、無レ論二何屬人民一、不レ得二違章瀆控一。

【瀆溝】3 tu̍ Kou̍　みぞ。どぶ。

【瀆告】4 コク　再三再四聞きなれた說を告げて之をけがすこと。くどくいふ。轉じて、貴人に告げる時の謙辭。〔易、蒙〕再三瀆、瀆則不レ告。〔程傳〕初筮告、謂二至誠一、意以求二己則告一之、再三則瀆慢矣、故不レ告也。〔韓愈、送二浮屠文暢師一序〕告レ之以二帝三王之道、日月星辰之行、天地之所二

以著一、鬼神之所二以幽一、人物之所二以蕃一、江河之所中以流上而語二之一、不レ當レ又爲二浮屠之說一、而瀆中告之上也。〔賴山陽、上二樂翁公一書〕敢有レ所二瀆告一。

【瀆懇】5 tu² k'en³ 依賴する。

【瀆琄】6 tu² suo³ けがしわづらはす。

【瀆山】7 ザン 山名。又、汶山・岷山・鐵豹嶺・沃焦山といふ。四川省の松潘縣。〔史記、封禪書〕瀆山、蜀之汶山。〔水經、江水注〕岷山則瀆山也。〔讀史方輿紀要、四川、名山〕岷山、岷山、在二成都府茂州西北五百里一、地名二列鵝村一、一名鐵豹嶺、一名沃焦山、云云、又封禪書、自レ華以西名山曰二瀆山一、瀆山者、汶山也、汶、與レ岷通、漢書作二嶓山一、亦作二岐山一。

【瀆者】8 tu² che³ 書簡文用語。茲に御願申上度件有レ之候の意。

【瀆職】9 ショク 官公吏が執務上不都合の行爲をなして職務をけがし辱めること。汚職。

【瀆職罪】10 ザイ ショク 公職をけがし辱めた罪。職權濫用・收賄・贈賄など。

【瀆水】11 トク スイ 川の名。源は瀆山。〔水經、江水注〕水曰二瀆水一矣。

【瀆請】12 セイ なれなれしくうかがふ。〔福惠全書、庶政部、額外雜辨〕若再行二瀆請一、上司又以二本官一無レ才。

【瀆擾】13 ゼウ けがし亂す。みだし騷がす。〔福惠全書、編審部、審後出示〕妄行二瀆擾一、定行二重責一。

【瀆宗】14 ソウ 四瀆の宗流。卽ち、黃河をいふ。〔漢書、溝洫志贊〕中國川原、以レ百數、莫レ著二於四瀆一、而河爲レ宗。

【瀆犯】15 ハン けがしをかす。〔蘇軾、上二神宗皇帝一書〕自知レ瀆二犯天威一、罪在レ不レ赦。

【瀆煩】16 tu² fan² けがし煩はす。

【瀆分】17 フン 人道の本分を汚すこと。不倫の行。〔宋史、向后傳〕安有二姑居一西、而婦處一東、瀆二上下之分一。

【瀆紊】18 トク けがしみだすこと。瀆亂。

【瀆慢】19 トク マン 狎れあなどる。褻慢。〔宋史、范師道傳〕夫婦人女子、與二小人之性一同、寵幸大過、則瀆慢之心生。

【瀆亂】20 トク ラン けがしみだすこと。瀆紊。〔賈公彥、序二周禮廢興一〕武帝知二周官末世瀆亂不驗之書一。

【瀆盧國】21 コク 古、朝鮮に在つた小國の名。弁辰に屬す。〔魏志、東夷、弁辰傳〕弁辰瀆盧國。

【瀆井復民】22 トク セイ フク ミン 清、桂馥（6－14755：113）の號。

【毀レ瀆而止レ水】23 ミゾ ヲコボチテ ミヅヲ トドム みぞをこはして水を堰きとめること。やればやる程逆效果を及ぼす喩。〔淮南子、說林訓〕若二被レ簑而救レ火、毀レ瀆而止レ水、乃愈益多。

【瀫】18676

コク ゴク 〔集韻〕胡谷切 屋

❶水の音。或は穀（7－18000）に作る。〔集韻〕瀫、水聲、或作レ穀。❷川の名。浙江省の境。衢江（10－34090：3）を見よ。〔清一統志〕衢江、自二衢州府龍游縣一流入、經二陽溪縣一、又北入二蘭溪縣界一、又至二蘭陰山下一、與二婺港一合、統名曰二蘭溪一、又名二瀫水一、以二水紋類一羅穀一、故名。

【熇】19291

転載項目 36

㊀コク 〔集韻〕呼酷切 ㄏㄨˋ hu⁴ 沃

㊁コク 〔集韻〕呼木切 ㄏㄨˋ 屋

㊂カク 〔集韻〕黑各切 ㄏㄜˋ 藥

㊃ケウ 〔集韻〕虛嬌切 ㄒㄧㄠ 蕭

㊄カウ ケウ 〔集韻〕虛交切 ㄒㄧㄠ 看 K'ao³

㊅カウ コウ 〔集韻〕苦浩切 ㄎㄠˇ 皓

㊆カウ コウ 〔集韻〕口到切 ㄎㄠˋ 號

熇 小篆

㊀㊁❶あつい。火があつい。〔說文〕熇、火熱也、从レ火高聲。❷やく。〔玉篇〕熇、燒也。❸さかんなさま。熇熇。〔詩、大雅、板〕多將二熇熇一。〔傳〕熇熇然熾盛也。〔疏〕熇熇、是熾盛之貌。㊃❶❷さかんなさま。熇（6－16161）に同じ。〔韻會〕熇、或作レ歊。㊂❶火がさかんなさま。熇（10－35828）に同じ。〔爾雅、釋訓、謔謔謞謞、崇二讒慝一也、疏〕舍人曰、謔謔謞謞、皆盛烈貌、謞・熇音義同。〔集韻〕熇、熾也。❷あつい。〔廣韻〕熇、熱皃。㊄ほのほ。燏（7－19400）に同じ。〔集韻〕熇、炎氣也、或从レ喬。㊅❶日にさらす。炛（7－18861）に同じ。〔集韻〕炛、暴也、或从レ高。❷きびしい。熇熇。嗃（2－4041）に通ず。〔易、家人、家人嗃嗃、釋文〕劉作二熇熇一。〔疏〕嗃嗃、嚴酷之意也。㊆かわく。かわかす。爍（7－19511）に同じ。〔集韻〕爍、燥也、或省。㊇あぶる。或は焞（7－19071）に作る。〔集韻〕熇、煻也、或从レ告。

【熇赫】1 コク カク あつさ。炎熱。〔淨住子、訶詰四大門〕季夏鬱蒸、熇赫炎烈。

【熇牛】2 k'ao³ niu² 夏日、酒か醬油で煎りつけた牛肉。

【熇歊】3 コク カク 火氣の盛にのぼること。〔韓愈・孟郊、征蜀聯句〕褻レ堞熇歊熺、抉二門呀拗闖。

【熇熇】4 コク コク 火のさかんなさま。慘毒な惡行の喩。譌譌。〔詩、大雅、板〕多將二熇熇一、不レ可二救藥一。〔傳〕熇熇然熾盛也。〔箋〕多行二熇熇慘毒之惡一、誰能止二其禍一。〔賈誼、旱雲賦〕陽風吸習、熇熇羣生。

【熇暑】5 コク ショ 甚だしいあつさ。熱暑。酷暑。〔左思、魏都賦〕宅土熇暑、封疆障癘。〔注〕善曰、埤蒼曰、熇、熱貌。

【熇蒸】6 コク ジョウ あつい。炎熱。又、あつさ。炎氣。〔舊五代史、刑法志〕適當二長養之時一、正屬二熇蒸之候一。

【熇焚】7 コク フン あぶりやく。〔柳宗元、詠史詩〕寧知世情異、嘉穀坐熇焚。

【熇尾蛇】8 コク ビダ 蛇の一種。ひばかり。〔本草、諸蛇〕集解、熇尾者、葛洪云、熇尾蛇、似二青蝰一、其尾三四寸、有二異色一、最毒。

【炅】

18896

小篆 炅

㊀ケイ キヤウ　〔集韻〕畎迥切 ㄐㄩㄥˇ chiung³ 迥

㊁ケイ キヤウ　〔集韻〕俱永切 梗

㊂エイ ヤウ　〔篇海〕於警切 梗

㊃ケイ　〔集韻〕涓惠切 ㄍㄨㄟˋ kuei⁴ 霽

㊀❶あらはれる。光があらはれる。〔説文〕炅、見也、从二火日一。❷ひかる。〔廣韻〕炅、光也。❸ねつ。熱氣。〔素問、擧痛論〕得レ炅則痛立止。〔注〕炅、熱也。❹人身の元氣。炅炅。〔正字通〕炅、方書、炅炅、人身元陽、無形眞火也、有レ形則爲二亢陽一、少レ火生レ氣、壯レ火食レ氣、字从レ日从レ火、大明在レ上、火微不レ見二其形一、故取以況二眞火一。㊄或は昏(5－13800)に作る。〔集韻〕炅、或作レ昏。㊁ひかる。或は耿(9－29026)に作る。〔集韻〕炅、光也、或作レ耿。㊂煙の出るさま。〔篇海〕炅、煙出貌。四❶煙の出るさま。炔(7－18917)に同じ。〔玉篇〕炔、煙出貌、炅、同レ炔。❷あきらか。炷(7－19004)に同じ。〔集韻〕炷、博雅、明也、通作二昏・炅一。❸姓。〔廣韻〕桂、又姓、後漢太尉陳球碑、有二城陽炅横一、漢末被レ誅、有二四子一、一守二墳墓一姓二炅一、一子避難居二徐州一姓レ昏、一子居二幽州一姓レ桂、一子居二華陽一姓レ炔、此四字皆九畫、古惠切。

解字　會意。日と火とを合せて光のあらはれる意を表はす。字解を見よ。

【炅隆】1 ケイ リュウ　明、郭武(11－39474：198)の字。

【炱】

18957

小篆 炱

タイ ダイ　〔集韻〕堂來切 ㄊㄞˊ t'ai² 灰

❶すす。煙塵。或は炲(7－18958)に作る。〔説文〕炱、灰炱煤也、从レ火台聲。〔説文通訓定聲〕炱、今蘇俗謂二之烟塵一、通俗文、積烟爲二炱煤一。〔玉篇〕炱、炱煤、煙塵也。〔集韻〕炱、或書作レ炲。❷黒い色。〔素問、風論〕其色炱。〔注〕炱、黒色也。❸亦、焃(7－19063)・炫(7－19010)に作る。〔説文通訓定聲〕炱、字亦作レ焃、又作レ炫。

【炱朽】1 キウ　腐朽して塵あくたのやうになること。〔唐書、馬懷素傳〕是時文籍盈漫、皆炱朽蟬斷、籤縢紛舛。

【炱煤】2 バイ　すす。煙塵。〔説文〕炱、灰炱煤也。〔玉篇〕炱、炱煤、煙塵也。〔一切經音義、十五引通俗文〕積烟爲二炱煤一。〔陸機、君子行、拾レ塵惑二孔顔一、注〕善曰、呂氏春秋曰、回曰、不可、嚮者炱煤入二甑中一、弃レ食不祥、回因攫而食レ之。

【炲】

18958

タイ　炱(7－18957)に同じ。炱或書作レ炲。

【焃】

19063

㊀アイ　〔集韻〕於開切 灰

㊁キ　〔集韻〕虚其切 支

㊀❶かがやく。〔玉篇〕焃、炫也。❷やく。〔廣雅、釋詁二〕焃、藝也。❸あつい。あつさが甚しい。〔玉篇〕焃、熱也。〔集韻〕焃、一曰、熱甚。㊁❶火の盛なさま。〔集韻〕焃、火盛皃。❷熹(7－19380)・譆(10－35938)に通ず。〔廣雅、釋詁二〕焃、藝也、疏證〕焃・熹・譆並通。

【焞】

19107

小篆 焞

㊀トン ドン　〔集韻〕徒渾切 ㄊㄨㄣˋ t'uen² 元

㊁タイ ツイ　〔集韻〕通回切 灰

㊂サン　〔集韻〕祖管切 旱

㊃ソン　〔集韻〕祖寸切 願

㊄シュン ジュン　〔集韻〕殊倫切 眞

㊀❶あきらか。もと燇(7－19564)に作る。〔正字通〕焞、篆作レ燇。〔説文〕燇、明也、从レ火羣聲、春秋傳曰、燇二燿天地一。❷亀甲を灼く火。〔集韻〕焞、灼レ亀火也。❸焞焞は、うすぐらい。〔玉篇〕焞、焞焞、無二光曜一也。❹亦、燉(7－19403)に作る。〔説文通訓定聲〕焞、字亦作レ燉。㊁焞焞は、勢の盛なさま。通じて哼(2－3812)に作る。〔集韻〕焞、焞焞、盛也、通作レ哼。㊂四亀甲を灼く。或は焌(7－19079)に作る。〔集韻〕焞、灼レ亀也、或作レ焌。〔儀禮、士喪禮〕楚焞置二于燋一、在二亀東一。〔注〕楚、荆也、荆焞、所二以鑽一灼亀一者。㊄❶あきらか。〔集韻〕焞、博雅、明也。❷亀甲をやく火。〔集韻〕焞、一曰、灼レ亀炬。❸火の色。〔韻會小補〕焞、火色也。

【焞焞】1 トン　❶光の無いさま。星が日月に近づいたためかすかに見えるさま。〔左氏、僖、五〕鶉之賁賁、天策焞焞、火中成レ軍、虢公其奔。〔注〕天策、傳説星、時近二日星一微、焞焞無二光耀一也。〔國語、晉語二〕天策焞焞、注〕焞焞、近二日月一之皃也。❷トントン　盛なさま。漢書、韋玄成傳は、推推に作る。〔詩、小雅、采芑〕戎車嘽嘽、嘽嘽焞焞。〔傳〕焞焞、盛也。〔釋文〕焞、吐雷反、又他屯反。

【焠】

19111

小篆 焠

サイ スイ　〔集韻〕取内切 ㄘㄨㄟˋ ts'uei⁴ 隊

❶にらぐ。刀劍を鑄る時に、其の質を堅くするために燒いて水につけること。通じて淬(7－17679)に作る。〔説文〕焠、堅二刀刃一也、从レ火卒聲。〔玉篇〕焠、火入レ水也。〔韻會〕焠、通作レ淬。〔漢書、王褒傳〕清水焠二其鋒一。〔注〕師古曰、焠、謂下燒而内二水中一、以堅ㄓ之也。❷やく。〔荀子、解蔽〕有子惡ㄓ臥而焠レ掌、可レ謂二能自忍一矣。〔注〕焠、灼也。❸そめる。ぬりつける。しみこませる。〔史記、刺客、荆軻傳〕使二工以レ藥焠レ之。〔注〕索隱曰、焠、染也、謂下以二毒藥一染中劍鍔上也。

【焠兒】1 サイ　つけぎ。松の木を紙のやうに削り、其の一端に硫黄を付けたもの。發燭。〔輟耕錄〕發燭、杭人削二松木一爲二小片一、其薄如レ紙、鎔二硫黄一、塗二其鋭一、名曰二發燭一、亦曰二焠兒一。

【焠掌】2 サイ シャウ　困苦忍耐して勉學する喩。孔門の有若が勉強中睡氣をさますために掌を燒いた故事。〔荀子、解蔽〕有子惡ㄓ臥而焠レ掌、可レ謂二能自忍一矣。〔注〕有子、蓋有若也、焠、灼也、惡二寢臥一、而焠二其掌一、若レ刺レ股然也、云云、有子焠レ掌、可レ謂二能自忍一其身一。

【焠鍼】3 サイ シン　やきがね。火鍼。焠針。〔本草、火鍼〕釋名、燔鍼、焠鍼、燒鍼、煨鍼。

【焫】

19131

ゼツ ネチ　〔集韻〕如劣切 ㄖㄩㄝˋ jue⁴ 屑

やく。爇(7－19541)に同じ。〔集韻〕爇、説文、燒也、或作レ焫。〔禮、郊特牲〕既奠、然後焫レ蕭、合二羶薌一。

【煙】19171

シヨウ シユ 〔玉篇〕之龍切 冬

火が燃え出す。〔玉篇〕煙、火燒起。

【熅】19288

一ウン 〔集韻〕於云切 ㄩㄣˋ 文 yun²

二ヨン 〔集韻〕烏昆切 元

三ヨン 〔集韻〕鄔本切 阮

四ウン 〔集韻〕紆問切 ㄩㄣˋ 問 yun⁴

五ヨツ ヨチ 〔集韻〕烏沒切 月

熅 小篆 一 ❶うづみ火。炎のない火。〔漢書、蘇武傳〕鑿地爲レ坎、置二熅火一。〔注〕師古曰、熅、謂二聚火無レ焰者一也。二 ❷たちこめた煙。〔說文〕熅、鬱煙也、从レ火盟聲。三 ❸天地の元氣。〔玉篇〕熅、氣也。〔後漢書、張衡傳〕天地烟熅。〔注〕烟熅、氣也。四 あたたか。〔玉篇〕熅、煖也。五 縕(8－2757)に通ず。〔廣韻〕熅、烟熅、天地氣也、易作二絪縕一。六 氳(6－17075)に通ず。〔易、繫辭下、天地絪縕、釋文〕縕、本又作レ氳。七 蘊(9－32434)に通ず。〔詩、大雅、雲漢、蘊隆蟲蟲、釋文〕蘊、本又作レ熅。八 溫(7－1968)に通ず。〔說文通訓定聲〕熅、按、溫煖・溫和字、經傳皆以レ溫爲レ之。四 燻熅は、火のかすかなこと。燻(7－19274)に同じ。〔集韻〕熅、燻溫、火微、或从レ恩。三 あつい。溫炳。〔集韻〕熅、熅炳、熱也。四 のす。火で物をのばす。〔集韻〕熅、以レ火伸レ物。五 煙のさま。〔集韻〕熅、煙皃。二 熱いさま。〔集韻〕熅、一曰、熱皃。

名乗 アツ。

【熅熅】1 ウン ❶火勢の緩和なさま。〔陸羽、茶經、一之具〕育以二木制一之、云云、中有レ隔、上有レ覆、下有レ床、傍有レ門、掩二一扇一、中置二一器一貯二熇煨火一、令二熅熅然一。❷天地の元氣をいふ。陰陽和して相扶けるさま。〔廣雅、釋訓〕熅熅、元氣也。〔班固、典引〕太極之元、兩儀始分、烟烟熅熅。〔注〕蔡邕曰、云云、烟烟熅熅、陰陽和一、相扶貌也。

【熅火】2 クワウ 炎のない火。うづみ火。埋火。熅熅。〔漢書、蘇武傳〕鑿レ地爲レ坎、置二熅火一。〔注〕師古曰、熅、謂二聚火無レ焰者一也。〔唐書、東夷、高麗傳〕饗民、盛冬、作二長坑熅火一、以取レ煖。

【熅火覆】3 yün² huo³ fu⁴ ぼんぼり。茶爐に用ひる具。

【熅黃】4 yün² huang² 火にあぶつて焦がす。

【熅斗】5 トウ ひのし。熨斗。〔辭海〕熅、按俗呼二熨斗一爲二熅斗一。

【熅炳】6 ヒン あつい。字解三を見よ。

【熅平】7 yün⁴ p'ing² 火熨斗で平にする。

【熒】19304

〔集韻〕玄扃切 一ㄥˋ 青 ying²

一ケイ ギヤウ

二クワウ ギヤウ

三エイ ヤウ

四エイ ヤウ

五ケイ ギヤウ

六ケイ ヤウ

七ケイ ギヤウ

八ケイ ギヤウ

〔集韻〕乎萌切 庚

〔集韻〕維傾切 庚

〔集韻〕縈定切 徑

〔集韻〕翦營切 庚

〔集韻〕烏迥切 迥

〔集韻〕胡鑒切 徑

〔集韻〕戶茗切 迥

熒 小篆 一 ❶ひかり。ともしびの光。〔說文〕熒、屋下鐙燭之光也、从二焱冂一。〔玉篇〕熒、燈之光也。二 ❷ひかる。ひかりかがやく。〔玉篇〕熒、熒熒、猶二灼灼一也。〔廣韻〕熒、光也。〔史記、趙世家〕美人熒熒兮、顏若二苕之榮一。三 ❸小さな光の形容。〔楚辭、王逸、九思、哀歲〕鬼火兮熒熒。〔注〕熒熒、小火也。〔太玄經、対〕熒対狜狜。〔注〕熒者光明小見之皃。四 光のゆれて定まらぬさま。〔說文、熒、段注〕熒者光不レ定之皃。五 あきらか。〔廣韻〕熒、明也。〔杜牧、阿房宮賦〕明星熒熒。六 ともしび。小さい光のともしび。〔漢書、敘傳上〕守二窔奧之熒燭一。〔注〕師古曰、熒燭、熒熒、小光之燭也。七 まどふ。まどはす。くらむ。目がちらつく。營(8－23601)に通ず。〔說文通訓定聲〕熒、叚借爲レ營。〔莊子、人間世〕而目將レ熒レ之。〔注〕使二人眼眩一也。〔史記、孔子世家〕匹夫而熒二惑諸侯一者。八 ふみ草。藥草の名。〔爾雅、釋草〕熒、委萎。〔注〕藥草也。九 ほたる。螢(10－33434)に通ず。〔禮、月令〕腐草爲レ熒。〔釋文〕熒、本又作レ螢。十 いとなむ。營(7－19457)に通ず。〔說文通訓定聲〕熒、叚借爲レ營、法言脩身、熒魂曠枯、按猶二老子之載營魄一注、明也、失レ之。二三四 火の光。〔集韻〕熒、火光。五 川の名。榮(7－18026)に通ず。〔集韻〕榮、水名、或作レ熒。六 まどふ。まどはす。螢(7－21155)に通ず。〔集韻〕熒、聽熒、疑惑也、或从レ玉。〔莊子、齊物論〕是皇帝之所二聽熒一也。〔釋文〕熒、本又作レ螢、司馬云、聽熒、疑惑也。七 暫く明かなさま。〔集韻〕熒、暫明皃。八 ふみ草。熒(9－32221)に通ず。〔集韻〕熒、艸名、或省。

解字 會意。焱(ほのほ)と冂(おほひ、屋内の義)とを合せて屋内を照らすともしびの意を表はす。〔說文、熒、段注〕鐙以二膏助一然レ之、燭以二麻蒸一然レ之、其光熒熒然在二屋之下一、故其字从レ冂、冂者覆也、云云、以二火華一照レ屋、會意。

【熒曄】1 ケイ ヒ ひかひかがやく。〔郭璞、江賦〕紫萊熒曄以叢被、綠苔鬖鬖乎研上。〔注〕善曰、熒曄、光明貌。

【熒火】2 クワ 螢をいふ。〔爾雅、釋蟲〕熒火卽炤。〔疏〕熒火、一名卽炤、夜飛、腹下有レ火蟲也。

【熒光】3 クワウ かすかな光。〔後漢書、靈帝紀〕帝與二陳留王一協夜步、逐二熒光一行數里。

【熒煌】5 クワウ ひかりかがやく。〔白居易、和二微之一詩、和望曉詩〕赫奕冠蓋盛、熒煌朱紫爛。〔羅隱、簾詩〕疊影重紋映二書堂一、玉鈎銀燭共二熒煌一。

【熒熒】6 ケイ ❶花の光あるさま。〔宋玉、高唐賦〕玄木冬榮、煌煌熒熒。〔注〕善曰、煌煌熒熒、草木花光也。二 ともしびの光。〔潘岳、悼亡賦〕入二空室一兮望二靈座一、帷飄飄兮燈熒熒。〔許渾、下第貽二友人一詩〕身在二關西一家二洞庭一、夜寒歌苦燭熒熒。三 顏色の光澤あるさま。〔史記、趙世家〕美人熒熒兮、顏若二苕之榮一。四 小光のさま。〔六韜、文韜、守土〕熒熒不レ救、炎炎奈何。〔楚辭、王逸、九思、哀歲〕神光兮熒熒、鬼火兮熒熒。〔注〕熒熒、小火也。〔錢起、片玉篇〕重溪羃羃暗二雲樹一、一片熒熒光二石泉一。五 星の光。〔王昌齡、送二寶七一詩〕清江月色傍二林秋一、波上熒熒望二一舟一。〔趙蕃、老人星詩〕高懸方杳杳、孤白乍熒熒。六 鏡の光のさま。〔杜牧、阿房宮賦〕明星熒熒、開二妝鏡一也。

【熒熒不滅炎炎奈何】7 ケイケイフメツエンエンイカンセンバ 小火のうちに消さなければ、炎々と燃えさかつてからでは如何ともし難い。禍惡は初めのうちに去れといふ喩。燄燄不レ滅炎炎若何(7－19395：4)を見よ。〔說苑、敬愼〕熒熒不レ滅、炎炎奈何、涓涓不レ壅、將成二江河一、緜緜不レ絕、將成二網羅一、青青不レ伐、將尋二斧柯一。

【熒魂】8 コン 盲人をいふ。〔法言、修身〕熒魂曠枯、糟莖曠沈、擿埴索二塗、冥行而已矣。

【熒芝】9 シ 草の名。夜光を發する。〔陶弘景、華陽頌〕熒芝可レ燭夜。

【熇】19291

転載頁

【熒燭】10シンショク 小光の燭火をいふ。〔漢書、敍傳上〕守二窔奥之熒燭一、未レ卽二天庭一而覩二白日一也。〔注〕師古曰、熒燭、熒熒小光之燭也。〔魏志、陳思王植傳〕冀以二塵霧之微一、補二益山海一、熒燭末光增二輝日月一。

【熒臺】11 ying² t'ai² 火山。噴火山。

【熒澤】12ケイタク 澤の名。河南省熒陽縣の東。〔左氏、宣、十二〕及二熒澤一、見二六麋一。〔注〕熒澤、在二熒陽縣東一。

【熒庭】13ケイテイ 地名。春秋、晉の地。陘庭をいふ。山東省冀城縣の東南。〔左氏、襄、二十二〕齊侯遂伐レ晉、云云、入二孟門一、登二太行一、張二武軍於熒庭一。

【熒侮】14ケイブ まどはしあなどる。〔孔子家語、相魯〕匹夫熒二侮諸侯一者、罪應レ誅。〔杜甫、火詩〕爾寧要二誘讒一、憑二此近一熒侮一。

【熒陽】15ケイヨウ 縣名。河南省開封道。熒澤(12)を見よ。

【熒亂】16ケイラン まどはしみだす。〔漢紀、孝惠紀〕以熒二亂富貴之耳目一。

【熒燎】17ケイリョウ 小光の火。〔張淵、觀象賦〕重玄之內、難レ以二熒燎一覩。

【熒惑】18ケイワク ❶火星の異名。熒惑星。〔史記、天官書〕熒惑出則有レ兵、入則兵散。〔淮南子、天文訓〕以二正月甲寅、與二熒惑一晨出二東方一。❷火神の名。〔春秋緯文耀鉤〕赤帝熛怒之神爲二熒惑一、位二南方一。❸まどふ。まどはす。人心を眩惑する。〔管子、九守〕四曰、上下左右前後、熒惑其處安在。〔纂詁〕熒、眩也、問、已眩二惑於物一、求二之上下左右前後一、其處所果安在也。〔戰國、趙策〕秦熒二惑諸侯一、以レ是爲レ非、以レ非爲レ是。〔六韜、豹韜、少衆〕太公曰、妄張二詐誘一、以熒二惑其將一、迂二其道一、令レ過二深草一、遠二其路一、令レ會二日暮一。〔史記、孔子世家〕匹夫而熒二惑諸侯一者、罪當レ誅。〔注〕索隱曰、熒惑、謂二經營而惑亂一也。

【熒惑之變】19ケイワクノヘン 宋、徽宗の大觀年間、景德鎭製の磁色が臙脂色に輝いたのを、熒惑星が軌道を失つて起つたもので、甚だ不吉であるといつて、工匠が其の製品全部を毀した事變。

【熒感】20ケイカン 熒惑の❶に同じ。〔鬼谷子、符言〕四方上下左右前後、熒感之處安在。〔注〕熒感、天之法星、所居災眚吉凶尤著、故曰、雖レ有二明天子一、必察二熒惑之所一レ在、故亦須レ知也。

【熛】19325

小篆 〔集韻〕卑遙切 ㄅㄧㄠ piao¹ 蕭

❶火がとぶ。とび火する。熛(7－19514)・熛・票(8－24694)に同じ。もと熛(7－19619)に作る。〔集韻〕熛、或作熛・熛。〔康熙字典〕熛、說文、本作レ熛。〔說文〕熛、火飛也、从レ火票聲、讀若レ摽。〔說文通訓定聲〕熛、按、卽票之或體、从二火一俗。❷火の粉。とび火。ほとばしる火。〔說文、熛、段注〕三蒼云、熛、迸火也、呂氏春秋云、突泄一熛、焚レ宮燒積。〔詩、小雅、正月、燎之方揚、箋〕燎之方盛之時、炎熾熛怒。〔史記、淮陰侯傳〕熛至風起。❸光る。〔後漢書、班固傳〕雷動電熛。〔注〕熛、光也。❹赤い。赤色。〔揚雄、甘泉賦〕前二熛闕一而後二應門一。〔注〕善曰、熛闕、赤色之闕也。❺はやい。はやて。早い風。焱(7－19142)に通ず。〔史記、禮書〕卒如二熛風一。〔注〕正義曰、熛風、疾也。〔班固、答賓戲、其餘焱風景附、注〕善曰、焱、與レ熛古字通。

【熛起】1ヒョウキ 火の飛ぶやうに疾くおこる。〔漢書、敍傳下〕勝廣熛起、梁籍扇烈。〔注〕師古曰、飛火曰レ熛。〔成公綏、嘯賦〕氣衝鬱而熛起。

【熛火】2ヒョウカ とびひ。飛火。〔尸子、貴言〕熛火始起、易レ息也。

【熛闕】3ヒョウケツ 赤色の闕。〔揚雄、甘泉賦〕前二熛闕一而後二應門一。〔注〕善曰、熛闕、赤色之闕也。〔宋史、樂志十四〕熛闕蟺蜎、壁門雲龍。

【熛矢】4ヒョウシ 火箭の類。〔墨子、備城門、救二車火一〕爲二烟矢一、閒詰〕烟矢、當レ作二熛矢一、說文火部云、熛、火飛也、讀若レ標、熛、誤作レ煙、又從レ俗作レ烟、遂不レ可レ通、孫子火攻篇云、烟火必素具、亦熛火之誤。

【熛至】5ヒョウシ 飛火のやうに疾く至る。〔史記、淮陰侯傳〕天下之士、雲合霧集、魚鱗雜遝、熛至風起。〔司馬相如、子虛賦〕雷動熛至、星流霆擊。

【熛炭】6ヒョウタン とびひ。飛火。〔後漢書、袁紹傳〕若レ擧二炎火一、以焚二飛蓬一、覆二滄海一、而注二熛炭一。〔陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文〕若レ擧二炎火一、以焫二飛蓬一、覆二滄海一、以沃二熛炭一、有二何不レ滅者一哉。〔注〕善曰、說文曰、熛、火飛也。

【熛怒】7ヒョウド 火の盛なさま。火の燃えるさま。〔詩、小雅、正月、燎之方揚、箋〕火田爲レ燎、燎之方盛之時、炎熾熛怒、寧有レ能滅二息之一者乎。〔宋玉、風賦〕飄忽溯旁、激飈熛怒。

【熛風】8ヒョウフウ はげしい風。はやい風。疾風。飄

【燄】19395

小篆 ㊀エン 〔集韻〕以冉切 ㄧㄢˋ yen²·⁴ 琰 ㊁セン ゼン 〔集韻〕疾染切 琰 ㊂エン 〔集韻〕以贍切 豔

㊀㊁❶火の少し燃えあがるさま。〔說文〕燄、火行微燄燄也、从レ炎臽聲。〔段注〕微、當レ作レ敝。〔廣韻〕燄、燄燄、火初著也。㊂❶ほのほ。火のもえあがるもの。〔六書故〕燄、火之騰起者爲レ燄。❷ひかり。火の光。爝(7－19574)に同じ。〔集韻〕爝、火光、或作レ燄。❸火のもえはじめるさま。〔玉篇〕燄、火行皃。〔書、洛誥〕始燄燄。〔傳〕火始然、燄燄尙微。〔釋文〕燄、音豔。❹勢の未だ盛にならぬこと。心の堅正でない喩。炎(7－18910)に通ず。〔說文通訓定聲〕燄、叚借爲レ炎。〔左氏、莊、十四〕其氣炎以取レ之。〔注〕尙書洛誥、無レ若二火始燄燄、未レ盛而進退之時也、以喩二人心不二堅正一也。〔會箋〕炎、宋本作レ燄。❺焰(7－19141)の本字。〔正字通〕燄、焰本字。

参考 熟語は炎(7－18910)を併せ見よ。

【燄暗】1エンアン 光がほのかに暗いこと。〔庾信、對燭賦〕光清寒入、燄暗風過。

【燄燄】2エンエン 火の始めて燃え出して火力の未ださかんでないさま。漢書、梅福傳は庸庸に作る。焰焰。炎炎。〔書、洛誥〕無レ若二火始燄燄、厥攸灼、敍弗二其絕一。〔傳〕無レ令レ若二火始然、燄燄尙微、其所レ及灼然有二次序一、不二其絕一也。〔庾信、趙國公集序〕豈直熊熊旦上、增城一抱、日月之光、燄燄宵飛、南斗、觸二蛟龍之氣一。〔綦毋潛、題二鶴林寺一詩〕珊珊寶蟠挂、燄燄明燈燒。〔白居易、早春詩〕池色溶溶藍染レ水、花光燄燄火燒レ春。

【燄燄焚二伽藍一】3エンエンシテガランヲヤク 正氣が欽明天皇の英斷を助けて佛寺を燒いたといふこと。天皇が佛像を蘇我稻目に賜つて祀らせられると、間もなく惡疫が大いに流行したので、物部尾輿等はこれは我が天神地祇の怒り給うたものと奏し、向原寺を燒き佛像を難波の堀江に投じたのをいふ。〔藤田東湖、和二文天祥正氣歌一〕乃助二明主斷一、燄燄焚二伽藍一。

【燄燄不レ滅炎炎若何】4エンエンノツセズエンエンジャカ 燄燄と火の僅かに燃え始めた時に消さねば、炎炎と火勢がさかんになつては、如何ともすることが出來なくなる。禍患は微細の時に防がねば、增長しては如何ともしがたい喩。〔新書、審微〕語曰、燄燄不レ滅、炎炎奈何、萌芽不レ伐、且レ折二斧柯一。〔孔子家語、觀周〕燄燄不レ滅、炎炎若何、涓涓不レ壅、終爲二江河一、綿綿不レ絕、或成二網羅一。

【燄火】5エンカ ❶ほのほ。火燄。〔劉子新論、正賞〕堂珠黼幌、綴以二金魄、碧流二光霞、耀爛眩目、而醉者眸轉、呼爲二燄火、非二黼幌狀移、目改變一也。❷ほのほのやうに赤い花。〔庾信、奉二和趙王隱士詩〕野鳥繁弦轉、山花燄火然。〔白居易、山石榴寄二元九詩〕日射二血珠一將レ滴、風翻二燄火一欲レ燒人。❸謗言のはげしいことをいふ。〔王令、寄二王正叔一詩〕怒目瞋似レ環、謗口燄而火。

【燄灰】6 クヱイ ほのほとはひ。生死に喩へる。〔梁書、袁昂傳〕恩降ニ絶望之辰一、慶集ニ寒心之日一、燄灰非ニ喩レ荑枯未レ擬。

【燄光】7 クヱウ ほのほの光。莫ㄱ放ニ燄光一、高二丈上、來年燒殺杏園華を見よ。

【莫ㄱ放ニ燄光一、高二丈上、來年燒殺杏園華】8 エン・クワウ・ハウ・ヤウ・ヤウ・セツ・ケウ・コト・ニ・ヂ・ヤウ・ナラシム・ルナカレ・ライ・ネン・ヤウ・ヤウ・セツ・ケウ・ヒ・ノ・ハナ 君は明年進士に及第して探花の宴に臨む時、己の燄光で杏華を燒くかも知れないから、頭上の燄光を高からしめてはならない。杏園は長安の西に在り、唐の新進士、多く此處に宴遊す。〔李群玉、贈ニ魏三十七一詩〕名珪似レ玉、淨無レ瑕、美譽芳聲有ニ數車一、莫ㄱ放ニ燄光一、高二丈上、來年燒殺杏園華。

【燄口】9 クヱン 𠸄餓鬼の名。或る夜、阿難が獨り靜室に居るとき、三更に燄口といふ餓鬼を見た。身體は枯瘦して、咽は針のやうで、口から火燄を吐いて居た。阿難にいふには、今後三日、汝の命は盡きて餓鬼の中に生ると。阿難が恐れて免苦の方便を問ふと、鬼がいふには汝は明日我等百千の餓鬼や諸の婆羅門仙人等のために各〻一斛の食物を施し、我のために三寶に供養すれば、增壽を得て、我は天に生ると。阿難は佛に教を乞ふと、佛は此の陀羅尼を誦すると能く無量百千の施食を充足することができると教へた。焰口。〔燄口餓鬼經〕。

【燄室】10 エンシツ 宗廟の神主を藏する室をいふ。〔海錄碎事、帝王、宗廟〕燄室、藏ニ神主一之室也、通典。

【燄消】11 エンセウ 硝石をいふ。消石。〔本草、消石〕釋名、芒消、苦消、燄消、火消、地霜、生消、北帝玄珠、集解、時珍曰、崔昉外丹本草云、消石、陰石也、此非ニ石類一、乃鹹鹵煎成、今呼ニ燄消一、河北商城及懷衛界、沿河人家、刮レ鹵淋レ汁煉就、與ニ朴消一小異、南地不レ產也。

【燄硝】12 エンセウ 硝石をいふ。燄消に同じ。火藥。〔西溪叢語〕崔昉爐火本草云、消石、陰石也、此非ニ石類一、卽鹹鹵煎成、今呼ニ燄硝一是、河北商城及懷衛界、沿河人家、刮レ鹵淋レ汁所就。

【燄叟】13 ソウ 硫黃。〔清異錄、藥譜〕燄叟、硫黃。

【燄胎】14 タイ 𠸄光燄に圍繞せられて、その身が母胎に在るやうな樣。地藏菩薩が衆生に代つて苦難の眞只中に居ることを表はす。〔大日經、一〕身處ニ於焰胎一。〔大日經疏、五〕光焰周ニ徧其身、如レ在ニ胎藏一、故云レ處ニ於焰胎一也。

【燄段】15 エンダン 宋の頃、演劇の冒頭に上演される簡單な筋の劇をいふ。艷段に同じ。〔輟耕錄、院本名目〕又有ニ燄段一、亦院本之意、但差簡耳、取ㄱ其如ニ火燄一易一明而易ㄴ滅也。

【燄轉】16 チン 火焰が燃え移ること。〔舊唐書、德宗紀上〕朱泚云云、造ニ雲橋一、攻ニ東北隅一云云、渾瑊預爲ニ地道一、及ニ雲橋成一、城脚陷、不レ得レ進、瑊命焚レ之、風廻燄轉、橋焚而賊退。

【燄網】17 マウ 𠸄佛の光明が無限に十方世界を照らして無盡なこと。〔藥師經〕焰網莊嚴、過ニ於日月一。〔藥師經纂解、上〕焰、謂ニ光焰一、網、謂ニ珠網一、言ニ光明無盡義一也。

【燄摩天】18 エンマ 𠸄欲界天の名。欲界天の中の第三重の天處。具稱は、須焰摩。Suyāma 炎摩(7－18910：84)を見よ。〔寶積經、三十七〕滅ニ燄摩天宮乃至遍淨天所有宮殿。

【燄羅王】19 エンラウ 地獄を司る王。閻魔(11－4137 9：40)の❶に同じ。炎摩(7－18910：84)の❶を見よ。

【燄色反應】20 ハンオウ 金屬化合物が焰の中で熱せられると其の金屬特有の色に焰を着色する反應。定性分析に應用せられる。焰色反應。

燋

19410

小篆

㊀セウ ゼウ 〔集韻〕茲消切 ㄐㄧㄠ chiāo 蕭

㊁セウ ゼウ 〔集韻〕慈焦切 蕭

㊂セウ 〔集韻〕子肖切 嘯

㊃セウ シヤク 〔集韻〕資昔切 陌

㊄セキ シヤク 〔集韻〕則歷切 錫

㊅セキ シヤク 〔集韻〕側角切 覺

㊆サク 〔集韻〕卽約切 藥

㊀❶**たいまつ**。葦などを束ねて作り、燧火をこれに移して薪に焚きつけるに用ひるもの。〔說文〕燋、所ニ以然一持火一也、从レ火焦聲、周禮曰、以ニ明火一爇レ燋也。❷**こげる。こがす**。焦(7－19119)に通ず。〔廣韻〕燋、傷レ火。〔禮、內則、濡炙〕之擧焦、其膏、釋文〕焦、字又作レ燋。〔漢書、霍光傳〕燋レ頭爛レ額。㊁㊂㊃㊄㊅❶**龜をやく木**。樵(6－15489)に通ず。〔集韻〕燋、灼レ龜炬也。〔周禮、春官、菙氏〕掌ㄱ共ニ燋契一、以待ㄱ卜事上。〔注〕杜子春云、燋、讀爲ニ細目燋之燋一、或曰、如ニ薪樵之樵一、謂ㄱ所ニ爇一灼龜一之木上也。❷**つかれる**。醮(12－42686)に通ず。〔說文通訓定聲〕燋、叚借爲レ醮。〔淮南子、氾論訓〕淸之則燋而不レ謳。〔注〕燋、悴也。㊆❶**龜をやく**。〔集韻〕燋、灼レ龜也。❷**たいまつ**。火をつけたものを燭、火をまだつけないものを燋といふ。〔禮、少儀〕爲ニ獻主一者執レ燭抱レ燋。〔注〕未レ熱曰レ燋。㊇❶**たいまつ**。爝(7－19614)に通ず。〔廣韻〕燋、火未レ然也。〔集韻〕爝、炬火、或作レ燋。〔莊子、逍遙遊、日月出矣、而爝火不レ息、釋文〕爝、本亦作レ燋。❷**やく**。灼(7－18878)に同じ。〔集韻〕灼、說文、炙也、或作レ燋。

（圖器禮）燋

参考 熟語は焦(7－19119)を併せ見よ。

【燋天】1 ケウ つかれしをれて早く死ぬ。〔淮南子、本經訓〕氣霧霜雪不霽、而萬物燋天。

【燋槁】2 カウ 日にやけてかれる。槁は枯。〔唐書、隱逸、孫思邈傳〕渴則燋槁、發ニ平面一而動ニ乎形一。〔宋史、謝絳傳〕天聖中、天下苦レ旱、百姓疫死、田穀燋槁。

【燋金】4 キン 金をこがす。燋金爍石を見よ。〔劉峻、辨命論〕天乙之時、燋レ金流レ石。

【燋金爍石】5 キンヤクセキ 金をこがし、石をとかす。酷熱の形容。〔新論、大質〕大熱煊赫、燋レ金爍レ石、而炎氣不レ爲レ之熾者何也、有ニ自然之質一而寒暑不レ能移也。

【燋黃】6 クワウ 黃色にこげる。焦げて黃色になる。〔西京雜記、二〕惠帝七季夏、雷震南山、大木數千株、皆火燃至レ末、其下數十畝、地草皆燋黃、其後百許日、家人就ニ其間一得ニ龍骨一具、鮫骨二具。

【燋契】7 ケイ 燋は龜をやく木。契は龜甲に刻識する鑿。一說に、二者共に龜を灼く材。先づ燋を燃し、その火を契にうつし、契を以て龜を灼く。〔周禮、春官、菙氏〕掌ㄱ共ニ燋契一、以待ㄱ卜事上。〔注〕杜子春云、燋、讀爲ニ細目燋之燋一、或曰、如ニ薪樵之樵一、謂ㄱ所ニ爇一灼龜一之木上也、故謂ニ之樵一、契、謂ニ契龜之鑿一也。

【燋枯】8 コ こげかれる。焦枯(7－19119：36)に同じ。〔論衡、感虛〕儒者傳書言、堯之時、十日並出、萬物燋枯。

【燋子】9 chiāo tzŭ コークス。

【燋齒】10 シ 黑い齒。〔王褒、四子講德論〕編結沮顏、燋齒臭眉、翦髮黥首、文身裸袒之國。〔注〕翰曰、燋齒、黑齒也。

【燋壤】11 ジヤウ やけつち。ひでりで燒けた土地。〔魏書、世宗紀〕孝婦淫刑、東海燋壤。

【燋鑠】13 シヤク ❶やきとろかす。〔通德文錄序〕金石燋鑠、斯文燦然。❷甚しく熱い。集爍。〔韓

琦、熱詩〕陽烏自燋鑠、垂レ翅不二西擧一。

【燋種】14 シウシュ 枯れた種。〔李邕、大唐泗州臨淮縣普光王寺碑〕信レ之者燋種萌生。〔法苑珠林〕事等二破瓶、義同二燋種一。

【燋燭】15 シウショク かがり火。たいまつ。〔詩、大雅、桑柔、民靡有レ黎具禍以燼、疏〕燼、是燋燭既然之餘。

【燋心】16 シウシン 心をこがす。憂への甚しいこと。焦心。〔列子、楊朱〕乃苦二其身一、燋二其心一。〔後漢書、楊震傳〕冬無二宿雪一、春節未レ雨、百僚燋心、而繕修不レ止。〔後漢書、朱浮傳〕上下燋心、相二望救護一。

【燋折】17 シウセツ こげくづれる。〔魏書、張玄靖傳〕御史房屋柱自燃燋折。

【燋然】18 セウゼン 憂へるさま。焦然。〔莊子、天地〕孝子操レ藥、以修二慈父一、其色燋然、聖人羞レ之。

【燋頭】19 シウトウ かうべをこがし燒く。燋頭爛額爲二上客一を見よ。

【燋頭爛額爲二上客一】20 セウトウランガクバジャウカクトナル 火災を未然に豫防する策を獻ずるものは賞せられず、失火に及んで頭をこがしひたひをただらせて救つた者は賞せらる。本を忘れて末をのみ事とする喩。曲突徙レ薪(5−14280：209)を見よ。〔漢書、霍光傳〕人爲二徐生一上書曰、臣聞、客有レ過二主人一者、見二其竈直突、傍有二積薪一、客謂二主人一、更爲二曲突、遠徙二其薪一、不者且レ有二火患一、主人嘿然不レ應、俄而家果失レ火、鄰里共救レ之、幸而得レ息、於レ是殺レ牛置レ酒、謝二其鄰人一、灼爛者在二於上一行、餘客以二功次一坐、而不レ錄レ言二曲突一者、人謂二主人一曰、鄉使レ聽二客之言一、不レ費二牛酒一、終亡二火患一、今論レ功而請レ賓、曲突徙レ薪亡二恩澤一、燋レ頭爛レ額爲二上客一耶、主人廼寤而請レ之、今茂陵徐福數上書、言二霍氏且レ有レ變、宜二防二絶之一、鄉使二福說得一レ行、則國亡二裂土出レ爵之費一、臣亡二逆亂誅滅之敗一、往事既已、而福獨不レ蒙二其功一、唯陛下察レ之、貴二徙薪曲突之策一、使レ居二焦髮灼爛之右一。

【燋銅】21 シウドウ 燋毒のある銅。〔博物志、異俗〕交州夷、以二燋銅一爲レ鏑、云云、燋銅者、故燒器、其長老惟別二燋銅聲一、以レ物杵レ之、徐聽二其聲一、得二燋毒一者、徧擊取以爲二箭鏑一。

【燋尾】22 シウビ 琴の名。焦尾琴(7−19119：96)を見よ。〔宋書、樂志一〕燋尾、伯喈琴。

【燋釜】23 セウフ やけたかま。焦釜。〔戰國、齊策〕且夫救レ趙之務、宜若二奉二漏甕一沃中燋釜上。

【燋爛】24 セウラン やけただれる。焦爛。〔後漢書、劉陶傳〕用レ之不レ時、必至二燋爛一。〔論衡、說日〕生物入二火中一、燋爛而死焉。〔魏志、劉廙傳〕揚レ湯止レ沸、使レ不二燋爛一。〔嵇康、養生論〕雖二終歸一於燋爛一、必一慨者後枯。〔丘遲、與陳伯之一書〕惡積禍盈、理至二燋爛一。

【燋龍】25 セウリョウ 銅製の龍を眞赤に燒いたもの。〔拾遺記、九、晉時事〕石虎於二太極殿前一起レ樓云云、又爲二四時浴室一、云云、夏則引二渠水一以爲レ池、云云、嚴冰之時、作二銅屈龍數千枚、各重數十斤、燒如二火色一、投二於水中一、則池水恆溫、名曰二燋龍溫池一。

【燋淪】26 セウリン 火にやけ、水におぼれる。〔抱朴子、外篇、漢過〕生民燋二淪於淵火一。

【抱レ燋】27 ホウイチセウ 未だ火をつけない炬をかかへる。〔禮、少儀〕凡欲レ酒、爲二獻主一者、執レ燭抱レ燋、客作而辭。

【燋熱大燋熱】28 セウネツダイセウネツ 八大地獄の第六・第七の名。卽ち炎熱・極炎熱の所。罪人の身や、その周圍から、猛火を出して、燒害する地獄。焦熱大焦熱(7−19119：87)を見よ。

【爇】19541

㊀ゼツ ネチ 〔集韻〕如劣切 屑 日ナ jiè 日×ナ juò

㊁ゼイ ネイ 〔唐韻正〕如銳反 霽

㊂ネツ

小篆 ㊀㊁●やく。もと爇に作る。〔正字通〕爇、本作レ爇。〔說文〕爇、燒也、从レ火蓺聲。〔周禮、春官、菙氏〕凡卜以二明火一爇燋。〔左氏、僖、二十八〕爇二僖負羈氏一。〔注〕爇、燒也。●焫(7−19131)に同じ。〔集韻〕爇、或作レ焫。●熱(7−19360)に誤り通ず。〔正字通〕爇、謂二熱通作一レ爇、不レ知二熱與レ爇義別一也。

【爇客】1 ネツカク 黃白の術、卽ち、丹砂を煉つて黃金・白銀とする仙術を行ふと稱する者をいふ。〔稱謂錄、算數、爇客〕法疑說世以二黃白之術一自詭者名二爇客一。

【爇炬】2 ネツキョ たいまつを燃やす。〔佐藤一齋、日光山行記〕抵二荒澤一、則日沒、爇レ炬認二爆聲一、爲レ導、竭蹷。

【爇櫬】3 ネツシン 古、棺に乘つて降る者を禮遇し、其の棺を焚いて罪を赦すことを示すこと。櫬は棺。古、降服するものが棺に乘つて死罪に服する意を表した。〔徐陵、陳公九錫文〕爇櫬以表二其含弘一、焚書以安二其反側一。

【爇燋】4 ネツセウ 卜占の龜を灼く木を燃やすこと。〔周禮、春官、菙氏〕凡卜以二明火一爇レ燋。〔注〕杜子春云、燋、讀爲二細目燋之燋一、或曰、如二薪樵之樵一、謂レ所二爇二灼龜一之木上也。

【爇燒】5 ネツセウ やくこと。〔詩、大雅、生民、取蕭祭脂、疏〕至二祭之日一、乃取二蕭之香蒿與一祭牲之脂膏一、而爇二燒之於行神之位一、使二其馨香遠聞一。

【爇騰騰】6 ネツトウトウ 煙が盛に立上ること。〔長生殿、哭像〕爇騰騰寶香、映二熒熒燭光一。

【蓺】19542

ゼツ 爇(7−19541)の俗字。〔正字通〕爇、俗蓺字。

【牖】 19890

小篆 牖

イウ 〔集韻〕以九切 宥 ユ 又 yu³

一まど。壁を穿ち木を交へて作つた窓。れんじまど。〔說文〕牖、穿レ壁以レ木爲二交窗一也、从二片戶一甫聲。〔段注〕交窗者、以レ木横直爲レ之、卽今之窗也、在レ牆曰レ牖、在レ屋曰レ窗。〔老子、四十七〕不レ窺レ牖以見二天道一。二南むきのまど。〔廣韻〕牖、向也。〔論語、雍也〕自レ牖執二其手一。〔皇疏〕牖、南窓也。三みちびく。迪(11－38795)・誘(10－35525)に通ず。〔說文通訓定聲〕牖、叚借爲レ迪。〔廣雅、釋詁三〕牖、道也。〔詩、大雅、板〕天之牖民。〔疏〕牖、與レ誘古字通用、故以爲レ導也。四うしとら。北東。〔易、坎〕納二約自一牖。〔虞注〕艮爲レ牖。五ひとや。牢獄。〔水經、蕩水注〕廣雅、牖、獄犴也、夏曰二夏臺一、殷曰二羑里一、周曰二囹圄一、皆圜土。六羑(9－28437)に通ず。〔史記、殷紀、紂囚二西伯羑里一、注〕正義曰、牖、一作レ羑。七牖(7－19892)に同じ。〔說文〕牖、譚長曰爲、甫上日也、非レ戶也、牖所二以見一日。〔正字通〕牖、按、此說改レ牖作レ牖。八姓。〔萬姓統譜〕牖、見二姓苑一。

解字 會意形聲。片(木ぎれ)と戶と甫との合字。片と戶とは意を表はし、甫は聲を表はす。字解を見よ。

【牖下】1カ まどの下。〔詩、召南、采蘋〕于以奠レ之、宗室之牖下。〔箋〕牖下、戶牖間之前。〔禮、檀弓上〕子游曰、飯二於牖下一、小二斂戶內一、大二斂於阼一、殯二於客位一、祖二於庭一、葬二於墓一、所二以卽遠也一。

【死二於牖下一】2イウカニシス まどの下で死ぬ。家で死ぬ。壽命を以て死ぬこと。〔左氏、哀、二〕簡子巡レ列曰、畢萬匹夫也、七戰皆獲、有二馬百乘一、死二於牖下一。〔注〕死二於牖下一、言レ得二壽終一。

【牖間】3イウカン 窓と窓との間。〔書、顧命〕牖間南嚮、敷二重篾席黼純一、華玉仍几。〔疏〕牖、謂レ窻也、間者、窻東戶西戶牖之間也。

【牖嚮】4イウキヨウク まど。〔荀子、君道〕便嬖左右者、人主之所二以窺一遠收一衆之門戶牖嚮也。〔淮南子、說山訓〕四方皆道之門戶牖嚮也、在レ所二從闕一之。

【牖啓】5yu³ ch'i³ 啓導する。指導する。

【牖戶】6コウ 窓と戶。又、窓の戶。出入口。〔儀禮、特牲饋食禮〕佐食闔二牖戶一降。〔漢書、食貨志上〕王者不レ窺二牖戶一而知二天下一。〔老子、四十七〕不二出一戶以知二天下一、不レ窺レ牖以見二天道一。

【綢二繆牖戶一】7イウコウヨウス 窓や戶などをつくろひ補葺する。小鳥が巢をつくろふこと。轉じて、禍を未然に防ぐことに用ひる。〔詩、豳風、鴟鴞〕迨二天之未一陰雨一、徹二彼桑土一、綢二繆牖戶一、今女下民、或敢侮レ予。〔箋〕綢繆、猶二纏綿一也、此鴟鴞自說二作一巢至苦如一是、以喩二諸臣之先臣、亦及二文武未一定二天下一、積二日累一功、以固定此官位與乙土地一。〔孟子、公孫丑上〕詩云、迨二天之未一陰雨一、徹二彼桑土一、綢二繆牖戶一。〔集注〕綢繆、纏綿補葺也、牖戶、巢之通レ氣出入處也。

【牖如】8イウジヨ 清、張燾(4－9812・280)の號。

【牖進】9イウシン 誘ひ進める。牖は誘。〔論衡、率性〕漸漬磨礪、闔對牖進。

【牖民】10ミン 民を善に導く。民智を開通させる。〔詩、大雅、板〕天之牖民。〔箋〕道二民以一禮義一。〔疏〕牖、與レ誘古字通用、故以爲レ導也。

【牖里】11リ 地名。又、羑里に作る。殷、紂王が周、文王を囚へた處。河南省湯陰縣の北。字解の六を見よ。〔戰國、趙策〕(紂)醢二鬼侯一云云、脯二鄂侯一、文王聞レ之、喟然而歎、故拘二之於牖里一。

【牖中窺レ日】12ヒウチユウカガフニ 窓から日をうかがふ。轉じて、智識の狹い喩。〔世說新語、文學〕自二中人一以還、北人看レ書、如二顯處視一月、南人學問、如二牖中窺一日。

【犁】 20049

セイ

〔集韻〕犁、或作レ犂。

【弊】 20672

㊀㊁ヘイ ベイ 〔集韻〕毗祭切 霽 ㄅㄧˋ pi⁴

㊂ヘツ チ 〔集韻〕蒲結切 屑

㊀㊁一獸の名。獵(7－20673)に同じ。〔玉篇〕弊、獸名。〔正字通〕獵、一作レ弊。二弊(4－9644)・弊(3－6010)の本字。〔廣韻〕弊、困也、惡也、說文曰、頓仆也、俗作レ弊。〔說文通訓定聲〕弊、字亦作レ弊、按、誤爲レ大、又作レ廾也。

参考 熟語は弊(4－9644)を見よ。

【獵】 20673

ヘイ ベイ 〔集韻〕毗祭切 霽

獸の名。獵獵は、狐の屬。弊(7－20672)に同じ。〔正字通〕獵、獸名、一作レ弊。〔山海經、東山經〕姑逢之山、有レ獸焉、其狀如狐而有レ翼、其音如二鴻雁一、其名曰二獵獵一。

獵獵(圖經山海)

【玕】 20845

小篆 玕

カン 〔集韻〕居寒切 寒 ㄍㄢ kan¹

古文 琅玕は、玉に次ぐ美石。琅玕(7－21005)に作る。〔說文〕玕、琅玕也、从レ王干聲、禹貢、雝州璆琳琅玕、琿、古文玕从二王旱一。〔爾雅、釋地〕西北之美者、有二崑崙虛之璆琳琅玕一焉。〔廣韻〕玕、琅玕、美石次レ玉。〔書、禹貢〕厥貢惟球琳琅玕。

名乘 タマ。

【璽】 21305

㊀ブン モン 〔集韻〕文運切 問 ㄨㄣˋ wen⁴

㊁キン 〔集韻〕許愼切 震 ㄒㄧㄣˋ

㊀㊁一ひび。細かく割れ裂けたきず。(イ)玉のひび。〔集韻〕璽、玉破。〔集韻〕璽、玉破不レ離。〔正韻〕璽、璽罅。(ロ)器のひび。〔方言、六〕秦晉、器破而未レ離、謂二之璽一。(ハ)龜兆の文。〔書、洪範〕用レ靜吉用レ作凶、疏〕灼レ龜爲レ兆、其璽拆形狀有二五種一。一璽(1－342)に同じ。〔周禮、春官、大卜、大卜掌二三兆之灋一、注、兆者、云云、其象似二玉瓦一原二之璽罅一、釋文〕璽、依レ字作レ璽。

【甗】 21420′

㊀ロウ ル 〔集韻〕郎豆切 有

㊁ロウ ル 〔集韻〕郎侯切 尤

㊀㊁一甑甗は、からすうり。〔廣雅、釋草〕甑甗、王瓜也。二甗(9－32388)・莧(9－30873)に同じ。〔集韻〕甗、或从レ艸、亦作レ莧。

【疺】22045 スイ 〔集韻〕式類切 寘

❶はれやまひ。〔集韻〕疺、腫病。〔黄帝靈樞經〕風疺膚脹。❷やまひ。〔玉篇〕疺、病也。❸やむさま。〔廣韻〕疺、病皃。

【疰】22081 シュ 〔集韻〕朱戍切 遇 ㄓㄨˋ chu⁴

病名。注(6－17316)に同じ。〔釋名、釋疾病〕注病、一人死、一人復得、氣相灌注也。〔疏證補〕注、御覽引作疰。〔廣雅、釋詁一〕疰、病也。

【疰夏】1カシュ 夏の病氣。夏季、身體がだるく食が進まなくなる病。〔浪跡續談〕杭州人謂、交夏多レ疾者爲ニ疰夏、溫州人於ニ立春前一焚ニ樟葉一曰ニ天春一二字成ニ一妙對一。按、集韻、天、音談、燎也。

【疰忤】2ジュゴ 流行病。疫病。〔文同、蒲生鍾馗詩〕下有ニ三鬼一相嘯聚、初行ニ誰家一作ニ疰忤一。

【痏】22119 ヒ 〔集韻〕方未切 未 ㄈㄟˋ fei⁴

あせも。熱によつて皮膚に生ずる小さい瘡。〔玉篇〕痏、熱生ニ小瘡一。〔集韻〕痏、熱瘍也。〔正字通〕痏、今俗以ニ觸レ熱膚疹如レ沸者、曰ニ痏子一。〔素問、生氣通天論〕汗出見レ濕、乃生ニ痤痏一。

【痝】22120 〔集韻〕權俱切 虞 ㄑㄩ chü

❶ク グ
❷ウ 〔集韻〕委羽切 麌
❸ク グ 〔集韻〕郡羽切 麌

【痝】小篆 ❶❷❸❶せむし。くぐせ。脊骨の曲る病。〔列子、黄帝〕見ニ痝僂者承レ蜩。❷傴也、或作レ痝。❸通じて鉤(11－40319)に作る。〔說文〕、痝、桂注〕痝、通作レ鉤。❹句(2－3234)に通ず。〔中華大字典〕痝、通レ句。〔說文〕玖、讀若ニ人句脊之句一。

〔痝僂〕1クル せむし。くぐせ。佝僂。癭痝。〔莊子、達生〕仲尼適ニ楚、出ニ於林中一、見ニ痝僂者承レ蜩、猶レ掇レ之。〔疏〕痝僂、老人曲腰之貌。〔列子、黄帝〕仲尼適ニ楚、出ニ於林中一、見ニ痝僂者承レ蜩、猶レ掇レ之也。

〔痝僂丈人〕2クルジャウジン せむしの老人。〔列子、黄帝〕孔子顧謂ニ弟子一曰、用レ志不レ分、乃疑ニ於神一、其痝僂丈人之謂乎。

【痎】22152 〔集韻〕居諧切 佳 ㄐㄧㄝ chieh²

❶カイ 〔集韻〕丘哀切 灰
❷カイ ガイ 〔集韻〕戶代切 隊

【痎】小篆 ❶❷❸❶おこり。二日に一度おこる瘧。〔說文〕痎、二日一發瘧也、从レ疒亥聲。❷通じて疥(7－22057)に作る。〔左氏、昭、二十〕齊侯疥、遂痁。〔釋文〕疥、當レ作レ痎。❸或は瘧(7－22335)に作る。〔正字通〕瘧、同レ痎。

〔痎瘧〕1カイギャク 病名。二日に一度起るおこりの病。瘧瘧。〔左氏、昭、二十〕齊侯疥遂痁、疏〕俗人乃呼ニ二日一發久不レ差者一爲ニ痎瘧一。〔素問、生氣通天論〕夏傷ニ於暑、秋爲ニ痎瘧一。〔柳宗元、呂侍御恭墓銘〕至ニ廣州一、病ニ痎瘧一加レ癉。〔注〕痎、二日一發瘧也、熱休寒作曰レ瘧。

〔痎瘧論疏〕2カイギャクロンソ 書名。一卷。明、盧之頤撰。痎瘧について論ず。〔四庫提要、子、醫家類〕。

【痏】22154 〔集韻〕羽軌切 紙 メˇ wei³

❶キ
❷イウ 〔集韻〕尤救切 宥
❸キク ヨク 〔集韻〕于六切 屋

【痏】小篆 ❶❷❶うちきず。みみずばれより重く、きずがつき血の流れるをいふ。〔說文〕痏、疻痏也、从レ疒有聲。〔說文、疻、段注〕急就篇顏注云、毆レ人皮膚腫起曰レ疻、毆傷曰レ痏。〔呂覽、至忠〕齊王疾レ痏。〔注〕病レ痏也。〔漢書、薛宣傳〕遇レ人不レ以義而見レ疻者、與ニ痏レ人之罪一鈞、惡ニ不直一也。❷きずあと。〔說文〕痏、一曰、痏瘢也。〔段注〕據ニ文選稽康詩注一補ニ此五字一。〔張衡、西京賦〕所レ惡成ニ瘡痏一。〔注〕綜曰、瘡痏、謂ニ瘢痕一也。❸傷む時に出る聲。侑(1－594)に通ず。〔一切經音義、十五〕痏、諸書作レ侑、案、通俗文、痛聲曰レ侑。❹幃(4－8993)は籀文。〔一切經音義、十五〕痏、籀文作レ幃。❺ふるへる。疢(7－22024)に同じ。〔集韻〕疢、說文、顫也、或作レ痏。❻やむ。やまひ。〔集韻〕痏、病也。

【痤】22164 シ 〔集韻〕充至切 寘

❶わるい。〔廣雅、釋詁三〕痤、惡也。❷手足のひきつり。風病。〔集韻〕痤、一曰、風病。〔素問、氣厥論〕肺移ニ熱於腎一、傳爲ニ柔痓一。〔注〕柔、謂ニ筋柔而無レ力、痓、謂ニ骨痓而不レ隨レ氣、骨皆熱、髓不ニ內充一、故骨痓強而不レ擧、筋柔緩而無レ力也。

【痛】22183 エン 〔集韻〕榮玄切 先

【痛】小篆(本注段) ❶うづく。骨節がいたむ。〔廣韻〕痛、骨節疼也。〔集韻〕痛、骨酸也。〔素問、陰陽別論〕三陽爲レ病、發ニ寒熱一、下爲ニ癰腫一、及爲ニ痿厥腨痛一。〔注〕痛、痠疼也。❷つかれる。〔段注本說文〕痛、疲也、从レ疒冒聲。〔注〕按、各本無ニ此篆一、今依ニ謝靈運發臨海嶠詩李善注引說文一補、篇韵皆云、痛、骨節疼也、今俗謂ニ痛酸一。❸むすぼれる。ふさがる。ふさぐ。いかる。悁(4－10623)に同じ。〔字彙〕痛、同レ悁、憂也、忿也。〔正字通〕痛、煩鬱也。〔列子、楊朱〕心痛體煩。

【疺】22198 バウ マウ 〔集韻〕莫江切 江

❶やみくるしむ。〔集韻〕疺、病困。❷二日醉ひ。〔集韻〕疺、一曰、病酒。❸はれ上がる。〔素問、風論〕賢風之狀、多汗、惡風、面疺然浮腫。〔注〕疺然、言ニ腫起一也。

【痟】22208 セウ 〔集韻〕思邀切 蘯

𤸷 小 篆 ❶づつう。〔說文〕痟、酸痟、頭痛也、从丿肖聲。周禮曰、春時有二痟首疾一。❷消渴。通じて消(6－17529)に作る。〔玉篇〕痟、痟渴病。〔康熙字典〕痟、通作レ消。❸尠(4－7582)に同じ。〔集韻〕痟、或作レ尠。

【痟渴】1 カツ のどがかわいて流動物をほしがり、小便の通じない病氣。糖尿病。消渴。〔玉篇〕痟、痟渴、病。〔廣韻〕痟、痟渴、病也、司馬相如所患。〔廣雅、釋詁一〕痟癘、病也。

【痟首】2 シウ 頭痛。〔周禮、天官、疾醫〕春時有二痟首疾一。〔注〕痟、酸削也、首疾、頭痛也。

【痟酲】3 テイ 頭のいたむ病。首疾。〔管子、地員〕寡レ有二疥騷一、終無二痟酲一。〔纂詁〕痟、首疾也、病レ酒曰レ酲、酲必頭痛、故稱二首疾一爲二痟酲一也。

【痟攘】4 ヤウ いたみとかゆみ。疼攘。〔列子、黃帝〕指擿無二痟攘一。〔釋文〕痟攘、謂二疼攘一也。

【痠】22211 サン 〔集韻〕蘇官切 寒 ㄙㄨㄢ suan'

❶いたむ。通じて酸(11－39871)に作る。〔廣雅、釋詁〕痠、痛也。〔王念孫疏證〕素問刺熱篇云、腎熱病者、先腰痛骺痠、字通作レ酸。〔廣韻〕痠、痠疼。❷石の名。〔山海經、中山經〕風伯之山、多二痠石・文石一。

【痤】22221 ザサ 〔集韻〕徂禾切 歌

𤸷 小 篆 ❶小さいはれもの。〔說文〕痤、小腫也、从レ丿坐聲。〔桂注〕小腫也者、易通卦驗、足少陽脈盛、人多病二粟疾一、注、粟、痤腫也。❷ひぜん。ひぜんがさ。疥癬。〔說文〕痤、一曰、族絫病。〔左氏、桓、六〕不レ疾二瘯蠡一。〔注〕皮毛無二疥癬一。❸ねぶと。〔廣韻〕痤、癤也。〔素問、生氣通天論〕汗出見レ溼、乃生二痤痏一。〔王注〕陽氣發泄、寒水制レ之、熱佛內餘、鬱二于皮裏一、甚爲二痤癤一。〔張志聰集注〕痤、小癤也。❹よう。〔廣雅、釋詁二〕痤、癰也。〔山海經、中山經〕金星之山、多二天嬰一、其狀如二龍骨一、可二以已レ痤。〔注〕癰痤也。〔郝懿行箋疏〕注疑當爲二痤癰也一。❺果物の名。痤椄(7)を見よ。

【座瘴】1 ザウ 病名。ねぶと。〔五音集韻〕痤瘴、疾名、癤也。

【痤瘡】2 サウ 多く顏面に生ずる小點狀のほれもの。皮脂腺の導管が皮脂・上皮・塵埃等によつて塞がるに原因する。通俗的には急性多發性毛囊炎をも混同していふ。多く青年に發生する。にきび。面皰。青年痤瘡。

【痤疽】3 ショ 腫物。痤は小さい腫れもの、疽はよう。〔韓非子、解老〕夫內無二痤疽癰痔之害一、而外無二刑罰法誅之禍一者、其輕二恬鬼一也甚。〔集解〕說文、痤、小腫也、疽、癰也。〔韓非子、外儲說右上〕夫痤疽之痛也、非レ刺二骨髓一則煩心不レ可レ支也。〔淮南子、說林訓〕潰二小皰一而發二痤疽一。〔注〕痤疽、癰也。

【痤雎】4 ショ 痤疽に同じ。〔管子、法法〕故赦者犇馬之委、轡、毋レ赦者痤雎之礦レ石也。〔纂詁〕劉績云、雎、恐疽、或癰字、衡謂、雎・疽聲近、當レ爲レ疽、痤、小腫也、礦、讀爲レ擴、打也、石、砭也、打二痤疽一、以レ砭、始雖二小痛一、其患必已。

【痤人】5 ザジン 惡瘡のある人。かさかき。〔呂覽、盡數〕辛水多二疽與一痤人一。〔注〕疽・痤、皆惡瘡也。

【痤贅】6 ザイ はれものとこぶ。〔法苑珠林〕石立土踊、天地之痤贅也、山崩地陷、天地之癰疽也。

【痤椄】7 ザセツ 果物の名。麥李。〔爾雅、釋木〕痤椄、慮李。〔注〕今之麥李。

【痱】22252

𤸷 小 篆 ❶❷❸❹ちゆうふう。身體の一部がはたらかぬ病。卒中。中氣。〔說文〕痱、風病也、从レ丿非聲。〔鈕樹玉、說文校錄〕玉篇、扶非・步罪二切、引レ詩云、百卉具痱、今詩四月作レ腓、毛傳、腓、病也。〔巢氏病源〕身體無レ痛、四肢不レ收、神智不レ亂、一臂不レ隨者、風痱也、時能言者可レ治、不レ能二言者一不レ可レ治。〔史記、灌夫傳〕病レ痱。〔注〕索隱曰、痱、音肥、風病也。❺小さい腫物。〔集韻〕痱、一曰小腫。❻病む。〔爾雅、釋詁〕痱、病也。❹腓(9－29629)・癆(7－22253)に同じ。〔集韻〕痱、或作二腓・癆一。❸あせも。〔廣韻〕痱、熱瘡。〔正字通〕痱、夏月煩熱所レ發。❼さける。〔韻會〕痱、又避也。❹神經痛。〔集韻〕痱、鬼痛病。〔風俗通、祀典〕今人卒得二鬼刺痱悟一、殺二雄雞一以傳二其心上一。

【痱磊】1 ライ 痱瘡に同じ。〔埤雅〕蟾蜍吐生、腹白背黑、皮上多二痱磊一、跳行舒遲。

【痱瘡】2 ライ 小さいはれもの。ぶつぶつ。〔韓愈、嘲二鼾睡一詩〕木枕十字裂、鏡面生二痱瘡一。

【痱瘡】3 ライ 痱瘡に同じ。

【痱子粉】4 fei' tzu fen' にきびを取り除く粉。

【瘃】22298 シ 〔集韻〕珠玉切 沃

𤸷 小 篆 ❶❷しもやけ。凍傷。瘃(7－2230 1)に同じ。〔說文〕瘃、中レ寒腫皸、从レ丿豕聲。〔玉篇〕瘃、手足中レ寒瘡也。〔集韻〕瘃、或从レ彔。〔正字通〕瘃、今俗呼二足跟凍瘡一、曰二竈瘃一。〔漢書、趙充國傳〕將軍士寒、手足皸瘃。〔注〕文穎曰、瘃、寒創也。

【瘃腊】1 チヨクセキ 食料品の名。鷄・鴨・生魚など各種の乾肉を凍らして作つたもの。瘃魚腊。〔齊民要術、脯腊〕五味脯、云云、名二瘃腊一、亦名二瘃魚腊一。

【瘃憘】2 チヨクダ 凍傷で指をおとすこと。〔漢書、趙充國傳〕趙充國曰、今レ反畔之虜竄二於風寒之地一、離二霜露疾疫瘃憘之患一。

【瘃脯】3 チヨクホ 食料品の名。臘月に作つた條狀の脯。臘肉をいふ。〔齊民要術、脯腊〕臘月中作レ條者、名曰二瘃脯一。

【瘃魚腊】4 チヨクギヨセキ 食料品の名。瘃腊(1)に同じ。

【瘽】22315 シヨウ 〔集韻〕豎勇切 腫 ㄓㄨㄥˇ chung'

足がはれる。又、その病。腳氣。尰(4－7594)・瘽(7－22492)に同じ。〔集韻〕瘽、說文、脛氣足腫、或作レ瘽。〔一切經音義、四〕瘽、字詁・通俗文、腫足曰レ瘽、瘽、脚病也、經文從レ足作レ踵、非也。〔韻會〕尰、本作レ瘽。〔漢書、賈誼傳〕天下之勢、方病二大瘽一。〔注〕如淳曰、腫足曰レ瘽。

【痹】22279

転載頁

【瘈】22317

㊀ケイ 〔集韻〕詰計切 齊 ku chi⁴
㊁セイ 〔集韻〕征例切 齊 shi chih⁴

㊀㊁❶くるふ。〔集韻〕瘈、狂也。〔左氏、襄、十七〕國人逐ニ瘈狗一。❷瘈瘲は、ひきつけ。てんかん。〔集韻〕瘈、瘈瘲、癇疾。㊂狂犬。狾(7－20434)に通ず。〔集韻〕狾、說文、狂犬也、或作レ瘈。㊃癤(7－22380)・瘌(7－22272)に同じ。〔集韻〕癤、或从レ制、亦作レ瘈。

【瘈狗】1ケイク 狂犬。〔左氏、襄、十七〕國人逐ニ瘈狗一。〔注〕瘈、狂犬也。〔論衡、感類〕國人自逐ニ瘈狗一而華臣自走。

【瘈瘲】2ケイショウ きやうふう。小兒のひきつけ。〔集韻〕瘈、瘈瘲、癇疾。

【瘏】22330

ト 〔集韻〕同都切 虞 tu²

篆 小 瘏、病也、从レ疒者聲。〔爾雅、釋詁〕瘏、病也。〔詩、周南、卷耳〕我馬瘏矣。〔傳〕瘏、病也。❶馬がつかれて進めぬこと。〔爾雅、釋詁、疏〕瘏、馬疲不レ能進之病。〔詩、周南、卷耳、集傳〕瘏、馬病不レ能進也。㊁おそれる。〔爾雅、釋詁〕瘏、懼也。

【瘏悴】1トスイ 病みつかれる。〔楚辭、劉向、九歎、思古〕髮披披以鬖鬖兮、躬劬勞而瘏悴。〔注〕瘏、病也。

【瘏痡】2トホ 病みつかれて行けないこと。疲勞。〔詩、周南、卷耳〕陟ニ彼阻一矣、我馬瘏矣、我僕痡矣。〔傳〕瘏、病也、痡、亦病也。〔集注〕瘏、馬病不レ能進也、痡、人病不レ能レ行也。〔齋藤拙堂、下ニ岐蘇川一記〕或瘏痡不レ能レ起。

【瘞】22339

リ ユウ

癢(7－22506)に同じ。〔集韻〕癢、或作レ瘞。

【瘕】22354

㊀カ ゲカ 〔集韻〕何加切 麻 ㄐㄧㄚˇ chia³
㊁カ ケカ 〔集韻〕舉下切 馬
㊂カ ケカ 〔集韻〕居迓切 禡

篆 小 ㊀❶喉の病。疥(7－22063)に同じ。〔集韻〕瘕、喉病、或从レ牙。❷腹の病。㊁㊂❶に同じ。㊃❶腹の病。〔玉篇〕瘕、腹中病也。〔集韻〕瘕、腹病。㋑女の腹に出來るこり。腹中に惡血がたまり、又、肉の塊、髮の塊りなどが出來て妊娠の狀を呈するもの。異狀姙娠。〔說文〕瘕、女病也、从レ疒叚聲。〔桂注〕素問、任脈爲レ病、男子內結七疝、女子帶下瘕聚、靈樞、石瘕生ニ於胞中一、寒氣客ニ於子門一、子門閉塞、氣不レ能レ通、惡血當レ寫不レ寫、衄以留止、日以益大、狀如ニ懷子一、月事不ニ以レ時下一、皆生ニ于女子一、又別有ニ蟯瘕・肉瘕・髮瘕之種種一、中藏經癥瘕論云、癥者系ニ于氣一也、瘕者系ニ于血一也。㋺不消化・熱などによつて出來る腹中の塊り。〔正字通〕瘕、癥瘕、腹中積塊、堅者曰レ癥、有ニ物形一曰レ瘕。〔方書〕腹中雖レ硬、忽聚忽散、無レ有ニ常準一、謂ニ之瘕一、言ニ病レ瘕而未レ及レ癥也、經曰、小腸移ニ熱于腸一、爲ニ伏瘕一。〔注〕小腸熱已移ニ入大腸一、兩熱相搏、故血溢而爲ニ伏瘕一也。㋩蟲のやまひ。腹中の蟲に痛められること。〔史記、倉公傳〕臣意診ニ其脈一、曰ニ蟯瘕一。〔注〕正義曰、人腹中短蟲。❸きず。瑕(7－21120)に通ず。〔郝敬、讀書通〕舊唐書韋后稱レ制、負犯痕瘕、又明皇開元二十七年大ニ赦諸色痕瘕人一、咸從洗滌、瘕、音霞、與レ瑕同。㊄姓。〔萬姓統譜〕瘕、見ニ纂要一。

【瘕疵】1カシ きず。瑕疵。〔淮南子、詮言訓〕豈若ニ憂ニ瘕疵之興、挫沮之發一、而豫備ニ之哉。

【瘕疾】2カシツ 病名。〔新論、利害〕瘕疾塡レ胸而不ニ敢鈹一、蠆尾螫レ跗必不ニ敢斫一。

【瘖】22359

㊀イン オン 〔集韻〕於金切 侵 ㄧㄣˋ yin¹
㊁イン オン 〔集韻〕於禁切 沁

篆 小 ㊀❶おし。おふし。〔說文〕瘖、不レ能レ言也、从レ疒音聲。〔釋名、釋疾病〕瘖、唵然無レ聲也。〔禮、王制〕瘖聾跛躄。〔釋文〕瘖、啞也。❷闇(11－41421)に通ず。〔中華大字典〕瘖、通レ闇、喻不レ能諫諍一也。〔穀梁、文、六〕下闇則上聾。〔注〕臣闇不レ言、君無レ所レ聞。㊂重瘖は、地下。陰(11－41691)に通ず。〔說文通訓定聲〕瘖、叚借爲レ陰。〔張衡、思玄賦〕經ニ重陰一乎寂寞兮。〔注〕陰、善本作レ瘖、善曰、瘖、古字。㊃痛みがはげしい。〔集韻〕瘖、痛劇也。

【瘖啞】1イン おし。啞者。瘖瘂。喑啞。〔禮、王制、瘖聾・跛躄、釋文〕瘖、啞也。

【瘖啞人】2yin¹ ya³ jen² おし。

【瘖瘂】3イン 瘖啞に同じ。〔儒門事親、婦人重身〕夫婦人重身九月而瘖啞不レ言者、是脬之絡脈、不ニ相接一也。

【瘖疾】4インシツ おし。おふし。〔北史、齊宗室諸王下、武成諸子、淮南王仁光傳〕安樂王仁雅、從レ小有ニ瘖疾一。

【瘖者】5インシャ おし。啞者。〔墨子、尙賢下〕此譬猶ニ瘖者而使レ爲ニ行人一、聾者而使レ爲ニ樂師一。〔淮南子、泰族訓〕瘖者不レ言、聾者不レ聞。

【瘖蟬】6インゼン おしぜみ。〔駢雅、釋蟲魚〕闇蜩、瘖蟬也。〔本草、蚱蟬〕集解、時珍曰、未レ得ニ秋風一則瘖不レ能レ鳴、謂ニ之啞蟬一、亦曰ニ瘖蟬一。

【瘖蜩】7インチウ おしぜみ。〔方言、十一〕蟪、謂ニ之寒蜩一、寒蜩、瘖蜩也。

【瘖奴】8インド おしの下僕。〔唐書、柳渾傳〕州僧有ニ夜飲火一其廬一者、歸ニ罪瘖奴一。

【瘖默】9インモク 物を言はない。沈默。〔柳宗元、與ニ蕭翰林俛一書〕用ニ是更樂ニ瘖默一、思ニ與ニ木石一爲ニ徒一。

【瘖藥】10インヤク おしになるくすり。〔史記、呂后紀〕太后遂斷ニ戚夫人手足一、去ニ眼煇一耳、飲ニ瘖藥一、使レ居ニ廁中一、命曰ニ人彘一。

【瘖癰】11インヨウ 瘖聾に同じ。〔韓詩外傳、三〕傳曰、太平之時、無ニ瘖癰跛眇尪蹇、侏儒折短一。〔注〕禮王制、瘖聾跛躄斷者、侏儒百工、各以ニ其器一飲之、瘖、謂ニ口不レ能レ言、聾、謂ニ耳不レ聞レ聲、卽此瘖癰也、聾・癰通。

【瘖聾】12インロウ おしとつんぼ。瘖癰。〔禮、王制〕瘖聾・跛躄・斷者・侏儒・百工、各以ニ其器一食レ之。〔疏、瘖、謂ニ口不レ能レ言、聾、謂ニ耳不レ聞レ聲一。〔史記、淮陰侯傳〕吟而不レ言、不レ如ニ瘖聾之指麾一。〔淮南子、泰族訓〕有ニ瘖聾之病一者、雖破ニ家求レ醫、不レ顧ニ其費一。〔後漢書、儒林上、伊敏傳〕及レ出嘆曰、瘖聾之徒、眞世之有道者也、何謂ニ察察而遇ニ斯患一乎。

【瘻】22380

㊀セイ 〔集韻〕尺制切 齊
㊁セツ セチ 〔集韻〕尺列切 屑

篆 小 ㊀引く。はなつ。牽掣する。掣(5－12277)・瘌(7－22272)・瘈(7－22317)に通ず。〔說文〕瘻、引縱曰レ瘻、从レ手瘳省聲。〔段注〕引縱者、謂ニ攷レ遠而引レ之使レ近、攷レ近而縱レ之使レ遠、皆爲ニ牽掣一也、俗作レ掣。〔集韻〕瘻、或从レ制、亦作レ瘈。㊁やむ。やまひ。瘌(7－22272)に同じ。〔集韻〕瘌、瘌瘲、病也、或作レ瘻。

【瘛】 22388

篆 小

㊀セイ 〔集韻〕尺制切 齊
㊁セツ セチ 〔集韻〕尺列切 屑
㊂ケイ ゲイ 〔集韻〕胡計切 霽

㊀㊁㊂❶瘛瘲は、小兒の病名。きやうふう。ひきつけ。〔說文〕瘛、小兒瘛瘲病也、从疒㓞聲。〔徐鉉注〕臣鉉等曰、說文無㓞字、疑从疒从心契省聲。〔急就篇、四〕癰疽瘛瘲痿疲痕。〔注〕瘛瘲、小兒之疾、卽今癇病也。〔素問、玉機眞藏論〕筋脈相引而急病、名曰瘛。❷**解く**。割(2－2112)に通ず。〔說文通訓定聲〕瘛、叚借爲割。〔方言、十二〕瘛、解也。❸癩(7－22272)に同じ。〔集韻〕癩、或作瘛。❹或は㮚(7－22526)・瘈(7－22317)に作る。〔集韻〕瘛、或作㮚・瘈。

【瘜】 22391

篆 小

ショク ソク 〔集韻〕悉卽切 職

あまじし。つきにく。寄生した惡肉。鼻たけの類。息(4－10601)・䐃(9－29767)に同じ。〔說文〕瘜、寄肉也、从疒息聲。〔段注〕息肉、卽瘜肉。〔集韻〕瘜、或从肉。〔廣韻〕瘜、惡肉。〔聖濟總錄〕咽生瘜肉、先刺破令血出、用鹽豉擣和塗之、效。〔方書〕鼻肬曰瘜肉、亦謂之瘜菌。

【瘜菌】1 ソクキン 鼻の病。はなたけの類。字解を見よ。

【瘜肉】2 ソクニク あまじし。こくみ。こぶ・いぼ等の贅肉。又、鼻の病、はなたけ。〔瘡瘍全書、瘜肉〕鼻、居面中、爲一身之血運、而鼻孔爲肺之竅、其氣上通於腦、下行於肺、若肺氣清、氣血流通、百病不生、肺氣盛、一有阻滯、諸病生焉、鼻孔中瘜肉、名曰鼻痔、皆由六氣七情所感而生、若生上入眼、名曰努肉、若生下入鼻中、名曰瘜肉、窒塞不通、當戒酒節慾、除煩惱、戒憂愁、內服煎劑、外用點藥、庶平復矣。〔倭名類聚抄、疾病部、瘡類〕瘜肉、說文云、瘜、寄肉也、瘜肉、阿末之之、又、古久美。

【瘨】 22406

㊀グワン 〔集韻〕吾還切 刪
㊁クン グン 〔集韻〕衝云切 文

㊀㊁**しびれる**。痲痹する。瘨(7－22575)に同じ。〔集韻〕瘨、痺也、或作瘨。〔字彙〕瘨、手痲痹也。

【瘨】 22420

篆 小

㊀テン 〔集韻〕多年切 先
㊁テン デン 〔集韻〕丁練切 霰
㊂シン 〔集韻〕徒典切 銑
㊃シン 〔集韻〕之刃切 震
㊄シン 〔集韻〕稱人切 眞

㊀㊁㊂㊃❶**病む**。**なやむ**。**やます**。**なやます**。〔說文〕瘨、病也、从疒眞聲。〔詩、大雅、雲漢〕胡寧瘨我以旱。〔傳〕瘨、病也。❷**きちがひ**。**てんかん**。風病。顚(12－43628)に通ず。〔說文、瘨、段注〕今之顚狂字也。〔說文通訓定聲〕瘨、聲類、風病也。〔玉篇〕瘨、狂也。❸**病がなほらないでしきりにおこること**。〔素問、長刺節論〕病初發、歲一發、不治、月一發、不治、月四五發、名曰瘨病。❹癲(7－22643)に同じ。〔集韻〕瘨、或从顚。❺塡(3－5355)に通ず。〔詩、小雅、小宛、哀我塡寡、集傳〕塡、音顚、塡、與瘨同。❻**倒れる**。顚(1－1316)に通ず。〔字彙補〕瘨、同顚、倒也。㊄腹がふくれる病。膻(9－29750)に通ず。〔說文〕瘨、一曰、腹張。〔說文通訓定聲〕瘨、叚借爲膻。〔集韻〕瘨、腹脹病。

【瘲】 22451

篆 小

㊀ショウ シユ 〔集韻〕足用切 宋 ㄗㄨㄥˋ tsung⁴
㊁ショウ シユ 〔集韻〕將容切 冬

㊀㊁❶瘛瘲は、きやうふう。小兒のひきつけ。〔玉篇〕瘲、瘈瘲、小兒病。〔集韻〕瘲、瘛瘲、風病。〔漢書、藝文志〕金創瘲瘛方三十卷。〔注〕師古曰、小兒病也。❷**やむ**。**やまひ**。〔說文〕瘲、病也、从疒㓞聲。〔集韻〕瘲、說文、病也。

【瘳】 22453

篆 小

㊀チウ チユ 〔集韻〕丑鳩切 尤 イヌ ch'ou¹
㊁レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭

㊀㊁❶**いえる**。疾が減ずる。〔說文〕瘳、疾瘉也、从疒翏聲。〔集韻〕瘳、病損也。〔書、說命上〕若藥弗瞑眩、厥疾弗瘳。〔蔡傳〕瘳、愈也。〔禮、文王世子、旬有二日乃間、注〕間、猶瘳也。❷**へる**。**へらす**。〔國語、晉語二〕君不度而賀二大國之襲、於己何瘳。〔注〕瘳、猶損也。❸**たがふ**。違ひがある。〔左氏、昭、十三〕其何瘳於晉。〔注〕瘳、差也。❹**國勢が振興する**。〔中華大字典〕瘳、喩國勢振興也。〔莊子、人閒世〕庶幾其國有瘳乎。

【瘳愈】1 チユユ 病がいえる。全快する。〔漢書、元后傳〕期月之閒、幸得瘳愈。

【瘨】 22494

㊀タイ ヅイ 〔集韻〕徒回切 灰
㊁タイ ヅイ 〔集韻〕徒對切 隊

㊀㊁**陰部の病**。癩(7－22615)・瘕(7－22235)・瘕(7－22235)に同じ。〔集韻〕瘨、倉頡篇、陰病、或作癩・瘕・瘕。

【瘻】 22506

篆 小 文

リウ リユ 〔集韻〕良中切 東 カメㄥˊ lung²

❶**つかれる**。**やむ**。體力衰へて癈人となる。〔說文〕瘻、罷病也、从疒隆聲。〔漢書、高帝紀下〕年老瘻病勿遣。〔注〕師古曰、瘻、疲病也。〔後漢書、光武紀下〕高年鰥寡孤獨及篤瘻無家屬。〔注〕瘻、病也。❷**きとく**。病がおもい。〔淮南子、覽冥訓〕平公瘻病。〔注〕瘻病、篤疾。❸**老いる**。〔正韻〕瘻、老也。❹**せむし**。〔史記、平原君傳〕臣不幸有罷瘻之病。〔注〕索隱曰、罷瘻、背疾、言腰曲而背隆高也。❺**小便の通じない病**。泌尿器結石。〔素問、五常政大論〕其病瘻閟。〔注〕瘻、小便不通。❻瘻(7－22147)・瘻(7－22339)に同じ。〔說文〕瘻、瘻、籀文瘻省。〔集韻〕瘻、或作瘻・瘻。

【瘻疾】1 リウシツ 腰の曲がつて、脊が隆くなるやまひ。せむし。〔漢書、賈山傳〕民雖老羸瘻疾、扶杖而往、聽之。

【瘻病】2 ロウビヤウ 病がおもい。又、つかれやむ。〔韓非子、十過〕晉國大旱、赤地三年、平公之身遂瘻病。〔翼奉、瘻、當作瘻。〔淮南子、覽冥訓〕風雨暴至、平公瘻病、晉國赤地。〔注〕瘻病、篤疾。〔漢書、高帝紀下〕年老瘻病勿遣。

【瘻老】3 ロウラウ おいぼれ。〔晏子、問、下〕公所身見瘻老者七十人、振贍之、然後歸也。

【癉】22521

㊀タン 〔集韻〕得案切 翰
㊁タ 〔集韻〕丁賀切 箇
㊂タ 〔集韻〕典可切 哿
㊃タン 〔集韻〕多寒切 寒
㊄タン 〔集韻〕薫旱切 旱

憚 小 篆

㊀㊁ ㊀**病む。**なやむ。やます。〔詩、大雅、板〕下民卒癉。〔傳〕癉、病也。〔書、畢命〕彰善癉惡。〔傳〕明其爲善、病其爲惡。㊁**つかれる。**つかれやむ。〔說文〕癉、勞病也、从疒單聲。〔爾雅、釋詁〕癉、勞也。㊂**苦しむ。**〔康熙字典〕癉、博雅、苦也。㊃**惡いかさ。**癉疸(5)を見よ。㊄**わうだん。**黃疸病。〔漢書、嚴助傳〕南方暑溼、近夏癉熱。〔注〕師古曰、癉、黃病。㊅**おこり。**熱するだけで、寒くならぬおこり。〔巢氏病源論〕瘧候、但熱不寒、命曰癉瘧。㊆**憚**(4－11222)に通ず。〔集韻〕癉、或从心。〔爾雅、釋詁〕勤愉庸癉。〔釋文〕癉、本或作憚。㊇**僤**(1－1112)・**瘴**(7－22541)に通ず。〔詩、大雅、板〕下民卒癉。〔釋文〕僤、本又作癉、沈本作瘴。㊈㊀**つかれる。**〔集韻〕癉、勞也。㊁**怒る。**〔集韻〕癉、怒也。㊂**厚い。**亶(1－328)に通ず。〔說文通訓定聲〕癉、叚借爲亶。〔國語、周語上〕陽癉憤盈。〔注〕癉、厚也。㊃**わうだん。**黃疸。〔素問、脈要精微論〕癉成爲消中。〔注〕癉、謂溼熱也。㊄㊀火癉は、小兒の病。〔廣韻〕癉、火癉、小兒病也。㊁**熱。**熱のある病。燀(7－19388)・炟(7－18932)に通ず。〔說文通訓定聲〕癉、叚借爲燀、爲炟。〔素問、奇病論〕名曰脾癉。〔注〕癉、謂熱也。〔史記、倉公傳〕風癉客脛、難於大小溲、溺赤。〔注〕正義曰、癉、旱也。㊅**わうだん。**黃疸。疸(7－22094)に通ず。〔說文通訓定聲〕癉、叚借爲疸。〔山海經、西山經〕服之已癉。〔注〕黃癉病也。〔漢書、藝文志〕五臟六府癉十二病方四十卷。〔注〕師古曰、癉、黃病。㊆**手足のしびれる病。**〔集韻〕癉、風在手足病。㊇**つかれやむ。**〔集韻〕癉、勞病也。㊈**つよくわるい。**〔張衡、東京賦〕剛癉必斃。〔注〕綜曰、癉、難也、言鬼之剛而難者皆盡死也。㊉**中風。**瘨(7－22541)に同じ。〔集韻〕瘨、風病、或从單。

【癉惡】1 タンアク 惡をなす人をなやます。罪惡を清める。〔書、畢命〕彰善癉惡。〔傳〕明其爲善、病其爲惡。

【癉瘧】2 タンギャク 病名。瘧の一種。熱があつて惡寒を伴はぬもの。〔素問、瘧論〕其但熱而不寒者、陰氣先絕、陽氣獨發、則少氣煩寃、手足熱而欲嘔、名曰癉瘧。〔注〕癉、熱也、極熱爲之也。

【癉疾】3 タンシツ 熱病。〔論衡、順鼓〕其有旱也、何以知不如人有癉疾也。

【癉疽】4 タンショ 惡性のかさ。玉枕疽。對口疽。〔左氏、襄、十九〕苟偃癉疽、生瘍於頭。〔注〕癉疽、惡瘡也。

【癉暑】5 タンショ 癉熱に同じ。〔范成大、詩〕窮山更癉暑、憊臥不舉頭。

【癉痔】6 タンチ 疲勞病としもがさ。〔韓非子、解老〕夫內無痤疽癉痔之害、而外無刑罰法誅之禍者、其輕括鬼也甚。

【癉熱】7 タンネツ わうだん。きばむやまひ。黃病。一說に、熱さのはげしいこと。〔漢書、嚴助傳〕南方暑溼、近夏癉熱。〔注〕師古曰、癉、黃病。〔王先謙補注〕王念孫曰、顏說非也、癉熱卽盛熱、言南方暑濕之地、近夏則盛熱也。〔論衡、感虛〕人形長七尺、形中有五常、有癉熱之病、深目剋責。

【癲】22615

タイ ツイ 〔集韻〕徒回切 灰

陰部の病。主として男子にいふ。癜(7－22494)に同じ。〔集韻〕癜、倉頡篇、陰病、或作癲。〔正字通〕癲、疝經、言丈夫陰器、連少腹急痛也。

【瘿】22630

㊀エイ ヤウ 〔集韻〕於郢切 梗
㊁エイ ヤウ 〔集韻〕伊盈切 庚

癭 小 篆

㊀㊁ ㊀**こぶ。**㋑皮膚に肉の圓く堆く隆起するもの。ふすべ。しひね。〔魏志、賈逵傳、注〕爭公事、不得理、乃發憤生瘿。〔方書〕瘿有五、肉色不變爲肉瘿、筋脈現露爲筋瘿、筋脈交絡爲血瘿、隨憂惱消長爲氣瘿、堅硬不移爲石瘿。〔醫宗金鑑、瘿、注〕瘿發於皮膚血肉筋骨之處、如纓絡之狀、色紅而高突、皮寬而不急、蒂小而下垂。㋺くびのこぶ。〔說文〕瘿、頸癭也、从疒嬰聲。〔釋名、釋疾病〕瘿、嬰也、在頸嬰喉也。㋩木のふしこぶ。〔物類相感志〕嶺南多楓、遇雷雨則瘿長三五尺。㊁**おし。**言葉の出ぬ病。瘖(7－22359)に通ず。〔說文通訓定聲〕瘿、叚借爲瘖。〔呂覽、盡數〕輕水所、多禿與瘿人。〔注〕瘿、咽疾。㊂**臂**(9－29988)・**顎**(12－43749)に同じ。〔集韻〕瘿、或从肉、从頁。

【瘿相】1 エイソウ 宋、王欽若(7－20823：1329)の異稱。頸にこぶがあつたからいふ。〔宋史、王欽若傳〕欽若狀貌短小、項有附疣、時人目爲瘿相。

【瘿腫】2 エイシュウ こぶ。〔爾雅、釋木、瘣木苻婁、注〕謂木病、瓜傴瘿腫無枝條。〔博物志、五方人民〕山居之民多瘿腫疾。

【瘿人】3 エイジン 言葉の出ない病の人。おし。〔呂覽、盡數〕輕水所、多禿與瘿人。〔注〕瘿、咽疾。

【瘿陶】4 エイタウ 縣名。漢、置く。故城は河北省寧晉縣。〔漢書、地理志上〕鉅鹿郡、縣二十、瘿陶。〔讀史方輿紀要、直隸、眞定府、趙州、寧晉縣、瘿陶城、縣西南二十五里、漢置縣、屬鉅鹿郡、顏師古曰、瘿、讀若影、後漢延熹八年、勃海王悝降爲瘿陶王、國於此、初平二年、博陵羣賊張牛角等、攻瘿陶不能陷、晉以楊氏縣省入。

【瘿瘤】5 エイリウ こぶ。〔三因方、瘿瘤〕瘿、多著于肩項、瘤則隨氣凝結。〔本草、海帶〕主治、治水病瘿瘤、功同海藻。

【瘿瘻】6 エイロウ 頸のこぶ。〔倭名類聚抄、疾病部、瘡類〕瘿瘻、說文云、瘿瘻、頸腫也。「號。」

【瘿瓢子】7 エイヘウ 清、黃慎(12－47926：520)の「號。」

【瘿暈山房】8 エイウンサンバウ 清、羅天尺(9－28397：39)の室名。

【瘿楷居士】9 エイカイコジ 清、黃樹穀(12－47926：11)の號。

【瘿冠道人】10 エイクワンダウジン 清、梁清遠(6－14825：28)の號。

【瘿瓢山人】11 エイヘウサンジン 清、黃慎(12－47926：520)

【盼】22697 ハ ヘ 〔字彙〕普巴切 麻

亂れるさま。〔靈樞經〕紛紛皤皤、終而復始。〔注〕謂雜亂紛紜、而有明白之分度也。

【皏】22725 ハウ ヒャウ 〔集韻〕普幸切 梗

一白い。〔廣雅、釋器〕皏、白也。**二うすい色。**〔玉篇〕皏、淺薄色也。

【皽】22883 サ 皽(8－22903)に同じ。〔集韻〕皽、亦作皽。

【皽鼻】ニキミ ハナ 赤く石榴の種子の如き狀の鼻。ざくろばな。皰鼻。〔倭名類聚抄、瘡類〕皽鼻、鼻上皰也、邇岐美波奈。

【皽】22903 サ シャ 〔集韻〕莊加切 麻 cha¹ ソ 〔集韻〕州五切 麌 ts'u³

一一にきび。鼻のあたりのもがさ。〔集韻〕皽、鼻上皰。〔素問、生氣通天論〕勞汗當風、寒薄爲皽。〔注〕皽刺長於皮中、形如米、或如針。**二ざくろばな。**はなのあたまの赤くなるやまひ。〔正字通〕皽、紅暈似瘡、浮起著面鼻者、俗曰酒皽。**三**鱸(12－4847)・膚(9－29819)・皽(8－22883)に同じ。〔集韻〕皽、或从鼻、从肉、亦作皽。**二ひび。**皽(8－22850)に同じ。〔集韻〕皽、博雅、皽皽、皽也、或省。

転載項目 42

【痹】22279 ヒ 〔集韻〕必至切 寘 ㄅㄧˋ pi⁴

悱 小篆 **一しびれる。**〔一切經音義、十八〕疼痹、蒼頡篇、痹、手足不仁也。〔歐陽脩、憎蒼蠅賦〕臂已痹而猶攘。**二リウマチス。**身體がしびれて感覺を失ふ、神經系の病。〔說文〕痹、溼病也、从疒畀聲。〔正字通〕痹、內經曰、風寒濕三氣雜至、合而爲痹、風氣勝者爲行痹、寒氣勝者爲痛痹、濕氣勝者爲著痹。**三矢の名。**〔周禮、夏官、司弓矢〕恆矢・痹矢、用諸散射。**四ならぶ。**〔周禮、夏官、司弓矢、注〕痹之言、倫比。**五**疵(7－22068)に通ず。〔集韻〕痹、或作疵。**六**もと瘺(7－22579)に作る。〔康熙字典〕痹、本作瘺。

【痹醫】1ヒ リウマチス科の醫者。〔史記、扁鵲傳〕過雒陽、聞周人愛老人、卽爲耳目痹醫。

【痹矢】2ヒ 矢の名。八矢の一。禮射に用ひる。〔周禮、夏官、司弓矢〕恆矢・痹矢、用諸散射。

【痺】22280 ヒ 〔廣韻〕府移切 支 ㄅㄧ pi¹

うづらの雌。〔爾雅、釋鳥〕鶉鶉、其雄鶻、牝痺。〔山海經、南山經〕柜山、有鳥焉、其音如痺、其名曰鴸。

參考 俗に此の字を痹に用ひるは誤。〔字彙〕痺、與痿痹字不同。

【眴】23307

㊀ケン ゲン 〔集韻〕熒絹切 ㊁シュン 〔集韻〕輸閏切 ㊂シュン 〔集韻〕須倫切 ㊀ㄒㄩㄢˋ hsüan⁴ 霰 ㊁㊂眞

㊀㊀**またたく。**旬(8－23112)に同じ。〔説文〕旬、目搖也、眴、旬或从二目旬。㊁**くらむ。**眩(8－23254)に同じ。〔揚雄、劇秦美新〕臣嘗有二顛眴病一。〔注〕善曰、眩惑也、眴與レ眩古字通。㊂**物のさま。**眴眴(4)。眴渙(1)を見よ。㊃㊀**またたく。**瞚(8－23640)に同じ。〔集韻〕瞚、説文、開闔目數搖也、或作レ眴。㊁**めくばせする。**〔漢書、項籍傳〕梁眴レ籍曰、可レ行矣。〔注〕師古曰、眴、動レ目也、音舜、動レ目而使レ之也。㊂**おどろく。**匀(2－2533)に通ず。〔説文通訓定聲〕眴、叚借爲レ匀。〔莊子、德充符〕眴若皆棄レ之而走。〔釋文〕眴若、司馬云、驚貌。㊄㊀**目がくらむ。**旬(8－23112)に同じ。〔集韻〕眴、目眩也、或省。㊁通じて恂(4－10520)に作る。〔莊子、田子方〕今汝忧然有二恂目之志一。〔釋文〕恂、李又作レ眴。㊂**またたく。**瞚(8－23671)に同じ。〔廣韻〕瞚、目動、眴、上同。

【眴渙】1クヴン あざやか。鮮明なさま。〔宋玉、風賦〕眴渙粲爛、離散轉移。〔注〕善曰、眴渙粲爛、鮮明貌。

【眴兮】2クヴリ 視るさま。〔楚辭、九章、懷沙〕眴兮杳杳、孔靜幽默。〔注〕眴、視貌也。

【眴卷】3シュン 縣名。漢、置く。寧夏省中衛縣の東。〔漢書、地理志下〕安定郡、縣二十一、高平・復累・安俾・撫夷・云云・爰得・眴卷・彭陽・鶉陰・月道。〔注〕應劭曰、眴、音旬、日之旬、卷、音箘、籙之箘。〔讀史方輿紀要、陝西、寧夏鎮、靈州守禦千戶所、富平城〕眴卷城、在二所西南二百里、漢安定郡屬縣也、讀曰二旬箘一、後漢廢、水經注、河水東北逕二眴卷故城西一、又東過二富平縣西一、是也。

【眴眴】4ケン ㊀目のくらむさま。〔素問、刺瘧〕腎瘧者、云云、目眴眴然。〔注〕眴眴、目搖動而不レ明。㊁柔らかいさま。一説に、恂恂の誤といふ。〔管子、小問〕苗始其少也、眴眴乎、何其孺子也。〔注〕眴眴、柔順皃、穀始苗則柔順、故似二孺子一也。〔戴望校正〕丁云、眴眴、疑當レ作二恂恂一、方與二尹注柔順貌一相合。

【眴轉】5ケン 目がくらむ。〔後漢書、班固傳上〕攀二井幹一而未レ半、目眴轉而意迷。

【眴目】6シュン 目を動かす。又、またたく。一説に、人の目を眩悅する。〔何承天、纂文〕吳人呼二瞬目一爲二眴目一。

【眩】23319

㊀クヴン 〔集韻〕呼光切 陽 ㊁バヴ マヴ 〔集韻〕謨郎切 陽 ㊂クヴン 〔集韻〕虎晃切 養

㊀㊁㊂㊀**くらい。**目が明かでない。〔集韻〕眩、目不レ明也。〔靈樞經、經脈篇〕目眩眩如レ無レ所レ見。〔注〕腎虛則瞳神昏眩。㊁或は晄(8－23573)に作る。〔集韻〕眩、或作レ晄。

【眚】23228

小篆 セイ シャヴ 〔集韻〕所景切 梗 ㄕㄥˋ shêng⁴

眚

〔説文〕眚、目病生レ翳也、从レ目生聲。㊀**あやまち。**〔廣韻〕眚、過也。〔集韻〕眚、一曰、過也。〔書、舜典〕眚災肆赦。〔傳〕眚、過。〔左氏、僖、三十二〕不下以二一眚一掩中大德上。〔注〕眚、過也。㊁**わざはひ。**〔廣韻〕眚、災也。〔左氏、莊、二十五〕非二日月之眚一不レ鼓。〔後漢書、郎顗傳〕景雲降集、眚沴息矣。〔注〕眚沴、謂二災氣一。㊃**あやしい。**あやしいしるし。〔易、訟〕无レ眚。〔釋文〕子夏傳云、妖祥曰レ眚。㊄**あやしい病。**〔漢書、外戚下、孝元馮昭儀傳〕有二眚病一。〔注〕孟康曰、災眚之眚、謂二妖病一也。㊅**病む。**〔一切經音義、十九〕眚、病也。〔張衡、東京賦〕勤恤二民隱一、而除二其眚一。〔注〕綜曰、眚、病也。㊆**やせる。又、へる。へらす。**媜(8－6489)に通ず。〔説文通訓定聲〕眚、叚借爲レ媜。〔一切經音義、十九〕眚、瘦也。〔周禮、夏官、大司馬〕馮レ弱犯レ寡則眚レ之。〔注〕眚、猶二人眚瘦一也、王霸記曰、四面削二其地一。㊇**はぶく。**そぐ。〔釋名、釋天〕眚、省也。〔周禮、地官、大司徒〕以二荒政十有二一聚二萬民一、云云、七曰、眚禮。〔注〕眚禮、謂レ殺二吉禮一也。㊈**ゆるす。**〔正字通〕眚、赦也。〔春秋、莊、二十二〕肆二大眚一。〔會箋〕大眚、蓋衆眚之義也、猶二後世大赦一、正義以二大眚一爲二大罪一失レ之。㊉亦、瘖(7－22316)に作る。〔説文通訓定聲〕眚、字亦作レ瘖。

【眚災】1セイ 過失によつてなされた害惡。〔書、舜典〕眚災肆赦。〔傳〕眚、過、災、害。〔蔡傳〕眚、謂二過誤一、災、謂二不幸一。〔書、康誥〕乃惟眚災。

【眚栽】2セイ わざはひ。〔周禮、天官、師〕喪事代レ王受二眚栽一。〔史記、五帝紀〕眚栽過赦。

【眚病】3セイ 妖病。あやしい病。〔漢書、外戚下、孝元馮昭儀傳〕有二一男一、嗣爲レ王、時未レ滿レ歲、有二眚病一。〔注〕孟康曰、災眚之眚、謂二妖病一也、蘇林曰、名爲二肝厥一、發時臂口手足十指甲皆青。

【眚沴】4セイレイ わざはひ。〔後漢書、郎顗傳〕如レ是則景雲降集、眚沴息矣。〔注〕眚沴、謂二災氣一。

【眚禮】5セイ 吉禮を簡略にする。〔周禮、地官、大司徒〕以二荒政一、有二聚二萬民一、云云、七曰、眚禮。〔注〕眚禮、謂レ殺二吉禮一也。〔疏〕謂二吉禮之中、眚其禮數一。

【瞀】23432

ケイ 瞏(8－23590)の俗字。〔正字通〕瞏、同レ瞏、俗省。〔素問、診要經絡論〕目瞏絶系。

【瞀】23541

小篆 **瞀**

㊀㊁㊂**ふし目でうやうやしく視る。**まともに見ぬさま。〔説文〕瞀、氐レ目謹視也、从レ目敄聲。㊃**くらい。**眊(8－23194)に通ず。〔説文通訓定聲〕瞀、叚借爲レ眊。㊄目がはつきりしない。〔集韻〕瞀、一曰、目不レ明也。〔亢倉子、全道〕夫瞀視者、以レ鞋爲レ赤。〔注〕鞋、同レ黃。〔晉書、天文志〕眼瞀精絶、故蒼蒼然也。㊅おろか。心がくらい。〔正韻〕瞀、無二識也一。〔荀子、儒效〕愚陋儒瞀。〔注〕溝瞀、無二知也一。㊆**まどふ。**心がくらむ。〔書、益稷、下民昏墊、傳〕昏瞀墊溺。〔疏〕瞀者、眩惑之意。㊇**みだれる。**〔12－44845〕に通ず。〔説文通訓定聲〕瞀、叚借爲レ鶩。〔楚辭、九章、惜誦〕中悶瞀之忳忳。〔注〕瞀、亂也。㊈**みだれ髮。**〔淮南子、道應訓〕於レ是、乃去二其瞀一而載二之

㊀ボウ モ 〔集韻〕莫候切 ㊁ボウ ム 〔集韻〕迷浮切 ㊂バク マク 〔集韻〕墨角切 ㊃ブ ム 〔集韻〕亡遇切 ㊄バヴ モヴ 〔集韻〕微夫切 ㊅ボク モク 〔埤雅〕莫卜切 ㊀ㄇㄠˋ mao⁴ 有 ㊁ㄇㄡˋ mou⁴ 尤 覺 遇 虞 屋

〔字彙補〕莫到切 號

木。〔注〕瞀、被髪也。六瞀(8－23498)に同じ。〔集韻〕瞀、或从冒。七通じて貿(10－36721)に作る。〔康熙字典〕瞀、通作貿。八霧(12－42508)に通ず。〔説文通訓定聲〕瞀、叚借爲霧。九通じて愁(4－10942)に作る。〔康熙字典〕瞀、通作愁。十務(2－2394)・牟(7－19928)に通ず。〔正字通〕瞀、按九思逢尤篇注、彭咸務光古介士、務光、一作牟光。〔楚辭、王逸、九思、怨上〕復顧兮彭務。〔注〕務、一作瞀。十一姓。〔左氏、昭、元〕莒務婁瞀胡。

三四 一ふし目で謹み見る。〔集韻〕瞀、低目謹視也。二目がはっきりしない。〔集韻〕瞀、一曰、目不明。三もだえる。悶(4－10729)に通ず。〔説文通訓定聲〕瞀、叚借爲悶。〔素問、氣交變大論〕民病肩背瞀重。〔注〕瞀、謂悶也。〔素問、五常政大論〕其動鏗禁瞀厥。〔注〕瞀、悶也。五雛瞀は、漢の縣名。河北省蔚縣の東。〔集韻〕瞀、雛瞀、縣名、在上谷。〔漢書、地理志下〕上谷郡、縣十五、雛瞀。〔注〕孟康曰、音句無。六めまひ。癲癇。瞀病(5)を見よ。〔字彙補〕瞀、視眩易也。七とりめ。〔埤雅、釋鳥、鴟鴞〕舊說、雀目夕昏。人有至夕昏不見物者、謂之雀瞀。

【瞀光】1 クワウ 夏の人。務光(2－2394・5)の一を見よ。

【瞀視】2 シ 見て明らかでない。〔亢倉子、全道〕「瞀視者、以鞋爲赤。」

【瞀儒】3 ジュ 暗愚な儒者。〔荀子、非十二子〕世俗之溝猶瞀儒、嚾嚾然不知其所非也。〔注〕溝、讀爲拘、拘、愚也、猶、猶豫也、不定之貌、瞀、暗也。

【瞀芮】4 ゼイ 蟲の名。〔埤雅〕螭、似蚊而小、一名瞀蚋。〔荘子、至樂〕瞀芮生乎腐蠙。〔列子、天瑞〕瞀芮生乎腐蠙。

【瞀病】5 ビヤウ 目がくらむ病。〔荘子、徐無鬼〕予適有瞀病。〔釋文〕瞀、風眩貌。

【瞀瞀】6 ボウ 目がはっきり見えないさま。貿貿。〔何遜、七召〕至乃喀喀死於道邊、貿貿塡乎溝壑。

【瞀瞀然】7 ボウボウゼン 目を垂れ、謹んで視るさま。〔荀子、非十二子〕儉然、慘然、輔然、端然、瞀然、洞然、綴綴然、瞀瞀然、是子弟之容也。〔注〕瞀瞀、不敢正視之貌。

【瞀迷】8 メイ もだえ惑ふこと。〔楚辭、東方朔、七諫、哀命〕固時俗之溷濁兮、志瞀迷而不知路。〔注〕瞀、悶也、迷、惑也。

【瞀亂】9 ラン みだれる。〔楚辭、宋玉、九辯〕忼慨絶兮不得、中瞀亂兮迷惑。〔注〕思念煩惑、忘南北也。〔後漢書、廉范傳〕范訶之曰、君困戹瞀亂邪。〔潘岳、寡婦賦〕思纏綿以瞀亂兮、心摧傷以愴惻。

【瞂】23573

クワウ 眩(8－23319)に同じ。〔集韻〕瞂、或作眩。

【瞏】23590

小 篆

ケイ 〔集韻〕葵營切 庚

ギヤウ

セン 〔集韻〕旬宣切 先

ゼン

一一驚いて見る。〔説文〕瞏、目杕杜文、傳云、瞏瞏、無所依也、陳啟源曰、無依之人、多傍徨驚顧、傳與說文語雖異、義實相通。二みつめる。驚き視つめる。〔素問、診要經絡論〕少陽終者、耳聾、百節皆縱、目瞏絶系。〔注〕瞏、謂直視如驚貌。三たよる所がない。ひとりぼつち。瞏瞏。煢(7－19217)・煢(7－19134)に同じ。〔詩、唐風、杕杜〕獨行瞏瞏。〔傳〕瞏瞏、無所依也。〔釋文〕瞏、本亦作煢、又作煢。

四うれくる。嬛(3－6782)に通ず。〔正字通〕瞏、憂也、周頌、瞏瞏在疚、今詩作嬛、字譌、義同。五惸(4－10865)に通ず。〔正字通〕瞏、與惸通。六俗に瞏(8－23432)に作る。〔正字通〕瞏、同瞏、俗省。三かくる。還(11－39174)・復(4－10260)に通ず。〔集韻〕還、復反也、或从彳、亦作瞏。

【瞏】23616

セン 〔集韻〕旬宣切 先

ゼン

一うつくしい。嫙(3－6642)に同じ。〔集韻〕嫙、説文、好也、或从目。二目が美しいさま。〔靈樞經、通天〕陰陽和平之人、其狀瞏瞏然。〔注〕目好貌。

【瞤】23640

小 篆

シュン 〔集韻〕輸閏切 震

一またたく。もと瞬に作る。〔正字通〕瞤、本作瞬。〔説文〕瞬、開目數搖也、从目寅聲。二まじろぐ。目が動く。〔荘子、庚桑楚〕終日視而目不瞤。〔釋文〕瞤、動也。三ちらと見合はす。〔呂覽、安死〕視萬歲猶一瞤也。〔注〕瞤者、潁川人、謂相視曰瞤也。四目くるめく。目まひする。眩(8－23254)に通ず。〔説文通訓定聲〕瞤、叚借爲眩、荘子庚桑楚、兒子終日視而目不瞤、釋文、動也、失之。五或は眴(8－23307)・瞬(8－23694)・眩(8－23244)・瞤(8－23671)に作る。〔集韻〕瞤、或作瞬、眩・眴・瞤。

【瞤】23671

小 篆

一ジュン 〔集韻〕濡純切 眞

ニン

二ゼン 〔集韻〕而宣切 先

ネン

三シュン 〔集韻〕輸閏切 震

「メ」 shuen

一二一目のふちがぴりぴりと動くこと。〔説文〕瞤、目動也、从目閏聲。〔西京雜記、三〕目瞤得酒食。二ひく。肉がひきつる。〔素問、氣交變大論〕肌肉瞤瘈。〔注〕瞤瘈、動掣也。三瞬(8－23781)に同じ。〔集韻〕瞤、或作瞬。四眴(8－23307)に同じ。〔廣韻〕瞤、目動、眴、上同。三またたく。瞬(8－23640)に同じ。〔集韻〕瞤、説文、開目數搖也、或作瞬。

【砭】 24110

小篆 𠫑

㊀ヘン 〔集韻〕悲廉切 鹽 ㄅㄧㄢ pien¹

㊁ヘン 〔集韻〕陂驗切 驗

㊀㊁ ❶石ばりを打つ。いしばりで悪いところを刺して治療する。〔説文〕砭、以石刺病也、从石乏聲。〔王注〕此動字也。〔史記、倉公傳〕年二十、是謂易貿、法不當砭灸。〔王安石、舟中望九華山詩〕士病吾能砭。❷いしばり。石で作った針。〔廣韻〕砭、石針。〔戰國、秦策、注〕石針曰砭。❸いましめ。砭針(3)を見よ。❹或は砒(8－24030)に作る。〔集韻〕砭、或作砒。

【砭灸】1 ヘンキウ いしばりとやいと。治病法の一種。〔史記、倉公傳〕故年二十、是謂易貿、法不當砭灸。砭灸至氣逐。

【砭愚】2 ヘング 愚者にいしばりする。おろかなものを戒める喩。文章の名。宋、張載作。書窓に掲げて諸生を戒めた文。後、東銘と改む。東銘(6－14499：662)を見よ。〔伊洛淵源錄、横渠初書〕其室之左、曰砭愚、右曰訂頑、伊川見之曰、如此徒起爭端、乃改曰東銘西銘。〔近思錄、爲學、注〕又作砭愚、曰、戲言出於思也、戲動作於謀也、云云。

【砭針】3 ヘンシン いしばり。轉じて、いましめ。砭鍼。〔南史、王僧孺傳〕侍郎金元起欲注素問、訪以砭石。僧孺答曰、古人當以石爲針、必不用鐵、說文有此砭字、許愼云、以石刺病也、東山經、高氏之山多針石、郭璞云、可以爲砭針、春秋美疢不如惡石、服子愼注云、石、砭石也、季世無復佳石、故以鐵代之爾。〔柳宗元、報崔黯秀才書〕學道以來、日思砭鍼攻熨。

【砭石】4 ヘンセキ いしばり。〔本草、砭石〕釋名、鍼石、集解、時珍曰、王冰注云、砭石如玉、可以爲鍼、蓋古者以石爲鍼、季世以鍼代石、今人又以瓷鍼刺病、亦砭之遺意也。〔醫鐵論、大論〕是以砭石藏而不施、法令設而不用。〔後漢書、文苑下、趙壹傳、注〕古者以砭石爲鍼。

【砭藥】5 ヘンヤク いしばりと藥。〔徐陵、報尹義尚書〕風氣彌留、砭藥無補。

【礔】 24530

ヘキ ヒヤク 〔集韻〕匹歷切 錫

いかづち。霹(12－42491)に同じ。〔集韻〕霹、霹靂、雷之急激者、或从石。

【礔㕛】1 ヘキヤク 極まる。〔廣雅、釋詁〕礔㕛、極也。

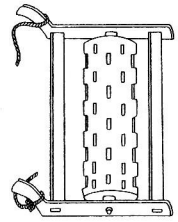
【礔㕛】2 ヘキヤク 烈しいいかづち。霹靂(12－42491：3)の❶に同じ。〔張衡、西京賦〕礔㕛激而增響。〔晉書、楚王瑋傳〕大風雷雨礔㕛。

【礔㕛車】3 ヘキヤクシヤ 車の名。石を積んで敵を擊つ車。霹靂車。〔西陽雜俎、雷〕夜半有人叩門云、介休王暫借霹靂車、某日至、介休收麥、良久有人、應曰、大王傳語、霹靂車正忙、不及借。〔皮日休、吳中苦雨詩〕躡破礔㕛車、折却三四轅。

【礰】 24583

レキ リヤク 〔集韻〕狼狄切 錫

❶石の音。磨(8－24498)に同じ。〔集韻〕磨、說文、石聲也、或作礰。❷礔㕛は、いかづち。霹(12－42523)に同じ。〔詳校篇海〕礰、與霹同。〔張衡、西京賦〕礔㕛激而增響。❸硡礰は、石の名。〔本草、薑石〕釋名、硡礰石、時珍曰、薑石以形名、云云、俗作硡礰。❹礰礰は、農具の名。〔耒耜經〕爬而後有礰礰焉、有齒、以木爲之、堅而重者良。



石礰礰（農政全書）

【秔】 24954

小篆 秔 或體 稉

カウ キヤウ 〔集韻〕居行切 庚 ㄍㄥ keng¹ ㄐㄧㄥ ching¹

うるち。うるしね。粳稻。粳(8－25075)・粳(8－26967)に同じ。〔說文〕秔、稻屬、从禾亢聲、粳、俗秔。〔玉篇〕秔、秔稻、秫稻也。〔集韻〕秔、說文、稻屬、或作稉・粳。〔漢書、東方朔傳〕馳騖禾稼稻秔之地。〔注〕師古曰、稻、有芒之穀總稱也、秔、其不黏者也。

【秔禾】1 カウクワ うるち。秔稻に同じ。〔范成大、鍾山閣上望雨詩〕秔禾未實秫禾瘦、不用廉纖便霈然。

【秔稻】2 カウタウ ねばり氣の少い稻。うるち。粳稻。〔爾雅、釋草〕稌、稻。〔疏〕案、說文云、沛國謂稻爲糯、秔稻屬也、字林云、糯、黏稻也、秔稻、不黏者、本草以粳米稻米爲二物、秔與粳古今字然、秔、糯甚相類、黏不黏爲異耳、依說文、稌稻卽糯也。〔揚雄、長楊賦〕馳騁秔稻之地、周、流梨栗之林。〔漢書、溝洫志〕若有渠漑、則鹽鹵下隰、塡淤加肥、故種禾麥、更爲秔稻、高田五倍、下田十倍。〔注〕師古曰、秔、謂稻之不粘也。〔杜甫、自瀼西荆扉、且移居東屯茅屋、詩〕煙霜棲野日、秔稻熟天風。〔蘇軾、吳中田婦歎〕今年粳稻熟苦遲、庶見霜風來幾時。

【秔稌】3 カウトウ うるち稻ともち稻。〔韓愈、柳州羅池廟碑〕秔稌充羨兮、蛇蛟結蟠。〔蘇軾、田圃東坡詩〕下隰種秔稌、東原蒔棗栗。

【秔米】4 カウベイ 粳米(8－26967：2)に同じ。〔倭名類聚抄、稻穀部、稻穀類、秔米〕本草云、秔米、亦作粳。

【秫】 25001

小篆 秫 或體 秫

シユツ ジユチ 〔集韻〕食律切 質 ㄕㄨˋ shu²

❶もちあは。もちきび。或は朮(6－14423)に作る。〔說文〕秫、稷之黏者、从禾、朮、象形、朮、秫或省禾。〔爾雅、釋草〕衆、秫。〔疏〕衆、一名秫、謂黏粟也、云云、北人用之釀酒、其莖稈似禾而麤大者是也。〔周禮、考工記、鍾氏〕染羽以朱湛丹秫。〔注〕丹秫、赤粟也。〔本草、秫〕釋名、時珍曰、秫、北人呼爲黃糯、亦曰黃米、釀酒劣於糯也。❷もちごめ。〔太平御覽、百穀部、秫〕崔豹古今注曰、稻之黏者爲秫。❸高粱のねばるもの。〔說文通訓定聲〕秫、今北地謂高粱之粘者、爲秫秫、亦曰胡秫、蓋古語也。❹きび。きびのねばらぬもの。〔說文、秫、段注〕稷而不黏者、亦通評爲秫秫。❺はり。長い針。鉥(11－40320)に通ず。〔戰國、趙策〕鰋冠秫縫。〔注〕秫、鉥通、長鍼也。

解字 象形。朮と禾との合字。朮はもちきびの莖葉に象り、禾はその穗のさまに象る。〔說文、秫、从禾朮象形、段注〕下象其莖葉、上象其采。

【秫稍】1 シユツシヨウ きびがら。黍稈。

【秫蘖】2 シユツゲツ もちきびと麴。〔史記、匈奴傳〕詔吏遺單于秫蘖金帛絲絮佗物、歲有數。

【秫穀】3 シユツコク もち米。〔晉書、隱逸、陶潛傳〕爲彭澤令、在縣公田、悉令種秫穀、曰、令吾常醉於酒足矣。

【秫酒】4 シユツシユ もちきびを用ひて作った酒。〔蘇軾、超然臺記〕擷園蔬、取池魚、釀秫酒、瀹脫粟。〔梅堯臣、送張子野祕丞知鹿邑、詩〕公秫時爲酒、晨庖日有魚。〔曹伯啓、冬至日白雪道中詩〕窮途卻値青雲節、秫酒糖燈語夜闌。

【秫秫】4′ shu² shu² 禾本科の一年生草本。蜀黍（もろこし、たうきび）の別稱。

【秭紬】5 シジュウ 長い針で縫ふ。女功の粗拙なことをいふ。秭縫。〔史記、趙世家〕黑ニ齒雕レ題、卻レ冠秭紬、大吳之國也。〔注〕集解曰、徐廣曰、戰國策作ニ秭縫一、紬、亦縫紩之別名也、秭者綦鍼也、古字多ニ假借一、故作ニ秭紬一耳、此蓋言ニ其女功鍼縷之麤拙一也、又一本作ニ鮭冠黎緤一也。

【秭坡】6 ジュウ 明、黎貞(12－47994：59)の號。

【秭米】7 ジイ もち米。糯米。華北で、高粱米をいふ。〔范成大、冬日田園雜興詩〕塵居何似山居樂、秭米新來禁ニ入城一。

【秭縫】8 ジュウ 長い針で縫ふ。秭紬(5)に同じ。〔戰國、趙策〕黑ニ齒彫ニ題、鰋レ冠秭レ縫、大吳之國也。〔注〕秭、鉥通、長鍼也、以レ鉥縫レ之、言ニ其制粗拙一也。

【秭子監學正】9 ジュウシカン 明、朱國禎(6－14424：787)の號。

穡 25208

㊀キク 〔集韻〕許六切 屋

㊁チク 〔集韻〕勑六切 屋

㊀㊁つむ。たくはくる。蓄(9－31642)に同じ。〔廣韻〕蓄、蓄ニ冬栄一也、穡、上同。〔集韻〕蓄、穡、積也。〔集韻〕蓄、說文、積也、或作レ穡。〔後漢書、袁紹傳〕穡ニ士馬一、以討ニ不庭一。

参考 熟語は蓄(9－31642)を見よ。

窅 25458

㊀エウ 〔集韻〕伊鳥切 篠 yao³

㊁アウ 〔集韻〕於絞切 巧

㊂エウ 〔集韻〕一叫切 嘯

㊃アウ 〔集韻〕於交切 肴

㊄ベン メン 〔字彙補〕莫賢切 先

窅 小篆 文 窅、深目皃、从ニ穴中目一。〔段注〕皃字、依ニ玉篇一正。㊀窈窅は、ふかい。〔集韻〕窅、窈窅、深也。㊁遠くのぞむ。〔謝朓、敬亭山詩〕緣源殊未レ極、歸徑窅如レ迷。〔注〕善曰、窅、遠望也。㊃ふかく遠いさま。〔正字通〕窅、深遠貌。〔莊子、知北遊〕夫道窅然難レ言哉。〔釋文〕窅、烏了反。㊄或は見・眄(8－23108)・曉(8－23696)・眑(8－23218)に作る。〔集韻〕窅、或作ニ見・眄・曉・眑一。㊅窅窕は、まがつたさま。〔正字通〕窅、窅窕、曲貌。㊆くぼんだ目のさま。或は見に作る。〔集韻〕窅、深目皃、或作レ見。㊇なげきうらむさま。〔莊子、逍遙遊〕窅然喪ニ其天下一焉。〔釋文〕窅、郭、武騂反、李、窅然、猶ニ悵然一。

解字 會意。穴と目とを合せて、目の落ちくぼんださまを表はす。字解を見よ。

【窅窕】1 ㊀まがつたさま。〔正字通〕窅、窅窕、曲貌。〔漢書、禮樂志、安世房中歌〕都荔遂芳、窅窕桂華。〔注〕師古曰、桂華之形、窅窕然也。㊁yao³ wa¹ 不滿なさま。

【窅譌】2 オイ 奥深いさま。窈譌。〔梁元帝、隱居先生陶弘景碑〕巉巉高棟、窅譌脩欄、極ニ望山川一、周ニ觀京陸一。

【窅窅】3 ヨウ ㊀奥深く遠いさま。くらいさま。窈窈。〔呂覽、論威〕窅窅乎冥冥、莫レ知ニ其情一。〔注〕窅、音窈。〔鵩冠子、天則〕舉レ善不レ以ニ窅窅一、拾レ過不レ以ニ冥冥一。〔說苑、權謀〕將將之臺、窅窅其謀。〔道德指歸論、上士聞道篇〕禍生ニ於冥冥一、福生ニ於窅窅一。㊁深いさま。〔韓愈、剝喙行〕窅窅深塹、其墉甚完。〔王起堯、見ニ姑射神人一賦〕出ニ碧嶺之崇崇一、臨ニ丹丘之窅窅一。

【窅然】4 ヨウゼン ㊀恨みながら望むさま。歎いてぼんやりするさま。〔莊子、逍遙遊〕窅然喪ニ其天下一焉。〔釋文〕窅、徐、烏了反、郭、武騂反、李、窅然、猶ニ悵然一。㊁ヨウ 深く遠いさま。〔莊子、知北遊〕老聃曰、汝齊戒、疏ニ瀹而心一、澡ニ雪而精神一、掊ニ擊而知一、夫道窅然難レ言哉、將ニ爲レ汝言ニ其崖略一。〔釋文〕窅然、烏了反。〔傅亮、爲ニ宋公一脩ニ張良廟一教一、顯默之際、窅然難レ究。〔注〕銑曰、窅然、深遠、難ニ以究探一也。

【窅娘】5 ヨウジャウ 五代、南唐の李煜の宮嬪。舞を善くす。〔道山新聞〕李後主宮嬪窅娘、纖麗善レ舞、後主作ニ金蓮、高六尺、蓮中作ニ品色瑞雲一、令ニ窅娘以レ帛繞レ腳、令ニ纖小屈上作一新月狀、素韈舞ニ雲中一、回旋有ニ凌雲之態一、唐鎬詩曰、蓮中花更好、雲裏月長新、因ニ窅娘一作也。

【窅窕】6 ヨウ 奥深いさま。〔楊素、通天臺賦〕中邃窅窕、入レ之者當晝而居レ昏。〔杜甫、客堂詩〕舍レ舟復深山、窅窕一林麓。〔秦觀、同ニ子瞻一端午日遊諸寺一賦得ニ深字一詩〕窅窕房櫳深。

【窅窱】7 ヨウ 深く遠いさま。〔水經、汶水注〕石壁窅窱、云云、仰視ニ巖石一、松樹鬱鬱蒼蒼、如レ在ニ雲中一。〔馬第伯、封禪儀記〕其爲ニ高也、如レ視ニ浮雲一、其峻也、石壁窅窱、如レ無ニ道徑一。

【窅眇】8 ヨウ 深く遠いさま。窈眇。〔王融、三月三日曲水詩序〕體レ元則レ大、恨ニ望姑射之阿一、然窅眇寂寥、其獨適者已。〔注〕銑曰、窅眇、深遠也。

【窅慢】9 マン 深く遠いさま。〔梁簡文帝、述羈賦〕歎ニ雲霞之窅慢一、對ニ江山之遙阻一。

【窅冥】10 メイ 奥深く遠いさま。窈冥。〔新語、資質〕頓ニ於窅冥之溪一。〔論衡、超奇〕極ニ窅冥之深一。〔劉峻、辨命論〕未レ達ニ窅冥之情一、未レ測ニ神明之數一。〔賈至、西亭春望詩〕日長風煖柳青青、北雁歸飛入ニ窅冥一。

窈 25470

㊀カウ ケウ 〔集韻〕居效切 ㄐㄧㄠˋ 效 chiao⁴

㊁ハウ ヘウ 〔集韻〕披教切 效

㊂ラウ レウ 〔集韻〕力交切 肴 ㄌㄧㄠˊ liao²

㊃リウ ル 〔集韻〕力救切 有

窈 小篆 文 窈 小說 ㊀あなぐら。もと窈(8－25515)に作る。〔字彙〕窈、俗窈字。〔說文、繫傳〕窈、窖也、从レ穴弔聲。〔集韻〕窈、說文、窖也。㊁をさめる。〔廣雅、釋詁四〕窈、藏也。㊂起しかもす。又、大きい。奈(8－5883)に同じ。〔廣韻〕奈、起釀、亦大也、窈、上同。㊃縣名。〔史記、衞青傳〕封レ駕爲ニ南窈侯一。〔注〕集解曰、徐廣曰、窈、宜レ作レ奈、音匹孝反、索隱曰、韋昭云、縣名、或作レ窖、字林云、大下卯與ニ穴下卯一、並音匹孝反。㊄あなぐら。むろ。窖(8－25516)に同じ。〔集韻〕窖、說文、地藏也、或作レ窈。〔周禮、考工記、匠人〕困窈倉城。〔注〕穿ニ地曰一窈。〔荀子、富國〕垣窈倉廩者、財之末也。〔注〕窈、窖也、掘ニ地藏レ穀也。〔荀子、議兵〕則必發ニ夫掌窈之粟一以食レ之。〔注〕地臧曰レ窈。㊅ふかくむなしいさま。〔集韻〕窈、深空皃。〔馬融、長笛賦〕庨窈巧老。〔注〕善曰、庨窈巧老、深空之貌。㊆地名。〔廣韻〕窈、地名、左傳云、與ニ之石窈之田一。〔集韻〕窈、石窈、地名、在ニ濟北一。

参考 窈ヤウと窈ヨウとは普通の楷書では共に窈に作つて差別がない。從つて音ハウの窈は窈で、音リウの窈は窈であることに注意すべきである。窈(8－25514)を見よ。

窠 25556

クワ 〔集韻〕苦禾切 歌 ㄎㄜ k'ê

窠 小篆 文 ㊀す。㊀鳥の巢。穴の中の巢。〔說文〕窠、一曰、鳥巢也、在レ樹曰レ巢、在レ穴曰レ窠。〔小爾雅、廣獸〕鳥之所乳謂ニ之巢一、雞雉所レ乳謂ニ之窠一。〔廣雅、釋宮〕窠、巢也。〔左思、蜀都賦〕窠宿ニ異禽一。〔注〕劉曰、窠、鳥巢也。㊁獸の巢。〔周昂、邊俗詩〕馬牛雖レ異レ域、雞犬竟同レ窠。㊂蟲の巢。〔本草、露蜂房〕集解、敷曰、蜂房有ニ四件一、一名ニ革蜂窠一。〔種樹書〕柑樹爲ニ蟲所レ食、取ニ螘窠于其上一。㊃へや。家。〔東京夢華

錄、五、育子〕浴レ兒畢、落二胎髮一、遍謝二坐客一、抱二牙兒一入二他人房一、謂二之移窠一。**㊁くぼみ。**あな。窾(8－25655)に同じ。〔說文〕窠、空也、从レ穴果聲。〔段注〕雙聲爲レ訓、其字亦作レ窾、高誘曰、窾、空也、是或借レ科爲レ之、孟子、盈レ科而後進。〔岑參、送二李卿一賦得二孤島石一詩〕綠窠攢二剝蘚一、尖頂坐二鸕鷀一。〔雲林石譜〕祈闇山出レ石、云云、卽空虛閒有二小如拳者一、可二貯レ水爲二硯滴一、或栽二植菖蒲一、水窠頗佳。**㊃印形の字くばりを正すわく。**轉じて、印の刻字をいひ、又、印を數へるにいふ。〔舊唐書、德宗紀〕賜二南詔異牟尋金印銀窠、其文曰、貞元冊南詔印。〔洞天清錄、漢印多用五字、不レ用二擘窠一。〔周權、水墨梅圖詩〕古丹漫漫篆窠暗、敗素颯颯形神枯。**㊄ますがた。**格子形。〔唐書、車服志〕六品以下服レ綾、小窠無レ文。〔范成大、題二錦亭一詩〕手開二花徑一錦成レ窠。**㊅花ぶさ。**〔裴說、薔薇詩〕一架長條萬朶春、嫩紅深綠小窠匀。**㊆植物を數へる語。**〔文昌雜錄、一〕禮部王員外言、昔見二朝議大夫李冠卿一說、揚州所レ居堂前杏、一窠極大、花多而不レ實。

【窠臼】1 クワウキウ しきたり。つきなみ。きまつた型。常套。葛原詩話に、禪錄に多く脫二窠臼一といふことがあるが、窠は鳥の巢、鳥の巢は多くふちだかで、中を臼のやうにくぼめて造るから、窠臼といふので、鳥が棲托して安住の想を生ずるから、學者の得たりとして心を落ちつける場所を指して窠臼といふと。又、臼窠・科臼に作る。〔大學衍義補、制二國用一總二論理財之道一〕所謂費之冗雜者、則途轍孔多、窠臼不レ一。

【窠闕】2 クワクケツ 官吏實職の空缺。窠は空、闕は缺。〔元典章、吏部、守闕〕其閒一年二年窠闕、文書到來的照レ闕都委付。

【窓】25576

サウ 窗(8－25517)の俗字。〔正字通〕窻、俗窗字。

【窻】25635

サウ 窗(8－25517)の俗字。〔正字通〕窻、俗字、別作レ窗。

参考 熟語は窗(8－25517)を見よ。

【笑】25885

セウ 〔集韻〕仙妙切 嘯 T一幺ˇ hsiao⁴

笑 小篆(本徐注) 笑 小篆(本注段)

㊀わらふ。もと笑によろこんで口を開いてわらふ。〔說文〕笑、喜也、从レ竹从レ犬。〔段注〕李陽冰遂云、竹得レ風、其體天屈、如二人之笑一、自後徐楚金缺二此篆一、鼎臣竟改二說文笑一作レ笑、而集韻・類篇乃有レ笑無レ笑、宋以後經籍無二笑字一矣、今以二顧野王・孫愐・顏元孫・張參一爲レ據、復二其正始一。〔廣韻〕笑、欣也、喜也、亦作レ笑。〔一切經音義、一二〕笑、喜也、竹爲二樂器一、君子樂然後笑也。〔增韻〕笑、喜而解レ顏啓レ齒也。〔論語、憲問〕樂然後笑。㊁あざけりわらふ。あざわらふ。〔增韻〕笑、又嗤也、哂也。〔詩、邶風、終風〕顧レ我則笑。〔傳〕笑、侮レ之也。〔孟子、梁惠王上〕以二五十步一笑二百步一。㊂ゑを出さずに顏をほころばせる。ほほゑむ。〔論語、陽貨〕夫子莞爾而笑。㊃花さく。〔樂府、西烏夜飛〕持レ底喚レ歡來、花笑鶯歌詠。**㊄犬の人になれた啼きごゑ。**〔說文通訓定聲〕笑、駿按、此字古皆从レ犬、本義、犬狎レ人聲、从レ犬箭省聲。**㊅おとるぬま。**〔易、萃〕一握爲レ笑。〔注〕笑者、儒劣之貌。**㊆**古、咲(2－3554)・矣(2－1459)に作る。〔集韻〕笑、古作レ咲、或省。〔漢書、薛宣傳、壹矣相樂、注〕師古曰、壹笑、謂二觀笑一耳、矣、古笑字。**㊇**俗に咲(2－4113)に作る。〔廣韻〕笑、咲、俗。

参考 此の字の篆文は說文に欠けたるを、徐鉉は矣に作つて補ひ、段玉裁は笑に改める。字解の㊀を見よ。〔大徐本說文、矣〕此字本闕、臣鉉等案、孫愐唐韻引說文云、喜也、从レ竹从レ犬、而不レ述二其義一、今俗皆从レ犬、又案、李陽冰刊定說文、从レ竹从レ夭、義云、得レ風其體天屈、如二人之笑一、未知二其審一。

【笑啞】1 ケウアク わらふ聲。〔范成大、嘲二峽石一詩〕頑質賈レ憎唾、傀狀發二笑啞一。

【笑菴】2 ケウアン 明、徐白(4－10110：255)の字。

【笑隱】3 ケウイン 元、大訢(3－5831：515)の字。

【笑繪】4 ケウワイ まくらゑ。春畫。

【笑悅】5 ケウエツ わらひよろこぶ。〔後漢書、方術、薊子訓傳〕兒識二父母一、軒渠笑悅、欲二往就レ之。

【笑醫】6 ケウイ ゑくぼ。笑渦。〔古詩、歎疆場〕淚痕猶尚在、笑醫自然開。〔梁昭明太子、擬古詩〕眼語笑醫近來情、心懷心想甚分明。〔韋莊、歎二落花一詩〕西子去時遺二笑醫一、謝娥行處落二金鈿一。

【笑醫金】7 ケウイキン 菊花の異名。〔藥譜、菊花名〕笑醫金。

【笑醫花】8 ケウイクワ 灌木の名。しじみばな。はぜばな。薔薇科に屬す。卵形の葉を有し、白色小球狀の花を著ける。〔和漢三才圖會、灌木類、笑醫花〕俗云蜆花、遼成八牋云、笑醫花、其花細如二豆一、一條千花、望見若二堆雪一、然、無二子可レ種、根窠叢生、茂者數十條、以二原根一劈作二數墩一、分種易レ活。

【笑醫兒】9 ケウイジ 七月七日の夕に造る菓子。〔東京夢華錄、八、七夕〕七月七夕、云云、又以二油麪糖蜜一造二爲笑醫兒一、謂二之果食、花樣奇巧百端。

【笑歌】10 ケウカ わらひ歌ふ。〔易林、賁之第二十二〕揭、猶レ言二長袖一耳。

【筩】26062

筩 小篆

㊀ トウ ツ 〔集韻〕徒東切 東 ㄊㄨㄥˇ t'ung³

㊁ トウ ツ 〔集韻〕杜孔切 董

㊂ ヨウ ユ 〔集韻〕尹竦切 腫

㊀㊀竹のつつ。竹管。〔說文〕筩、斷竹也、从レ竹甬聲。〔一切經音義、一二〕筩、竹管也。〔潘岳、笙賦〕越二上筩一而通二下管一。〔注〕向曰、謂下簧聲逾二越上筩之孔一、而通中下管之觜上。**㊁小さい口のある筒。**一旦いれたものを再び取り出すことのできないやうに作つたもの。〔漢書、趙廣漢傳〕教レ吏爲二鉥筩一。〔注〕師古曰、鉥、若下今盛錢藏餅、爲二小孔一、可レ入而不レ可レ出、或鉥、或筩、皆爲二此制一、而用受レ書、令レ投二於其中一也。**㊂かぎ。**魚をとらへるかぎ。〔郭璞、江賦〕筩灑連レ鋒、罾罾比レ船。〔注〕善曰、舊說曰、筩、灑、皆鉤名也。**㊃ながい。**〔廣雅、釋詁二〕筩、長也。**㊄**筒(8－26004)に同じ。〔正字通〕筩、俗用レ筒。**㊅うかがふ管。**或は甬(7－21707)に作る。〔集韻〕筩、候管、或作レ甬。**㊆やづつ。**やつぼ。〔集韻〕筩、箭室。〔左氏、昭、十三、奉二壺飲冰一、注〕冰、箭筩蓋、可二以取レ飲。

【筩瓦】1 トウクワ つつ瓦。筒瓦。〔陸游、跋二唐昭宗賜二錢武肅王鐵券一文一〕實レ藏臥レ內、狀如二筩瓦一。

【筩褄】2 トウイ 短い綿入の衣で袖の長いもの。〔方言、四〕複襦、江湘之閒謂二之襜一、或謂二之筩褄一、〔注〕今筩袖之襦也、褄、卽袂字耳。〔錢繹箋疏〕筩褄、猶レ言二長袖一耳。

【筋】

26071

チョ　〔集韻〕遲據切　御

ヂョ

ㄓㄨˋ　chu⁴

㊀はし。箸(8－26224)に同じ。〔集韻〕箸、說文、飯敬也、或作レ筯。㊁貝の名。蚌蛤の類。其の殼中に蟹を宿して、終生離れない。〔述異記、下〕南海有二水蟲一、名曰レ筯、蚌蛤之類也、其小蟹大如二榆莢一、筯開レ甲食、則蟹亦出食、筯合レ甲、蟹亦還入、爲レ筯取レ食、以終始生死、不二相離一。

参考　筯(8－25994)は別字。

【筯匙】1 chu⁴ ch'ih² 箸と匙。

【筯生】2 アザ　三河國の地名。

【筯竹】3 チク　竹の一種。〔竹譜〕產二粵西平樂府華蓋山中一、恭城富川永安昭平等處皆有レ之、其小如レ筯、堅潔如二象牙一、作レ筯甚佳。

【筯籠子】4 chu⁴ lung² tzŭ 箸を入れる籠。

【紆】

27244

小篆

ウ　〔集韻〕邕俱切　虞

ク　〔集韻〕匈于切　虞

オウ　〔集韻〕烏侯切　尤

㊀㊁㊀まがる。もと紆(8－27245)に作る。〔正字通〕紆、本作レ紆。〔說文〕紆、詘也、从レ糸亏聲。〔段注〕詘者、詰詘也、今人用二屈曲字一、古人用二詰詘一、亦單用二詘字一。〔周禮、考工記、矢人〕中弱則紆。〔注〕紆、曲也。㊂まげる。かがめる。〔漢書、敍傳上〕紆二體衡門一。〔注〕師古曰、紆、屈也。㊃めぐる。〔宋玉、高唐賦〕水澹澹而盤紆兮。〔注〕善曰、紆、回也。㊄まとふ。まつはる。〔說文〕紆、一曰、縈也。㊅心がむすぼれる。〔楚辭、九章、惜誦〕心鬱結而紆軫。㊆たれる。〔張衡、東京賦〕紆二皇組一。〔注〕善曰、紆、垂也。㊇なは。〔廣雅、釋詁三〕紆、索也。㊈姓。〔通志、氏族略、平聲〕紆氏、後漢有二肥鄉侯始平紆邈一。㊉陽紆は、山名。〔集韻〕紆、陽紆、山名。

【紆委】1 キ　左右にまがりくねる。紆折委曲。〔柳宗元、懲咎賦〕攢巒奔以紆委兮。

【紆鬱】2 ウツ　㊀心がむすぼれて氣がふさぐ。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕志紆鬱其難レ釋。〔注〕紆、屈也、鬱、愁也。㊁怒るさま。〔王褒、洞簫賦〕瞋唇嘲以紆鬱。〔注〕銑曰、紆鬱、怒貌。㊂まがって深いさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕屹山峙以紆鬱、隆崛二呦乎青雲一。〔注〕良曰、紆鬱、曲深貌。

【紆縈】3 ウエイ　まとひめぐる。〔黃公度、春日宴二共樂臺一詩〕畫棟朱甍插二紫清一、連山帶水自紆縈。

【紆行】4 ウカウ　うねりまがつてゆく。〔周禮、考工記、梓人〕卻行仄行、連行紆行。〔注〕紆行、蛇屬。〔疏〕紆、曲也、以二其蛇行屈曲一、故謂二之紆行一也。

【紆曲】5 キウキョク　まがりうねる。紆折。〔楚辭、賈誼、惜誓〕觀二江河之紆曲一兮、離二四海之霑濡一。〔枚乘、七發〕黃池紆曲。

【紆回】6 クワイ　遠まはりする。まはり道をする。〔班彪、北征賦〕涉二長路之綿綿一兮、遠紆回以樛流。

【紆結】7 ケツ　心がむすぼれて伸びない。〔馮衍、顯志賦〕心怫鬱而紆結兮。〔趙至、與二嵇茂齊一書〕尋二歷曲阻一、沈思紆結。

【紆譎】8 キツ　曲折する。〔揚雄、甘泉賦〕超二紆譎之清澄一。〔注〕善曰、紆譎、曲折也。

【紆險】9 ケン　まがりくねつて危い。〔後漢書、仲長統傳論〕山川之奧、未足況二其紆險一。

【紆紫】10 シ　紫を身にまとひつける。高官に昇ること。〔論衡、命祿〕懷二銀紆紫、未必稷契之才一、積レ金累レ玉、未必陶朱之智。

【紆州】1 シウ　州名。唐、置く。今、廣西省忻城縣の西。〔讀史方輿紀要、廣西、柳州府、東蘭州、忻城縣、廢紆州、在二縣西一、唐所レ置、羈縻州也、領二東區等六縣一、隸二桂州都督府一、其南又有二羈縻廢歸思州一、亦唐置、宋初因レ之、慶歷三年、以二州地幷入二忻城縣一。〔周天下〕

【紆周】2 シウ　めぐりまはる。〔鹽鐵論、刑德〕紆二孟浩然、西山尋二辛諤一詩〕石潭窺二洞徹一、沙岸歷二紆徐一。〔顧瑛、詩〕綠楊堤上步紆徐。㊁垂れさがるさま。〔司馬相如、子虛賦、襞積褰縐、紆徐委曲。〔注〕向曰、紆徐委曲、裙下垂貌。

【紆身】14 シン　身を屈する。〔新書、耳痺〕於レ是紆身而乃適二闔閭一。

【紆軫】15 シン　㊀心がむすぼれて痛み憂へる。軫は隱痛。〔楚辭、九章、惜誦〕心鬱結而紆軫。〔注〕紆、曲也、軫、隱也。〔潘岳、悼亡詩〕駕言陟二東阜一、望レ墳思紆軫。㊁地形の屈曲したさま。盤曲。〔後漢書、馮衍傳下〕馳二中夏一、而升降兮、路紆軫而多レ艱。

【紆繞】16 ゼウ　まとひめぐる。繚繞。〔後漢書、文苑下、邊讓傳〕振二弱支一、而紆繞兮、若二綠繁之垂幹一。

【紆折】17 セツ　うねりまがる。紆餘曲折。紆曲。〔張衡、七辯〕蟬緜宜愧、夭紹紆折、此女色之麗也。

【紆尊】18 ソン　尊貴の地位をかがめる。〔梁簡文帝、昭明太子集序〕降レ貴紆レ尊、躬刊手掇。

【紆體】19 タイ　身を屈する。〔漢書、敍傳上〕徒樂三枕レ經藉二書、紆二體衡門一。〔注〕師古曰、紆、屈也。

【紆纏】20 テン　まとひつく。〔虞世南、獅子賦〕其爲レ狀也、則筋力紆纏、殊レ文異レ制。

【紆佩】21 ハイ　まとひおびる。〔後漢書、馬援傳〕猥先二諸君一紆二佩金紫一、且喜且慙。〔蔡邕、陳寔碑〕紆三佩金紫一、光レ國垂レ勳。

【紆盤】22 バン　山路などがまがりめぐる。盤紆。〔蔡襄、詩〕山路何紆盤。

【紆紱】23 フツ　印綬を身にまとひ持つ。〔後漢書、吳蓋陳臧傳論〕雖懷二璽紆紱一、跨二陵州縣一、殊名詭レ號、千隊爲レ羣、尚未足以爲比二功上烈一也。

【紆慢】24 マン　まがりゆるむこと。

【紆餘】25 ヨ　㊀水が折れ曲つて流れるさま。〔柳宗元、石渠記〕又北、曲行紆餘、睨若無窮。㊁林や丘などが屈曲して長く續くさま。〔司馬相如、上林賦〕鄢鎬潦潏、紆餘委蛇、經二營乎其內一。〔注〕良曰、紆餘逶迤、屈曲貌。〔後漢書、西南夷傳贊〕紆餘岐道。㊂才氣があつてゆったりと餘裕のあるさま。〔韓愈、進學解〕紆餘爲レ妍、卓犖爲レ傑。〔補注〕句解曰、紆餘、才之縈紆不レ迫、而綽有二餘裕一者、是爲レ妍。㊃文章ののびのびとして急迫しないさま。〔蘇洵、上二歐陽內翰一書〕執事之文、紆餘委備、往復百折、而條達疏暢、無レ所二閒斷一。

【紆朱懷金】26 ウシユクワイキン　高位高官にのぼること。〔法言、學行〕使二我紆レ朱懷レ金、其樂不レ可レ量已。

【紆青拖紫】27 ウセイ　身に印綬を帶びて高官にのぼること。青は青綬、紫は紫綬。〔揚雄、解嘲〕紆二青拖紫、朱二丹其轂一。〔注〕善曰、東觀漢記曰、印綬、漢制公侯紫綬、九卿青綬、良曰、紆、帶也、拖、服也。〔晉書、儒林傳序〕莫不二紆青拖紫、服二冕乘軒一。〔南史、文學、卞彬傳〕蝦蟆賦云、紆青拖紫、名爲二蛤魚一、世謂比二令僕一也。

【紓】

24245

ウ　紆(8－27244)の本字。〔正字通〕紆、本作レ紓。

【紬】 27370

チュウ チュウ 〔集韻〕竹律切 質

小篆

一あかい。〔説文〕紬、絳也、从糸出聲。〔段注〕此紬之本義、而廢不行矣、韻會、絳作縫、非也。二ぬふ。ぬひめ。紩(8－27334)に通ず。〔説文通訓定聲〕紬、史記趙世家、卻冠秫紬、徐廣則謂借爲鉥紩。〔集韻〕紬、縫謂之紬。〔史記、趙世家〕卻冠秫紬。〔注〕集解曰、戰國策作秫縫、紬亦縫紩之別名也。三しりぞける。黜(12－48076)に通ず。〔禮、王制〕君紬以爵。〔釋文〕紬、退也。〔穀梁、莊、二十七、杞伯來朝、注〕杞稱伯、蓋時王所紬。〔釋文〕紬、本亦作黜。四かがむ。〈りくだる。詘(10－35387)・曲(5－14280)に通ず。〔説文通訓定聲〕紬、叚借爲詘、實爲曲。〔荀子、不苟〕恭敬縛紬、以畏事人。〔注〕縛與撙同、紬與黜同、謂自撙節貶損。五現不足する。

【紬臣】1 チュウシン 放逐せられた臣。逐臣。〔法言、淵騫〕無仲尼、則西山餓夫與東國之紬臣、惡乎聞。〔注〕餓夫、夷齊、紬臣、柳下惠也。

【紬陟】2 チュウチョク しりぞけることとのぼせること。黜陟(12－48076・16)に同じ。〔史記、五帝紀〕三歲一考、功三考紬陟。〔魏志、劉馥傳〕年從十五、皆入太學、明制紬陟榮辱之路。

【紬約】3 チュウヤク しりぞけられて困窮する。〔荀子、賦〕仁人紬約、敖暴擅彊。〔注〕紬退窮約。

【紬流】4 チュウリュウ 星の名。黃彗。〔晉書、天文志中〕河圖云、云云、鎭星散爲五殘・獄漢・大賁・昭星・紬流・旬始・蚩尤・虹蜺・擊咎・黃彗。

【綦】 27555

キ ギ 〔集韻〕渠之切 支

キ ギ 〔集韻〕渠記切 眞

一二一もえぎ色のあやぎぬ。綥(8－27554)に同じ。〔説文〕綥、綦、綼或从其。〔詩、鄭風、出其東門〕縞衣綦巾。〔箋〕綦、綦文也。〔禮、玉藻〕世子佩玉、而綦組綬。〔注〕綦、文雜色。二あやぎぬ。〔廣雅、釋器〕綦、綵也。三色の名。㈠もえぎ。〔詩、鄭風、出其東門〕縞衣綦巾。〔傳〕綦巾、蒼艾色、女服也。㈡青黑色。〔書、顧命〕四人綦弁。〔鄭注〕綦、青黑曰綦。㈢赤黑色。〔書、顧命〕四人綦弁。〔王注〕綦、赤黑色。四くつひも。〔廣雅、釋器〕鞮、履也、其緣謂之無縷、其紒謂之綦。〔儀禮、士喪禮〕組綦繫于踵。〔注〕綦、履係也、所以拘止履也。〔禮、內則〕偪履著綦。〔注〕綦、履繫也。五くつのかざり。〔集韻〕綦、履飾。〔漢書、外戚下、班倢伃傳〕思君兮履綦。〔注〕師古曰、綦、履下飾也。〔後漢書、劉盆子傳〕直綦履。〔注〕綦、履文也、蓋直刺其文、以爲飾也。六くつあと。〔漢書、揚雄傳上〕履檇槍以爲綦。〔注〕晉灼曰、綦、履跡也。七あしなへ。〔廣雅、釋詁三〕綦、蹇也。〔穀梁、昭、二十一〕兩足不能相過、齊謂之綦。〔釋文〕綦、連併也。八車のはどめ。〔方言、九〕車下鐵、陳宋淮楚之閒、謂之畢、大者謂之綦。九むすぶ。〔周禮、夏官、弁師、玉璂、注〕璂、讀若薄、借綦之綦、綦、結也。十きはまる。きはめる。極(6－15181)に通ず。〔説文通訓定聲〕綦、叚借爲極、綦・極、一聲之轉。〔荀子、王霸〕及其綦也。〔注〕綦、謂窮極之時。〔荀子、王霸〕目欲綦色、耳欲綦聲。〔注〕綦、極也。十一玉の名。璂(7－21303)に通ず。〔説文通訓定聲〕綦、叚借爲璂。〔逸周書、王會解〕王玄縝璧綦十二。〔注〕綦、玉名。十二もとゐ。基(3－5197)に通ず。〔荀子、王霸〕是綦定也。〔注〕綦、當爲基。十三赤いくみひも。纂(8－28012)の誤字。〔廣雅、釋天、注〕用綦組飾旒之邊。〔釋文〕綦、本亦作纂。十四或は綺(8－27556)に作る。〔集韻〕綦、或書作綺。十五古、棊(8－27281)に作る。〔集韻〕綥、或作綦、古作棊。十六川の名。淇(7－17620)に通ず。〔張公神碑〕綦水湯湯揚清波。〔釋〕淇、通作綦。十七姓。〔通志、氏族略、平聲〕綦氏、姓苑云、義興人、後漢將軍綦儁、望出河南。又河南官氏志、綦連氏、改爲綦氏。

【綦衛】1 キエイ 箭の名。綦も衛も美箭の產地。淇衛。綦衛。〔列子、仲尼〕引烏號之弓、綦衛之箭、射其目。〔注〕張湛曰、綦、地名、出美箭。衛、羽也、晉灼曰、衛之苑多竹篠。〔淮南子、厚道訓〕射者扞烏號之弓、彎綦衛之箭。〔注〕綦、美箭所出地名也、衛、利也。

【綦江】2 キカウ 一川の名。もとは南江。上源を松坎河といひ、貴州省桐梓縣の西北から出て、大江に注ぐ。〔名勝志〕南江入綦江縣界、其色蒼白、名曰綦江。二縣名。明、置く。四川省江津縣の東南。綦江の東岸。〔讀史方輿紀要、四川、重慶府〕綦江縣、本曰綦市、宋屬南平軍、元置綦江長官司、屬播州、明玉珍據蜀、始置縣、明因之、縣舊爲土城、周不及三里、今圮、編戶四里。〔清史稿、地理志〕四川、重慶府、縣十一、綦江。

【綦綺】3 キキ あや。斜織の織物。〔廣雅、釋器〕綦綺、綵也。〔疏證〕蓋織綺文如棋、釋名、綺、欹也、其文欹邪、不順經緯之縱橫也、有棋文方文如棋也、棋、與綦通。

【綦巾】4 キキン 青いよもぎ色の女服。未婚女姓、貧しい女姓の着衣。〔詩、鄭風、出其東門〕縞衣綦巾、聊樂我員。〔傳〕綦巾、蒼艾色、女服也。〔疏〕蒼卽青也、艾謂青而微白、爲艾草之色也。〔集傳〕縞衣綦巾、女服之貧陋者。

【綦會】5 クヰイ 玉で飾つた冠の紐。〔張衡、東京賦〕珩紞紘綖、綦會。〔注〕善曰、鄭玄曰、會、縫中琪如綦、綦、謂結皮弁於縫中、每貫結五采玉十二、以爲飾、謂之綦會。

【綦谿】6 ケイ 深きを極める。至つて深い。〔荀子、非十二子〕綦谿利跂。〔集解〕綦谿、猶言極深耳。

【綦公】7 コキ 複姓。〔元史、綦公直傳〕綦公直、益都樂安人、世業農、至元五年爲益都勸農官。

【綦公直】8 キコウチョク 元、益都樂安の人。世〻農を業とす。官は至元の初、益都勸農官。世祖、昭勇大將軍を加ふ。後、伯顏に從つて海都を討ち、戰死す。〔元史、一百六十五〕。

【綦儁】9 キシュン 後魏、洛陽の人。字は擲顯。謚は文貞。官は孝宗の時、散騎常侍・儀同三司。〔魏書、八十一〕・〔北史、五十一〕。

【綦組】10 ソキ 一文采のあるくみ紐。雜色のくみ紐。〔禮、玉藻〕玄冠綦組纓、士之齊冠也。〔注〕綦、雜色也。〔韓非子、詭使〕而綦組・錦繡・刻畫、爲末作一者富。二くつ紐と組みひも。〔管子、重令〕而女以美衣錦繡綦組相稗也。〔纂詁〕綦、履繫也、組、綬類、薄闊曰組、或云、綦、綵也。

【綦村】11 ソン 鎭の名。河北省沙河縣の西。今名は綦陽鎭。〔九域志〕沙河縣有綦村鎭鐵冶務。

【綦多】12 タキ 極めて多い。〔清國行政法汎論、工部〕清國長川大河綦多。

【綦泰】13 タイ 元の人。公直の子。初、萬戶の職を繼ぎ、寧海州知に至る。〔元史、一百六十五〕。

【綦重】14 ヂウ 極めて重要な。〔清國行政法汎論、都察院、職權〕屢下論旨、中二明其職任綦重、不レ勝二枚舉一。

【綦毋】15 ブキ 複姓。〔通志、氏族略〕綦毋氏、左傳、晉有綦毋張、風俗通、漢有廷尉綦毋參。

【綦毋闓】16 後漢、漢川の人。劉表が荆州刺史となつた時、學校を立て、闓等を招いて五經章句を撰立せしめた。〔後漢書、一百四下〕。

【綦毋邃】17 晉の人。史記の注を作る。〔全上古三代秦漢三國六朝文、全晉文、一百三十三〕。

【綦毋潛】18 唐、荆南の人。字は孝通。官は開元中に宜壽尉・集賢待制。後、右拾遺・著作郎。詩に巧。〔全唐詩、五〕・〔全唐文、三百三十三〕。

【綦毋張】19 春秋、晉の大夫。郤克、八百乘に將として鞍に陣し、齊師を禦ぎ魯衛を救つた時、張、車を失ひ、韓厥の車に寓乘して大いに齊師を敗る。〔左氏、成、二〕。

【綦毋慮】20 宋、高要の人。字は深之。官は宣和中、廣東西路茶鹽事提舉。後、轉運判官に至る。

【綦毋懷文】21 北齊の人。道術を以て神武に事ふ。官は信州刺史。〔北齊書、四十九〕・〔北史、八十九〕。

【綦弁】23 青黑色又は赤黑色の皮の冠。〔書、顧命〕四人綦弁、執戈上刃、夾二兩階陛。〔傳〕綦文鹿子皮弁。〔疏〕鄭玄云、青黑曰綦、王肅云、綦、赤黑色。

綦弁（三才圖會）

【綦連】24 複姓。〔通志、氏族略、代北複姓〕綦連氏、代人號二綦連部一、卽以爲氏、史家謂其先姬姓、六國末避亂出塞、保二祁連山一、因以山爲レ姓、北人語訛、故曰二綦連一。

【綦連猛】25 北齊、代の人。字は武兒。初、爾朱榮・爾朱兆に事へ、後、神武に親信せらる。軍功によつて山陽王に封ぜられ、大將軍に至る。〔北齊書、四十一〕。

【綦崇禮】26 宋、北海の人。字は叔厚。官は高宗の時、翰林學士。詔命數百篇を撰す。後、紹興府知に至る。著に北海集がある。〔宋史、三百七十八〕。

【縛】27643

縛 小篆

㊀ゼン ネン 〔集韻〕乳兗切 銑

㊁ゼン ネン 〔集韻〕儒轉切 霰

㊀一ひだ。をりめ。衣襞。〔說文〕縛、衣戚也、从レ糸耎聲。〔段注〕戚、今之蹙字也、云云、衣戚、衣部所謂襞。㊁ちぢむ。〔玉篇〕縛、縮也。〔素問、五常政大論〕其動縛戾拘緩。〔注〕縛、縮短也。㊂減維の衣。〔玉篇〕縛、減維衣。㊃縛(10－34449)に同じ。〔集韻〕縛、或从レ衣。㊄おる。〔集韻〕縛、織也。

【絲】27856

絲 小篆 或體

㊀エウ 〔集韻〕餘招切 蕭 ㄧㄠ yao²

㊁イウ ユ 〔集韻〕夷周切 尤 ㄧㄡ yu²

㊂チウ ヂユ 〔集韻〕直祐切 宥 ㄓㄡ chou⁴

㊀一したがふ。隨從する。もと繇(10－35851)に作る。〔說文〕繇、隨從也、从レ系舀聲。〔段注〕繇之譌體爲レ絲。〔說文通訓定聲〕繇、字亦作レ絲。㊁えだち。ぶやく。傜(1－1025)に通ず。〔說文通訓定聲〕繇、叚借爲傜。〔淮南子、精神訓〕今夫絲者揭二钁臿一、負二籠土一。〔注〕絲、役也、今河東謂二治道一爲二絲道一。〔漢書、高帝紀上〕高祖常絲二咸陽一。〔注〕應劭曰、絲、役也。〔漢書、蓋寬饒傳〕常爲二衛官絲使一布買。〔注〕師古曰、絲、讀與レ徭同。㊂うた。謠(10－35280)・謠(10－35832)に通ず。〔說文通訓定聲〕絲、叚借爲レ謠。〔漢書、李尋傳〕參二人民絲俗一。〔注〕師古曰、絲、讀與レ謠同。㊃しげる。ぬきんでる。蘇(9－32511)に通ず。〔說文通訓定聲〕絲、叚借爲レ蘇。〔書、禹貢〕厥草惟絲。〔傳〕絲、茂也。〔馬注〕絲、抽也。㊄ゆれうごく。搖(5－12479)に通ず。〔說文通訓定聲〕絲、叚借爲レ搖。〔素問、氣交變大論〕筋骨絲復。〔注〕絲、搖也。〔史記、蘇秦傳〕二日而莫レ不二盡絲一。〔注〕索隱曰、絲、音搖、搖、動也。㊅うれへる。悠(4－10681)に通ず。〔說文通訓定聲〕絲、叚借爲レ悠。〔爾雅、釋詁〕絲、憂也。㊆陶(11－41705)に同じ。〔正字通〕絲、臯陶、漢百官表、咎絲、與レ陶同。㊇姓。〔萬姓統譜〕絲、見二姓苑一。〔後漢書、郅惲傳〕西都督郵絲延。〔注〕絲、姓、咎絲之後。㊈一由(7－21724)に同じ。〔說文〕絲、由、或絲字。㊉よる。〔漢書、元帝紀〕不レ知レ所レ絲。〔注〕師古曰、絲、與レ由同。〔漢書、魏相傳〕政絲二冢宰一。〔注〕師古曰、絲、與レ由同。㊋より。〔爾雅、釋水〕絲膝以下爲レ揭。〔注〕絲、自也。〔釋文〕絲、古由字。〔漢書、陳勝項籍傳贊〕政絲レ羽出。〔注〕師古曰、絲、與レ由同。〔漢書、儒林、丁寬傳〕絲レ是易有二施孟梁丘之學一。〔注〕師古曰、絲、與レ由同。㊌よりて。よつて。〔漢書、楚元王傳〕絲レ是怨レ嫂。〔注〕師古曰、絲、與レ由同。〔漢書、蒯伍江息夫傳贊〕自レ小覆レ大、絲レ疎陷レ親。〔注〕師古曰、絲、與レ由同。㊍すぎる。〔左氏、昭、二十六〕絲レ朐汰レ輈。〔注〕絲、過也。〔疏〕絲、卽由也。㊎もちひる。〔呂覽、貴當〕必絲二其道一也。〔注〕絲、用也。㊏みち。〔爾雅、釋詁〕絲、道也。〔漢書、敍傳上〕謨二先聖之大絲一兮。〔注〕師古曰、絲、道也。〔班固、典引〕孔絲先命聖孚也。〔注〕蔡邕曰、絲、道也。㊐はかりごと。猷(7－20558)に同じ。〔正字通〕絲、與レ猷同。㊑よろこぶ。嗜(2－4037)に通ず。〔說文通訓定聲〕絲、叚借爲嗜。〔爾雅、釋詁〕絲、喜也。㊒優絲は、仕へぬ。游(7－17792)に通ず。〔漢書、敍傳上〕陸子優絲。〔注〕鄭氏曰、優絲、不レ仕也。〔班固、答賓戲〕陸子優游。㊓うらかた。籀(8－26702)に通ず。〔說文通訓定聲〕絲、叚借爲レ籀。〔集韻〕絲、占辭。〔左氏、閔、二〕成風聞二成季之絲一。〔注〕絲、卦兆之占辭。〔服虔注〕絲、抽也、抽二出吉凶一也。

【絲絲】一 ㊀はるかなさま。ゆるやかなさま。悠悠。絲絲乎を見よ。㊁行くさま。〔漢書、韋賢傳〕夫馬絲絲、是放是驅。〔注〕師古曰、絲、與レ悠同、悠悠、行貌。

【絲絲乎】2 ゆるやかなさま。〔莊子、秋水〕絲絲乎若二祭之有レ社。〔疏〕絲絲、賒長之貌也。〔釋文〕音由。

【絲役】3 古、力役の征。賦役に出ること。土木工事などの人夫に使はれること。人民を公事に使役すること。〔傳、大雅、民勞序、鄭注〕絲役煩多。〔釋文〕絲、本亦作傜。〔史記、主父偃傳〕薄二賦斂一、省二絲役一。〔漢書、食貨志上〕周室既衰、云云、絲役橫作。〔漢書、五行志上〕妄興二絲役一、以奪二民時一。〔漢書、元帝紀〕以用度不レ足、民多復除、無二以給一中外絲役一。

【絲役之勞】4 賦役の苦勞。〔漢書、成帝紀〕三輔長無二共張絲役之勞一。

【絲使】5 夫役に服する。〔史記、項羽紀〕異時故絲使屯戍、過二秦中一。〔漢書、蓋寬饒傳〕公卿貴戚、及郡國吏、絲使至二長安一、皆恐懼莫二敢犯一レ禁。〔新書、屬遠〕輸將絲使。

【絲戍】6 民を役して邊境をまもらせる。又、其の兵。〔漢書、高帝紀上〕復勿絲戍。〔注〕師古曰、絲、讀曰傜。〔漢書、昭帝紀、遣二更賦一未レ入者皆勿レ收、注〕如淳曰、天下人皆直戍レ邊三日、亦名爲レ更、律所謂絲戍也。〔魏文帝、敕還師詔〕且休二力役一、罷二省絲戍一。

【繇占】9 ヨウセン うらかた。〔左氏、閔、二〕成風聞二成李之繇一、乃事レ之、而屬二僖公一。〔注〕繇、卦兆之占辭。

【繇俗】10 ヨウゾク その土地の歌謠。また、歌謠と風俗。〔漢書、李尋傳〕揆二山川變動一、參二人民繇俗一。〔注〕師古曰、繇、讀與レ謠同、繇俗者、謂レ若二童謠及輿人之誦一。

【繇條】11 ヨウデウ しげり長い。〔書、禹貢〕厥草惟繇、厥木惟條。〔傳〕繇、茂、條、長也。〔史記、夏紀〕草繇木條。

【繇費】12 ヨウヒ 賦役の費用。〔漢書、文帝紀〕務省二繇費一、以便レ民。

【繇賦】13 ヨウフ 賦役と租税。〔漢書、景帝紀〕減二太官一、省二繇賦一。

【繇余】14 ヨウヨ 夏、禹王の時の人。禹を助けて洪水を治めた。〔駢雅、釋名稱〕陶臣・繇余・烏陀、治二降水一之三佐也。〔路史、國名紀〕夏世侯伯、繇余・烏陀・陶臣。

【繇來】15 ヨリテキタル 由來する。繇は由。〔德川齊昭、弘道館記〕使レ民知二斯道之所一繇來一也。

【發レ繇】16 ハツヨウヲ 賦役を徵發する。〔史記、李斯傳〕今上急發レ繇、治二阿房宮一。

【耎】 28877

ゼン ネン 〔集韻〕乳兗切 銑 ㄖㄨㄢˇ juan³

篆 小

〔說文〕耎、稍毋也、从レ大而聲、讀若二畏偃一。〔段注〕前較二大於後一也。〔說文通訓定聲〕耎、所謂本不レ勝レ末也、所謂末大必折也。

一根本よりも末の方が大きい。

二よわい。〔廣雅、釋詁一〕耎、弱也。〔戰國、楚策〕鄭魏者、楚之耎國。

三やはらかい。〔一切經音義、一〕耎、梵言沒栗度、此云レ耎、物柔曰レ耎、三蒼、耎、柔弱也。〔一切經音義、十一〕耎、字苑作レ腝、柔脆也。

四しりぞく。おくれる。ちぢむ。〔漢書、天文志〕是爲二耎而伏一。〔注〕晉灼曰、耎、退也。〔太玄經、耎、注〕耎而自縮、故謂二之耎一。

五うごめく。蝡(10－33290)に通ず。〔說文通訓定聲〕耎、叚借爲レ蝡。〔莊子、胠篋〕惴耎之蟲。〔釋文〕耎、崔云、蠉蝡、動蟲也。

【耎國】1 ゼンコク よわいくに。弱國。〔戰國、楚策〕鄭魏者、楚之耎國、而秦楚之強敵也。

【耎弱】2 ゼンジャク よわいこと。〔後漢書、曹褒傳〕嚴奏二褒耎弱一、免レ官、居レ郡、爲二功曹一。

【耎弱不レ勝レ任】3 ゼンジャクナレドモタヘズ 衰弱して執務に勝へないこと。漢制、大官免官の一要件。〔漢書、王尊傳〕尊子伯、亦爲二京兆尹一、坐二耎弱不レ勝レ任免一。

【耎脆】4 ゼンイ よわいこと。柔弱のさま。脆弱。〔漢書、王吉傳〕數以二耎脆之玉體一、犯二勤勞之煩毒一。〔注〕師古曰、耎、柔也。〔范成大、問二天醫一賦〕玉體耎脆、動輒感冒。

【耎輪】5 ゼンリン 安車の輪。輭輪。〔說文〕楢、柔木也、工官以爲二耎輪一。〔段注〕耎輪、安車之輪也。

【耎】 28882

ダン ナン 〔字彙補〕泥短切 旱

ちぢまる。〔字彙補〕耎、縮也。〔太玄經、耎〕耎、其心中無レ勇也。〔注〕耎、縮之性、故無レ勇也。

【耵】 29005

一テイ チヤウ 〔集韻〕都挺切 迥 ㄉㄧㄥˇ ting³

二テイ チヤウ 〔集韻〕湯丁切 青

一二耵聹は、みみあか。みみくそ。耳垢。〔集韻〕耵、耵聹、耳垢。

【聰】 29123

ソウ 聰(9－29154)の俗字。〔正字通〕聰、俗聰字。

【胤】29300

㊀イン 〔集韻〕羊進切 震
㊁チン ザン 〔集韻〕丈忍切 軫
㊂イン 〔集韻〕以忍切 軫

小篆 ㊀㊁**きず**。〔說文〕胤、瘢也、从レ肉引聲。㊂**にはか**。〔說文〕胤、一曰、遽也。㊃**脊の肉**。〔廣韻〕胤、脊肉。㊄㊅の一二三に同じ。㊆**杖に打たれてはれたところ**。〔廣韻〕胤、杖痕腫處。㊇㊈の㊂に同じ。〔集韻〕胤、當二脊肉一。

【胃】29308

キョウ 匈 (**2－2512**) に同じ。〔集韻〕匈、或作レ胃。

【肋】29329

ベウ メウ 〔正字通〕弭沼切 篠

わきばら。よこばら。〔正字通〕肋、肋在二季脅下狹脅兩旁虛耎處一、腎外當レ肋。〔素問、刺腰痛〕腰痛、引二少腹一控レ肋、不レ可二以仰一。〔注〕肋、謂二季脇下之空軟處一也。

【胂】29347

㊀チン 〔集韻〕癡鄰切 眞
㊁シン 〔集韻〕升人切 眞
㊂イ 〔集韻〕延知切 支

小篆 ㊀**のびる**。のばす。脊のびをする。〔廣韻〕胂、申也。〔集韻〕胂、伸レ身也。㊁**せじし**。せにく。脊を挾む肉。もと胂に作る。〔說文〕胂、夾レ脊肉也、从レ肉申聲。〔段注〕王弼云、當二中脊一之肉也。〔廣雅、釋親〕胂、謂二之脢一。**化學用語**。

【胝】29380

㊀ブフ 〔集韻〕符遇切 遇
㊁フ 〔集韻〕風無切 虞
㊂ブフ 〔集韻〕馮無切 虞

砒素の化合物をいふ。胝酸。**せじし**。或は胰(**9－29431**)に作る。〔集韻〕胝、夾レ脊肉、或作レ胰。

【胝酸】1 shen1 suan4 化學用語。砒酸。

㊀㊁**はらわた**。腑(**9－29626**)に同じ。〔集韻〕腑、人之六腑也、或省。㊂通じて附(**11－41606**)に作る。〔韻會〕腑、通作レ附。㊃㊄**あし**。跗(**10－37473**)に同じ。〔集韻〕跗、足也、或作レ胝。〔戰國、楚策〕服二鹽車一而上二太行一、蹄申膝折、尾湛胝潰。㊅**はだ**。膚(**9－29829**)に同じ。〔戰國、楚策〕尾湛胝潰。〔注〕胝、與レ膚同。㊆**はれる**。**はれもの**。〔集韻〕胝、腫也。〔山海經、西山經〕竹山、有レ草焉、其名曰二黃雚一、云云、浴之已レ疥、又可二以已レ胝一。〔注〕已レ胝、治二胝腫一也。

【胝潰】1 ku4 kui4 皮膚がただれる。一說に、足がつひえる。あしがただれる。〔戰國、楚策〕夫驥之齒至矣、服二鹽車一而上二太行一、蹄申膝折、尾湛胝潰、漉レ汁灑レ地、白汗交流、中阪遷延、負レ辋而不レ能レ上。〔注〕胝、與レ膚同、汗出二於膚一如レ潰。

【胝腫】2 zhong3 はれもの。〔素問、六元正紀大論〕感二於寒濕一、則民病二身重胝腫一、胷腹滿。

【胝動】3 dong4 心を病む。〔呂覽、審時〕胝動蚼蛆而多レ疾。〔注〕胝動、病レ心、胝、讀如レ痛。

【胗】29384

㊀シン 〔集韻〕止忍切 軫
㊁キン 〔集韻〕頸忍切 軫

小篆 文 ㊀㊁**くちびる**。〔說文〕胗、脣瘍也、从レ肉彡聲。〔宋玉、風賦〕中レ脣爲レ胗。〔注〕善曰、胗、脣瘡。㊂**はれもの**。〔釋名、釋疾病〕胗、展也、癢二搔之一捷展起也。〔一切經音義、六〕瘡胗、三蒼云、胗、腫也。㊃**かさ**。又、かさぼろし。癰胗。〔廣雅、釋詁一〕胗、創也。〔廣韻〕胗、癰胗、皮外小起。㊄或は痕(**7－22270**)・胝(**9－29592**)・疹(**7－22097**)に作る。〔說文〕胗、疹、籀文胗、从レ疒。〔集韻〕胗、或作二痕・胝・疹一。

【胙】29385

シン 胗(**9－29384**)の俗字。〔字彙〕胙、同レ胗、俗字。

【胘】29386

ケン ゲン 〔集韻〕胡涓切 先

小篆 ㊀**牛のゐぶくろ**。〔說文〕胘、牛百葉也、从レ肉弁省聲。〔廣韻〕胘、肚胘、牛百葉也。〔集韻〕胘、服虔說、有レ角曰レ胘、無レ角曰レ肚。㊁**ゐ**。胃ぶくろ。〔廣雅、釋器〕胃、謂二之胘一。㊂**胃の厚い肉**。〔集韻〕胘、一曰、胃之厚肉爲レ胘。

【胘靁】1 gui1 地名。烏孫の北にあり。漢書には胘雷に作る。〔史記、匈奴傳〕北益廣レ田、至二胘靁一爲レ塞。〔注〕集解曰、漢書音義曰、胘靁、地名、在二烏孫北一。

【胠】29398

㊀キョ コ 〔集韻〕丘於切 魚
㊁キョ コ 〔集韻〕丘據切 御
㊂キョ コ 〔集韻〕口擧切 語
㊃ケフ コフ 〔集韻〕乞業切 葉
㊄カフ ケフ 〔正韻〕苦洽切 洽

小篆 ㊀㊁㊂㊃㊄㊅**わき**。**わきのした**。もと腋に作る。〔正字通〕胠、本作レ腋。〔說文〕腋、亦下也、从レ肉去聲。〔徐鍇注〕按、春秋左傳說、聲師列陳之法有レ胠、卽取二人兩腋之義一。〔句讀〕與レ胳同訓而不二轉注一、蓋略分二高下一矣。〔說文通訓定聲〕一名レ胳、胳迫二於胠一、胠迫二於臂一、素問欬論、則兩胠下滿、注、謂二脇上一也。〔廣雅、釋親〕胠、脅也。〔王念孫疏證〕人脅謂二之胠一。〔素問、欬論〕兩胠下滿。〔注〕胠、亦脇也。㊆**わきぞなく**。右翼。〔集韻〕胠、一曰、陳右翼曰レ胠。〔左氏、襄、二十三〕胠商子車御二侯朝一。〔注〕右翼曰レ胠。㊇**ひらく**。わきから開く。〔集韻〕胠、一曰、旁開爲レ胠。〔莊子、胠篋〕胠レ篋探レ囊。〔釋文〕從レ旁開爲レ胠。㊈**ぬくぎる**。陜(**11－41591**)に通ず。〔荀子、榮辱〕鯈鮒者浮陽之魚也、胠二於沙一而思レ水、則無レ逮矣。〔王先謙集解〕胠、當作レ陜、陜、闌逮矣。〔王先謙集解〕胠、當作レ陜、陜、闌也。㊉或は脇(**9－29501**)・脥(**9－29528**)に作る。〔集韻〕胠、腋下也、或从レ劫、亦作レ脥。

【胠篋】1 qie4 ㊀箱を開く。轉じて、竊盜をいふ。こそどろ。〔莊子、胠篋〕將二爲レ胠篋探レ囊、發レ匱之盜一、而爲二守備一矣。疏、胠、開、篋、箱、夫將レ爲二開レ箱探レ囊之竊、發レ匱取レ財之盜一、此蓋小賊、非二巨盜一者也。㊁莊子の篇名。

【胠囊】2 kuo4 ふくろを開く。囊は底がなくて兩方に口のある囊。〔賴山陽、耶馬溪圖卷記〕胠レ囊得二爾時寫レ山粉本數紙一。

【胠亂】3 luan4 鬼谷子の逸篇の名。〔鬼谷子、符言〕轉丸、胠亂二篇皆亡。

【脇】29408

㊀アウ 〔集韻〕於江切 江
㊁ヤウ アウ 〔集韻〕於良切 陽
㊂ヤウ アウ 〔集韻〕倚兩切 養

㊀脇肛は、腹がはって前に伏し得ないこと。又、其の人。〔廣韻〕脇、脇肛、不レ伏人。〔集韻〕脇、脇肛、不レ伏。㊁㊂脖脇は、臍ハ。〔集韻〕脇、脖脇、臍也。

【胳】29434

㊀カク 〔集韻〕剛鶴切 藥
㊁カク ギヤク 〔集韻〕轄格切 陌

胳 小篆

㊀**わき**。わきのした。〔說文〕胳、亦下也、从肉各聲。〔徐鍇注〕按、禮或作骼。〔段注〕亦・腋古今字。〔一切經音義、五〕肘後曰レ胳。〔廣雅、釋親〕胳謂ニ之腋一。㊁**❶牲體の後足のはぎの骨**。〔集韻〕胳、牲後脛骨。〔儀禮、鄉飲酒禮〕介俎脊脅肫胳肺。〔注〕凡牲、前脛骨二、肩・臂・臑也、後脛骨二、膊・胳也、今文、胳作レ骼。〔胡培翬正義〕胡氏承珙曰、說文、胳、亦下也、亦卽腋字、骨部曰、禽獸之骨曰レ骼、是許書於ニ胳・骼二字有ニ人獸之別一。段氏說文禽獸之骨曰レ骼注云、案、骨當レ作レ髖、許據ニ儀禮十七篇、故云ニ禽獸之髖曰レ骼、不ニ敢謂レ骼爲ニ人骨一也、鄭於ニ此經一曰ニ今文胳作レ骼、於ニ有司徹一曰ニ古文骼作レ胳、是古文作レ胳、今文作レ骼、肉・骨偏旁、古多通用、說文於レ胳曰ニ亦下一、於レ骼曰ニ禽獸之骨一、分別言之、其實骼・胳一字也。**❷わきのした**。㊁に同じ。

【胳肢】1 ko¹ chih くすぐる。
【胳肢窩】2 ko¹ chih wo¹ 腋の下。
【胳膊】3 ko¹ po 腕。臂。
【胳臂】4 ko¹ pei 腕。

【胃】29441

キヨウ

胸(9－294442)に同じ。〔字彙〕胸、同レ胃。

【胴】29450

㊀カウ ギヤウ 〔集韻〕何庚切 庚
㊁カウ ガウ 〔集韻〕寒剛切 陽
㊂カウ ギヤウ 〔集韻〕下挭切 梗
㊃カウ ギヤウ 〔集韻〕下孟切 敬

胴 小篆

㊀**❶はぎの頭部**。脛の膝に近い所。〔說文〕胴、脛耑也、从レ肉行聲。〔段注〕耑、猶レ頭也、脛近レ膝者曰レ胴。〔義證〕脛端也者、謂ニ股下脛上一也。**❷牛の勢**。〔廣韻〕胴、牛勢胴也。**❸はら**。〔五音集韻〕胴、肚也。㊁㊂㊃**はぎ**。〔廣雅、釋親〕胴、脛也。〔集韻〕胴、脛也。〔史記、龜策傳〕褚先生曰、壯士斬ニ其胴一。〔注〕集解曰、胴、腳脛也。

【胴骨】1 コツ 向う脛。〔急就篇、髕脛、注〕髕、膝蓋也、脛、胴骨也。

【脖】29497

ホツ ボチ 〔集韻〕薄沒切 月 po²
慣ボツ

❶脖脇は、へそ。〔集韻〕脖、脖脇、齊也。〔正字通〕脖、脖脇、臍也。**❷うなじ**。くびすぢ。

脖項(2)を見よ。

【脖脇】1 ボツ アウ へそ。〔集韻〕脖、脖脇、齊也。〔正字通〕脖、脖脇、臍也、靈樞經、盲之原出ニ於脖脇一。
【脖項】2 ボツ カウ うなじ。襟頸。〔清會典事例、刑部、刑律斷獄、囚應禁而不禁〕康熙十二年題准、凡關ニ繫強盜人命等一重罪人犯、脖項手足、應レ用ニ鐵鎖杻鐐各二條一、其餘人犯、用ニ鐵鎖杻鐐各一條一。
【脖子】3 po² tzŭ¹ くび。頸。
【脖臍】4 po² ch'i² へそ。臍。
【脖梗子】5 po² kêng³ tzŭ¹ くび。頸。
【脖頸兒】6 po² kêng³ tzŭ¹ 頸。
【脖嗉兒】7 po² su⁴ êrh¹ 盆の凹。

【脘】29499

㊀クワン 〔集韻〕古緩切 旱 kuan³
㊁クワン ゲン 〔集韻〕戶版切 濟 huan³
㊂クワン グワン 〔集韻〕胡官切 寒
㊃クワン グワン 〔集韻〕胡玩切 翰

脘 小篆

脘 小說文 脘 小篆 本注段

㊀**❶胃のほじし**。〔說文〕脘、胃脯也、从レ肉完聲、讀若患。**❷ゐ**。ゐぶくろ。〔徐鉉本說文〕脘、胃府也。〔正字通〕脘、胃之受ニ水穀一者、曰レ脘。〔素問、五常政大論〕胃脘痛。**❸**或は肮(9－292286)に作る。〔集韻〕脘、或省。㊁**にく**。〔集韻〕脘、肉也。㊂㊃**骨のあぶら**。〔集韻〕脘、骨脂也。

【胭】29510

リヨ ロ 〔五音類聚〕兩擧切 語

せ。せぼね。〔五音類聚〕胭、胭脊也。

【胺】29531

㊀サイ スイ 〔集韻〕祖回切 灰 tsui²
㊁サ 〔集韻〕臧戈切 歌
㊂スイ 〔集韻〕祖誄切 紙
㊃スイ 〔集韻〕津垂切 支
㊄スイ 〔集韻〕荀緣切 先 chüan¹
㊅セン

胺 小篆

㊀㊁㊂㊃**赤子の陰部**。或は屡(4－7717)・峻(10－33988)に作る。〔說文〕胺、赤子陰也、从レ肉夋聲。〔集韻〕胺、或从レ尸、从レ血。〔老子、五十五、未レ知ニ牝牡之合一而全作、釋文〕河上作レ峻、子和反、本一作レ胺。㊄**ちぢむ**。**へる**。〔集韻〕胺、縮也。〔韻會〕胺、俗語謂ニ縮腕一、爲ニ胺縮一。〔正韻〕胺、減也。〔漢書、董仲舒傳〕民日削月胺。〔注〕孟康曰、胺、音揎、謂ニ轉褰蹶一也。
【胺刻】1 セン コク 減らし少くすること。削減。〔唐書、張弘靖傳〕胺ニ刻軍賜一。
【胺削】2 セン サク へらす。減少する。〔漢書、董仲舒傳〕民日削月胺。〔注〕孟康曰、胺、音揎、謂ニ轉褰蹶一也。

【脽】29578

㊀スイ ズイ 〔集韻〕視隹切 支
㊁シウ シユ 〔集韻〕之由切 尤

脽 小篆

㊀㊁**❶しり**。〔說文〕脽、尻也、从レ肉隹聲。〔漢書、東方朔傳〕連ニ脽尻一。〔注〕師古曰、脽、臀也。**❷しりぼね**。〔正韻〕脽、髖也。〔正字通〕脽、尻骨也。**❸地名**。〔集韻〕脽、一曰、地名、祠ニ后土汾脽一、是也。
【脽尻】1 スイ カウ しり。〔漢書、東方朔傳〕結ニ股腳一連ニ脽尻一。〔注〕師古曰、脽、臀也。
【脽丘】2 スイ キウ 地名。山西省榮河縣城の北。一名、魏脽。〔史記、封禪書〕於レ是天子遂東、始立ニ后土祠汾陰脽丘一、如ニ寬舒等議一。〔水經、汾水注〕汾水南有ニ長阜一、背レ汾帶レ河、云云、漢書謂ニ之汾陰脽一。

【腄】29593

㊀ツイ 〔廣韻〕竹垂切 イメヘ cɨ-ui² 支
㊁スイ 〔集韻〕視隹切 支
㊂ツイ 〔集韻〕馳僞切 寘
㊃ウ 〔集韻〕于求切 尤
㊄セイ 〔集韻〕崇懷切 佳

𨻰 小 篆

㊀**かかとのたこ。**もと腄(9－2964)に作る。〔正字通〕腄、本作レ腄。〔說文〕腄、跟胝也、从レ肉坠聲。〔段注〕跟、鉉作レ瘢、不レ可レ通、跟、足踵也。㊁**きずあとのかは。**〔集韻〕腄、說文、瘢胝也。㊂**馬・鳥の脛上のこぶばね。**〔集韻〕腄、一曰、馬及鳥脛上結骨、李舟說。㊃**しり。**〔集韻〕腄、臀也。㊄**縣名。**㊂㊃に同じ。㊂㊃**縣名。**秦、置く。故城は山東省文登縣の西。陲(11－41694)に同じ。〔集韻〕腄、縣名、在二東萊一。〔史記、秦始皇紀〕過二黃腄一。〔注〕正義曰、腄、逐瑞反、字或作レ陲。〔讀史方輿紀要、山東、登州府、寧海州、文登縣〕腄城、縣西七十里、或曰、秦所レ置縣也、史記秦始皇二十八年、行二郡縣一、乃並二渤海一以東、過二黃腄一、穿二成山一、腄卽腄縣矣、漢亦曰二腄縣一、屬二東萊郡一。呂后封二呂通一爲二侯邑一、宣帝神爵初、從二方士言一、祠二之罘於腄一、祠二成山於不夜一、是也、後漢縣省。㊅或は脁(9－2946)に作る。〔集韻〕腄、或作レ脁。㊆膟腄は、形がみにくい。膗(9－29824)に同じ。〔集韻〕膗、膟膗、形惡、或作レ腄。

【胭】29606

㊀キン ギン 〔集韻〕巨隕切 軫
㊁シュン 〔康熙字典〕支春切 眞

㊀**はらわたの中の脂肪。**〔玉篇〕胭、腹中胭脂也。〔集韻〕胭、一曰、腸中脂。㊁**けものの脂肪の集まるさま。**〔集韻〕胭、獸脂聚皃。㊂**こぶ。**肘・膝の後の肉塊。〔素問、皮部論〕胭破毛直而敗。〔注〕胭者、肉之標。〔素問、玉機眞藏論〕身熱脫肉破胭。〔注〕胭、謂二肘膝後肉如レ塊者一。㊃**こぶくろ。**〔素問、玉機眞藏論、注〕胭、一曰、腹中胎。㊄**腹中のかたまり。**〔正字通〕胭、腹中積聚成レ形塊膜也。

【腊】29614

㊀セキ シャク 〔集韻〕思積切 ㄒㄧ hsi⁴ 陌
㊁ラブ カㄚ la⁴

㊀**ほじし。**よく乾かした小片の肉。もと餤に作る。昔(5－13816)に同じ。〔說文〕昔、乾肉也、从二殘肉日一晞レ之、與レ俎同意、餤、籀文从レ肉。〔段注〕今隸作レ腊、專用二諸脯腊一。〔釋名、釋飲食〕腊、乾昔也。〔廣雅、釋器〕腊、脯也。〔易、噬嗑〕噬二腊肉一。〔釋文〕晞二於陽一而煬二於火一曰二腊肉一。〔周禮、天官、腊人〕凡田獸之脯腊膴胖之事。〔注〕腊、小物全乾。㊁**ひもの。**〔穆天子傳、六〕魚腊。〔注〕乾魚。㊂**ふるい。ひさしい。**昨(5－13847)に通ず。〔說文通訓定聲〕腊、叚借爲レ昨。〔禮、郊特牲、猶明清與二醆酒一于舊澤之酒一也、注〕其味厚腊毒也。〔釋文〕腊、久也、久酒有レ毒。㊃**はなはだしい。きびしい。**〔國語、周語下〕厚味寔腊毒。〔注〕腊、亟也、讀若二廟昔酒一焉。〔國語、鄭語〕毒之酋腊者、其殺也滋速。〔注〕腊、極也。㊄**しわ。**〔山海經、西山經〕錢來之山、有レ獸焉、名曰二臧羊一、其脂可二以已一レ腊。〔注〕治二體皺一。㊅**現臘(9－30009)**に通ず。

【腊葉】1 セキヨウ サクヨウ 標本などにするため壓搾して乾した草木の葉。押葉。
【腊魚】2 セキギョ しほびき。ひもの。魚腊。
【腊人】3 セキジン 周官の名。天官の屬。乾肉、卽ち田獸の脯腊膴胖のことを掌る。〔周禮、天官、腊人〕掌二乾肉、凡田獸之脯腊膴胖之事。
【腊毒】4 セキドク 甚しい毒。〔國語、周語下〕厚味寔腊毒。〔注〕腊、亟也。〔漢書、五行志中之上〕厚味實腊毒。〔注〕師古曰、腊、久也、味厚者爲レ毒久。〔潘尼、乘輿箴〕厚味腊毒、豐屋生レ灾。〔張協、七命〕耽二口爽之饌一、甘二腊毒之味一。
【腊肉】5 セキニク 乾肉。〔易、噬嗑〕六三、噬二腊肉一、遇レ毒、小吝、无咎。〔本義〕腊肉、謂二獸腊、全二體骨一而爲レ之者、堅韌之物也。〔南史、宋明帝紀〕噉二腊肉一、常至二二百臠一。
【腊物】6 セキブツ ほじし。乾肉。〔周禮、天官、腊人〕凡腊物、賓客喪紀、共二其脯腊一。

【膊】29618

㊀ショク シキ 〔集韻〕質力切 職
㊁チョク ヂキ 〔集韻〕逐力切 職

㊀**長さ一尺二寸のほじし。**膊(9－2988)に同じ。〔廣韻〕膊、脯長尺有二寸曰レ膊、儀禮作レ膊。㊁**ねばる。のり。**昵(5－13866)に同じ。〔周禮、考工記、弓人、凡昵之類不レ能レ方、注〕玄謂、檝、脂膏膊敗之膊、膊亦黏也。〔集韻〕昵、或作レ膊。㊂**殖(6－16502)**に通ず。〔正字通〕膊・殖通。㊃**肥える。**〔集韻〕膊、肥也。㊄**こむら。**〔廣韻〕膊、肥腸。

【腠】29670

ソウ ス 〔集韻〕千候切 ㄘㄡˋ ts'ou⁴ 宥

●**皮膚のきめ。**〔集韻〕腠、膚理也。〔儀禮、鄉射禮記〕進腠。〔注〕腠、膚理也。〔素問、刺要論〕病有二在一毫毛腠理一者上。〔注〕皮膚之文理、曰二腠理一。㊁**通じて奏(3－5915)**に作る。〔正字通〕腠、通作レ奏。
【腠胝】1 チソウ 皮膚。胝は足のたこ。〔司馬相如、難二蜀父老一、文躬腠胝無レ胈、膚不レ生レ毛。〔注〕良曰、腠、皮、胝、繭也、胈、股上小毛也、言、艱苦至レ使二皮膚累繭而不レ生一毛也。
【腠理】2 ソウリ ●肌のきめ。皮膚のすきま。〔素問、刺要論〕病有二在一毫毛腠理一者上。〔注〕皮之文理曰二腠理一。〔呂覽、先已〕用二其新一棄二其陳一、腠理遂通。〔注〕用二藥物之新、棄二去其陳一、以療レ疾、則腠理肌脈、遂通利不レ閉也。〔韓非子、喩老〕扁鵲見二蔡桓公一、立有レ間、扁鵲曰、君有レ疾、在二腠理一。不レ治將二恐深一。〔史記、扁鵲傳〕君有レ疾、在二腠理一。〔注〕正義曰、腠、謂二皮膚一。〔後漢書、方術下、郭玉傳〕腠理至微。〔注〕腠理、皮膚之閒也。●津液の滲泄する所。〔素問、舉痛論〕寒則腠理閉。〔注〕腠、謂二津液滲泄之所一。

【腧】29682

㊀シュ 〔集韻〕脊遇切 遇
㊁ユ 〔五音集韻〕羊朱切 虞

㊀**人體の穴道の名。**臍に對して、脊中にある灸點の要處。通じて兪(1－1437)に作る。〔集韻〕腧、五藏腧穴、通作レ兪。〔正字通〕方書灸法、腧穴在二脊中一、對レ臍、各開寸半。㊁腧腧は、媚びるさま。〔五音集韻〕腧、腧腧、媚皃。

【腨】29685

セン ゼン 〔集韻〕豎兗切 銑

小篆

こむら。ふくらはぎ。或は蹲(10－37809)に作る。〔說文〕腨、腓腸也、从肉耑聲。〔段注〕腨者、脛之一耑、舉腨不レ該レ脛也、然析二言之一如レ是、統二言之一則以レ腨該二全脛一如二禮經之言一肫骼一是也、禮經多作レ肫、或作レ膞、皆假借字。〔一切經音義、十〕蹲、又作レ腨、說文、腨、腓腸也、江南言二腓腸一、中國言二腨腸一、或言二腳腨一。〔集韻〕腨、或作レ蹲。

【腨痛】1 セン こむらの痛む病。〔素問、陰陽別論〕痿二厥腨痛一。〔注〕足肚酸痛、爲二腨痛一。

【腬】29750

シン 〔集韻〕稱人切 眞

小篆

❶はれる。ふくれる。〔說文〕腬、起也、从レ肉眞聲。〔段注〕當レ云二肉起也一。〔廣韻〕腬、肉脹起也。**❷大きい。**〔太玄經、爭〕肢腳腬如、維身之疾。〔注〕腬、大也、枝大二於幹一、臣大二於君一、皆爲レ疾也。

【膲】29764

日シウ シュ 〔集韻〕側救切 宥
日ソウ ス 〔集韻〕將侯切 尤
日シュ ス 〔集韻〕仄遇切 遇

日日**ほじし。**〔集韻〕膲、脯也。日**❶そなへもの。**〔廣韻〕膲、膳也。**❷うるはしい。**〔集韻〕膲、妍也。**❸しわ。**〔集韻〕膲、皺也。**❹ほじし。**或は臆(9－29665)に作る。〔集韻〕膲、膗也、或作レ臆。

【膲】29890

セウ 〔集韻〕茲消切 蕭

❶みのわた。腹の臟腑。三膲。三焦。六腑の一。通じて焦(7－19119)に作る。〔廣韻〕膲、人之三膲。〔集韻〕膲、三膲、無レ形之府、通作焦。**❷肉が満たない。**肉がおちる。〔淮南子、天文訓〕是以月虛而魚腦減、月死而蠃蛖膲。〔注〕膲、肉不レ滿。

【臏】29925

日フン ブン 〔集韻〕父吻切 吻
日ヒ ビ 〔集韻〕父尾切 尾
日ヒ ビ 〔集韻〕符非切 微

小篆

日日**❶肉のあつもの。**〔說文〕臏、膗也、从レ肉賁聲。日**❷煮たきりみ。**〔廣韻〕臏、切熟肉也。日**❸なま肉のあらぎり。**〔急就篇、三、〕臏膾炙胾各有レ形、注〕臏、麤切生肉也。**❹いきどほる。**憤(4－11239)に通ず。〔說文通訓定聲〕臏、叚借爲レ憤。〔素問、至眞要大論〕諸氣臏鬱。〔注〕臏、謂二臏滿一。日日**汁の多い肉のあつもの。**〔廣韻〕臏、膗多汁。〔集韻〕臏、膗多渚。

【臏膾】1 フン ブン 粗く切つた肉と、細かく切つた肉。〔急就篇〕臏膾炙胾各有レ形。〔注〕臏麤切生肉也、膾、細切生肉也。

【臏炙】2 フン ブン 切つて煮た肉と、あぶり肉。臏肉。〔賈子新書、匈奴〕大每二一關一屠沽者、賣二飯食一者、羹臏臏炙者、每レ物各一二百人、則胡人着二於長城下一矣。〔注〕臏、音憤、切熟肉。

【臏肉】3 フン ブン 臏炙に同じ。〔賈子新書、匈奴〕飯羹啗二臏肉一、嚾瀉多二飲酒一。〔注〕肉、音蔗、炙肉。

【臏肋】4 フン ブン 脣吻の誤り。脣吻は、口さき。くちびる。〔呂覽、觀表〕古之善相二馬者、管青相二臏肋一。

【臏滿】5 フン ブン いきどほりもだえる。〔素問、至眞要大論、諸氣臏鬱、注〕臏、謂二臏滿一。

【膻】29929

日タン ダン 〔集韻〕蕩旱切 旱
日セン 〔集韻〕尸連切 先 ㄕㄢ shan¹

小篆

日**❶肌をぬぐ。**或は胆(9－29352)・袒(10－34184)・襢(10－34652)に作る。〔說文〕膻、肉膻也、从レ肉亶聲、詩曰、膻裼暴レ虎。〔段注〕多作レ襢、作レ袒、非二正字一。〔集韻〕膻、或省。日**❷**膻中は、胸もと。心臟の下にある鬲膜。〔素問、靈蘭祕典論〕膻中者、臣使之官、喜樂出焉。〔注〕膻中者、在二胷中兩乳之間一、爲二氣之海一。日**なまぐさい。**羶(9－28566)に同じ。〔集韻〕羶、說文、羊臭也、或作レ膻。〔列子、周穆王〕王之嬪御、膻惡而不レ可レ親。

【臊】29955

サウ ソウ 〔集韻〕蘇遭切 豪 ㄙㄠ、 sao¹·⁴

小篆

❶豕・犬のあぶら。〔周禮、天官、庖人〕夏行二腥鱐一、膳二膏臊一。〔注〕鄭司農云、膏臊、豕膏也、杜子春云、膏臊、犬膏。**❷なまぐさい。**獸肉のなまぐさい臭ひ。或は膒(9－29783)に作る。〔說文〕臊、豕膏臭也、从レ肉桑聲。〔集韻〕臊、或从レ蚤。〔史記、晉世家〕犯肉腥臊、何足レ食。〔呂覽、本味〕肉獲者臊。〔注〕其臭臊也。〔揚雄、蜀都賦〕五肉七菜、朦猒腥臊。〔古文苑注〕五肉、牛羊雞犬豕、以二七菜蔥韭之屬一臛レ之、所二以蒙一猒腥臊一。日**❸**現 sao⁴ 恥ぢる。恥づかしめる。

【臊惡】1 サウ ソウ わるく生ぐさい。〔禮、內側、狗赤股而躁臊、疏〕臊、謂二臊惡一、赤股、股裏無レ毛、躁、謂二舉動急躁一、狗若如レ此、其肉臊惡。

【臊氣】2 sao¹ ch'i なまぐさいくさ味。腥い臭氣。

【臊狐】3 sao¹ hu² 狐。狐の臭氣。

【臊根】4 sao¹ ken¹ 陽物。まら。男根。

【臊子】5 サウ シ **❶**こまぎれ肉。**❷**胡人を罵る語。〔還魂記、圍釋〕氣也氣也、這臊子好大膽、快取レ鎗來。

【臊死】6 sao⁴ ssu³ 恥ぢて死ぬ。

【臊臭】7 sao¹ ch'ou² なま臭い。

【臊心】8 sao⁴ hsin¹ はづかしい。

【臊人】9 sao⁴ jen² 人を羞かしがらせる。

【臊腥】10 サウ セイ なまぐさい。腥臊。〔元稹、古社詩〕狐惑意顚倒、臊腥不二復聞一。

【臊聲】11 サウ セイ けがれてわるい評判。腥聞。〔北史、恩幸、抱老壽傳〕臊聲布二於朝野一。

【臊鼠】12 sao¹ shu³ いたち。鼬。

【臊陀】13 サウ ダ 鳥の名。鸚鵡(12－47489：15)の**❶**の異名。隴客。〔本草、鸚鵡、釋名、時珍曰、師曠謂二之乾皐一、李昉呼爲二隴客一、梵書謂二之臊陀一。

【臊肉】14 sao¹ jou⁴ 生臭い肉。「うな顏をする。

【臊皮】15 sao⁴ p'i² はづかしがる。はづかしさを罵った語。〔資治通鑑、唐紀〕(肅宗、至德元載)杲卿瞋レ目罵曰、汝本營州牧羊羯奴、云云、恨レ不レ斬汝、何謂レ反也、臊羯狗何不二速殺一我。

【臊羯狗】16 サウ カツ 腥い羯狗。唐の顏杲卿が安祿山を罵った語。〔資治通鑑、唐紀〕(肅宗、至德元載)杲卿瞋レ目罵曰、汝本營州牧羊羯奴、云云、恨レ不レ斬汝、何謂レ反也、臊羯狗何不二速殺一我。

【臊得慌】17 sao¹ tê huang¹ 臭氣に堪へない。

【臏】29977

㊀ヒン　㊁ヒン　〔集韻〕婢忍切　ㄅㄧㄣˇ　pin'　軫

㊀㊁ ㊀ひざのさら。膝蓋骨。臏(12－4529 8)に同じ。〔集韻〕髕、説文、剕耑也、或从レ肉。〔潘岳、西征賦〕狙潛レ鉛而脫レ臏。〔注〕向曰、臏、膝上骨也。㊁はぎの骨。〔史記、秦紀〕王與ニ孟説一擧レ鼎絶レ臏。〔注〕正義曰、臏、脛骨也。㊂あしきる。あしきりの刑。はぎの骨を割斷すること。〔集韻〕臏、刖也。〔華嚴經音義、下〕臏、謂ニ斷レ足之刑一。〔周禮、秋官、司刑、刖罪五百、注〕刖、斷レ足也、周改レ臏爲レ刖。〔荀子、正論〕捶笞臏脚。〔注〕臏脚、謂レ刖ニ其膝骨一也。

【臏脚】1キヤク　足をきる刑。又、其の刑に處せられる。孫臏が龐涓に刑法を以て脚をきられた故事にもとづく。〔荀子、正論〕捶笞臏脚、斬斷枯磔。〔注〕臏脚、謂レ刖ニ其膝骨一也。〔韓非子、難言〕傅説轉鬻、孫子臏ニ脚於魏一。〔司馬遷、報ニ任少卿一書〕孫子臏脚、兵法修列。〔漢書、鄒陽傳〕司馬喜臏ニ脚於宋一、卒相ニ中山一。

【臏辟】2ヘキ　足を截る刑。剕辟。〔史記、周紀〕臏辟疑赦、其罰倍差。

【絶臏】3ヒツ　重いものを持ちあげて脛の骨をたちきる。〔史記、秦紀〕王與ニ孟説一擧レ鼎絶レ臏。〔溫子昇、爲ニ上黨王元天穆一讓ニ太宰表一〕知小謀大、恐貽ニ折足之憂一、才輕任重、懼有ニ絶レ臏之悔一。

【臗】30006

㊀コン　㊁クワン　〔集韻〕枯昆切　〔集韻〕枯官切　ㄎㄨㄣ　k'uan'　寒　元

㊀㊁ ㊀からだ。〔廣韻〕臗、體也。㊁しり。〔集韻〕臗、博雅、臗尻也。㊂もものつけね。〔集韻〕臗、一曰、髀上。四或は髖(12－4530)に作る。〔集韻〕臗、或从レ骨。

転載項目 2

【匈】2512

㊀キヨウ　㊁ク　〔集韻〕許容切　ㄒㄩㄥ　hsiung'　冬

㊀㊁ ㊀むね。或は胷(9－29308)・胷(9－29441)・胸(9－29442)に作る。〔説文〕匈、膺也、从レ勹凶聲、胷、匈或从レ肉。〔集韻〕匈、説文、膺也、或作ニ胷・胷一。〔正字通〕匈、説文、匈、重文作レ胷、从レ肉、隸作レ胸。〔漢書、司馬相如傳〕其於ニ匈中一、曾不ニ蔕芥一。㊂おそれる。わるい。兇(1－1348)に通ず。〔説文通訓定聲〕匈、叚借爲レ兇。〔管子、任法〕匈以聽ニ其上一。〔注〕匈、恐懼貌。㊃さわぐ。譌(10－35282)に通ず。〔説文通訓定聲〕匈、叚借爲レ譌。〔漢書、高帝紀〕天下匈匈。〔注〕匈匈、喧擾之意。四北方の人種の名。匈奴(6)の㊀を見よ。五物の音。匈磕(2)を見よ。

参考 匈(2－2504)は別字。〔康熙字典、辨似、二字相似〕匈、音葛、求也。匈、同レ胸。

【匈臆】1オク　心の中。胸臆(9－29442・5)に同じ。〔漢書、朱邑傳〕匈臆約結。〔後漢書、馬融傳〕所ニ以洞ニ蕩匈臆一。

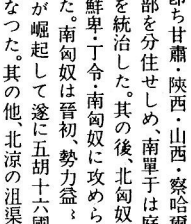
【匈磕】2ガイ　物と物との打ち合ふ聲。又、大きな聲。〔後漢書、馬融傳〕匈磕隱訇。〔注〕並聲也。〔枚乘、七發〕訇隱匈磕、軋盤涌裔、原不レ可レ當。〔注〕良曰、訇隱匈磕、皆大聲也。

【匈虐】3キヤク　兇惡でむごい。〔漢書、禮樂志〕圖ニ匈虐一、熏鬻殛。

【匈匈】4キヨウキヨウ　㊀喧しくさわぐ。かまびすしく議論する聲。〔玉篇〕匈、匈匈、沸撓聲。〔正韻〕匈、匈匈、讙議之聲。〔正字通〕匈、匈匈、喧擾意。〔莊子、在宥〕自ニ三代一以下者、匈匈焉、終以ニ賞罰一爲レ事。〔疏〕匈匈、讙譁也。〔荀子、天論〕君子不レ爲ニ小人之匈匈一也、而輟レ行。〔注〕匈匈、諠譁之聲。〔韓非子、外儲説右上〕王召ニ樗里疾一、曰、是何匈匈也、何道出。〔呂覽、明理〕有ニ蜈集ニ其國一、其音匈匈。㊁騒がしく安んぜぬさま。〔史記、項羽紀〕項王謂ニ漢王一曰、天下匈匈數歲者、徒以ニ吾兩人一耳、願與ニ漢王一挑戰、決ニ雌雄一。〔後漢書、竇武傳〕天下匈匈、正以レ此

【匈中】5チユウ　むねの中。心中。胸中。〔漢書、司馬相如傳上〕其於ニ匈中一、曾不ニ蔕芥一。

【匈奴】6キヨウド　㊀種族の名。匈奴の先祖は夏后氏の裔たる淳維といはれる。唐虞以前、山戎・玁狁・葷粥等の種があり、北蠻に居り、畜牧して轉移した。殷代、匈奴が亳に貢したと傳へられるが、戰國時代には既に今の山西・陝西二省の北邊に據り、屢〻燕・趙・秦に侵寇し、此等三國は各〻塞長城を築いて防禦に努めた。秦の始皇が、蒙恬に命じて匈奴を擊たせ、長城を修築して之を阻んで以來、東胡・月支のために東西から壓迫せられ、勢甚だ振はなかつたが、漢初、冒頓が自立して單于となるや、遂に東は東胡王を襲ひ、西は月支、南は樓煩・白羊・河南王を走らせ、燕・代を侵し、秦の蒙恬に奪はれた地を悉く收め、北夷を服從させ、最も強盛となり、南は諸夏と敵國となつた。匈奴の姓は攣提氏。單于は匈奴皇帝の稱で、詳しくは撐犂孤塗單于といひ、匈奴語で、撐犂は天、孤塗は子、單于は廣大の貌を意味する。單于の下に左右賢王・左右谷蠡王・左右大將・左右大都尉・左右大當戶・左右骨都侯の官があり、左王將等は東部地方を分治し、右王將等は西部地方を分治し、單于は其の庭を中央、卽ち漢代の雲中の直北に置き、之を總統した。漢初、高祖は自ら將として匈奴を擊ち、白登に圍まれること七日、纔かに身を以て免れ、公主を閼氏卽ち匈奴の妻とし、單于と兄弟となることを約して和親を結んだ。後、屢〻漢の邊を侵した。武帝の時、匈奴との和平破れ、漢は衞青・霍去病等を遣はし、國帑を傾けて大いに匈奴を破り、左賢王は遠く遁去した。宣帝の時、匈奴に內訌起り、五單于が位を爭つて、相攻伐したが、やがて郅支・呼韓邪の兩單于の對立となり、呼韓邪は漢に降つた。後、郅支亡び、呼韓邪單于は、庭に歸つて匈奴を統一した。王莽の時、匈奴を伐つて敗れ、北邊は荒野と化したが、後漢の光武の時、匈奴に內訌起り、日逐王比が自立して單于となり、呼韓邪單于と號し、南邊八部を率ゐて後漢に降り、玆に匈奴は分れて南北の單于となつた。南匈奴の呼韓邪は許されて雲中・五原・朔方・北地・定襄・雁門・上谷・代、卽ち甘肅・陝西・山西・察哈爾に亙る大地域に諸部を分住せしめ、南單于は庭を美稷に置き諸部を統治した。其の後、北匈奴は後漢の竇憲、及び鮮卑・丁令・南匈奴に攻められ、烏孫の地に移つた。南匈奴は晉初、勢力益〻增大し、前趙の劉淵が崛起して遂に五胡十六國が中國を亂す首となつた。其の他、北涼の沮渠氏・夏の赫連氏は皆南匈奴の族である。北魏が北支那を統一するに及んで、匈奴は漢人に融合同化した。匈奴の種族については種々説があるが、土耳古族を主として蒙古族を交へたものである。〔史記、匈奴傳〕匈奴其先祖、夏后氏之苗裔也、曰ニ淳維一、唐虞以上、有ニ山戎・獫狁・葷粥一、居ニ于北蠻一、隨ニ畜牧一而轉移。㊁新書の篇名。



(會圖才三)　●奴匈

【匈奴堡】7ホウド　晉時代の地名。今の山西省臨汾縣の境。〔讀史方輿紀要、山西、平陽府臨汾縣〕匈奴堡、舊志、在ニ府西南七十里一、匈奴種人、嘗保ニ聚於此一、因名、姚秦時、爲ニ戍守處一。

【匈河水】8スイカ　川の名。匈奴の地にある川。〔史記、衞將軍、驃騎傳〕攻ニ胡至ニ匈河水一。

【匈牙利】9ハンガリー　歐洲の國名。一に洪牙利と書く。Hungary の音譯。

【苦】30909

小篆

㊀クワツ　クワチ　〔集韻〕古活切　㫃
㊁セツ　ゼチ　〔集韻〕食列切　屑

●きからすうり。もと苦(9－3093)に作る。〔康熙字典〕苦、説文、苦本字。〔説文〕苦、苦蔞、果蠃也、从艸昏聲。●或は栝(6－14706)に作る。〔正字通〕苦、苦蔞、爾雅、本作栝樓。●或は菰(9－3762)に作る。〔正字通〕苦、或作菰。●或は䕫(7－21391)に作る。〔集韻〕苦、或作䕫。㊁草の名。〔集韻〕苦、艸名。

【荄】30935

小篆

㊀カイ　〔集韻〕柯開切　灰
㊁カイ　〔集韻〕居諧切　佳

●ね。草の根。〔説文〕荄、艸根也、从艸亥聲。〔徐鍇注〕荄、草木枯莖也。〔爾雅、釋草〕荄、根。〔方言、三〕荄、根也。〔漢書、禮樂志〕青陽開動、根荄以遂。〔注〕師古曰、草根曰荄。〔潘岳、懷舊賦〕陳荄被于堂除。〔注〕善曰、禮記鄭玄注曰、宿草陳根也。●にらの根。〔爾雅、釋草、注〕俗呼韭根爲荄。●通じて核(6－1443)に作る。〔集韻〕荄、通作核。

【荄茲】1 カイ　根の茂ること。〔漢書、儒林、孟喜傳〕萬物方荄茲也。〔注〕師古曰、荄茲、言其根荄方茲茂也。

【荄甫】2 カイホ　清、胡澍(9－29400：180)の字。

【莝】31062

サ　〔集韻〕寸臥切　圖
慣ザ

●きりわら。細く切つたまぐさ。〔説文〕莝、斬芻、从艸坐聲。〔段注〕謂以鐵斬斷之芻。〔急就篇〕糟糠汁滓稟莝芻。〔注〕莝、細斫稟也。〔漢書、尹翁歸傳〕豪強有論罪、輸掌畜官、使斫莝。〔注〕師古曰、莝、斬芻。●輕小な喩。〔柳宗元、文〕合莝脮以爲強。●摧(5－12609)に同じ。〔集韻〕莝、或作摧。〔詩、小雅、鴛鴦〕秣之摧之。〔箋〕摧、今莝字也。

【莝豆】1 ザトウ　きざみわらと豆とを雑ぜたもの。馬の食料。〔史記、范雎傳〕置莝豆其前、令兩黥徒夾而馬食之。〔魏書、盧昶傳〕遂酷遇昶等云云、以腐米臭魚莝豆供之。

【菀】31135

小篆

㊀エン　ヨン　〔集韻〕委遠切　阮
㊁ウツ　ウチ　〔集韻〕紆勿切　物
㊂ウン　〔集韻〕委隕切　吻
㊃エツ　ヲチ　〔集韻〕於月切　月

wan³

㊀●此菀は、草の名。しをん。紫菀。紫菀。〔説文〕菀、茈菀、出漢中房陵、从艸宛聲。〔段注〕本艸經作紫菀、古紫通用。茈。●その。菀(9－30774)に通ず。〔正字通〕菀、與菀通。〔管子、水地〕地者、萬物之本原、諸生之根菀也。〔注〕菀、囿城也。㊁●しげる。盛に茂る。鬱(12－4671)・蔚(9－31805)に通ず。〔説文通訓定聲〕菀、叚借爲鬱。〔集韻〕菀、茂也、通作鬱。蔚。〔詩、小雅、菀柳〕有菀者柳。〔釋文〕菀、木茂也。〔詩、大雅、桑柔〕菀彼桑柔。〔傳〕菀、茂盛貌。〔楚辭、劉向、九歎、憂苦〕菀彼青青。〔注〕菀、盛貌也。●むすぼれる。〔詩、小雅、都人士〕我心菀結。〔箋〕菀、猶屈也、積也。●つむ。〔素問、生氣通天論〕大怒則形氣絶而血菀於上。〔素問、四氣調神大論〕大怒則形氣絶、而血菀於上。〔注〕菀、積也。㊃㊀●に同じ。〔廣韻〕菀、藥草。㊂つむ。蘊(9－32071)に同じ。〔集韻〕蘊、説文、積也、或作菀。㊃㊁●に同じ。〔集韻〕菀、紫菀、藥艸。

【菀菀】1 エンエン　しなやか。婉婉。〔常建、春詞〕菀菀黄柳絲、濛濛雜花垂。

【菀結】2 ウツケツ　心がむすぼれる。鬱結。〔埤雅、釋木、柳〕凡物發而成、暢茂、積而成菀結。〔詩、小雅、都人士〕我不見兮、我心菀結。〔箋〕菀、猶屈也積也。〔集傳〕菀、音鬱。

【菀枯】3 コツ　茂ることと枯れること。優劣榮辱の喩。菀、一に苑に作る。〔國語、晉語二〕優施曰、云云、驪姬許諾、乃具、使優施飲里克酒。中飲、優施起舞、謂里克妻曰、主孟啗我、我教、茲暇豫事君、乃歌曰、暇豫之吾吾、不如鳥烏、人皆集於苑、己獨集於枯。里克笑曰、何謂苑、何謂枯、優施曰、其母爲夫人、其子爲君、可不謂苑乎、其母既死、其子又有謗、可不謂枯乎、枯且有傷。

【菀死】4 ウシ　心が鬱積して死ぬ。〔楚辭、劉向、九歎、惜賢〕芳若茲而不御兮、捐林薄而菀死。〔注〕菀、積也。〔補注〕菀、音鬱。

【菀川】5 エンセン　川の名。菀川(9－30774：16)に同じ。〔水經、河水注〕菀川水出勇士縣之子城南山。〔紀昀等校〕案、菀、近刻作苑。

【菀濁】6 エンダク　にごりけがれる。〔管子、中匡〕有司寛而不凌、菀濁困滯、皆法度不亡。〔纂詁〕菀、猶屈也、濁、猶辱也、困、窮、滯、淹也、是四者皆窮民無告者、亦皆有法度而安之、不使之喪亡。

【菀童】7 エンドウ　やどり草。桑に寄生する草。〔本草、桑上寄生〕釋名、菀童。　「奇論」五藏菀熱。

【菀熱】8 ネツ　つもつたあつさ。積熱。〔素問、大風〕小さいさま。一説に、人名。一説に、大風。〔莊子、天地〕諄芒將東之大壑、適遇菀風於東海之濱。〔釋文〕菀風、李云、小貌、謂遊世俗也、一云、菀風、人姓名、一云、扶搖大風也。

【菀風】9 ブウ

【菀牧】10 ボク　園と牧場。〔晉書、束晳傳〕田諸菀牧、不樂曠野、貧在人間。

【菀柳】11 リウ　●茂つた柳。〔應璩、與從弟君苗君胄書〕遁遙陂塘之上、吟詠菀柳之下。〔注〕善曰、詩曰、菀彼柳斯、濟曰、菀、猶茂也。●詩經、小雅、魚藻之什の篇名。周の幽王を刺つた詩。〔詩、小雅、菀柳〕菀柳、刺幽王也、暴虐無親、而刑罰不中、諸侯皆不欲朝、言王者之不可朝事也。

〔菀柳之刺〕12 ノウシ　周の幽王は暴虐で親なく、刑罰が中たらなかつたのを刺ることをいふ。〔長孫無忌、進律疏表〕周幽獄繁、詩人致菀柳之刺。

【菀竈婦人】13 エンソウ　竈神の名。〔後漢書、禮儀志上、祠先竈、注〕漢舊儀曰、云云、今竈神曰菀竈婦人。

【蓂】31640

小篆

㊀メイ　ミヤウ　〔集韻〕忙經切　青
㊁ベキ　ミヤク　〔集韻〕莫狄切　錫

ming²

㊀●蓂莢は、瑞草の名。蓂莢(3)を見よ。〔廣韻〕蓂、蓂莢、堯時生於庭、隨月彫榮。●思蓂子は、藥草の名。〔本草、青葙〕思蓂子、眞似青葙子、只是味不同、思蓂子味苦、煎之有涎。㊁析蓂は、おほなづな。〔説文〕蓂、析蓂、大薺也、从艸冥聲。〔集韻〕蓂、艸名、爾雅、菥蓂、大薺。

【蓂葉】1 ヨウ　蓂莢の葉。〔李嶠、神龍曆序〕候耕耘之節、非藉杏花、亶昏夕之期、詎看蓂葉盡。〔韋應物、晦日處士叔園林燕集詩〕遽看蓂葉盡、坐闕芳年賞。

【蓂華】2ケイ 蓂莢の花。〔王褒、靈壇銘〕九靈之府、神液所ニ以降レ祥、五英之闕、蓂華以レ之昭應。

【蓂莢】3ケイ 瑞草の名。堯の時、生えたといふ。月の一日から十五日まで毎日に一莢づつ生え、十六日から晦日まで毎日一莢づつ落ち始めたので、これに依つて暦を作つたといふ。こよみぐさ。暦草。暦莢。〔玉篇〕蓂、蓂莢也、暦得ニ其分度一、則蓂莢生ニ於階一、月一日一莢生、十六日一莢落。〔廣韻〕蓂、蓂莢、堯時生ニ於庭一、隨レ月彫榮。〔集韻〕蓂、蓂莢、堯時瑞艸。〔竹書紀年、陶唐氏〕有ニ草夾一階而生、月朔、始生ニ一莢一、月半而生ニ十五莢一、十六日以後、日落ニ一莢一、及レ晦而盡、月小、則一莢焦而不レ落、名曰ニ蓂莢一、一曰ニ暦莢一。〔漢書、王莽傳上〕蓂莱朱草、嘉禾休徵、同レ時並至。〔白虎通、封禪〕蓂莢者、樹名也、月一日一莢生、十五日畢、至ニ十六日一、去レ莢。〔張衡、東京賦〕蓋蓂莢爲レ雞レ蒔也。〔張協、七命〕悲ニ蓂莢之朝落、悼ニ望舒之夕缺一。〔十八史略、五帝、帝堯陶唐氏〕有ニ草生レ庭、十五日以前、日生ニ一葉一、以後、日落ニ一葉一、月小盡、則一葉厭而不レ落、名曰ニ蓂莢一、觀レ之以知ニ旬朔一。

蓂莢（索石金）

【蓂枝】4シイ 蓂莢の枝。〔庾肩吾、奉ニ使北徐州一參ニ丞御一詩〕竹葉含ニ初籜一、蓂枝發ニ早蘂一。

【蓂菁】5ベイセイ 蔓菁の異名。〔儀禮、公食大夫禮、以西菁菹鹿臡、注〕菁、蓂菁菹也。〔疏〕云ニ菁、蓂菁菹也一者、卽今之蔓菁也。

【蓂靈】6レイ 瑞木の名。冥靈2－1588・107）に同じ。〔太平御覽、木、蓂靈〕列子曰、荆之南有ニ蓂靈者一、以ニ五百歲一爲レ春、以ニ八千歲一爲レ秋。

【蔆】31761 リョウ 〔韻〕蔆、或作レ蔆。

【菰】31762 クワツ 苦（9－30909）に同じ。〔正字通〕苦、或作レ菰。

【薏】32106 ヨク オク 〔集韻〕乙力切 職 一 イ 〔集韻〕於記切 寘

篆 小

㊀㊁❶薏苡は、はとむぎ。もと薏本作レ薏。〔說文〕薏、薏苡、从レ艸音聲、一曰ニ薏英一。❷蓮の胚芽。芙蕖の實の中心。〔爾雅、釋草〕荷、其實、蓮、其中、的、的中、薏。

【薏苡】1イヨク ❶草の名。はとむぎ。實を薏苡仁といふ。又、薏苡仁の略。〔史記、夏本紀、夏禹名曰ニ文命一、注〕正義曰、帝王紀云、父鯀、妻脩己、見ニ流星貫ニ昴一、夢接意感、又吞ニ神珠薏苡一、胸坼而生レ禹。〔吳越春秋、越王無余外傳〕鯀娶ニ於有莘氏之女一、名曰ニ女嬉一、年壯未レ孳、於ニ砥山一得ニ薏苡一而吞レ之、意若レ爲ニ人所レ感、因而姙孕、剖レ脅而產ニ高密一。〔論衡、詰術〕若夏吞ニ薏苡一而生、則姓ニ苡氏一。❷蓮の實。〔廣韻〕苡、薏苡、蓮實也。

【薏苡仁】2ヨクイニン 薏苡の實。楕圓形。其の仁は白色。米中に混じて粥飯とし、又、粉にして麵とする。藥用となる。はとむぎ。三才圖會、草木卷十一に見ゆ。〔本草、薏苡仁〕釋名、解蠡芑實、蘋米、回回米、薏珠子、時珍曰、薏苡、名義未レ詳、其葉似ニ蠡實葉一、而解散、又似ニ芑黍之苗一、故有ニ解蠡芑實之名一、蘋米乃其堅硬者有ニ蘋強之意一、苗名ニ屋菼一、救荒本草云、回回米又呼ニ西番蜀秫一、俗名ニ草珠兒一、集解、時珍曰、薏苡、人多種レ之、二三月宿根自生、葉如ニ初生芭茅一、五六月抽レ莖、開レ花結レ實、有ニ二種一、一種黏レ牙者、尖而殼薄、卽薏苡也、其米白色、如ニ糯米一、可レ作ニ粥飯一、及磨麪食、亦可ニ同レ米釀酒一、云云、其米少卽粳穊也、但可ニ穿作ニ念經數珠一、故人亦呼爲ニ念珠一云。

【薏苡之謗】3ヨクシノ 無實の嫌疑を受ける喩。薏苡明珠に同じ。〔後漢書、吳祐傳〕昔馬援以ニ薏苡一興レ謗、王陽以ニ衣囊一徼レ名。〔任昉、爲ニ范尚書一讓ニ吏部封侯一第一表〕既而分レ虎出守、以ニ囊載一見レ嗔、持レ斧作レ牧、以ニ薏苡一興レ謗。〔注〕翰曰、馬援爲ニ交趾太守一出、薏苡可レ治ニ瘴氣一、遂取ニ一車一將レ還、時人以爲ニ南土珍怪一、因而流レ謗也。

【薏苡明珠】4メイシュ 無實の嫌疑を受ける喩。後漢の馬援、交趾の薏苡、實が大きくて瘴氣を治めるに効があるので、後車に載せて還り、譖者に滿車皆明珠なりと誣ひ愬へられた故事。後世、收賄せぬのに收賄の謗を被むるにいふ。薏苡之讒。〔後漢書、馬援傳〕初援在ニ交趾一、常餌ニ薏苡實一、用能輕レ身省レ慾、以勝ニ瘴氣一、南方薏苡實大、援欲ニ以爲レ種、軍還、載ニ之一車一、時人以爲ニ南土珍怪一、權貴皆望レ之、云云、及ニ卒後一、有ニ上書譖レ之者一、以爲前所ニ載還一、皆明珠文犀、帝益怒。〔完顏璹、馬伏波詩〕明珠薏苡猶難レ辨、萬里爭教諭ニ杜龍一。

【薏茨】5シ 草の名。はとむぎ。〔韻會〕薏、薏茨、草名。

【薏田】6ヨクデン 清、姚世鈺（3－6202・173）の號。

【薏米】7ヨクベイ 薏苡の實。薏苡仁(2)を見よ。〔陸游、薏苡詩〕初游ニ唐安一、飯ニ薏米一、炊成不レ減膨胡美。

【薏珠子】8ヨクシュ はとむぎ。薏苡仁(2)に同じ。〔農政全書、薏苡考〕本草名ニ薏苡仁一云云、故名ニ薏珠子一。〔羣芳譜〕薏苡、五六月結レ實、青白色、形如ニ珠子一、而稍長、故呼ニ薏珠子一。

【蘆】32313 リョ ロ 〔集韻〕淩如切 魚 力 lü2

❶茹蘆は、草の名。あかね。蒨草。赤色を染めるに用ひる。〔爾雅、釋草〕茹蘆、茅蒐。〔注〕今之蒨也、可ニ以染レ絳一。〔疏〕一名地血、齊人謂ニ之牛蔓一。〔集韻〕蘆、茹蘆、蒨艸。〔詩、鄭風、東門之墠〕茹蘆在レ阪。❷蘆蘇は、毒草の名。蔺茹(9－32324・1)に通ず。〔本草、蔺茹〕釋名、時珍曰、蔺茹、本作ニ蘆蘇一。❸姓。〔萬姓統譜〕蘆、姓也。

【蠆】32388 ロウ 蠆(7－21420)に同じ。〔集韻〕蠆、鉤蠆、王瓜、菰蠆、土瓜。或从レ艸。

【藿】32406 クワク カク スイ 〔集韻〕忽郭切 藥 〔集韻〕曷各切 藥 〔集韻〕選委切 紙

篆 小

㊀❶豆のわか葉。もと藿(9－326 62)に作る。〔正字通〕藿、說文作レ藿。〔說文〕藿、赤之少也、从レ艸雚聲。〔說文通訓定聲〕藿、按、赤之嫩葉。〔廣雅、釋草〕豆角謂ニ之莢一、其葉謂ニ之藿一。〔詩、小雅、白駒〕食ニ我場藿一。〔傳〕藿、猶レ苗也。〔儀禮、公食大夫禮、牛藿。〔注〕藿、豆葉也。❷鹿藿は、たんきり豆。〔爾雅、釋草〕藺、鹿藿。〔注〕今鹿豆也。㊁香草の名。〔左思、吳都賦〕草則藿蒳豆蔻。〔注〕善曰、異物志曰、藿香、交趾有レ之。㊂草の名。霍(12－42321)に通ず。〔集韻〕霍、艸名、或從レ艸。㊃草木の花のちりしくさま。〔集韻〕藿、艸木花敷皃。

【藿香】1カクワク 香草の名。〔本草、藿香〕釋名、兜婁婆香、時珍曰、豆葉曰レ藿、其葉似レ之、故名。〔廣志〕藿香、出ニ海邊國一、莖如ニ都梁一、葉似ニ水蘇一、可レ著ニ衣服中一。〔南方草木狀〕藿香、出ニ交趾九眞武平興古諸國一、吏民自種レ之、叢生、五六月采、日乾、乃芬香。

藿香（三才圖會）

【藿蘂】2カクワク 豆の葉のあつもの。粗末な食物。藜藿之羹。〔戰國、韓策〕民之所レ食、大抵、豆飯藿蘂、一歲不レ收、民不レ厭ニ糟

糠。〔易林、明夷之第三十六、履〕旦樹二菽豆一、暮成二藿羹一。

【藿溪】3 カクケイ 川の名。源は福建省連城縣。九龍溪に注ぐ。

【藿食】4 カクショク 豆の葉を食ふ。粗食する。〔後漢書、劉陶傳〕是以藿食之人、謬延逮及。〔孔稚珪、薦二杜京產一表〕麻衣藿食、二十餘載、雖二古之志士一、何以加レ之。〔沈約、與二約法師一書、悼二周捨一〕此生篤信精深、甘二此藿食一。

【藿食者】5 カクショクシャ 豆の葉を食ふ者。粗食する者。在野の民をいふ。官吏を肉食者といふの對。〔說苑、善說〕東郭民祖朝、願請聞二國家之計一、獻公使二使出告一之曰、今大王曰、食二肉者已慮一之矣、藿食者尙何與焉、設使二食レ肉者一旦失二計於廟堂之上一、若二臣等之藿食者一、寧得レ無二肝膽塗二地於中原之野一。

【藿蠋】6 カクショク 豆の葉にすむいもむし。〔莊子、庚桑楚〕奔蜂不レ能化二藿蠋一、越雞不レ能伏二鵠卵一。〔釋文〕藿蠋、豆藿中大靑蟲也。

【藿囊】7 カクノウ 豆の葉を盛つたふくろ。才能の乏しい人をいふ。南朝宋の顏延之が何承天を嘲つた語。〔語林〕何承天、顏延年俱爲レ郎、何問二顏曰、藿囊是何物一、顏答曰、此當二復何解一耶、藿囊將是卿。

【藿靡】8 カクヒ 花などのちるさま。〔江總、詠二燕燕于飛一應詔詩〕銜花弄二藿靡一。

【藿藜】9 カクレイ 豆の葉とあかざ。〔韓非子、外儲說左下〕孟獻伯相レ魯、堂下生二藿藜一、門外長二荆棗一、食不二二味一、坐不レ重レ席、無二衣帛之妾一、居不レ粟レ馬、出不レ從レ車。

【虍】 32702

フク ブク 〔集韻〕房六切 屋 □× fu²

小篆 ❶虎のさま。〔說文〕虍、虎皃、从レ虍必聲。❷伏(1－438)に通ず。〔詩、陳譜〕太皡虙戲氏之墟。〔疏〕虙戲、卽伏犧、字異、音義同也。〔漢書、司馬相如傳上〕若夫青琴虙妃之徒。〔注〕師古曰、虙、讀與二伏字一同。❸宓(3－7098)に通ず。〔顏氏家訓、書證〕孔子弟子虙子賤爲二單父宰一、卽虙義之後、俗字亦爲レ宓、今兗州永昌郡城、舊單父地也、東門有二子賤碑一、漢世所レ立、乃云、濟南伏生、卽子賤之後、是知二虙之與レ伏、古來通字、誤以爲レ宓、較可レ知矣。

【虙妃】1 フクヒ 伏犧氏の女。宓妃(3－7098：7)に同じ。〔楚辭、離騷〕求二虙妃之所一レ在。〔楚辭、劉向、九歎、愍命〕迎二曹植虙妃於伊雒一。〔注〕虙妃、神女、蓋伊洛水之精。〔曹植、洛神賦〕御者對曰、臣聞河洛之神、名曰二虙妃一。

【虙羲】2 フクギ 伏犧(1－438：26)に同じ。

【虙戲】3 フクギ 伏犧(1－438：26)に同じ。〔詩、陳譜〕陳者、太皡虙戲氏之墟。〔疏〕虙戲、卽伏羲、字異、音義同也。〔管子、輕重戊〕自二理レ國虙戲一以來。〔漢書、司馬遷傳〕虙戲至二純厚一。

【虙犧】4 フクギ 伏犧(1－438：26)に同じ。

【蚩】 32836

マウ ミヤウ 〔中華大字典〕眉耕切 庚 □ㄣ méng²

❶鳥の名。一翼一目で、二匹相助けて飛ぶ。〔博物志、異鳥〕崇丘山有レ鳥、一翼一目、相得而飛、名曰レ蚩、見則吉良、乘レ之壽千歲。❷蟲(10－33318)の俗字。〔玉篇〕蟲、俗作レ蚩。

【蛸】 32991

クワイ グワイ 〔集韻〕胡隈切 灰 □×ㄟ hue¹ □クワイ 〔集韻〕虎猥切 隨

小篆 □❶腹の中の長い蟲。蛔蟲。〔說文〕蛸、腹中長蟲也、从レ虫有聲。〔一切經音義、十一〕蛸、腹中蟲也。〔柳宗元、罵二尺蟲一文〕脩蛸羔レ心、短蟯穴レ胃。□或は蚘(10－32876)・蛔(10－32990)・痼(7－22157)に作る。〔集韻〕蛸、或作二蚘・蛔・痼一。□土蟲。〔集韻〕蛸、土蟲名。

【蚊】 33318

マウ ミヤウ 〔集韻〕眉耕切 庚 □ㄣ méng²

圓バウ

小篆 ❶あぶ。うしあぶ。蠅の一種。蠅より稍大。觸角大きく、吻は肉質で、牛馬等に附いて血を吸ふ。又、花の蜜を吸ふものもある。〔說文〕蟲、齧レ人飛蟲、从レ蚊亡聲。〔段注〕人當レ作レ牛。〔爾雅翼、釋蟲〕蟲、好聚二於牛馬之尾一。〔莊子、天下〕由二天地之道一、觀二惠施之能一、其猶二一蚊一蟲之勞者一也。〔漢書、景十三王、中山靖王勝傳〕明月曜レ夜、蟲蟲宵見。〔淮南子、說山訓〕蟲散二積血一。❷草の名。ばいも。ははくり。あみがさゆり。菌(9－31048)に同じ。〔集韻〕菌、通作レ蟲。〔詩、衞風、載馳〕陟二彼阿丘一、言采二其蟲一。〔傳〕蟲、貝母也。〔陳奐傳疏〕淮南氾論注引レ詩作二言采二其菌一、毛詩作レ蟲、假借字、爾雅釋草、菌、貝母。〔淮南子、氾論訓〕不レ勝二暑熱蟲蟲一。〔注〕蟲讀、詩云二言采二其菌一之菌也。❸鳥の名。一足一翼で、二者相助けて飛ぶといふ。〔博物志、異鳥〕崇丘山有レ鳥、一足一翼一目、相得而飛、名曰レ蟲。❹飛蟲は、矢の名。〔廣雅、釋器〕飛蟲、箭也。❺蒲蟲は、蟲の名。しぼせんむし。〔本草、靑蚨、釋名、蒲蟲〕。❻俗に蚩(10－32836)に作る。〔玉篇〕蟲、俗作レ蚩。❼或は虻(10－32835)に作る。〔集韻〕蟲、或省。

【蟲山】1 ザンザン 山名。〔山海經、大荒西經〕大荒之中、有二蟲山一。

【蟲趨】2 スウスウ 木の名。〔齊民要術、栽樹〕瓦栽レ樹、正月爲二上時一、二月爲二中時一、三月爲二下時一、棗雞口、槐兎目、桑蝦蟆眼、榆負瘤散、自餘雜木、鼠耳蟲趨、各以二其時一。

【蟲蚋】3 ゼイバイ あぶと蚊。蟲蚋。〔後漢書、崔駰傳〕猶レ逸禽之赴二深林一、蟲蚋之趨二大沛一。〔注〕蚋、小蟲、蚊之類、蚋音芮、說文曰、秦謂二之蚋一、楚謂二之蚊一。

【蟲飛】4 ヒウヒ あぶのやうに飛ぶ。〔潘岳、閑居賦〕礥石雷駭、激矢蟲飛。〔注〕銑曰、箭去如二蟲蟲之飛一。

【蟲風】5 フウフウ 疾風。〔說苑、辨物〕雨二穀三日、蟲風之所レ飄也。〔新論、託附〕鷦鷯巢二葦之莖一云云、然蟲風欲至、則葦折卵破者何也、所レ託輕弱、使二之然一也。

【蟲】 33533

ブン 篇〕蟲、今作レ蚊。〔漢書、中山靖王傳〕聚蟲成レ羣。❶鴟(12－46775)に通ず。〔爾雅、釋鳥〕鵰蟲母、釋文〕蟲、本或作レ鴟。〔注〕今江東呼爲二蚊母一、俗說、此鳥常吐レ蚊、因以名云。

【衈】33972

㊀ハイ〔集韻〕鋪枚切 ㄆㄟ p'ei 灰
㊁フウ フ〔集韻〕方鳩切 尤
㊂フウ フ〔集韻〕俯九切 有
㊃フウ ブ〔集韻〕披尤切 尤

衈 小 篆 ㊀㊁くされち。こりち。腐凝の血。或は盃に作る。〔説文〕衈、凝血也、从レ血不聲。〔集韻〕衈、或書作レ盃。〔素問、五藏生成論〕赤如二衈血一者死。〔注〕衈血、謂二敗惡凝聚之血色赤黑一也。㊂蚍衈は、草の名。ぜにあふひ。莪。茈(9－30710)に同じ。〔爾雅、釋草〕莪、蚍衈。〔疏〕莪、一名蚍衈、小草、多レ華少レ葉。〔集韻〕茈、艸名、茈茈、莪也、或作レ衈。㊃㊀㊂に同じ。通じて衈(10－32898)に作る。〔集韻〕衈、通作レ衈。㊁衈胎は、はらごもり。又、物事のはじめ。胚(9－29296)・胚(9－29390)に同じ。〔集韻〕胚、胚胎、未レ成レ物之始、或从レ血。

【衊】34023

㊀ベツ メチ〔集韻〕莫結切 ㄇㄧㄝˋ mieh4 屑
㊁バツ マチ〔集韻〕莫葛切 曷
㊂ベン メン〔集韻〕暗見切 霰
㊃バン マン〔集韻〕謨官切 寒

衊 小 篆 ㊀㊁㊂㊃❶きたない血。〔説文〕衊、汚血也、从レ血蔑聲。㊁けがす。はづかしめる。〔集韻〕衊、汙也。〔漢書、文三王、梁懷王劉揖傳〕汙二衊宗室一。〔注〕師古曰、衊、謂二塗染一也。〔唐書、桓彦範傳〕恐爲二讎家一誣衊。㊂はなぢを出す。〔篇海〕衊、鼻出レ血也。

【衊衣】1 イベツ 血にまみれ染まつたきたない著物。〔日本外史、源氏後記、北條氏〕臥二畚中一、以二衊衣一自覆。

【衢】34083

シ、ヨウ

衢(10－34069)の本字。〔正字通〕衢、衢本字。

【袪】34220

㊀キョ コ〔集韻〕丘於切 魚
㊁キョ コ〔集韻〕丘據切 御

袪 小 篆 ㊀㊁❶そで。たもと。〔説文〕袪、衣袂也、从レ衣去聲。〔釋名、釋衣服〕袪、虛也。〔詩、鄭風、遵大路〕摻二執子之袪一兮。〔傳〕袪、袂也。〔左氏、僖、五〕披斬二其袪一。〔注〕袪、袂也。㊂そでぐち。〔説文、袪、段注〕喪服記注曰、袪、袖口也、檀弓注曰、袪、袖緣口也。〔説文通訓定聲〕析二言之一、袖曰レ袂、袂口曰レ袪。〔儀禮、喪服〕袪尺二寸。〔注〕袪、袖口也。〔禮、檀弓上〕長袪。〔注〕袪、謂二褒緣袂口一也。㊃ふところ。裾(10－34382)に通ず。〔説文〕袪、一曰、袪裒也、裒者褒也。〔段注〕方言曰、袪謂二之裾一、郭云、裾、或作レ袪、按、下文云二裾、衣裒也一、此云二袪裒也一、則知二古有二假レ袪爲レ裾者一矣。〔玉篇〕袪、衣裏。㊄あげる。〔後漢書、班固傳〕袪二黼帷一。〔注〕袪、擧也。㊅衣をかかげるさま。〔集韻〕袪、一曰、擧レ衣皃。㊆ひらく。ちらす。〔漢書、兒寬傳〕合二袪於天地神祇一。〔注〕李奇曰、袪、開散也。㊇さる。〔殷仲文、南州桓公九井作詩〕惑袪咨亦泯。〔注〕善曰、袪、去也。㊈強いさま。

袪袪(2)を見よ。

【袪衣】1 イキョ 衣をかかげる。〔韓詩外傳、三〕孟嘗君請レ學二於閔子一、使二車往迎二閔子一、閔子曰、禮有二來學一、無二往教一、云云、於是孟嘗君云云、明日袪レ衣請レ受レ業。〔注〕袪、當二讀如一摳レ衣趨レ隅之摳一。〔説苑、奉使〕相卽使二人召二柳下惠一、來入レ門、袪レ衣不レ趨。

【袪袪】2 キョキョ 強いさま。彊健のさま。祛祛。〔詩、魯頌、駉、以車祛祛、校勘記〕唐石經作二祛祛一。

【袪袂】3 キョベイ たもとをかかげる。〔類篇〕袪、擧レ袂貌。〔張華、朽杜賦〕吉人向レ風而袪袂、王孫清嘯而啓レ襟。

【袪步】4 キョホ 衣をかかげて歩む。〔呂覽、達鬱〕特會二朝雨一、袪步二堂下一。〔注〕袪步、擧レ衣而步也。

【鞁】35066

㊀セイ〔集韻〕尺制切 霽
㊁セイ ゼイ〔集韻〕時制切 霽 ㄕˋ shih4

鞁 小 篆 ㊀㊁❶牛の一角が仰ぐ。〔説文〕鞁、一角仰也、从レ角刧聲、易曰、其牛鞁。㊂牛の二角が仰ぐ。〔爾雅、釋畜〕角一俯一仰、觭、皆躍、鞁。〔集韻〕鞁、一曰、牛角立謂二之鞁一。㊃或は挈(5－12035)に作り、通じて掣(5－12277)に作る。〔集韻〕鞁、或从レ手、通作レ掣。

【詘】 35387

小篆 詘 或體 詘

㊀クツ クチ
㊁チユツ チユチ
㊂ドツ ノチ
㊃トツ

〔集韻〕曲勿切 ㊀ く」 物 ch'ü
〔集韻〕敕律切 ㊁ イメ ch'u⁴ 質
〔集韻〕奴骨切 ㊂ 月

㊀ **一つまる。** 言ひつまる。どもる。吃(2－3280)に同じ。〔説文〕詘、詰詘也、从レ言出聲。〔説文通訓定聲〕詘、字从レ言、當二與レ吃同意一。〔廣韻〕詘、辭塞。 **二なじる。** 〔漢書、朱買臣傳〕是時方築二朔方一、公孫弘諫以爲二罷二敝中國一、上使二買臣難二詘弘一。 **三まがる。まげる。** 屈(4－7669)に通ず。〔説文通訓定聲〕詘、叚借爲レ屈。 **㋑** かがめる。屈折する。〔廣雅、釋詁一〕詘、曲也、詘、折也。〔荀子、勸學〕詘二五指一而頓レ之。〔注〕詘、與レ屈同。 **㊁** ためる。矯め枉げる。〔玉篇〕詘、枉曲也。〔呂覽、壅塞〕宋王因怒而詘二殺之一。〔注〕詘、枉也、無レ罪而殺レ之曰レ枉。 **四みじかい。** 〔周髀算經、下〕往者詘也、來者信也。〔注〕從二夏至一南往、月益短、故曰レ詘。 **㊄へる。へらす。** 少なくする。〔史記、大宛傳〕皆詘二其勞一。〔注〕集解曰、徐廣曰、詘、抑退也。 **六したがふ。したがへる。** 屈服させる。〔戰國、秦策〕詘二敵國一。〔注〕詘、服也。〔荀子、議兵〕敵國不レ待レ試而詘。〔注〕詘、服也。 **七たたむ。** 卷く。ひだとる。〔説文〕詘、一曰、屈襞。〔段注〕此謂二衣襞積一。〔禮、喪大記〕凡陳衣不レ詘。〔注〕謂二舒而不レ卷也一。 **八おそれる。** 〔漢書、高帝紀上〕無レ所レ詘。〔注〕師古曰、詘、曲懾也。 **九かへつて。** 〔戰國、秦策〕詘令二韓魏歸一帝重於齊一。〔注〕詘、猶レ反。 **十たえやむさま。** 闕(11－41430)に通ず。〔説文通訓定聲〕詘、叚借爲レ闕。〔禮、聘義〕叩レ之、其聲清越以長、其終詘然。〔注〕詘、絶止貌也。〔孔子家語、問玉〕其終則詘然樂矣。〔注〕詘、斷絶貌。 **十一つきる。** 〔史記、司馬相如傳〕徼レ飭受レ詘。〔注〕集解曰、詘、盡也。 **十二きはまる。** 〔管子、國蓄〕其兵不レ詘。〔注〕詘、窮也。 **十三よろこんで節度をとり失ふさま。** 充詘。〔禮、儒行〕不二充一詘於富貴一。〔注〕充詘、是歡喜失レ節之貌。 **十四** 又、出(2－1811)に作る。〔周禮、秋官、庭氏、注、譆譆出出、釋文〕詘、本亦作レ出。 **十五** 或は誺(10－35590)に作る。〔説文〕詘、誺、詘或从レ屈。 **十六** 又、絀(8－27370)に作る。〔正字通〕詘、亦作レ絀。 **十七姓。** 〔印藪〕詘、姓也、漢有二詘強一。 **㊂しりぞける。** 黜(12－48076)に同じ。〔集韻〕黜、説文、貶下也、或从レ言。 **㊃** ども る。訥(10－35274)に同じ。〔集韻〕訥、説文、言難也、亦作レ詘。

〔詘要〕1 腰をかがめる。折腰。〔荀子、富國〕詘二要橈一、腮。〔注〕詘、與レ屈同、要、讀爲レ腰。

〔詘言〕2 口が重いこと。どもり。訥言。〔史記、萬石張叔傳贊〕仲尼有レ言、曰、君子欲レ訥二於言一、而敏二於行一。〔注〕集解曰、徐廣曰、訥字、多作レ詘、音同耳、古字假借。

〔詘坐〕4 しりぞけ罪する。詘は黜。〔易林、大過之第二十八、中孚〕詘坐不レ申、道無二良人一。

〔詘殺〕5 法をまげ殺す。枉殺。枉戮。〔呂覽、壅塞〕宋王因怒而詘二殺之一。

〔詘指〕6 **一** 節をまげる。〔戰國、燕策〕詘レ指而事レ之、北面而受レ學。〔吳師道校注〕詘、屈也、猶レ言二折レ節一。 **二** 指折り數へる。計算する。〔漢書、陳湯傳〕詘レ指計二其日一、曰、不レ出二五日一、當レ有レ吉語聞一。〔白居易、對鏡吟詩〕吟罷廻レ頭索二盃酒一、醉來詘レ指數二親知一。

〔詘膝〕7 膝をかがめる。轉じて、人の下風に立つ喩。屈膝。〔史記、司馬相如傳〕交レ臂受レ事、屈レ膝請レ和。

〔詘匠〕8 大工をこまらせる。轉じて、己に利益を與へる者を反つて苦しめる喩。〔韓非子、外儲說左上〕虞慶詘二匠也、而屋壞、范且窮レ工而弓折、是故求二其誠一者、非レ歸レ餉也不可。

〔詘勝〕9 屈伸する。のびちぢみ。屈勝。〔墨子、備高臨〕有二詘勝一、可二上下一。〔閒詁〕漢書王莽傳、服虔注云、蓋杠皆有二屈勝一、可二上下屈伸一也、屈一詘、字通、勝、伸亦一聲之轉。

〔詘辱〕10 屈して辱を受ける。屈辱。〔漢書、蕭望之傳〕弘恭、石顯等、知二望之素高節、不二詘辱一、建白。〔楚辭、王逸、九思、傷時〕覽二往昔兮俊彥一、亦詘二辱兮係縶一。

〔詘申〕11 詘伸屈伸に同じ。〔荀子、解蔽〕形可二劫而使一詘申一、心不レ可二劫而使一易レ意。

〔詘伸〕12 のびちぢみ。伸縮。屈伸。詘申。〔禮、樂記〕執二其干戚一、習二其俯仰詘伸一、容貌得レ莊焉。〔漢書、匈奴傳贊〕詘伸異變、強弱相反。〔淮南子、人間訓〕內有二一定之操一、而外能詘伸贏縮卷舒、與レ物推移。

〔詘身〕13 身をまげる。屈身。〔法言、五百〕詘レ身將二以信一レ道也。

〔詘信〕14 詘伸に同じ。〔荀子、樂論〕治二俯仰詘信一、進退遲速一。〔管子、宙合〕此言二聖人之動靜開闔詘信涅濡取與必因一於時一也。〔史記、樂書〕詘信俯仰級兆舒疾、樂之文也。

〔詘折〕15 まがりをれる。屈折。〔司馬相如、大人賦〕詘折隆窮、躔以連卷。

〔詘節〕16 節をまげる。屈節。〔漢書、翟方進傳〕詘二節失レ度、邪讒無レ常。

〔詘然〕17 絶え止まるさま。〔禮、聘儀〕叩レ之其聲清越以長、其終詘然樂矣。〔注〕詘、絶止貌。

〔詘體〕18 身をまげて拜伏する。〔漢書、張湯傳〕已而失レ官守二長史一、詘二體於湯一。〔司馬遷、報二任少卿一書〕其次屈レ體受レ辱。〔注〕善本作二詘字一。

〔詘道〕19 道をまげる。〔法言、寡見〕如二小人之謀一、之不レ美也、詘レ道以從レ人。

〔詘服〕20 身をまげて服從する。屈服。〔漢書、吾丘壽王傳〕上以難二丞相弘一、弘詘服焉。

〔詘免〕21 屈しまぬかれる。〔説苑、敬愼〕可レ謂二能詘免變化以致一レ之、故福生二於隱約一、而禍生二於得意一。

〔詘約〕22 まがりくるしむ。屈約。〔荀子、堯問〕上無二賢主一、下遇二暴秦一、禮義不レ行、教化不レ成、仁者詘約。〔注〕詘、與レ屈同。

〔詘容〕23 我が身を屈する。辱を受けること。〔荀子、正論〕獨詘レ容爲レ己、慮二一朝改一レ之、說必不レ行矣。〔注〕獨欲二屈一レ容受レ辱爲二己之道一。

〔詘詰語〕24 世界二大語系の一。屈折語。詰屈語。

【諟】 35704

小篆 諟

㊀シ ジ
㊁テイ タイ

〔集韻〕上紙切 ㊀ 尸 shih⁴ 紙
〔集韻〕丁計切 ㊁ 霽

㊀ **一ただす。をさめる。** 是正する。〔説文〕諟、理也、从レ言是聲。〔王注〕謂二料二理之一也。〔集韻〕諟、一曰、正也。〔禮、大學〕顧二諟天之明命一。〔注〕諟、猶レ正也。 **二つまびらかにする。あきらかにする。** 題(10－34916)・睼(8－23531)に通ず。〔説文通訓定聲〕諟、叚借爲レ題、爲レ睼。〔方言、六〕譠・譫、諟也。〔注〕亦審諟、互見其義一耳。〔玉篇〕諟、諦也。〔集韻〕諟、審也。 **三この。** 〔廣雅、釋言〕諟、是也。〔書、太甲上〕先王顧二諟天之明命一。〔傳〕諟、是也。〔疏〕諟與レ是、古今之字異、故變レ文爲レ是也。 **㊁つまびらかにする。** 諦(10－35716)に同じ。〔集韻〕諦、説文、審也、或从レ是。

名乘 タダ。サネ。

〔諟正〕1 ただす。是正。又、つまびらかに正す。〔陳書、姚察傳〕尤好研二覆古今一、諟二正文字一。

【譆】

35938

小篆

㊀キ（集韻）虛其切 支 hɪ̯ᵊ
㊁イ（集韻）於其切 支 ʔɪ̯ᵊ

㊀❶ああ。あ。㊂なげきかなしむ聲。〔說文〕譆、痛也、从レ言喜聲。〔段注〕當レ作二痛聲一。㊃懼れる聲。〔玉篇〕譆、懼聲也。㊄ほめる聲。〔莊子、養生主〕譆善哉、技蓋至レ此乎。〔釋文〕譆、李云、歎聲也。㊁愁ひ恨む聲。〔曹植、七啓〕俯而應レ之曰、譆有二此言一乎。〔注〕善曰、譆、悲恨之聲也。㊅いましめるときに發する聲。〔玉篇〕譆、敕也。❷笑ひたのしむこゑ。嫉（3－6341）に通ず。〔說文通訓定聲〕譆、叚借爲レ嫉、漢書灌夫傳、因嘻笑曰、注、強笑也、易家人、婦子嘻嘻、鄭注、嬌佚喜笑之意、馬注、笑聲。❸あつい。熹（7－19380）に通ず。〔說文通訓定聲〕譆、叚借爲レ熹。〔左氏、襄、三十〕譆譆出出。〔注〕譆譆、熱也。❹自得のさま。譆譆。歖（6－16200）に通ず。〔說文通訓定聲〕譆、叚借爲レ歖、漢書揚雄傳、嘻嘻旭旭、注、自得之貌。㊆又、嘻（2－4276）に作る。〔說文通訓定聲〕譆、字亦作レ嘻。㊇恨むこゑ。噫（2－4381）に同じ。〔集韻〕噫、恨聲、或作レ譆。

【譆譆】1キキ 熱いこと。一說に、痛傷の聲。譆譆出出を見よ。

【譆譆出出】2シキシキシュツ 譆譆は熱いこと。出出は出でよと戒める語。一說に、痛みなげく聲。出出は咄咄の省。〔左氏、襄、三十〕或叫二于宋太廟一、譆譆出出、〔注〕譆譆、熱也、出出、戒伯姬。〔集釋〕譆譆出出、乃號眺之聲、出出、鄭注周禮引作二詘詘、詘詘卽咄咄、亦嘆嘆之聲、省レ文作出耳、云云、譆譆痛傷之聲、則出出亦必差嘆之聲、當レ以二禮注一作レ詘爲レ正、杜以爲二火妖一故訓二譆譆一爲レ熱、伯姬不レ出而卒、故讀レ出如レ字。

【譫】

36013

㊀イ（集韻）於其切 支
㊁イエ（集韻）於希切 微
㊂イ（集韻）於記切 寘
㊃イ（集韻）隱已切 紙

㊀❶いかる。〔集韻〕譫、忿也。❷いたむ。〔集韻〕譫、傷也。㊁❶ああ。歎ずるこゑ。哀痛のこゑ。譫（10－36155）・㥯（4－10773）・噫（2－4381）に同じ。〔集韻〕㥯、哀痛聲、或作二㤼・譫・噫一。〔列子、黃帝〕仲尼曰、譫。〔釋文〕譫、與レ譫同、歎聲也。❷譫譫は、人體經穴の名。〔素問、骨空論〕大風汗出炙二譫譫一、譫譫者、在二背下俠脊傍三寸所一。❸譫譫は、鳥の名。〔本草、姑獲鳥〕釋名、譫譫。㊂ああ。噫（2－4381）に同じ。〔集韻〕噫、痛聲、或从レ言。㊃❶うらむことば。〔集韻〕譫、恨辭。❷こたへることば。〔韻會〕譫、應辭也。

【跗】

37473

㊀フ（集韻）風無切 虞 ㄈㄨ fu
㊁フ（集韻）符遇切 遇 ㄈㄨˋ fu

㊀㊁❶足の甲。〔集韻〕跗、足上也。〔儀禮、士喪禮〕乃屨綦結二于跗一連レ絇。〔注〕跗、足上也。〔疏〕謂二足背一也。〔莊子、秋水〕蹶レ泥則沒レ足滅レ跗。〔釋文〕司馬云、跗、足跗也。❷花のうてな。〔管子、地員〕朱跗黃實。〔注〕跗、花足也。〔沈約、郊居賦〕抽二紅英于紫蒂一、銜二素蕊于素跗一。㊂或は趺（10－3792）・胕（9－29380）・趺に作る。〔集韻〕跗、或作二趺・胕・趺一。㊃くびす。

【跗萼】1フカ 花のうてな。轉じて、兄弟の親をいふ。〔王褒、送二觀寧侯葬一詩〕邢茅廣裂地、跗萼盛開蕃。〔徐陵、勸二進梁元帝一表〕其文昭武穆、跗萼也如レ彼、天平地成、功業也如レ此。〔北史、李賢傳論〕李賢和二兄弟一云云、位高望重、光二國榮一家、跗萼連暉、聊椒繁衍。〔李嶠、洛州昭覺寺釋迦牟尼佛金銅瑞像碑〕欣二跗萼之有レ序、慶二宗社之彌隆一。

【跗骨】2コツ 足の甲のほね。下腿骨と蹠骨の間に在つて合計七枚。

【跗蹋】3タフ 足が地をふむ。〔傅毅、舞賦〕跗蹋摩跌。〔注〕翰曰、跗蹋、足蹋レ地也。

【跗注】4チユウ 古の戎服の名。韋を以て作り、其の制は袴の如くで、下は足の甲に達する。〔左氏、成、十六〕有二韎韋之跗注一、君子也。〔注〕韎、赤色、跗注、戎服、若レ袴而屬二於跗一、與レ袴連。〔會箋〕賈服皆云、云云、據二賈・服之義一、則下不レ爲レ裳、其制如レ袴而連二屬於跗一也。〔國語、晉語、六〕郤至以二韎韋之跗注一、三逐二楚平王卒一。

【跗山館】5クワンサン 清、張金鏞（4－9812・937）の室名。

【蹌】

37647

ケン ゲン 〔集韻〕達眞切 先 ㄑㄩㄢˋ ch'uan²

蹌蹌は、せぐくまる。かがむ。或は躉（10－38008）に作る。〔集韻〕蹌、蹌蹌、不レ伸也、或从レ萑。

【蹌焉】1ケンエン かがまるさま。せぐくまるさま。

【蹌局】2キヨク 蹌蹌に同じ。〔楚辭、離騷〕蹌局顧而不レ行。〔注〕蹌局、詰屈不レ行貌。

【蹌蹌】3ケンケン かがまつてのびないさま。心に怖れて進まないさま。〔玉篇〕蹌、蹌蹌、不レ伸也。〔楚辭、王逸、九思、憫上〕蹌蹌兮寒局數。〔注〕蹌、傴僂也。〔淮南子、精神訓〕蹌蹌而諦、通夕不レ寐。〔左思、吳都賦〕邦有二湫阨而蹌蹌一。

【蹌屈】4クツ 蜷蹌に同じ。〔素問、刺禁論〕、刺二脊間中髓一爲レ傴、注〕傴、謂二傴僂一身蹌屈也。

【蹌嵯】5サン 曲がるさま。又、特起のさま。嵯嵯、蹇產。〔王延壽、魯靈光殿賦〕連拳偃蹇、崙菌、蜷嵯、傍欹傾兮。〔注〕善曰、皆特起之貌、濟曰、皆屈曲高大傾側峻險貌。

【蹌伏】6クツ せぐくまり伏す。〔本草、風狸〕集解、時珍曰、晝則蹌伏不レ動如レ蝟、夜則因レ風騰躍。

【蹣】

37694

㊀セン ゼン 〔集韻〕豎兗切 銑 ㄗㄨㄢˇ shuan³
㊁タン 〔集韻〕都玩切 翰 ㄉㄨㄢˋ ch'uai⁴

㊀㊁❶くびす。かかと。〔玉篇〕蹣、足跟也。〔集韻〕蹣、足踵也。❷をどらす。〔淮南子、人間訓〕蹣レ足而怒。〔注〕蹣、足、躍レ足也。❸ふむ。ふみつける。ふみしめる。〔說文、蹑、段注〕俗語謂二用レ力踏一地曰レ蹣。〔元曲、鴛鴦被〕我便死呵、是張家婦名、怎肯蹣二劉家門徑一。❹あし。〔集韻〕蹣、足也。

【蹣開】1ch'uai⁴ k'ai¹ 足で蹴り開く。

【蹣死】2ch'uai⁴ ssu³ 踏み殺す。

【蹣足】3ソク あしををどらす。〔淮南子、人間訓〕蹣レ足而怒。〔注〕蹣、足、躍レ足也。

【蹣道】4ch'uai⁴ tao⁴ 道を探る。賊などが晝間に案内を探ること。

【蹣門】5ch'uai⁴ men⁴ 門を蹴る。

【蹻】 37887

㊀ケウ 〔集韻〕丘祇切 蕭 ㊁キヤク ガク 〔集韻〕極虐切 藥 ㊂ケウ 〔集韻〕舉夭切 篠 ㊃キヨク コク 〔集韻〕拘玉切 沃

蹻 小篆 ㊀**一足をあげる。**かかとをあげる。つまだつ。蹻(10－37886)に同じ。〔説文〕蹻、擧レ足小高也、从レ足喬聲。〔段注〕蹻・高疊韵、各本作二行高一、晉灼注二漢書高帝紀一作二小高一。〔集韻〕蹻、擧レ趾謂二之蹻一、或作レ蹻。〔漢書、高帝紀下〕亡可二蹻レ足待一也。〔注〕文穎曰、蹻、猶レ翹也。〔揚雄、長楊賦〕莫レ不二蹻レ足抗レ首。〔注〕善曰、蹻、擧レ足也。〔素問、鍼解〕巨虛者蹻レ足。〔注〕蹻、謂レ擧也。㊁**おごる。あなどる。**〔廣韻〕蹻、驕也、慢也。㊂**一足を高くあげる。**〔廣韻〕蹻、擧レ足高。㊃**すこやか。**趫(10－37303)に通ず。〔説文通訓定聲〕蹻、叚借爲レ趫。〔廣雅、釋詁二〕蹻、健也。㊄**ざうり。わらぐつ。**屩(4－7812)に通ず。〔説文通訓定聲〕蹻、叚借爲レ屩。〔史記、虞卿傳〕蹻擔レ簦。〔注〕集解曰、蹻、草履也。〔漢書、卜式傳〕布衣屮蹻而牧レ羊。〔注〕師古曰、蹻、卽今之鞋也、南方謂二之蹻一、字本作レ屩。㊅**しぶる。**〔方言、七〕蹻、蹙也、山之東西、或曰蹻。㊆蹻蹻は、物のさま。蹻蹻(1)を見よ。㊇或は勵(2－2442)に作る。〔集韻〕蹻、或从レ力。㊈**一足を高くあげる。**〔字彙〕蹻、擧レ足高也。㊉蹻蹻は、おごる。〔集韻〕蹻、爾雅、蹻蹻、憍也。㊊蹻蹻は、物のさま。蹻蹻(1)を見よ。㊋**かんじき。**樺(6－1565 3)に通ず。〔集韻〕樺、山行所レ乘、以二鐵如レ錐、施二之履下一、亦作レ蹻。〔呂覽、情欲〕蹻然不レ固。〔注〕蹻、謂二乘蹻之蹻一、謂レ其流行速疾、不二堅固一之貌。上

【蹻蹻】1 ㊀**つよいさま。**〔詩、周頌、酌〕蹻蹻王之造。〔傳〕蹻蹻、武貌。㊁**盛なさま。**〔詩、大雅、崧高〕四牡蹻蹻。〔傳〕蹻蹻、壯貌。〔詩、魯頌、泮水〕其馬蹻蹻。〔傳〕其馬蹻蹻、言二彊盛一也。〔集傳〕蹻蹻、盛貌。㊂小人が志を得て驕るさま。〔詩、大雅、板〕小子蹻蹻。〔傳〕蹻蹻、驕貌。〔新序、雜事五〕小子蹻蹻。

【趺】2 わらぐつ。草履。〔淮南子、脩務訓〕昔者南榮疇、云云、身淬二霜露一、欬蹻趺一云云、南見二老聃一、受教一言。〔注〕蹻、履、趺、趣也。

【蹻車】3 そりぐるま。蹻は橋。〔海内十洲記〕崑崙號曰二崑崚一云云、昔禹治二洪水一既畢、乃乘二蹻車一、度二弱水一、而到二此山一、祠二上帝於北阿一。

【蹻跖】4 莊蹻と盜跖。共に古の大盜。轉じて、盜賊をいふ。〔宋書、顧愷之傳〕蹻跖橫行、曾原窘步。

【蹻捷】5 足が疾い。身輕るですばやい。趫捷。〔曹植、七啓〕蹻捷若飛、蹈虛遠躇。〔注〕向曰、蹻、輕也。〔世説新語、惑溺〕蹻捷絶人、踰牆而入。

【蹻然】6 すみやかで堅固でないさま。〔呂覽、情欲〕蹻然不レ固。〔注〕蹻謂二乘レ蹻之蹻一、謂レ其流行速疾、不二堅固一之貌。上

【蹻足】7 足をあげる。かかとをあげてつまだつ。又、其の足。〔漢書、高帝紀下〕大臣內畔、諸將外反、亡、可二蹻足待一也。〔注〕文穎曰、蹻猶レ翹也、晉灼曰、許愼云、蹻、擧レ足小高也。〔漢書、揚雄傳下〕莫レ不二蹻レ足抗レ手、請レ獻二厥珍一。〔注〕師古曰、蹻、擧也。

【蹻蹀】8 とびはしる。〔沈遼、德相惠二新茶一復次二前韻一奉謝詩〕輕重必酬酢、往來繁蹻蹀。

【蹻墊】9 跪墊(10－37886：5)に同じ。

【蹻簦】10 蹻は、草履。簦は、長い柄のかさ。共に旅行用具。旅立つことにいふ。〔史記、虞卿傳〕蹻擔レ簦、説二趙孝成王一。〔注〕集解曰、徐廣曰、蹻、草履也、簦、長柄笠、音登、笠有レ柄者、謂二之簦一。

【蹻騰】11 勢よく走る。〔韓愈、送二侯參謀赴二河中幕一詩〕行行事二結束一、人馬何蹻騰。〔杜甫、故武衛將軍挽詞〕銛鋒行二愜順一、猛噬失二蹻騰一。

【蹻脈】12 足にある脈。〔史記、倉公傳〕人兩足蹻脈。

【蹻勇】13 すばやくていさましい。〔唐書、宋之問傳〕以二文章一起、其弟之悌、以二蹻勇一聞。〔舊五代史、漢史弘肇傳〕蹻勇健步、日行二百里、走及二奔馬一。

【蹻容】14 舞ふさま。〔左思、蜀都賦〕銳氣剽二於中葉一、蹻容世二於樂府一。

【蹻脚兒】15 ch'iao¹ chiao³ êrh 爪先で立つ。

【蹻腿兒】16 ch'iao² t'uei³ êrh 脚を組んで休む。

【軀】 38137

ク 〔集韻〕虧于切 虞 ㊀ chü

軀 小篆 **み。からだ。**或は軀(12－45263)に作る。〔説文〕軀、體也、从レ身區聲。〔釋名、釋形體〕軀、區也、是衆名之大、總若二區域一也。〔集韻〕軀、或从骨。〔荀子、勸學〕曷足二以美一七尺之軀一哉。

【軀骸】1 からだ。軀體。〔蘇舜欽、送二韓三子華還一家詩〕奈何此軀骸、未レ免レ混二世俗一。

【軀殼】2 からだ。軀體。殼は、から。肉をつつむからいふ。精神の對。〔孔武仲、松上老藤詩〕蛇蟠筋脈壯、龍死軀殼在。〔朱子全書、性理、性〕且夫性者、又豈塊然一物、寓二於一處一可二摶而置一之軀殼之中一耶。

【軀幹】3 ㊀からだのほねぐみ。からだ。體格。〔晉、無名氏、隴上歌〕隴上壯士有二陳安一、軀幹雖レ小腹中寬。〔杜甫、送二韋十六評事充一同谷郡防禦判官一詩〕子雖二軀幹小一、老氣橫二九州一。㊁人體の一部。全體の中央に在つて上は頸となり、下は臀となる。中に臟腑を具へ、分けて頸・胸・腹の三部とする。

【軀體】4 からだ。軀幹に同じ。〔後漢書、陳龜傳〕臣無二文武之才一、而忝二鷹揚之任一、上慙二聖明一、下懼二素餐一、雖レ沒二軀體一、無レ所二云補一。

【軀貌】5 すがたかたち。からだつき。體貌。姿貌。〔北齊書、孟業傳〕卿斷決之明、可レ謂レ有レ過二軀貌之用一。

【軀命】6 からだといのち。身命。一身。〔吳師道、劉諫議詩〕爲レ時吐二忠憤一、誓不レ顧二軀命一。

【軀老】7 からだ。老は助字。〔西廂記、張君瑞慶二團圞一雜劇〕喬嘴臉、臉軀老、死身分、少二不二得有レ家難一奔。

【捐軀】8 身をすてる。命を落す。捐軀濟レ難を見よ。〔晉書、郄鑒傳〕捐二軀九泉一、不レ足二以報一。

【捐軀濟難】9 吾が一身をすてて、國家又は他人の難を救濟する。〔曹植、求二自試一表〕憂二國忘レ家、捐レ軀濟レ難。

【辦】 38655

辦 小 篆

ハン ベン 〔集韻〕皮莧切 諫 ㄅㄢˋ pan⁴

力也、从レ力辨聲。〔趙庚夫、歲除卽事詩〕縫紉連夜辦、今朝杵臼頻。㊁そなへる。ととのへる。〔集韻〕辦、具也。〔漢書、朱博傳〕告二外趣馬一、既白二駕辦一、博出就レ車。〔晉書、石崇傳〕崇爲レ客作二豆粥一、咄嗟便辦。〔顏氏家訓、勉學〕家貧燈燭難レ辦。㊂あつかふ。さばく。〔史記、項羽紀〕每二吳中有二大繇役及喪一、項梁嘗爲二主辦一。〔陸摯、奉天大改元赦制〕供儲克辦、師旅攸レ率。㊃

辨（10－38657）に同じ。〔說文、辨、段注〕辨從レ刀、俗作レ辨、爲二辨別字一、別作二從レ力之辦一、爲二幹辦字一、古、辨別・幹辦無二二義一、亦無二二形二音一也。

參考 辨（10－38657）・辦（10－38656）・瓣（7－21425）は別字。〔字彙、辨似、四字相似〕辨、辨別、又牀榦也。辨、同レ上、从レ刀取二判別之義一。辨、致レ力也、故从レ力。瓣、斑上聲、片也。

【辦案】1 pan⁴ an⁴ ㊀事件を處理する。㊁盜賊を追求する。

【辦解】2 ベン カイ とりはからひおくる。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕自應二照レ數辦解一。

【辦稿】3 pan⁴ kao³ 清朝で各衙門に從事する小吏をいふ。經承の命を受け文書の案を起すもの。

【辦銀】4 ベン 銀をととのへる。〔福惠全書、錢穀部、比較〕百姓聞時辦レ銀。

【辦貨】5 pan⁴ huo⁴ 商品を仕入れる。

【辦課】6 ベン クワ 稅金を納める。〔福惠全書、雜課部、鹽課〕領二引辦レ課。

【辦館】7 pan⁴ kuan³ 食料品雜貨類の用達をなす店。

【辦嚴】8 ベン 旅支度をする。旅裝をととのへる。漢の明帝の諱を避け裝を改めて嚴といふ。辦裝。治裝。〔正字通〕嚴、治裝就道曰二辦嚴一。〔後漢書、吳漢傳〕每當二出師一、朝受レ詔、夕卽引レ道、初無二辦嚴之日一。〔注〕嚴、卽裝也、避二明帝諱一、故改レ之。〔後漢書、陳紀傳〕紀見二禍亂方作一、不二復辦嚴一、卽時之レ郡。

【辦公】9 ベン コウ 公務に從事する。公事を取りさばく。執務する。〔清國行政法汎論、官吏分限、守制〕又在二旗人一、雖レ在二丁憂中一、經二百日一後、乃可二出仕辦公一。

【辦公銀】10 ベン コウ ギン 公務執行の費用。〔清國行政法汎論、官吏法、俸給、公費〕公費者、如二其字之所一指示一、要二於執二行公務一之費用也、故曰二辦公費一、又曰二辦公銀一。

【辦公費】11 ベン コウ ヒ 公務執行の費用。辦公銀を見よ。

【辦公時刻】12 pan⁴ kung¹ shih² k'ê⁴ 「閒。執務時

【辦差】13 pan⁴ ch'ai¹ ㊀事務を處理する。㊁物品の購入などを司る役。

【辦罪】14 pan⁴ tsuei⁴ 罪に行ふ。處罰する。

【辦裝】15 ベン ソウ 旅仕度をする。治裝。辦嚴。〔漢書、龔勝傳〕六月祿直、以辦裝。〔後漢書、彭寵傳〕寵急呼曰、趣爲諸將軍辦裝。〔李商隱、爲二同州張評事一謝二聘錢一啓〕辦裝無闕、通刺有レ期。

【辦裝錢】16 ベン ソウ セン 旅仕度の費用。〔後漢書、劉平傳〕顯宗初、尙書僕射鍾離意上書薦二劉平及琅邪王望・東萊王扶一云云、書奏、有レ詔徵二平等一、特賜二辦裝錢一。

【辦造】17 ベン ゾウ こしらへる。〔福惠全書、保甲部、簡驗壯丁〕聽二自行如レ式辦造一。

【辦事】18 ベン ジ 事をとりさばく。事をなす。事務を執る。〔福惠全書、蒞任部、出堂規、堂規式〕除二辦レ事衙役一外、一槩不レ許二放人一。〔清國行政法汎論、農工商部、立二課程一〕上官躬親辦レ事、期二於事務精確、而無二遲滯一。

【辦事處】19 ベン ジ ショ 事務所。

【辦壽】20 pan⁴ shou⁴ 「の祝をする。六十、七十、八十等の誕生

【辦賑】21 pan⁴ chen⁴ 貧民又は災民に對し賑給事業を營む。

【辦成】22 pan⁴ ch'êng² 處置して解決をつける。

【辦賊】23 ベン ゾク 賊を捕縛して罪に行ふ。〔蜀志、費禕傳〕君信可人、必能辦レ賊。

【辦妥】24 pan⁴ t'uo³ 適當にとりさばく。都合よく處理する。

【辦置】25 pan⁴ chih⁴ 準備する。

【辦抽】26 ベン チウ 甲の費目內から幾分を抽いて、乙の費目に轉じ、其の用を辨ずること。〔六部成語、戶部、辦抽、注解〕抽、提取也、提二取此款中之數分一、以充二辦別項之用一也。

【辦仲】27 ベン チウ 各埠頭街に店鋪を有し、生產業者と行郊、又は外商との中間に立つて砂糖・米・肉等の取引を媒介する商人。

【辦帖】28 pan⁴ t'ieh³ 認可證。免許證。

【辦納】29 ベン ナフ をさめる。〔長生殿、進果〕將レ何辦納、好苦也。

【辦買】30 ベン バイ かひいれる。〔福惠全書、蒞任部、查交代〕奉レ文辦二買某項一。

【辦法】31 pan⁴ fa³ 方法。處理方法。

【辦浴】32 ベン ヨク ゆあみの支度をととのへる。〔後漢書、列女、陰瑜妻傳〕采因敕令二左右辦浴一、既入室而掩レ戶、權令二侍人避一之。

【辦理】33 ベン リ 取さばく。處理する。處置する。〔舊唐書、劉怦傳〕積二軍功一、爲二雄武軍使一、廣二屯田節一、用、以二辦理一稱。「ふ。

【辦紅事】34 pan⁴ hung² shih⁴ 婚禮の式を行

【辦生日】35 pan⁴ shêng¹ jih⁴ 誕生日の祝をする。

【辦不到】36 pan⁴ pu tao⁴ さばくことが出來ぬ。うまく捌けない。

【辦不動】37 pan⁴ pu tung⁴ さばききれない。

【辦滿月】38 pan⁴ man³ yüeh⁴ 小兒が生れて三十日目に祝宴するをいふ。

【迮】 38801

迮 小 篆

㊀サク シヤク 〔集韻〕側格切 陌 ㄗㄜˊ tsê²

㊁サク 〔集韻〕卽各切 藥

㊀㊁㊂たつ。おこる。たちはたらく。作（1－518）に通ず。〔說文〕迮、迮迮、起也、从レ辵乍聲。〔說文通訓定聲〕迮、叚借爲レ作。〔段注〕此與二人部作一音義同。㊃せまる。〔說文通訓定聲〕迮、迫也、从レ辵乍聲。〔集韻〕迮、一曰、迫也。〔後漢書、陳忠傳〕鄰舍比里、共相壓迮。〔注〕迮、迫也。㊄たちまち。にはか。乍（1－130）に通ず。〔說文通訓定聲〕迮、叚借爲レ乍。〔集韻〕迮、倉猝也。〔公羊、襄、二十九〕今若レ是迮而與二季子國一。〔注〕迮、起也、倉卒意。㊅ちぢむ。排迮。〔後漢書、竇融傳〕囂勢排迮、不レ得二進退一。〔注〕排迮、謂二蹙迫一也。㊆通じて作（4－10064）に作る。〔集韻〕迮、通作レ祚。㊇俗に窄（8－25455）に作る。〔說文通訓定聲〕迮、俗字作レ窄。㊈姓。〔萬姓統譜〕迮、與レ笮同音、迮原霖、洪武中任二翰林編修一。

【迮雨】1 サク 明、浙江山陰の人。樂府を善くす。〔明史、二百八十五〕・〔明史稿、二百六十六〕。

【迮狹】2 サク キヤウ せまい。〔蜀志、張飛傳〕山道迮狹、前後不レ得二相救一。

【迮朗】3 サク ラウ 清、吳江の人。字は卍川。乾隆の擧人。官は鳳陽訓導。駢體文に巧、繪事に精し。書室を雕蟲館といふ。著に三萬六千頃湖中畫船錄・繪事瑣言・繪事雕蟲・雕蟲館駢體文がある。〔碑傳集補、四十七〕・〔墨香居畫識、三〕。

【迮雲龍】4 サク ウンリウ 清、吳江の人。字は賡若。號は耕石・三江漁父。雍正の副貢生。乾隆中、鴻博に擧げらる。滇南總督の幕に游び、詩文千言、立ちどころに就る。才高きも、數奇にして、志を得ず、常に鬱々たり。著に汗漫吟・池上草堂等の集がある。〔鶴徵錄、六〕。

【迮鶴壽】5 サク カクジユ 清、吳江の人。朗の子。字は青崖。號は蘭宮。道光の進士。官は池州府教授。考證學に長ず。著に蛾術編注・夏殷周九州經界疏證・九州分土疏證・齊詩翼氏學・韻字急就編がある。〔清史列傳、六十九〕・〔碑傳集補、四十九〕。

【迮紹原】6 サク ケウ 明の人。楊廷樞の門人。福王の末、廷樞、節に殉ずるや、紹原、其の屍を購つて葬る。〔明史、二百六十七〕。

【郄】39379

ケキ　キャク　〔集韻〕乞逆切　T一　hsi⁴　陌

㊀隙(11－41792)に同じ。〔正字通〕郄、同レ隙。㊁郤(11－39440)に同じ。〔集韻〕郄、或作レ郄。㊂**姓**。〔正字通〕郄、姓、晉大夫郄獻子食ニ邑于郄一因氏。

参考　郄(2－2863)は別字。〔字彙、辨似〕二字相似)郄、音却、从レ卩。郄、音隙、从レ阝。

【鈦】40187

小篆

日テイ　ダイ　〔集韻〕大計切　齊

日タイ　ダイ　〔集韻〕徒蓋切　泰　去声　t'ai⁴

日㊀**あしかせ**。〔説文〕鈦、鐵鉗也、从レ金大聲。〔段注〕鐵、御覽作レ脛、鈦、踏腳鉗也、狀如レ跟、衣ニ著足下一、重六斤、以代レ刖。〔義證〕字書、在レ足曰レ鈦、顏注ニ急就篇一以レ鐵鍇レ頭曰レ鉗、鍇レ足曰レ鈦。〔史記、平準書〕鈦ニ左趾一。〔注〕索隱曰、鈦、踏腳鉗也。㊁**穀のきせ金**。そとかりも。軼(10－38186)に通ず。〔説文通訓定聲〕鈦、叚借爲レ軼。〔漢書、揚雄傳上〕肆ニ玉鈦一而下馳。〔注〕晉灼曰、鈦、車轄也。㊂**化學元素の名**。チタニウム。Titanium の譯。〔中華大字典〕鈦、化學原質之一、金屬。

【鈹】40272

小篆

ヒ　〔集韻〕攀糜切　支　p'i¹　p'i²

㊀**おほはり**。醫者がはれものを破るに用ひるはり。〔説文〕鈹、大鍼也、从レ金皮聲。〔段注〕玄應曰、醫家用以破レ癰。〔新論、利害〕瘕疾塡レ胸而不ニ敢鈹一。㊁**ながぼこ**。〔方言、九〕鋏、謂ニ之鈹一。〔注〕今江東呼ニ大矛一爲レ鈹。㊂**はり**。**きり**。〔廣雅、釋器〕鑱謂ニ之鈹一。㊃**すき**。〔廣雅、釋器〕鈹、鉏也。㊄**つるぎの一**。もろはで刀の鞘に仕込んだもの。〔説文〕鈹、一曰、劍而刀裝者。〔段注〕劍、兩刃、刀一刃、而製不レ同、實劍而用ニ刀削一裹之、是曰レ鈹。〔左氏、襄、十七〕以レ鈹殺ニ諸盧門一。〔左思、吳都賦〕羽族以ニ觜距一爲ニ刀鈹一。〔注〕善曰、鈹、兩刃小刀也。㊅**ひらく**。柀(6－14598)・披(5－11909)に通ず。〔説文通訓定聲〕鈹、叚借爲レ柀。〔荀子、成相〕吏謹將レ之無ニ鈹滑一。〔注〕鈹、與レ披同。㊆鉈(11－40314)に同じ。〔正字通〕鈹、與レ鉈同。㊇**化學元素の名**。ベリリウム。Beryllium の譯。

【鈹滑】1コツ　みだれること。〔荀子、成相〕君教出、行有レ律、吏謹將レ之無ニ鈹滑一。〔注〕鈹與レ披同、滑與レ汨同、言不レ使ニ紛披汨亂一也。

【鈹盾】2ジュン　つるぎとたて。〔左氏、定、八〕林楚御ニ桓子一、虞人以ニ鈹盾一夾レ之。〔會箋〕鈹長刃兵、爲ニ刃而劍形一、盾、干櫓也。

【鍉】40601

日テイ　タイ　〔集韻〕都黎切　齊

日テイ　ダイ　〔集韻〕田黎切　齊

日シ　〔集韻〕常支切　支

四テキ　チヤク　〔集韻〕丁歷切　錫

五テイ　ダイ　〔中華大字典〕徒啓切　齊

㊀㊀**血をすする器物**。〔集韻〕鍉、歃器。㊁**ほこさき**。〔集韻〕鍉、一曰、鋒也。㊂**血をすする器物**。〔集韻〕鍉、歃レ血器。㊃㊀匙(2－2590)に同じ。㋑かぎ。〔集韻〕鍉、鑰也。〔正字通〕鍉、所ニ以啓レ鑰、鎖腹有レ須、鍉入レ內、鉤ニ合其須一則鑰開、俗作匙、讀ニ時・矢二音一。㊁さじ。〔後漢書、隗囂傳〕牽ニ馬操レ刀、奉レ盤錯鍉、遂割ニ牲而盟一。〔注〕鍉、卽匙字。㊄**化學元素の名**。ツリウム。Thulium の譯。〔中華大字典〕鍉、化學原質之一、金屬。㊅㊀**やじり**。鏑(11－40790)に同じ。〔漢書、項籍傳〕銷ニ鋒鍉一。〔注〕師古曰、鍉、與レ鏑同、卽箭鏃也。㊁**つばきつぼ**。〔集韻〕鍉、唾器。㊆**こばち**。小盆。〔後漢書、隗囂傳〕奉レ盤錯レ鍉。〔注〕臣賢按、蕭該音引ニ字詁一、鍉卽匙、音徒啓反、方言曰、宋楚之間、謂レ盎爲レ匙。

【鑱】41052

小篆

日サン　ゼン　〔集韻〕鋤銜切　咸　ch'an²

日サン　ゼン　〔集韻〕仕懺切　陷

㊀㊀**するどい**。〔説文〕鑱、鋭也、从レ金毚聲。㊁**さす**。〔玉篇〕鑱、刺也。㊂**きり**。錐を用ひて物を刺すしかけのもの。〔一切經音義、四〕鑱、以錐刺レ物者也。〔宋書、臧質傳〕乃作ニ鐵牀一、於ニ其上一施ニ鐵鑱一、云、破レ城得レ質、當坐ニ之此上一。㊃**のみ**。〔一切經音義、十一〕鑱、有レ刃斲鑿者也。㊄**うがつ**。劖(2－2273)に通ず。〔正字通〕鑱、與レ劖通。〔韓愈、送ニ區弘南歸一詩〕九疑鑱レ天荒是非一。㊅**すき**。**すきのは**。〔集韻〕鑱、一曰、犂鐵。〔杜甫、乾元中寓ニ居同谷縣一作歌〕長鑱長鑱白木柄、我生託レ子以爲レ命。㊆**はり**。**いしばり**。〔史記、扁鵲傳〕鑱石撟引。〔注〕索隱曰、鑱謂ニ石針一也。㊇また攙(5－12991)に作る。〔説文通訓定聲〕鑱、字亦作レ攙。㊈或は鏨(11－40416)に作る。〔集韻〕鑱、或从レ岑。㊉㊀**ふくし**。土を掘り起す具。〔廣韻〕鑱、鑱レ土具。㊁**するどい**。〔集韻〕鑱、鋭也。

鑱(書全政農)

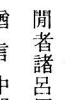
【鑱石】1サン　石の針。石鍼。病を治療するに用ひる。〔史記、扁鵲傳〕臣聞、上古之時、醫有ニ俞跗一、治レ病不レ以ニ湯液醴灑一、鑱石撟引、案�watch毒熨、一撥見ニ病之應一。〔注〕索隱曰、鑱、謂ニ石針一也。

【鑱鼎】2サン　古の鼎の名。姓氏をほりこんだもの。〔抱朴子、逸民〕夫仕也者、欲ニ以爲レ名邪、則脩毫可ニ以洩一ニ憤懣一、篇章可ニ以寄一ニ姓字一、何假ニ乎良史一、何煩ニ乎鑱鼎一哉。

【鑱斧】3サン　まさかり。〔書、顧命、一人冕執レ劉、疏〕劉、蓋今鑱斧。

【閒】 41248

㊀カン ケン 〔集韻〕居閑切 ㄐㄧㄢˋ 刪 chien¹
㊁カン ケン 〔集韻〕居莧切 ㄐㄧㄢˋ 諫 hsien²
㊂カン ケン 〔集韻〕賈限切 ㄐㄧㄢˇ 潸 chien⁴
㊃カツ ゲチ 〔集韻〕下瞎切 點


小篆

古說文文

古段注文本

㊀一すき。すきま。空隙。〔說文〕閒、隙也、从門月。〔繫傳〕門夜閉、閉而見月、是有閒隙也。〔段注〕隙者、壁際也、引申之、凡有兩邊、有中者、皆謂之隙、隙、謂之閒、閒者、門開則中爲際、凡罅縫皆曰閒、其爲有兩有中、一也、云云、會意也、門開而月入、門有縫而月光可入、皆其意也。二あひだ。㋑なか。中間。〔集韻〕閒、中也。〔管子、內業〕充攝之閒、此謂和成。〔注〕閒、猶中也。〔墨子、經、上〕閒、不及旁也。〔漢書、文帝紀〕閒者諸呂用事擅權。〔注〕師古曰、閒者、猶言中間之時也。㋺うち。〔莊子、人間生〕攘臂於其閒。〔釋文〕司馬云、閒、裏也。㋩あひま。〔禮、樂記〕天地之閒也。㊁ところ。あたり。〔漢書、陳遵傳〕浮湛俗閒。〔後漢書、王丹傳〕載酒肴於田閒。三いれる。〔禮、文王世子〕遠近閒三席。〔注〕閒、猶容也。四ころ。ころほひ。〔孟子、離婁下〕七八月之閒、雨集溝澮皆盈。五このごろ。ちかごろ。〔廣韻〕閒、近也。〔左氏、成、十六〕以君之靈、閒蒙甲冑。〔注〕閒、猶近也。〔漢書、敍傳上〕帝閒顏色瘦黑。〔注〕師古曰、閒、謂比日也。六しばらく。しばし。〔孟子、滕文公上〕夷子憮然爲閒曰。〔注〕爲閒者、有頃之閒也。〔莊子、大宗師〕莫然有閒。〔釋文〕閒、如字、崔李云、頃也。〔列子、黃帝〕立有閒。〔釋文〕閒、少時也。七はぶく。簡單にする。〔釋名、釋言語〕閒、簡也、事功簡省也。八ひま。㋑てすき。無事。〔左氏、昭、五〕閒而以師討焉。〔注〕閒、閑暇也。〔漢書、鄒陽傳〕乘閒而請曰。〔注〕師古曰、閒、謂空隙無事之時。㋺あそび。無職。〔周禮、天官、大宰〕九曰、閒民。〔注〕閒民、謂無事業者。㋩とき。時閒。〔漢書、鮑宣傳〕願賜數刻之閒。〔注〕師古曰、閒、空隙也。㊁やすみ。休息。〔禮、孔子閒居〕孔子閒居。九しづか。〔楚辭、宋玉、招魂〕待君之閒些。〔注〕閒、靜也。十安らか。安んずる。〔集韻〕閒、安也。〔左氏、僖、二十二〕吾子取其麋鹿、以閒敝邑、若何。十一いこふ。〔國語、晉語八〕可以少閒。〔注〕閒、息也。十二くつろぐ。〔楚辭、宋玉、招魂〕靜閒安些。〔注〕空寬曰閒。十三ひそかに。わたくしに。閒語(83)を見よ。十四しのぶ。こつそり。閒行(29)を見よ。十五大きい。閒尾(201)を見よ。十六わかつ。わかれる。分別する。〔莊子、天運〕苟簡之田。〔釋文〕司馬本、簡作閒、云、分別也。十七ま。へや。へやの廣さの單位。〔陶潛、歸田園居二詩〕方宅十餘畝、草屋八九閒。〔韓愈、題楚昭王廟二詩〕一閒茅屋祭昭王。十八物のすき。閒關(61)を見よ。十九通じて閑(11－41247)に作る。〔集韻〕閒、通作閑。二十古、閒(11－41255)・閑(11－41256)・閑(11－41284)に作る。〔大徐本說文〕閒、閑、古文閒。〔段注本說文〕閒、閑、古文閒。〔集韻〕閒、古作開。〔康熙字典〕閒、古文閑。二十一俗に間(11－41249)に作る。〔正字通〕閒、俗作間。二十二姓。〔通志、氏族略、平聲〕閒氏、見姓苑。㊁一あひだ。へだたり。〔淮南子、俶眞訓〕醜美有閒。二ひま。㋑すきま。〔莊子、養生主〕彼節者有閒。㋺なかたがひ。〔左氏、哀、二十七〕君臣多閒。㋩をり。しほ。際會。〔後漢書、寇恂傳〕故狂狡乘閒相詿誤耳。三へだたる。へだてる。閒隔。〔荀子、王制〕無幽閒隱僻之國。〔注〕閒、隔也。〔漢書、韋玄成傳〕閒歲而祫。〔注〕師古曰、閒歲、隔二歲也。〔素問、瘧論〕其閒日而作者何也。〔注〕閒日、謂隔日。四ちがふ。ことなる。〔正字通〕閒、別也。〔列子、天瑞〕雖未及嬰孩之全方、於少壯閒矣。五はなれる。はなす。遠ざかる。〔國語、晉語一〕且夫閒父之愛、而嘉其貺。〔注〕閒、離也。〔淮南子、俶眞訓〕則醜美有閒矣。〔注〕閒、遠也。六かはる。〔爾雅、釋詁〕閒、代也。〔詩、周頌、桓〕皇以閒之。〔傳〕閒、代也。七かはるがはるする。互にする。〔書、益稷〕笙鏞以閒。〔傳〕閒、迭也。八そしる。〔方言、三〕閒、非也。〔廣雅、釋詁二〕閒、諑也。〔注〕諑、卽諑謗之諑。〔論語、先進〕人不閒於其父母昆弟之言。〔皇疏〕閒、猶非也。九うかがふ。すきをねらふ。又、敵の內情をさぐる者。しのび。〔爾雅、釋言〕閒、俔也。〔注〕左傳謂之諜、今之細作也。〔廣雅、釋詁三〕閒、覘也。〔國語、魯語下〕齊人閒晉之禍。〔注〕閒、候也。〔孫子、用閒〕用閒有五。〔後漢書、光武紀下〕安遣閒人。〔注〕閒、諜也、謂伺候閒隙也。十加はる。加へる。〔廣雅、釋詁二〕閒、加也。十一あづかる。〔左氏、莊、十〕肉食者謀之、又何閒焉。〔注〕閒、猶與也。十二まじはる。まじへる。〔集韻〕閒、廁也。〔詩、邶風、綠衣、傳〕綠、閒色。〔釋文〕閒、閒廁之閒。〔左氏、隱、三〕遠閒親、新閒舊。〔釋文〕閒、閒廁之閒。〔疏〕閒、謂居其中。〔管子、任法〕無閒識博學辨說之士。〔注〕閒、雜亂也。十三ほか。わき。正當でない。閒道(174)を見よ。十四ふさぐ。ふさがる。〔左氏、僖、二十八〕願以閒執讒慝之口。〔注〕閒執、猶塞也。〔管子、君臣上〕則百姓之與閒。〔注〕閒、謂隔礙不通也。十五いえる。病が少しよくなる。〔集韻〕閒、瘳也。〔論語、子罕〕病閒。〔集解〕孔安國曰、病少差曰閒。十六多い。閒甚(144)を見よ。㊂うかがふ。〔廣雅、釋詁三〕閒、覘也。四かはる。〔集韻〕閒、爾雅、代也、施乾讀。㊃一けん。長さの單位。六尺。二あひだ。書簡文の助詞。から。三あひ。㋑あひの宿の略。㋺能樂の閒の人の略。四はざま。㋑筑後國の地名。㋺姓氏。五ま。㋑へや。室。㋺その場の樣子。具合。

名乘 マ。チカ。

解字 會意。とぢた扉の閒から月光の見えるは、二枚の扉の閒にすきまあるによる。故に、門と月とを合せて、すきま・すきの意を表はす。字解を見よ。

參考 熟語は閑(11－41247)を併せ見よ。

【間】 41249

カン

閒(11－41248)の俗字。〔正字通〕間、閒俗字。

【閟】 41283

ヒ 〔集韻〕兵媚切 ㄅㄧˋ pi⁺ 〔寘〕

小篆 閟

一門をとぢる。〔説文〕閟、閉レ門也、从レ門必聲、春秋傳曰、閟レ門而與レ之言。〔左氏、莊、三十二〕初、公築レ臺臨二黨氏一、見二孟任一、從レ之、閟而以二夫人言一、許レ之。二とぢる。とざす。〔宋璟、梅花賦〕陰雲晝閟。三やむ。とどまる。〔詩、鄘風、載馳〕我思不レ閟。〔集傳〕閟、閉也、止也、我之所レ思、終不レ能二自已一也。四をはる。をへる。〔左氏、閔、二〕今命以二時卒一、閟二其事一也。〔注〕冬十二月、閟盡之時也。五かくす。かくれる。〔劉克莊、斷石本跋〕竹溪其珍閟レ之、十五城勿二輕換一。六大便がとどこほる。便祕。〔素問、五常政大論〕其病癃閟。〔注〕閟、大便乾澀不レ利也。七つつしむ。〔書、大誥〕天閟二毖我成功所一。〔傳〕閟、愼也。八神。〔詩、魯頌、閟宮〕閟宮有レ侐。〔箋〕閟、神也、姜嫄神所レ依、故廟曰二神宮一。九きよい。〔孟子音義、上〕閟宮、清淨之宮、謂二姜嫄之廟一。十おくふかい。かすか。〔正韻〕閟、深也、幽也。十一或は祕(8－2466 3)に作る。〔詩、魯頌、閟宮〕閟宮有レ侐。〔王延壽、魯靈光殿賦、乃立二靈光之祕殿一、注〕載曰、詩云、祕宮有レ侐。

【閟宮】1 ヒキウ 一おたまや。靈廟。神廟。閟は深くとざすこと。一説に、神をいふ。又、きよいこと。閟宮は事實としては魯の姜嫄廟を指す。姜嫄は周室の太祖である后稷の母であり、夫は無く郊禖に祈つて后稷を生んだ。元來婦人には廟は無く、夫の廟に祔せられるのであるが、上述の如く姜嫄には祔せらるべき夫はなく、しかも周の太祖を生んだといふ特別の關係から、特に郊禖と共に閟宮に祀られたのであるといふ。〔詩、魯頌、閟宮〕閟宮有レ侐。〔傳〕閟、閉也、〔箋〕閟、神也、姜源神所レ依、故廟曰二神宮一。〔孟子音義、上〕閟宮、清淨之宮、謂二姜源之廟一。〔杜甫、古柏行〕先主武侯同二閟宮一。〔江藩、隸經文、姜嫄廟論〕考二之禮、婦人無レ廟、何以周魯皆有二姜嫄廟一邪、此周之變禮也、云云、困レ姜嫄祈二於郊禖一而生レ子、遂以二人鬼一配二天神一、祭二郊禖一之日、以二姜嫄一配焉、故孟仲子謂二之禖宮一、姜嫄人鬼也、而周人以二神道一祀之、故又謂二之神宮一、成王賜二魯重祭一、魯得レ祀二郊禖一、故魯謂二之閟宮一、閟、神也。二詩經、魯頌、駉の篇名。僖公が能く周公の居を修復したのを頌したもの。〔詩、魯頌、閟宮序〕閟宮、頌二僖公能復二周公之宇一也。

【閟寢】2 ヒシン おたまや。閟宮の一に同じ。〔隋書、音樂志上〕縵樂簡簡、閟寢翼翼。

【閟匿】3 ヒトク とざしかくす。〔漢書、盧綰傳〕綰愈恐閟匿。〔注〕師古曰、閟、閉也。

【閟毖】4 ヒヒ つつしみいたはる。一説に、ふさがりなやむ。〔書、大誥〕天閟二毖我成功所一。〔傳〕閟、愼也。〔蔡傳〕閟者、否閉而不レ通、毖者、艱難而不レ易。

【覘】 41467

小篆 覘

㊀キ 〔集韻〕缺規切 ㄑㄨㄟˋ k'ueiˋ 〔支〕
㊁キ 〔集韻〕窺睡切 〔寘〕

㊀㊁一うかがふ。①頭をかしげてのぞく。〔説文〕覘、閃也、从レ門規聲。〔段注〕此與窺義別、窺、小視也。〔集韻〕覘、説文、閃也、謂二傾レ頭門中視一也。〔易、豐〕覘二其戶一。〔集解〕目而近レ戶、覘之象也。㊁ちよつとみる。〔集韻〕覘、小視。〔易、豐〕覘二其戶一。〔釋文〕覘、小視。②ぬすみみる。〔方言、十〕覘、視也、凡相竊視、南楚謂二之覘一。〔易、觀〕覘觀。〔虞注〕竊觀稱レ覘。三しめす。①みせつける。〔後漢書、李固傳〕秦人不二敢覘一兵于西河一。㊁物を示して誘ふ。利でいざなふ。〔史記、刺客、荆軻傳〕覘以二重利一。〔注〕索隱曰、覘、視也、言二以レ利誘レ之也。三窺(8－25633)に通ず。〔禮、禮運〕皆可二俯而覘一也、釋文〕窺、本又作レ覘。

【覘鑒】1 カン うかがひみる。〔蘇軾、和二子由岐下二十一詠一詩〕傍レ沼人覘鑒、驚レ魚水濺橋。

【覘覬】2 キ うかがふ。うかがひのぞむ。窺覬。〔後漢書、袁紹傳上〕豈敢覘二覬重禮一、以希二彤弓玈矢之命一哉。

【覘釁】3 キン 乘ずべきすきまをうかがふ。〔魏志、華歆傳〕是以觀レ兵、以覘二其釁一。

【覘觀】4 クワン ぬすみみる。〔易、觀〕六二、覘觀、利二女貞一。〔易、觀〕象曰、覘觀女貞、亦可レ醜也。

【覘伺】5 シ すきをうかがふ。窺伺。〔劉琨、上愍帝請二北伐一表〕覘二伺間隙一、寇抄相尋。

【覘視】6 シ うかがひみる。〔風俗通、怪神〕至二宣家一覘視、問二其變故一。

【覘闚】7 セン 視るさま。〔廣韻〕闚、覘闚。

【覘盜】8 タウ うかがひぬすむ。〔後漢書、儒林下、蔡玄傳論〕權彊之臣、息二其覘盜之謀一。

【覘度】9 タク うかがひはかる。〔後漢書、劉玄傳〕海內望レ此、有二以覘二度漢祚一。

【覘閭】10 チン うかがひみる。〔潘岳、射雉賦〕覘二閭薦葉、幎歷乍見。

【覘圖】11 ト 圖讖の書をうかがひかんがへる。〔後漢書、袁紹劉表傳贊〕覘レ圖訊レ鼎、禪レ天類レ社。

【覘望】12 バウ うかがひのぞむ。窺望。〔書、費誓、汝則有二大刑一、疏〕兵法、攻レ城築レ土爲レ山、以覘二望城內一、謂二之距堙一。〔吳志、陸遜傳〕方今英雄棊跱、豺狼覘望。

【覘兵】13 ヘイ 閱兵をいふ。〔後漢書、李固傳〕秦人不二敢覘一兵于西河一。

【覘問】14 モン うかがひとふ。窺問。〔後漢書、儒林下、周澤傳〕其妻哀二澤老病一、覘二問所レ苦。

【覘覦】15 キ こひねがひもとめる。うかがひのぞむ。非望を懷くをいふ。覘闚。覬覦。窺覦。〔後漢書、章帝八王、河間孝王開傳〕謀二圖不軌一、覘二覦神器一、懷二大逆心一。

【覘闚】16 ユ うかがひのぞむ。非望を懷く。覘覦に同じ。〔白虎通、四時〕二帝爲レ載、三王言レ年、皆謂二覘闚一。〔魏志、三少帝、齊王芳紀〕費禕驅二率羣衆、陰圖二覘闚一。〔吳志、陸遜傳〕陛下乘レ桴遠征、必致二覘闚一。〔晉書、赫連勃勃載記論〕驅二駕英賢一、覘二闚天下一。〔資治通鑑、晉紀〕成帝、咸康八年〕常有二覘闚之志一。〔注〕韻釋、覘闚、私視也。

【覘以二重利一】17 キスルニチヨウリヲモツテス 多くの利益を以て誘ひみちびく。〔史記、刺客、荆軻傳〕愚以爲、誠得二天下之勇士一、使二於秦一、覘以二重利一。

【雞】 42124

ケイ 〔集韻〕堅奚切 ㄐㄧ chi 〔齊〕

小篆 雞　籀文 鷄

一にはとり。〔説文〕雞、知レ時畜也、从レ隹奚聲。〔玉篇〕雞、司レ晨鳥。〔易、說卦〕巽爲レ雞。〔風俗通、祀典〕雞者東方之牲也。〔尚書大傳、洪範五行傳〕時則有二雞禍一。〔注〕雞、畜之有二冠翼一者也。二にへの一。周代、工商が會見に執る雞。〔周禮、春官、大宗伯〕以レ禽作二六摯一、以等二諸臣一、云云、工商執レ雞。三籀文、鷄(12－47209)に作る。〔説文〕雞、鷄、籀文雞从レ鳥。四日名。〔山海經、中山經〕雞山、其上多二美梓一多レ桑。五水の名。〔水經、鍾水注〕鍾水、北過二鍾亭一、與二雞水一合。六姓。〔正字通〕雞、姓、明正統陝西苑馬寺監正雞鳴時。

雞（圖器禮）

【鞻】 42449

㊀チュウ　㊁ショウ　〔篇海〕音中

㊀鞻鞻は、氣が往來するさま。〔素問、陰陽離合論〕陰陽鞻鞻、積傳爲二一周一。〔注〕鞻鞻、言二氣之往來一也。㊁衝(10－34069)に通ず。〔正字通〕鞻、與レ衝通。

【霿】 42508

㊀ボウ　〔集韻〕蒙弄切　送

㊁ボウ　〔集韻〕莫宋切　宋

㊂ボウ　〔集韻〕謨蓬切　東

㊃ボウ　〔集韻〕迷浮切　尤

㊄モ　ボウ　〔集韻〕莫候切　宥

㊅ブ　ム　〔玉篇〕武膩切　遇

霿 小篆

㊀㊁㊂㊃❶大空のきり。空に高くかかつて、日月をかくし、下界をくらますもの。蒙(9－31555)・濛(7－18491)に通ず。〔說文〕霿、天氣下地不レ應曰レ霿、霿、晦也、从レ雨瞀聲。〔段注〕釋天曰、天氣下地不レ應曰レ霿、今本作二曰霧一、或作二曰霧一、皆非也、霿、釋名作レ蒙、開元占經作レ濛、釋名曰、蒙、日光不レ明、蒙蒙然也、開元占經引二郗萌一曰、在レ天爲レ濛、在レ人爲レ霧、日月不レ見爲濛、前後人不二相見一爲レ霧、按、霧與レ霿之別、以二郗所一言爲確、許以レ霿系二天气一、以レ霧系二地气一、亦分別井然、大氐霧下霿上、霧淫霿乾、霧、讀如レ務、霿、讀如レ蒙、霧之或體作レ霧、霿之或體作レ蒙、不レ可レ亂也、而爾雅自二陸氏一不レ能二諟正一、譌舛不レ可レ讀、如二玉篇云一霧、天氣下地不レ應也、霿、地氣發天不レ應也一、蓋本二爾雅一、而與二說文一互易、則又在二陸氏前一矣、其他經史霧・霿・霧二字、往往淆譌、要以二許書一爲レ正。❶或は霧(12－42250)に作る。〔集韻〕霿、或作レ霧。㊄❶いやしい。やぶさか。或は愁(4－10942)・㑊(1－859)・㥄・傍(1－1080)に作る。〔集韻〕霿、㪷霿、鄙吝也、或作二愁・㑊・㥄・傍一。❷くらい。おろか。區霿。〔漢書、五行志下之上〕貌言視聽、以レ心爲レ主、四者皆失、則區霿無識。㊅きり。地上に生ずるきり。〔玉篇〕霿、地氣發天不レ應也。

【霿淞】1ボウショウ　川の名。臨潢の西南。金の世宗の時、遼人伊喇鄂斡、帝を稱し、金將默音、之を此處に敗る。滿洲熱河省赤峯縣の東。

【霿淞】2ボウショウ　齊の地で一種の霜をいふ。霧淞。〔曾鞏、冬夜即事詩〕月澹千門霿淞寒。〔注〕齊寒甚、夜氣如レ霧、凝二於水上一、旦起視レ之如レ雪、日出飄滿二階庭一、尤爲レ可レ愛、齊人謂二之霜淞一、諺曰、霿淞重二霜淞一、窮漢置二飯甕一、以爲二豐年之兆一。

【霿亂】3ボウラン　きりのやうにみだれること。〔後漢書、五行志五〕自レ此之後、朝廷霿亂。

【頏】 43339

㊀キウ　グ　〔集韻〕渠尤切　尤　ㄑㄧㄡˊ　ch'iu²

㊁キ　ギ　〔集韻〕渠龜切　支

㊂キ　ギ　〔集韻〕琴威切　微

㊃キン　〔集韻〕區倫切　眞

㊀㊁㊂㊃❶ほほぼね。〔廣雅、釋親〕頏、頤也。〔廣韻〕頏、頰間之骨。〔集韻〕頏、面顴也。❷かほ。おもて。ほほぼねとほほぼねとの間。〔易、夬〕壯二于頏一〔翟注〕頏、面也、謂二上處乾首之前一稱レ頏、頏、頰間骨。㊂頏(12－43492)に同じ。〔集韻〕頏、或作レ頏。㊃頡(12－44492)に通ず。〔爾雅、釋草、中頡菌、釋文〕頡字、則當レ作レ頏。

【顧】 43411

コ　顧(12－43689)の俗字。〔玉篇〕顧、同レ顧、俗。

【頤】 43437

シン　頤(12－43610)・囟(3－4691)に同じ。〔玉篇〕頤、頂門、顖、同上。〔集韻〕囟、古作レ頤。

【頞】 43447

㊀アツ　アチ　〔集韻〕阿葛切　曷

㊁アン　〔中華大字典〕烏旰切　翰

頞 小篆　或體

㊀❶はなばしら。はなすぢ。〔說文〕頞、鼻莖也、从レ頁安聲。〔段注〕鼻、謂二之準一、鼻直莖謂二之頞一、史記唐擧相二蔡澤一曰、先生曷鼻巨肩魋顏蹙齃、既言レ鼻、又言レ頞者、曷同レ遏、遏鼻其內不レ通而齃、蹙齃則言二在レ外鼻莖一也、鼻有二中斷一者、蔡澤、諸葛恪之相是也、烏割切、釋名曰、頞、鞍也、偃折如鞍也、知二固可一讀如レ安。〔孟子、梁惠王下〕擧疾レ首蹙レ頞。〔疏〕頞、鼻頸也。❷幽頞は、獸の名。通じて鴳(12－46852)に作る。〔中華大字典〕頞、通レ鴳。〔郭璞、山海經圖贊、上、北山經、幽頞〕幽頞佀レ猴、俾二愚作一智、觸レ物則笑、見レ人佯睡、好用二小慧一、終是嬰繫。❸或は齃(12－48539)に作る。〔說文〕頞、齃、或从二鼻曷一。㊂人名。〔史記、西南夷傳〕秦時常頞、略通二五尺道一。〔注〕集解曰、音案。〔評林〕王鏊曰、按常頞、疑人姓名。

【頞嘶吒】1アセツ　梵語 Ataṭa 八寒地獄の一。極寒に逼られて異聲を發するといふ地獄。〔和漢三才圖會、山類、地獄〕三頞嘶吒、云云、以上被二寒逼一故謂二之八寒一。

【頞部陀】2アブダ　梵語 Arbuda 八寒地獄の一。極寒に逼られ身上皰を生ずるといふ地獄。〔和漢三才圖會、山類、地獄〕一頞部陀。

【頞部曇】3アブドン　胎內の五位の一。託胎後第二の七日間をいふ。凝酪の中で皰結を生ずる位。皰。腫物。〔楞嚴經〕交搆發生、吸引同レ業、故有二因緣生羯羅藍遏蒲曇等解一、胎牛凡有二五位一、二七爲二頞部曇一。

【灸頞飫レ鼻】4ハナバシラヲヤキ　頞に灸し、鼻を飫す。姿を醜くして生を貪る喩。〔隋書、麥鐵杖傳〕鐵杖自以二荷恩深重一、每懷二竭レ命之志一、及二遼東之役一、請レ爲二前鋒一、顧謂二醫者吳景賢一曰、大丈夫性命自有二所在一、豈能艾炷灸レ頞、爪蕃飫レ鼻、治黃不レ差、而臥二死兒女手中一乎。

【頤】 43416

転載頁 74

【顀】43532

ツイ ヅイ 〔集韻〕傳追切 支

顀 小 篆

❶でびたひ。つき出たひたひ。おでこ。〔説文〕顀、出額也、从頁隹聲。〔繫傳〕鍇曰、言額出如椎也。❷まくらぼね。後頭骨。〔廣韻〕顀、項顀。❸せぼね。〔字彙〕顀、脊骨。

【頗】43598

一 カン コン 〔集韻〕苦紺切 ㄎㄢˋ k'an³ 勘

二 カン コン 〔集韻〕虎感切 感

三 カン ケン 〔集韻〕丘咸切 咸

四 ガン ゲン 〔集韻〕五陷切 陷

頗 小 篆

一 顀顙は、黄色の顔。食物が充分に取れないでかほが黄色になる。又、顀頷に作る。〔説文〕顀、顀顙、食不飽面黄起行也、从頁咸聲、讀若戇。〔楚辭、離騷〕長顀頷亦何傷。〔注〕顀頷、不飽貌。〔洪興祖補注〕顀頷、食不飽面黄貌。二❶うゑて顔色が黄色になる。〔集韻〕顀、説文、飯不飽面黄起行也。❷顀顙は、やせる。〔廣韻〕顀、顀顙、瘦也。❸頭を動かす。顀(12－43701)に同じ。〔集韻〕顀、首動也、或省。三四かほが長い。〔集韻〕顀、顙顀、面長。〔集韻〕顀、頭頰長也。

【顒】43599

ギョウ グ 〔集韻〕魚容切 ㄩㄥˊ yung² 冬

顒 小 篆

❶大きいあたま。又、大きいさま。〔説文〕顒、大頭也、从頁禺聲、詩曰、其大有ㇾ顒。〔段注〕引二伸之一凡大皆有二是偁一、詩小雅六月、其大有ㇾ顒、傳、顒、大貌。❷つつしむ。〔易、觀〕有ㇾ孚顒若。〔馬注〕顒、敬也。〔疏〕顒、是嚴正之貌。❸おだやかなさま。顒顒。〔集韻〕顒、一曰、顒顒、溫皃。❹あふぐ。〔廣韻〕顒、仰也。❺物のさま。顒顒(4)を見よ。❻或は騁(12－44842)に作る。〔集韻〕顒、或作ㇾ騁。❼姓。〔萬姓統譜〕顒、姓纂云、人姓。

参考 清代、仁宗の諱を避けて顒(12－43605)に作る。〔清國行政法汎論 皇室、御名敬避〕仁宗睿皇帝、廟諱曰二顒琰一、顒改作ㇾ顒、琰改作ㇾ瑗、夏炎等字、單用無ㇾ妨。

【顒菴】1 ギョウアン 清、程貞白(8－25081：263)の號。

【顒琰】2 ギョウエン 清、仁宗(1－349：163)の❶(ハ)の本名。

【顒昂】3 ギョウカウ 敬順なさま。〔剪燈餘話、洞天花燭記〕如二令嗣某、顒昂聞望一、允爲二白面綉衣郎一。

【顒顒】4 ギョウギョウ ❶溫和で敬順なさま。〔詩、大雅、卷阿〕顒顒卬卬、如ㇾ圭如ㇾ璋。〔傳〕顒顒、溫貌。〔陳奐傳疏〕言二其德溫恭一。〔集傳〕顒顒卬卬、尊嚴也。❷尚ひ慕ふさま。〔後漢書、朱儁傳〕凡百君子、靡ㇾ不二顒顒一。〔蜀志、許靖傳〕顒顒注望、足下任ㇾ此。❸波の高いさま。〔枚乘、七發〕顒顒卬卬、椐椐彊彊。〔注〕善曰、顒顒卬卬、波高貌也。

【顒顒然】5 ギョウギョウゼン 仰ぐさま。〔淮南子、俶眞訓〕羣生莫ㇾ不下顒顒然仰二其德一以和順上。

【顒昆】6 ギョウコン 明、施兆昂(5－13629：172)の字。

【顒之】7 ギョウシ 宋、蘇大璋(9－32427：258)の字。

【顒若】8 ギョウジャク ❶おごそか。嚴正なさま。〔易、觀〕觀、盥而不ㇾ薦、有ㇾ孚顒若。〔馬注〕顒、敬也。〔疏〕顒、是嚴正之貌。〔宋史、樂志九〕觀二厥顒若一、受二福之符一。❷字號。(ハ)明、曹孚(5－14297：170)の字。(ロ)清、余觀國(1－514：9)の字。(ハ)清、楊錫觀(6－15112：653)の字。

【顒然】9 ギョウゼン 仰ぐさま。又、つつしむさま。〔劉琨、勸進表〕蒼生顒然、莫ㇾ不二欣戴一。〔注〕濟曰、顒然、仰ㇾ德兒。〔舊唐書、李晟傳〕晟與二侍中馬燧一見二於延英殿一、上嘉二其勳力一、詔曰、云云、貞元己巳歲秋九月、我行二西宮一、瞻二宏閣崇構一、見二老臣遺像一、顒然肅然。

【顙】43624

一 サウ 〔集韻〕寫朗切 ㄙㄤˇ sang³ 養

二 サウ 〔集韻〕蘇郎切 陽

顙 小 篆

一二❶ひたひ。〔説文〕顙、額也、从頁桑聲。〔段注〕方言、中夏謂二之額一、東齊謂二之顙一、九拜中之頓首、必重二用其顙一、故凡言二稽顙一者、皆謂二頓首一、非二稽首一也、公羊傳曰、再拜顙者、卽拜而後稽顙也、何曰、顙者猶二今叩頭一、按、叩頭者、經之頓首也。〔六書故〕額上爲ㇾ顙。〔易、説卦〕其於人也爲二廣顙一。❷あたま。いただき。〔太玄經、傒〕天撲二之顙一。〔注〕顙、頭也。❸ほほ。〔孔子家語、困誓〕河目隆顙。〔注〕顙、頰也。❹ぬかづく。おじぎをする。ひたひを地につけて禮する。〔公羊、昭、二十五〕再拜顙。〔注〕顙者、猶二今叩頭一矣。

【顙汗】1 サウカン ひたひのあせ。〔文同、夏日閑二書墨君堂壁一詩〕冠帶坐二大暑一、顙汗常涓涓。

【顙頯】2 サウキ 額が寬くて大きい。〔莊子、大宗師〕若、然者其心志、其容寂、其顙頯。〔疏〕顙、額也、頯、大朴貌。

【顙子】3 サウシ のどをいふ。北方人の語。〔夢溪筆談、權智〕世人以二竹木牙骨之類一、爲二叫子一、置二人喉中一、吹ㇾ之能作二人言一、謂二之顙叫子一、嘗有二病ㇾ瘖者一、爲二人所ㇾ苦、煩冤無二以自言一、聽訟者試取二叫子一、令二顙子作ㇾ聲如二傀儡子一、粗能辨二其一二一、其冤獲ㇾ申。

【顙叫子】4 サウケウシ 笛の一種。さるまつぶえ。顙子を見よ。

【顙推之履】5 サウスイノ やぶれくつ。一説に、顙推といふ名のくつ。〔呂覽、達鬱〕列精子高聽二行平齊潛王一、善衣二東布衣一、白縞冠、顙推之履、特會二朝雨一、袪二步堂下一。〔注〕顙推之履、敝履也。

【顥】43716

ジュ ニュ 〔集韻〕汝朱切 虞 ㄖㄨˋ ju²

顥 顥顥は、こめかみが動く。〔集韻〕顥、耳穴動謂二之顥顥一。

【飋】43973

シツ シチ 〔集韻〕色櫛切 質 ㄙㄜ se

❶秋の風。〔玉篇〕飋、秋風也。❷飋飋は、風のさま。〔集韻〕飋、飋飋、風皃。❸飋飋は、風の音。〔龍龕手鑑〕飋、飋飋、風聲。❹きよくすずしいさま。〔王延壽、魯靈光殿賦〕飋蕭條而淸冷。〔注〕善曰、飋蕭條、淸涼之貌。

【飋飋】1 シツシツ 風。〔廣韻〕飋、飋飋、風也。

【飋飋】2 シツシツ 風。〔廣雅、釋訓〕飋飋、風也。

【飧】44038

ソン 〔集韻〕蘇昆切 元 ムメ゛ suen¹

小篆 飧(12－44039)に作る。〔正字通〕飧、說文作レ飡。〔說文〕飡、餔也、从ニ夕食一。〔徐灝箋〕戴氏侗曰、飧、夕食也、古者夕則餕ニ朝膳之餘一、故熟食曰レ飧。〔周禮、天官、宰夫〕賓賜之飧牽。〔注〕飧、夕食也。㊁**めし**。簡單な食事。閒食。〔詩、魏風、伐檀〕不ニ素飧兮一。〔疏〕飧、爲ニ飯之別名一。〔周禮、秋官、司儀〕致レ飧如ニ致積之禮一。〔注〕飧、食也、小禮曰レ飧。〔儀禮、聘禮〕宰夫朝服設レ飧。〔史記、淮陰侯傳〕令ニ其裨將傳レ飧一。〔注〕集解曰、如淳曰、小飯曰レ湌。㊂**ちやづけ。しるかけ**。飯にのみものをそそぐ。又、其の飯。〔釋名、釋飲食〕飧、散也、投ニ水於中一解散也。〔玉篇〕飧、水和レ飯也。〔詩、魏風、伐檀、釋文〕飧、水澆レ飯也。〔禮、玉藻〕君未レ覆レ手、不ニ敢飧一。〔疏〕飧、謂ニ用レ飲澆ニ飯於器中一也。㊃**にたくひもの**。熟食。〔詩、小雅、大東〕有ニ饛簋飧一。〔傳〕飧、熟食、謂ニ黍稷一也。〔孟子、滕文公上〕饔飧而治。〔注〕饔飧、熟食也、朝曰レ饔、夕曰レ飧。㊄**食を勸める**。〔禮、玉藻〕君未レ覆レ手不ニ敢飧一。〔注〕飧、勸レ食也。㊅或は餐(12－44160)に作り、通じて湌(7－1824)に作る。〔集韻〕飧、或作レ餐、通作レ湌。㊆俗に飧(12－44072)に作る。〔正字通〕飧、俗飧字。㊇眞(8－23235)に通ず。〔康熙字典〕飧、又古通レ眞。

解字 會意。本義は夕食。故に其の字、夕と食とを合す。

【飧菊】1 ソンキク 菊を食ふ。清高な人をいふ。〔書言故事、花木類〕頌ニ人清高一、曰ニ飧レ菊飲レ露。

【飧牽】2 ソンケン 食事と犧牲。〔周禮、秋官、掌客〕上公五積、皆眡ニ飧牽一。〔注〕謂ニ所レ共如レ飧、而牽レ牲以往、不レ殺也。

【飧粥】3 ソンジュク かゆ。又、粥を食ふ。〔漢書、王莽傳下〕諸生小民會旦夕哭、爲設ニ飧粥一。〔注〕師古曰、飧、古飡字。〔吳志、朱桓傳〕隱親ニ醫藥一、飧粥。

【飧飯】4 ソンパン 湯漬飯の類。〔玉篇〕飧、水和レ飯也。

【飧饗】5 ソンヨウ ㊀御馳走の名。饗は飧より鄭重な料理。〔周禮、天官、外饗〕凡賓客之飧饗、饗食之事、亦如レ之。〔注〕飧、客始至之禮、饗、既將レ幣之禮。㊁朝夕の食。飧は夕めし、饗は朝めし。〔孟子、滕文公上〕賢者與レ民竝耕而食、饗飧而治。〔注〕朝曰レ饗、夕曰レ飧。〔柳宗元、種樹郭橐駝傳〕吾小人輟ニ飧饗一、以勞レ吏者、且不レ得レ暇。

【傳飧】6 ツタフソン 手輕な食物を傳達する。〔史記、淮陰侯傳〕令ニ其裨將傳レ飧一、曰、今日破レ趙會食。〔注〕集解曰、如淳曰、小飯曰レ湌。

【飧芍華館】7 ソンシャククワン 清、周騰虎(2－3441：8007)の室名。

【餔】44072

ソン

飧(12－44038)の俗字。〔正字通〕飧、俗飧字。

【餉】44234

エツ エチ 〔集韻〕一結切 屑

㊀**むせぶ**。食物がのどにつかへる。噎(2－4307)・饐(12－44396)に同じ。〔玉篇〕餉、食不レ下。〔集韻〕噎、說文、飯窒也、或作レ餉。〔漢書、賈山傳〕祝餉在レ前。〔注〕師古曰、餉、古饐字、謂ニ食不レ下也。㊁**むすばれる**。餉結(二)を見よ。

【餉結】1 エツケツ 氣のむすぶこと。〔楚辭、王逸、九思、逢尤〕仰長歎兮氣餉結、悒殟絶兮咶復蘇。〔注〕餉、結也。

【餉】44281

エツ

餉(12－44234)の譌字。〔正字通〕餉、餉字之譌。

【鶩】44845

ブ 〔集韻〕亡遇切 遇 ム゛ wu⁴

小篆 ㊀**はせる。はしる**。縱横に奔馳する。〔說文〕鶩、亂馳也、从レ馬敄聲。〔廣雅、釋室〕鶩、犇也。〔戰國、齊策〕邯鄲之中鶩。〔注〕亂馳也。〔班固、答賓戲〕戰國橫鶩。〔注〕善曰、東西交馳謂ニ之鶩一。〔張衡、東京賦〕諠方激而遐鶩。〔注〕綜曰、鶩、馳也。〔潘岳、射雉賦〕咸乘レ危以馳鶩。〔注〕爰曰、鶩、疾也。㊁**つとめる**。敄(5－1360)に通ず。〔說文通訓定聲〕鶩、叚借爲レ敄。〔爾雅、釋詁〕鶩、強也。

【鶩枻】1 ブエイ かいをいそがせて舟を進める。〔謝朓、往ニ敬亭一路中聯句〕鶩レ枻把ニ瓊方一、隨レ山訪ニ靈詭一。

【鶩行】2 ブカウ はせゆく。〔穆天子傳、一〕天子西征鶩行、至ニ于陽紆之山一。〔注〕鶩、猶馳也。

【鶩鼓】3 ブコ 兵卒を東西にかけまはらす鼓。〔尉繚子、勒卒〕音不レ絶鶩鼓也。

【鶩驟】4 ブシウ 疾くはせる。〔傳毅、舞賦〕車馬若レ雷、鶩驟相及。

【鶩置】5 ブチ 宿驛にそなへたはやうま。〔淮南子、主術訓〕至精之所レ動、若ニ春氣之生、秋氣之殺一也、雖ニ馳傳鶩置一、不ニ若レ此其亟一。

【鶩馳】6 ブチ 車馬をはせる。〔史記、佞幸傳〕先使レ嫣乘ニ副車一、從ニ數十百騎一、鶩馳視レ獸。〔漢書、賈山傳〕從者羅騎、四馬鶩馳。

【鶩望】7 ブバウ 眺望をほしいままにすること。〔江淹、雜體、顏特進侍宴詩〕鶩望分ニ寰隧一、矚曠盡ニ都甸一。〔注〕濟曰、鶩望、謂ニ馳レ目遠望一。

【鶩暴】8 ブバウ 疾速のさま。〔素問、大奇論〕肝脈鶩暴。〔注〕鶩謂ニ馳鶩一、言ニ其迅急一也。

【鶩揚】9 ヤブ はねあがる。〔莊子、外物〕鶩揚而奮レ鬐。

転載項目 72

【顓】43416

セツ セチ 〔集韻〕朱劣切 屑 ㄓㄨㄛˋ chuo²

コツ コチ 〔集韻〕吉忽切 月

シツ シチ 〔集韻〕之出切 質

小篆 ㊀㊁**ほほぼね。つらぼね**。或は肫(9－29303)に作る。〔集韻〕顓、面骨、博雅、顴頄、顓也、或作レ肫。㊂準(7－17934)に通ず。〔漢書、高帝紀上〕隆準而龍顏。〔注〕服虔曰、準、音拙。〔玉篇〕顓、之劣也、準也、又之出切。㊃**頭のとがつたさま**。〔說文〕顓、頭頡顓也、从レ頁出聲、讀又若レ骨。〔段注〕頡顓、疊韻、古語、菌蠢貌。〔集韻〕顓、頭皃。

転載項目 75

【骶】45155

テイ タイ 〔集韻〕丁計切 齊 ㄉㄧˋ dì³

テイ タイ 〔集韻〕典禮切 薺

㊀㊁**しり。しりぼね**。〔集韻〕骶、臀也。〔字彙〕骶、脊尾曰レ骶。㊂**せ**。〔廣雅、釋親〕背謂ニ之骶一。〔王念孫疏證〕骶之言、邸也、邸者、後也。

【骨】45109
ウ 〔集韻〕雲俱切 虞

㊀髑骨は、のどの下の三日月形の骨。〔集韻〕骨、廣雅、髑骨、缺盆肯也。〔字彙〕骨、髑骨、胷前缺盆骨。㊁或は骨(12－45110)に作る。〔集韻〕骨、或作骨。

【骨】45110
ウ 骨(12－45109)に同じ。〔集韻〕骨、或作骨。

【骷】45156
コ ク 〔集韻〕空胡切 虞 ㄎㄨ k'u

㊀ひざぼね。〔集韻〕骷、廣雅、骷髏、骨也。㊁されぼね。〔通雅、身體〕謂枯骨爲骷。【骷髏】1 ロウ されぼね。されかうべ。軀殼。〔長生殿、尸解〕眞性假骷髏、當前自分剖。

【骺】45163
小 篆
クワツ クワチ 〔集韻〕古活切 曷
クワツ ゲチ 〔集韻〕戶八切 黠

㊀㊁㊀ほねのはし。骺(12－45196)に同じ。〔集韻〕骺、或作骺。〔正字通〕骺、同骺、省。〔說文〕骺、骨耑也、从骨昏聲。㊁膝關節。〔說文、骺、段注〕骨、當是骸之誤、骨空論云、膝解爲骸關、是也、關骺雙聲、骺、取機括之意。㊂ひざぼね。〔廣雅、釋親〕骺、骨也。㊃骷骺は、さしさはり。〔集韻〕骺、骷骺、所以礙也。【骺脈】1 ミャク 骨のはし。〔集韻〕脈、骨耑謂之骺脈。

【骹】45167
カウ ギヤウ 〔集韻〕何庚切 庚

㊀牛の脊の骨。〔集韻〕骹、牛脊後骨。㊁脛の上端。骹(9－29450)に同じ。〔素問、脈要精微論〕病足骹腫若水狀。〔注〕骹、與胻同。

【骹】45170
カウ ケウ 〔集韻〕丘交切 看 ㄑㄧㄠ ch'iao'
カウ ゲウ 〔集韻〕下巧切 巧
カウ ゲウ 〔集韻〕後教切 效

小 篆
㊀㊁㊂㊀はぎ。膝の下。又、脛の、足に近く細いところ。あしくび。〔說文〕骹、脛也、从骨交聲。〔爾雅、釋畜〕四骹皆白、驃。〔注〕骹、郄下也。〔六書故〕骹、脛近足者。〔字彙〕骹、近足細於股者。㊁車輻の、輪周に近い、くびれた所。〔周禮、考工記、輪人〕參分其股圍、去一以爲骹圍。〔注〕鄭司農云、骹、謂近牙者也、言骹以喻細、人脛近足者、細於股、謂之骹、羊脛細者、亦爲骹。㊂矛刃をさしこむ柄の穴。〔方言、九〕骹謂之銎。〔注〕卽矛刃下口。㊃かぶらや。〔集韻〕骹、鳴鏑也。〔唐六典、衞尉寺〕鳴箭曰骹。㊄手足がかたい。〔周禮、考工記、弓人、今夫茭解中有變焉、注〕玄謂、茭、讀如齊人名手足擊、爲骹之骹。㊅器具のあし。校(6－14713)に通ず。〔說文通訓定聲〕骹、按、凡物之足皆得言骹、猶皆得言柎、禮記祭統、執校、以校爲之。㊆ほね。〔廣雅、釋器〕骹、骨也。㊇ひざぼね。〔集韻〕骹、膝骨也。㊈或は骹(12－45121)・跤(10－37498)・蹻(10－37762)に作る。〔集韻〕骹、或作骹・跤・蹻。㊉髇(12－45243)に同じ。〔集韻〕髇、或作骹。

【骹圍】1 ヰ 車輻の輪周に近いくびれた所のまはり。〔周禮、考工記、輪人〕參分其股圍、去一以爲骹圍。〔注〕鄭司農云、骹、謂近牙者也。【骹齵】2 カク 骨が齒間に著いて取れぬこと。轉じて物事のとどこほつてすらすらはかどらぬ喩。〔柳宗元、解祟賦〕金流玉鑠兮、曾不自比於塵沙、獨淒已而燠物、愈騰沸而骹齵。曰禱過之山、云云有鳥焉其狀如鴞、注〕鴞、音骹箭之骹。【骹朴】4 カウボク 剛直でかざりけがないこと。腰朴。

【髁】45216
小 篆
㊀㊁㊂㊀ものほね。〔說文〕髁、髀骨也、从骨果聲。〔段注〕髀骨、猶言股骨也、髁者、髀與髖相接之處、人之所以能立、能行、能有力者、皆在於是。〔句讀〕字林、髁、腰骨也、三蒼、髁、尻骨、與許義異。㊁しりぼね。〔廣雅、釋親〕髁、髋也。㊂ひざぼね。〔廣韻〕髁、膝骨。㊃或は屬(4－7729)に作る。〔集韻〕髁、或从尸。㊄㊀ものほね。或は骼(12－45174)に作る。〔集韻〕髁、髀骨也、或从夸。㊁溪髁は、形のみだれて正しくないさま。〔集韻〕髁、溪髁、不正皃。〔莊子、天下〕溪髁無任。〔釋文〕溪髁、訛倪、不正貌。㊅しりぼね。或は屬(4－7729)に作る。〔集韻〕髁、博雅、髋也、或作屬。

㊀クワ 〔集韻〕苦臥切 箇 ㄎㄨㄛ k'o'
㊁クワ 〔集韻〕苦果切 哿
㊂クワ 〔集韻〕苦禾切 歌
㊃クワ 〔集韻〕苦瓦切 馬
㊄クワイ ケ 〔集韻〕苦會切 泰

【髂】45227
カ 〔集韻〕丘駕切 禡 ㄑㄧㄚˋ k'a'

こしぼね。或は骺(12－45143)・髋(12－45228)に作る。〔集韻〕髂、胥骨也、或作骺・髋。〔漢書、揚雄傳下〕折脅拉髂。

【髑】45231
㊀㊁㊂髑骨は、かたぼね。缺盆骨。〔玉篇〕髑、髑骨、肩骨。〔集韻〕髑、髑骨、胷前骨。〔靈樞經〕髑骨以下至天樞、心岐骨也。

㊀カツ ガチ 〔集韻〕何葛切 曷
㊁ケツ ケチ 〔集韻〕許竭切 月
㊂カイ 〔集韻〕許代切 隊

【髆】45241
ハク 〔集韻〕伯各切 藥 ㄅㄛˋ po²

小 篆
㊀かひがらぼね。かたぼね。肩胛骨。〔說文〕髆、肩甲也、从骨尃聲。㊁かた。〔顏氏家訓、慕賢〕五百年一賢、猶比髆也。㊂ひざぼね。髆(12－45193)に通ず。〔集韻〕髆、骺也、或从專。㊃通じて膊(9－29782)に作る。〔正字通〕髆、通作膊。㊄或は拍(5－11952)・胉(9－29359)に作る。〔集韻〕髆、或作胉・拍。

【髃】45236
転載頁 76

【骶】45155
転載頁 74

【髎】 45264

㊀レウ 〔集韻〕憐蕭切 蕭
㊁ラウ レウ 〔集韻〕力交切 肴
㊂レウ 〔集韻〕力弔切 嘯

㊀㊁㊂ ㊀あなのあるこしぼね。一説に、其の腰骨の穴。〔集韻〕髎、髖骨名。〔正字通〕髎、骨空處也、方書、章門下八寸、監骨上陷ㇾ中、爲ニ居髎一、缺盆中、上慈骨際陷ニ中央一、爲ニ天髎一。㊁八髎は、尻の骨。又、馬のしりぼね。〔一切經音義、十八〕髎、八髎也、尻骨謂ニ之八髎一。〔集韻〕髎、馬尻骨、謂ニ之八髎一。㊂馬のせぼね。〔集韻〕髎、馬脊骨。

【髕】 45298

ヒン ビン 〔集韻〕婢忍切 ㄅㄧㄣˇ pin'

髕 小 篆 ㊀ひざさら。膝蓋骨。〔説文〕髕、郄耑蓋骨也。㊁あしきり。五刑の一。足を斷ち切る刑。一説に、膝蓋骨を取り去る刑。〔集韻〕髕、一曰、刖也。〔華嚴經音義、下〕髕、斷ニ足之刑一。〔漢書、刑法志〕髕罰之屬、五百。〔注〕師古曰、髕罰、去ニ膝頭骨一。㊂きる。あしきる。髕脚(1)を見よ。㊃膑(9－29977)に同じ。〔集韻〕髕、或从ㇾ肉。

【髕脚】1 ヒンキャク あしを斷ち切る。膑脚。〔史記、鄒陽傳〕昔者司馬喜、髕ニ脚於宋一。〔司馬遷、報ニ任少卿書〕左丘失ㇾ明、厥有ニ國語一、孫子膑ㇾ脚、兵法修列。

【髖】 45300

㊀クワン 〔集韻〕枯官切 寒 ㄎㄨㄢˋ k'uan'
㊁コン 〔集韻〕枯昆切 元

髖 小 篆 ㊀㊁㊂ ㊀こしぼね。こしもとのつがひぼね。〔説文〕髖、髀上也、从ㇾ骨寬聲。〔段注〕髖者、其骨最寬大也。〔釋名、釋形體〕髖、緩也、其腋皮厚而緩也。〔廣雅、釋親〕髖、骻也。㊁兩股の間。〔廣韻〕髖、兩股間也。㊂臗(9－30006)に同じ。〔集韻〕髖、或从ㇾ肉。㊃からだ。又、しり。又、ものつけね。臗(9－30006)に同じ。〔廣韻〕臗、體也、髖、上同。〔集韻〕臗、博雅、臗、尻也、一曰、髀上、或从ㇾ骨。

【髖骨】1 クワンコツ そともものつけねにある骨。〔福惠全書、刑名部、人命下、檢骨〕脊骨下横生者髖骨。

【髖髀】2 クワンヒ 股のほね。こしとももの つがひ骨。〔新書、制不定〕至ニ髖髀之所一、非ㇾ斤則斧矣。

転載項目 75

【髅】 45236

㊀グ 〔集韻〕元俱切 虞
㊁ゴウ グ 〔集韻〕語口切 有
㊂グワイ 〔集韻〕吾回切 灰
㊃ゴウ グ 〔集韻〕五公切 東

髅 小 篆 ㊀㊁㊂㊃ 肩の前面。又、其のほね。髅(9－29672)に同じ。〔説文〕髅、肩前也、从ㇾ骨禺聲。〔集韻〕髅、膊前骨謂ニ之髅一、或从ㇾ肉。〔詩、小雅、車攻、徒御不ㇾ驚、大庖不ㇾ盈、傳、自ニ左膘一而射ㇾ之達ニ于右髅一、爲ニ上殺一、釋文〕髅、本亦作ㇾ髅。

【髮】 45471

㊀テイ タイ 〔集韻〕他計切 齊
㊁セキ シヤク 〔集韻〕思積切 陌
㊂テキ チヤク 〔集韻〕他歷切 錫

髮 小 篆 髮 或 體 ㊀㊁㊂ ㊀かもじ。或は髢(12－45363)に作る。〔説文〕髮、髮也、从ㇾ髟易聲、髢、髮或从ㇾ也聲。㊁そる。髮(12－45462)に通ず。〔正字通〕髮、同ㇾ鬄。〔漢書、司馬遷傳〕其次髮ニ髦髮一、嬰ニ金鐵一、受ㇾ辱。㊂とく。〔儀禮、士喪禮〕其實特豚、四髮去ㇾ蹄。〔注〕髮、解也、今文髮爲ㇾ剔。〔胡培翬正義〕段氏玉裁云、士喪禮、特豚四髮、本作ㇾ鬄、今作ㇾ髮、譌字、又云、漢時有ニ剔字一、剔者、鬄之省俗、又云、大雅皇矣、攘ㇾ之剔ㇾ之、釋文云、字或作ㇾ髮、蓋詩本作ㇾ鬄、譌ㇾ之則爲ㇾ髮、俗ㇾ之則爲ㇾ剔、魯頌狄彼東南、釋文云、狄、韓詩作ㇾ髮、除也、髮亦鬄之譌、胡氏承珙云、髮、本鬄髮所爲、古人以ニ其聲同義近一、故經典卽假ㇾ髮爲ㇾ鬄、士喪禮之四髮、古文蓋借ㇾ髮爲ㇾ鬄、周禮小子羞羊肆、注云、肆、讀爲ㇾ髮、亦是假ㇾ髮爲ㇾ鬄、未ニ必皆譌字一也。㊃治める。のぞく。剔(2－2031)に通ず。〔詩、魯頌、泮水〕狄ニ彼東南一、〔箋〕狄、當作ㇾ剔、剔、治也。〔釋文〕韓詩作ㇾ鬄、除也。㊄或は髭(12－45409)・髮(12－45427)・錫(11－40573)に作る。〔集韻〕鬄、或从ㇾ世、从ㇾ曳。〔集韻〕鬄、或作ㇾ錫。

【鬄剔】1 テイテキ かみをそる。〔後漢書、馮魴傳〕皆自鬄剔、負ニ鉄鑕一、將ニ其衆一請ニ罪一。〔注〕謂ニ剃去髮一也。

【鯛】 46309

ソク ゾク 〔集韻〕疾則切 職 ㄗㄜˊ tsé²

鯛 小 篆 鯛 或 體 ㊀烏鯛は、いか。或は鯽(12－46304)・鰂(12－46531)に作る。〔説文〕鯛、烏鯛魚也、从ㇾ魚則聲、鯽、鯛或从ㇾ卽。〔集韻〕鯛、或从ㇾ賊、从ㇾ卽。㊁通じて賊(10－36759)に作る。〔説文、鯛、段注〕吳都賦作ㇾ賊。

【麁】47591 ソ

麤(12－47714)の俗字。〔正字通〕麁、俗麤字。

【麄】47606 ソ

麤(12－47714)の俗字。〔六書正譌〕麄、俗麤字。

【麤】47714 ソ ゾ 〔集韻〕聰徂切 ㄘㄨ tʻsu¹ 虞

小篆

❶はなれる。とほざかる。行くことがはるかに遠い。〔說文〕麤、行超遠也、从二三鹿一。〔段注〕三鹿齊跳、有二超遠之意一。〔釋名、釋言語〕麤、錯也、相遠之言也。❷あらい。㋑うとい。かすか。〔說文通訓定聲〕麤、凡疏略之義、皆當レ爲二麤之轉注一、麤卽周禮之疏屨也、禮記儒行、麤而翹レ之、注、猶レ疏也、微也、經傳亦以レ粗爲レ之。〔禮、儒行〕麤而翹レ之。〔注〕麤、猶レ疏也、微也。㋺くはしくない。こまやかでない。〔玉篇〕麤、不レ精也。〔吳志、魯肅傳〕肅年少麤疎、未レ可レ用。㋩ざつ。そまつ。〔禮、王制〕布帛精麤。〔後漢書、皇后上、明德馬皇后紀〕望二見后袍衣疎麤一。〔宋書、宗愨傳〕慣レ噉二麤食一。㋥あらあらしい。はげしい。〔戰國、趙策〕麤中少レ親。〔晉書、王述傳〕謝奕性麤。㋭きめがこまかでない。なめらかでない。〔史記、倉公傳〕上膚黃麤。❸あらぬの。〔左氏、襄、十七〕晏嬰麤縗斬。〔疏〕麤、三升布。〔荀子、禮論〕資麤衰絰。〔注〕麤、麤布也。❹ほぼ。あらまし。〔史記、陸賈傳〕麤二述存亡之徵一。❺おほきい。〔廣雅、釋詁一〕麤、大也。〔儀禮、喪服傳、冠者沽功也、注〕麤功、大功也。❻わらぐつ。蘼(9－32672)に通ず。〔說文通訓定聲〕麤、叚借爲レ蘼。〔方言、四〕麤、履也、南楚江沔之間、總謂二之麤一。〔釋名、釋衣服〕履、荊州人曰レ麤、絲麻韋草皆同名也。❼くろごめ。あらごめ。粗(8－26898)に通ず。〔說文通訓定聲〕麤、叚借爲レ粗。〔左氏、哀、十三〕梁則無矣、麤則有レ之。❽或は驫(3－5636)・䴥(12－47611)に作り、俗に麄(12－47606)・麁(12－47591)に作る。〔集韻〕麤、篆从レ土、或作レ䴥、俗作二麄・麁一。

解字 會意。三つの鹿を合せて、鹿の群れて遠くに、飛び行く意を表はす。

【麤穢】1 ソアイ ソワイ きたない。〔楚辭、遠遊〕精氣入而麤穢除。〔注〕納レ新吐レ故、垢濁淸也。〔補注〕麤、聰徂切、物不レ淸也。〔國語、周語上〕淫佚荒怠、麤穢暴虐。

【麤惡】2 ソアク あらくてわるい。そまつなこと。〔周禮、夏官、司兵〕各辨二其物與二其等一。〔注〕等、謂二功沽上下一。〔疏〕功謂二善者一爲二上等一、沽謂二麤惡者一爲二下等一也。〔荀子、禮論〕文飾麤惡、聲樂哭泣。

【麤惡言】3 ソアクゲン わるぐち。惡口(4－10824・5・6)の❶に同じ。〔華嚴經〕發二麤惡言一、誹二謗正法一。

【麤惡語】4 ソアクゴ 佛 十惡業の一。惡意を以て他を誹謗する言語。惡口。〔俱舍論、十六〕若以二染心一、發二非受語一、毀二訾於他一、名二麤惡語一。

【麤衣】5 ソイ 粗末な着物。〔說苑、敬愼〕有二一老父一、衣二麤衣一、冠二白冠一。〔魏志、司馬朗傳〕雖レ在二軍旅一、常麤衣惡食、儉以率レ下。

【麤豪】6 ソガウ あらあらしくつよい。〔吳志、孫皎傳〕此人雖下麤豪有中不レ如二人意一時上、然其較略大丈夫也。〔杜甫、少年行詩〕不レ通二姓字一麤豪甚、指二點銀瓶一索レ酒嘗。

【麤客】7 ソカク 枇杷(6－14528・1)の❶の異名。〔三柳軒雜識〕枇杷爲二麤客一。

【麤褐】8 ソカツ あらぬの衣服。〔晉書、藝術、單道開傳〕單道開、敦煌人也、常衣二麤褐一、或贈以二繒服一、皆不レ著。

【麤狂】9 ソキヤウ あらあらしくくるふ。〔白居易、贈二夢得一詩〕漸覺詠詩猶老醜、豈宜二憑レ酒更麤狂一。

【麤獷】10 ソクワウ あらあらしい。獷は惡い。〔南史、陳宗室諸王、南康愍王曇朗子方泰傳〕方泰少麤獷、與二諸惡少年一羣聚、游逸無レ度。〔北史、耿豪傳〕豪少麤獷、有二武藝一、好以レ氣陵レ人。

【麤官】11 ソクワン ❶武官。〔北夢瑣言、四〕薛能尙書、以二文章一自負、累出二戎鎭一、常鬱鬱歎惜、因有レ詩謝三淮南寄二天柱茶一、其落句云、麤官乞與眞抛卻、賴レ有二詩名一合レ得レ嘗、意以二節將一爲二麤官一也。❷武人の謙辭。〔朝野類要〕麤官、武臣及軍官之自謙、或以爲レ譏。❸典史の流をいふ。〔淸波雜志〕唐之名臣、由尉超遷、馴至二公卿一、不レ可二以數計一、今銓法以下處二試吏一者上、類以二麤官一目レ之。

【麤功】12 ソコウ 粗末な加工。〔儀禮、喪服傳、冠者沽功也、注〕麤功、大功也。

【麤才】13 ソサイ あらくて精密でないはたらき。又、其の人。〔北夢瑣言、十四〕自二大中一以來、以レ兵爲レ戲者久矣、廊廟之上、恥レ言二韜略一、以二櫜鞬一爲二凶物一、以二鈐匱一爲二兇言一、就有下如二盧潘・薛能一者上、目爲二麤才一。〔蘇軾、和二文與可洋州園池一、竹塢詩〕麤才杜牧眞堪レ笑、喚作軍中十萬夫。

【黔】47928 キン コン 〔集韻〕居吟切 侵

き。きいろ。〔玉篇〕黔、黃色。〔集韻〕黔、博雅、黃也。〔素問、六元正紀大論〕其穀玄黔。〔注〕黔、黃也。

【黮】48156

㊀タン ドン 〔集韻〕徒感切 ㄊㄢˇ tʻan³ 感

㊁タン ダン 〔集韻〕丈減切 豏

㊂チン ヂン 〔集韻〕直稔切 寑

㊃セン ゼン 〔集韻〕時染切 琰

㊄タン トン 〔集韻〕他紺切 勘

㊅シン ジン 〔詩釋文〕時審切 ㄕㄣˋ shen⁴ 寑

小篆

㊀❶くろい。桑の實が黑い。〔說文〕黮、桑葚之黑也、从レ黑甚聲。❷まつくろ。〔左思、魏都賦、榱題黮䨺、注〕善曰、黮、黑也。❸黑黃。〔一切經音義、六〕黮、黑黃也。❹わたくし。ひそか。〔方言、十三〕黮・䵶、私也。〔注〕皆冥闇、故爲二陰私一也。❺黮黮は、雲などの黑いさま。黮黮(4)を見よ。㊁黭黮は、果實がくさつてくろいさま。〔集韻〕黮、黭黮、果實黑皃。㊂❶けがれる。〔集韻〕黮、汚也。❷黭黮は、果實がくさつて黑いさま。〔集韻〕黮、一曰、黭黮、果實壞皃。❸まつくろ。〔集韻〕黮、一曰、深黑。❹わたくし。〔集韻〕黕、博雅、黮䵶、私也。㊃甚だくろい。〔集韻〕黮、黑甚也。㊄くらい。明かでないさま。黮闇。〔集韻〕黮、黮闇、不レ明皃。〔莊子、齊物論〕我與レ若不レ能二相知一也、則人固受二其黮闇一。〔釋文〕黮闇、李云、不レ明貌。㊅くはのみ。葚(9－31416)に同じ。〔詩、魯頌、泮水〕食二我桑黮一。〔釋文〕黮、說文・字林、皆作レ葚、時審反。

【黮闇】1 タンアン くらいこと。くらいさま。〔莊子、齊物論〕我與レ若不レ能二相知一也、則人固受二其黮闇一、吾誰使レ正レ之。〔釋文〕黯闇、李云、不レ明貌。〔陸游、入蜀記〕但黮闇、水流二其中一、鮮二能入者一。

【黮䨴】2 タンタイ 雲の黑いさま。又、雲のさま。〔說文新附〕䨴、黮䨴、雲黑皃。〔何晏、景福殿賦〕綿蠻黮䨴、隨レ雲融泄。〔注〕善曰、黮䨴、黑貌。

【黮䨺】3 タンタイ 黑いさま。〔左思、魏都賦〕榱題黮䨺、階隨嶙峋。〔注〕善曰、聲類曰、黮、黑也、䨺、亦黑也。

【黮黮】4 タンタン 雲などの黑いさま。〔束晳、補亡詩〕黮黮重雲、習習和風。〔注〕善曰、黮黮、黑貌。

【鼕】48363

コウ ク 〔集韻〕枯公切 東

㊀鼓のおと。〔集韻〕鼕、鼓聲。**㊁堅くないさま。**鼕鼕。〔靈樞經〕鼕鼕然不レ堅。

【鼽】48503

キウ グ 〔集韻〕渠尤切 尤 くㄧㄡˊ ch'iu²

小篆 **㊀はながつまる。**かぜをひいて鼻窒也、从レ鼻九聲。〔釋名、釋疾病〕鼻塞曰レ鼽、鼽久也、涕久不レ通、遂至二窒塞一也。〔呂覽、盡數〕鬱、云云、處レ鼻則爲レ鼽爲レ窒。〔注〕鼽、鼽鼻。**㊁はなみづがでる。**〔素問、金匱眞言論〕春不二鼽衄一。〔注〕鼽、謂二鼻中水出一。**㊂ほほばね。**頞(12－43492)に通ず。〔說文通訓定聲〕鼽、叚借爲レ頞。〔素問、氣府論〕鼽骨下各一。〔注〕鼽、頰也、頰、面顴也。**㊃**或は鼽(12－48508)・敵(12－48513)に作る。〔集韻〕鼽、或作レ敵。〔校正〕案、鼽譌レ敵。

【鼽欬】1 キウ ガイ 鼻がつまって、せきが出る。〔論衡、自紀〕猶下和二神仙之藥一、以治中鼽欬上。

【鼽窒】2 キウ チツ 鼻がふさがってつまる。鼻窒。〔淮南子、時則訓〕冬藏殃敗、民多二鼽窒一。〔注〕火金相干、故民鼽窒、鼻不二通利一也。

【鼽嚏】3 キウ テイ 鼻がつまってむせぶ。傷風。〔禮、月令〕季秋行二夏令一、則其國大水、冬藏殃敗、民多二鼽嚏一。〔柳宗元、時令論上〕大疾風欬、鼽嚏瘧寒、疥癘之疾。

【齗】48600

㊀ギン ゴン 〔集韻〕魚斤切 ㄧㄣˊ yin²
㊁ガン ゲン 〔集韻〕牛閑切 刪
㊂ギン 〔集韻〕擬引切 軫
㊃キン コン 〔集韻〕口謹切 吻
㊄ゼン ネン 〔集韻〕忍善切 銑
㊅ゲン 〔集韻〕語蹇切 銑
㊆コン 〔康熙字典〕苦本切 阮

小篆 **㊀㊁はぐき。**齒の根の肉。或は齦(12－48649)・齻(12－48668)に作る。〔說文〕齗、齒本肉也、从レ齒斤聲。〔集韻〕齗、或从レ艮、从レ言。〔急就篇、三〕鼻口脣舌齗牙齒。〔注〕齗、齒根肉也。**㊂**齗齗は、齒をむき出してあらそふさま。〔史記、魯世家論贊〕洙泗之間、齗齗如也。〔注〕集解曰、徐廣曰、齗齗、是鬪爭之貌。**㊃**齗齗は、辯爭のさま。齒をむき出していひあふさま。或は嵅(2－4277)に作る。〔集韻〕齗、齗齗、爭訟也、或作レ嵅。**㊄犬の爭ひ。**或は折(7－2082)に作る。〔集韻〕齗、犬爭謂二之齗一、或从レ犬。**㊅はぐき。**〔集韻〕齗、口上肉。**㊆㊇わらふ。**齗(12－48722)に同じ。〔集韻〕齗、博雅、笑也、或作レ齗。**㊈齒のあらはれるさま。又、かむ。**〔康熙字典〕齗、苦本切、音梱、齒見貌、一曰、齧也。

【齗鬥】1 ギン ガク はぐき。齒齦。〔柳宗元、游二黃溪一記〕石皆巍然臨二峻流一、若二頰頷齗鬥一。

【齗齗】2 ギンギン ガンガン **㊀**辯爭のさま。齗は齒の肉。齒ぐきをむきだして爭ふさまをいふ。〔集韻〕齗、齗齗、爭訟也。〔史記、魯世家論贊〕余聞、孔子稱曰、甚矣魯道之衰也、洙泗之間、齗齗如也。〔注〕集解曰、徐廣曰、齗齗、是鬪爭之貌。**㊁**怒り嫉むさま。〔漢書、劉向傳〕朝臣齗齗、不レ可二光祿勳一何邪。〔注〕師古曰、齗齗、忿嫉之意也。

【齗骨】3 キン コツ 「骨也。かむ骨。齒をいふ。〔說文〕齒、口齗

【齡】48603

カイ ガイ 〔集韻〕下介切 卦 ㄒㄧㄝˋ hsieh⁴

小篆 **㊀上下の齒が相摩切する。**齒がきしる。〔說文〕齡、齒相切也、从レ齒介聲。〔段注〕謂二上下齒緊相摩切一。**㊁はぎしりする。**齒を鳴らす。〔一切經音義、十四〕齡、鳴レ齒也。**㊂いかる。**はぎしりして怒る。〔廣雅、釋詁二〕齡、怒也。〔玉篇〕齡、類齡者、切レ齒怒也。**㊃ふれあふ。**上下の齒がふれあふ。又、其の處。〔正韻〕齡、齒齡、齒上下相抵處。**㊄不揃ひ。**不齊。〔周禮、考工記、函人〕衣レ之欲二其無レ齡一。〔注〕鄭司農云、齡、謂レ如二齒齡一。〔疏〕人之齒齡、前卻不レ齊、札葉參差、與二齒齡一相似、故以レ齡爲レ喻。

不明文字資料

張登本、武長春編　内経詞典より

【嚬】1次　pi　芳辟切　入　昔韵　敷　錫部　滂紐

口眼歪斜。霊13「足之陽明、手の太陽、筋急則爲嚬。」《甲乙》嚬作僻。《太素》作辟。張景岳「僻、歪斜也。此申言口眼歪僻之證、必系足陽明、手太陰之筋病也。嚬、僻同。」

【黔】1次　yin　于金切　平　侵韵　影　侵部　影紐

陰。云蔽日。《玉篇》「黔、古文陰字。」素70「沈、淫雨。」張景岳「沈陰、陰云蔽日也。」

【戔】1次

当作残。霊79「戔傷人也。」《太素》作賤。陸懋修曰「字書无戔字、当与残通。」丹波元筒「検字書戔字无考、史熊亦缺。」

【髓】1次

当作骷、指骨端。素55「病在少腹有積、刺皮髓以下、至少腹而止。」王冰「皮髓、謂臍下同身寸之五寸横約文。」林億「按《釋音》皮髓作皮骷、苦末反、是骷誤作髓也。及遍尋《篇》、《韵》中无髓字、只有骷字、骷、骨端也。皮骷者、蓋臍下横骨之端也。全元起本作皮髓、元起注云、臍傍「土垂」起也。亦未爲得。」丹波元筒「按髓、字書无所考。熊音、徒骨切、蓋以爲「月盾」字。」

【核】↓核

素問・五常政大論篇第七十　敷和之紀、木德周行、陽舒陰布、五化宣平。其氣端。其性隨。其用曲直。其化生榮。其類草木。其政發散。其候温和。其令風。其藏肝。肝其畏清。其主目。其穀麻。其果李。其實核。其應春。其蟲毛。其畜犬。其色蒼。其養筋。其病裏急支滿。其味酸。其音角。其物中堅。其數八。

【䐃】↓䐃

素問・氣交變大論篇第六十九　其主黔穀。復則大風、暴發草偃木零、生長不鮮、面色時變、筋骨併辟、肉䐃瘛目視眩眩、物跳璺、肌肉胗發、氣并鬲中、痛於心腹、黄氣廼損、其穀不登、上應歲星。

【瞑】↓瞑

素問・六元正紀大論篇第七十一　民病寒熱、瘧泄聾瞑嘔吐、上怫腫色變、

【膝】↓膝

無名氏靈枢・五禁第六十一　庚辛日自乘、無刺關節于股膝、

【曝】↓曝

靈枢・壽夭剛柔第六　五日五夜、出布綿絮、[目暴]乾之、乾復漬以盡其汁。

【糜】↓糜

素問・至眞要大論篇第七十四　目乃䐃瘛、火氣内發、上爲口糜嘔逆、血溢血泄、

【礪】↓驚

素問・至眞要大論篇第七十四　少陽之勝、熱客於胃、煩心心痛、目赤欲嘔、嘔酸善飢、耳痛溺赤、善礪譫妄、暴熱消爍、草萎水涸、介蟲廼屈、少腹痛下沃赤白。

【緛】↓緛

素問・六元正紀大論篇第七十一　厥陰所至爲緛戾、少陰所至爲悲妄衄衊。太陰所至爲中滿霍亂吐下、少陽所至爲喉痺耳鳴嘔涌、陽明所至爲寢汗痙。病之常也、

【覃】↓覃

靈枢・水脹第五十七　腸覃何如。岐伯曰、寒氣客于腸外、與衛氣相搏、氣不得榮、因有所繫、癖而内著、惡氣乃起、瘜肉乃生、其始生也、大如雞卵、稍以益大、至其成、如懷子之狀、久者離歲、按之則堅、推之則移、月事以時下、此其候也。

【眚】↓眚

素問・五運行大論篇第六十七　南方生熱。熱生火。火生苦。苦生心。心生血。血生脾。其在天爲熱。在地爲火。在體爲脉。在氣爲息。在藏爲心。其性爲暑。其德爲顯。其用爲躁。其色爲赤。其化爲茂。其蟲羽。其政爲明。其令鬱蒸。其變炎爍。其眚燔焫。其味爲苦。其志爲喜。喜傷心。恐勝喜。熱傷氣。寒勝熱。苦傷氣。鹹勝苦。

【瘛】↓瘛

無名氏靈枢・周痺第二十七　故刺痺者必先切循其下之六經、視其虛實及大絡之血結而不通、及虛而脉陷空者而調之、熨而通之、其瘛堅轉引而行之。